

子どもの確かな学びづくりと 教師の協同

犬山市授業研究会 2011年度の成果

犬山市授業研究会 著

杉江修治 監修
水谷 茂

一粒書房

目 次

23年度犬山市授業研究会がめざす研修	
犬山の子は犬山で育てる	1
子どもたちが主体的に学ぶ授業をめざして	
発問・指示・課題の研究を通して	4
主体的に学び合い、高め合う児童生徒の育成	
伝え合う喜びのもてる国語科授業の創造	41
共に学び、高め合うためのアドバイスを活用した授業作り	80
すすんで関わり合い、高め合う子どもを目指して	100
生徒一人一人が主体的に取り組む楽しい理科の授業を目指して	
一人一人が自分の役割・責任を意識して互いに関わり合い高め合う授業づくり	123
自分を見つめ互いに関わりながら道徳的实践力を高め合える授業	
資料の提示を工夫して	147
関わり合って活動し表現力を高める	
俳句の学習をとおして	187
【資料】	
第1回公開授業研究会まとめ	204
第2回公開授業研究会まとめ	208
23年度授業研究会成果発表会のまとめ	221

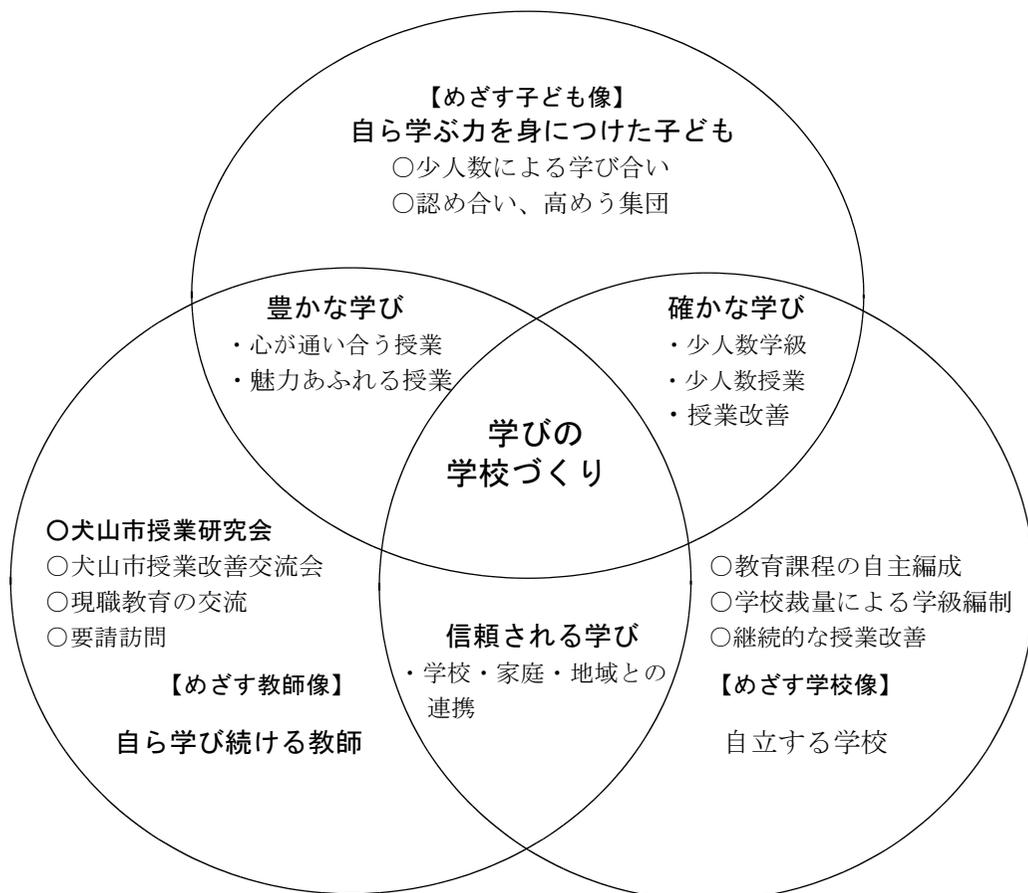
平成23年度 犬山市授業研究会がめざす研修 犬山の子は犬山で育てる

1 犬山市授業研究会のねらい

犬山の教育は、人格の完成をめざし、すべての子どもの学びを保障することを主眼としています。学校の役割は、すべての子どもの「学び」を保障することであり、教師は、子ども同士、子どもと教師の温かなふれあいの中で「学び」が深まるように図り、子どもたちに確かな学力と豊かな人間性を育むように努めなければなりません。そのために、教師は常に研修を心がけ、自ら学び続ける姿勢を持ち続けることが重要です。学び合う教師集団で、お互いの成果を共有し合いながら同僚性を育むことで犬山の教育は発展を続けています。

犬山市校長会では、犬山市教育研究会の中に研修部を設け、教師の授業改善の研修装置として、授業研究会を開催しています。授業研究会は、熱意ある各学校の教師が集い、研究的実践を持ち寄り、交流しながら共に育つことを目標にしています。さらに授業研究会で得られた成果を各学校の現職教育に還元し、新たな視点や手法を紹介することで学校全体を活性化させるねらいも合わせもっています。

【犬山の教育】



2 基本方針

- 確かな学力を形成し、児童生徒が「自ら学ぶ力」を育むための指導方法の工夫改善を目指した研究的実践に取り組みます。研究的実践とは、仮説をたてて実践し、実践結果を分析的に評価し指導方法・内容の改善に繋げる一連の取組をさします。
- 22年度は、教科別にグループを構成し、児童生徒の発達段階に応じた指導方法の工夫や改善について追究します。
- 子ども同士、子どもと教師の温かな人間関係づくりを大切にしたい、認め合い高め合う集団づくりを同時に追究します。
- それぞれが実践した取組を持ち寄り、グループで紹介し合いながら内容を吟味し、成果を共有することで、教師力の向上につなげます。
- 年度末には、グループで取り組んだ内容をまとめて実践資料集として1冊の本に著し、成就感を味わいます。

3 23年度 授業研究会の日程

今年度の授業研究会は下記の日程と内容で進めました。

期 日	開催時刻	内 容
6月 1日 (水)	16:00～18:00	グループ編成・研究教科設定
7月 6日 (水)	16:00～18:00	仮説と研究の方法を決める
7月27日 (水)	14:00～17:00	グループによる追究
7月28日 (木)	13:00～17:00	第1回 公開授業研究会
9月 7日 (水)	16:00～18:00	グループによる追究
10月 5日 (水)	16:00～18:00	グループによる追究
11月 2日 (水)	16:00～18:00	グループによる追究
12月 7日 (水)	16:00～18:00	グループによる追究
12月26日 (水)	13:00～17:00	第2回 公開授業研究会
1月25日 (水)	16:00～18:00	グループの研究の内容をまとめる
3月 2日 (金)	16:00～18:00	23年度成果発表会

3 授業研究会の進め方

小グループによる研究的実践を 1 年間継続して行います。年間を通し、毎月 1 回の割合で研究会を開催します（年間 10 回を予定）。小・中学校の垣根をはらい、それぞれの発達段階に応じた授業改善の在り方を、議論を通して追究します。研究会の進め方は、各会員がグループごとに設定した研究テーマに沿った実践を持ち寄り、グループ協議で交流を図ります。その後、グループによる研究の進捗状況を全体会の場で報告し、杉江修治先生（中京大学教授）の指導・助言を受けます。各会員はそれを自分の学校へ持ち帰り、次の実践に生かす研究的な構えで研究を深めていくこととします。各グループの研究の成果は、協同教育実践資料として年度末にまとめ上梓します。毎回の研究会の様子や各グループの研究の取り組み状況を「授業研究会だより」を通して幅広く犬山市の教員に知らせます。

さらに、年 2 回公開授業研究会（7 月・12 月）を開催し、授業研究会の会員以外にも市内・市外を問わず広く参加を呼びかけ、子どもの豊かな学びを創る授業づくりについてヒントを掴むことのできる場を提供していきます。



第 2 回 公開授業研究会で熱心に協議する参加者

子どもたちが主体的に学ぶ授業をめざして

発問・指示・課題の研究を通して

河田 改 (犬山市立城東小学校)
前田 実希 (犬山市立犬山南小学校)
新井 孝昇 (犬山市立楽田小学校)
野田 亜希 (犬山市立南部中学校)
澤木 百合香 (犬山市立犬山中学校)
三浦 光俊 (犬山市立犬山中学校)

はじめに

子どもたちに「生きる力」を育むことが、学校教育の目標である。授業における「生きる力」とはどんな姿だろうか。わたしたちは、そのことについて話し合う中で、子どもが主体的に学べる授業が、「生きる力」を育む授業ではないかという結論に達した。主体的に学べる授業にするために、何をしていけばいいのかを考えた。その中で、発問・指示・課題が重要ではないだろうかという意見が大半を占めた。そこで、本年度は「子どもたちが主体的に学ぶ授業をめざして－発問・指示・課題の研究を通して」というテーマで研究を進めることにした。

1 研究の仮説

次のように仮説を設定した。

適切な発問・指示・課題のもとで授業を行えば、子どもは主体的に学ぶ姿を見せてくれるだろう

そこで、わたしたちは、この仮説のもと、子どもが主体的に学ぶ姿を見せてくれるような発問・指示・課題はどんなものかを追い求めることにした。

2 子どもたちが主体的に学ぶ姿を見せる発問・指示・課題の条件

常に発問・指示・課題を意識して授業をつくっていった。その中で、子どもが主体的に学ぶ授業にするために、次にあげるような要素が必要ではないかということが見えてきた。

- ①単元の流れが分かるようにし、見通しがもてるようにする。
- ②1時間の授業で何をするのかを分かるようにして、見通しがもてるようにする。
- ③単元全体または1時間の授業で何を身につけ、何ができるようになったらいいかを

具体的に示すようにする。

- ④教材の内容に関する学習課題だけでなく、学び方に関する取組課題も示すようにする
- ⑤グループ学習など全員が活躍しやすい場をつくり、仲間とともに学ぶ意欲がもてるようにする。
- ⑥学んだことが生きる単元を構築し、学んでよかったという実感がもてるようにする。

3 研究の実際

研究の実際を記述するときに次の2点を意識して取り組んだ。

- ①単元を見通せるように、単元計画に毎時間ごとの実際に子どもに示す題課を示した
- ②授業記録は、特に形式は定めずに自分の書きやすい方法で記述することにしたが、発問・指示・課題を具体的に示すことだけは統一した。

これにより、具体的な授業の姿が教師にも子どもにも見えるのではないかと考える。

(1) 実践1 1時間の授業で何をするのかが分かり、見通しがもてる授業 「どうぶつ園のじゅうい」光村図書・小学校2年

1) 単元名 読んで考えたことを書こう

2) 単元の目標

- 時間的な順序や事柄の順序を考えながら獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の経験と結びつけて、感想を伝えることができる。

3) 主体的な学びのための手立て

- ①本文の読み取りを目的としたワークシートと、感想や気づいたことを文章で書くためのノートを用い、読み取る活動と書く活動の双方の充実を図った。
- ②学習したワークシートはファイルに綴じ、学習の足跡を残すことができるようにするとともに、ファイルには単元を見通した振り返りシートを添え、単元の流れが一目で確認できるようにした。
- ③ノートに感想を書かせる際に、「もし自分が〇〇だったら、△△の時にどんな気持ちになるかな」と問いかけ、書く視点を与えた。
- ④机の配置をコの字型にし、聞き手を見ながら意見を交流したり、近い距離でグループワークに取り組むことができるようにした。
- ⑤毎時の振り返りを、表情を変えた動物のイラストの色塗りで行い、低学年の児童進がんで振り返りの活動に取り組めるようにした。
- ⑥話型を示した「話し合いのプロカード」を教室の前面に掲示し、根拠を明らかに示し、

聞き手のことを意識した発言をめざした。

4) 単元計画

次	時	目標	学習活動	主体的に学ぶための手立て・工夫
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の狙いや流れを理解することができる。 本文のあらすじを理解し、時間の流れに沿って文章が構成されていることを把握することができる。 	<p>○「どうぶつ園のじゅうい」を通読し、初発の感想を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「どうぶつ園のじゅうい」を読んで感想を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 範読をし、分からない語句などの確認を行ってから、感想を書かせる。 感想の書き出しの例を示し、文章を書くことが苦手な児童でも取り掛かりやすくする。
	2		<p>○ワークシートに、時間を表す言葉・大まかな仕事内容・登場する動物の名前をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「どうぶつ園のじゅうい」を読んで、じゅういさんのしごとをまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 机の配置をコの字型にする。 個人で考える時間を十分にとり、その後グループで確認をし、全体での押さえをするという学習の流れを授業の導入で示す。
2	3	<ul style="list-style-type: none"> 朝行った、「どうぶつ園の中を見回る」仕事の内容と、目的を読み取ることができる。 	<p>○第1・2段落を読み、獣医さんが朝行った仕事の内容を読み取り、どのような目的でその仕事を行ったのかを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じゅういさんになったつもりで、朝、じゅういさんがどんなしごとをしたか、わけもつけてせつめいしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 机の配置をコの字型にする。 「ペア音読→ワークシートを使った読み取り（個→グループ→全体確認）→獣医さんの仕事の目的を全体で確認→ノートに感想を記入」という授業の流れを導入で示し、また毎時間同じ流れで授業を行い、児童が次の活動にスムーズに進めるようにする。 グループでの話し合いや、全体での意見交流のときの話型を示す。 感想を書くときの視点を与えたり、書き方の例を示したりする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 見回りが終わるころ行った、「いのししのおなかに赤ちゃんがいるか見る」仕事の内容と、目的を読み取ることができる。 	<p>○第3段落を読み、見回りが終わった後に獣医さんが行った仕事の内容を読み取り、どのような目的でその仕事を行ったのかを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じゅういさんになったつもりで、見回りがおわってから、じゅういさんがどんなしごとをしたか、わけもつけてせつめいしよう。</p> </div>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> お昼前に行った、「にほんぎるに錠剤を飲ませる」仕事の内容と、目的を読み取ることができる。 	<p>○第4段落を読み、お昼前に獣医さんが行った仕事の内容を読み取り、どのような目的でその仕事を行ったのかを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じゅういさんになったつもりで、お昼前に、じゅういさんがどんなしごとをしたか、わけもつけてせつめいしよう。</p> </div>	

6	<p>・夕方に行った、「異物を飲み込んだペンギンの手当をする」仕事の内容と、目的を読み取ることができる。</p>	<p>○第5段落を読み、獣医さんが夕方行った仕事の内容を読み取り、どのような目的でその仕事を行ったのかを理解する。</p> <p>じゅういさんになったつもりで、夕方、じゅういさんがどんなしごとをしたか、わけもつけてせつめいしよう。</p>	
	<p>・一日の終わりに行った、「今日あった出来事や動物の様子を日記にまとめる」仕事の内容と、「お風呂に入る」ことの目的を読み取ることができる。</p>	<p>○第6・7段落を読み、一日の終わりに獣医さんが行った仕事の内容を読み取り、どのような目的でその仕事を行ったのかを理解する。</p> <p>じゅういさんになったつもりで、一日のおわりに、じゅういさんがどんなしごとをしたか、わけもつけてせつめいしよう。</p>	
8 ・ 9	<p>・「どうぶつ園のじゅうい」を読み、いちばん心に残った場面について、理由を明らかにして感想を書き、伝え合うことができる。</p>	<p>○「どうぶつ園のじゅうい」の中で、一番心に残った場面について、理由を明らかにして、感想を書く。</p> <p>「どうぶつ園のじゅうい」の中で、一ばんころのこったばめんを書こう。</p>	<p>・書き方の例や、上手に書けた児童の感想を示す。</p>
		<p>○書いた感想を、グループ内や全体で伝え合う。</p> <p>「どうぶつ園のじゅうい」の中で、一ばんころのこったばめんをつたえ合おう。</p>	<p>・グループ内での伝え合いでは、班長を司会にして進める。</p>
3 10 ・ 11	<p>・時間の流れや、仕事の目的を意識して、自分の係りの仕事を説明する文章を書き、伝え合うことができる。</p>	<p>○時間の流れや、毎日行う仕事か必要に応じて行う仕事かなど、仕事の目的を意識しながら自分の係りの仕事を説明する文章を書く。</p> <p>自分のかかりのしごとのレポートげんこうを書こう。</p>	<p>・同じ係りの仕事の児童同士でペア</p> <p>・グループを作り、相談しながら書く。</p>
		<p>○自分の係の仕事について説明した文章を、聞き手を意識して発表する。</p> <p>レポーターになって自分のかかりのしごとをつたえよう。</p>	<p>・机の配置をコの字型にする。</p>

全員に参加意識をもたせる

指示1 ワークシート(図2)を配付する)今日の場面、教科書112ページ1行目～112ページ9行目をペアで音読しましょう。終わったペアからワークシートに取りかかるので、獣医さんがどんな仕事をしたか、理由についても考えながら読むことができるといいですね。

ペアで交互読みをさせ、互いに評価しながら音読ができるようにする。また、音読が終わった後の指示まで与えることで、子どもたちが自ら次の活動に進むことができる。

ワークシートの記入は個人で行い、困っている児童には教科書のどこに着目すればよいか助言をする。ワークシートが終わった児童には、ペアや席の前後で確かめを行うように個別に声をかける。

おなかの調子 (前)

見回りが終わるころ...

いるか、見ました。

のおなかに

が

わけは？

にははれたからです。

なんで？

おなかの中のよすをみるためには、

をおなかに当てなければなりません。

いんさんが

いのしが

よの、しく

その

間に

が

をさつと当ててみました。

まじろがいありません。赤ちゃんがいきました。

○この見回りが終わるころ、まじろもどかかたをきくとなまきかたなりゆもきかたをいって書いて。

(まじろ、この日だけ)

☆みんながどのおなかの調子だったか、まじろもどかかたをきくとなまきかたなりゆもきかたをいって書いて。

図2 使用したワークシート(4/12時間目)

指示2 ワークシートの内容をグループで確認しましょう。後で、全体でも確認するから、どこのグループが一番上手にまとめられるかな。

教室の前に掲示されている「話し合いのプロカード」を参考に、「○ページの△行目に～～と書いてあるので、ここには～～と書きました」と、本文のどの場面から分かる、根拠を明らかにしながら確認するように指示する。

グループで確認させるため、全員の参加度が上がり、一人1回は発言ができる。

指示3 では、ワークシートの内容をみんなで確認しましょう。

グループでの発表と同様に、根拠を明らかにして本文の内容を確認する。

上手に発表することのできる児童をモデルとして示すことで、クラス全体で話し合いのレベルの向上をめざす。

説明1 獣医さんがどんな様子で「いのししのおなかに赤ちゃんがいるか見る」仕事をしていたのか、動作化を交えて説明する。

児童を2人指名し、教師と3人で獣医・飼育員・いのししの役を演じ、どんな様子で仕事をしているのか、読み取りが苦手な児童でもイメージをつかむことができるように視覚的に説明する。

「さぐる」や「そっと当てる」といった、言葉の意味やニュアンスが伝わるように心がける。

発問2 今確認した、獣医さんが「見回りが終わるころ」にやった仕事は、毎日やる仕事かな。それともこの時だけたまたまやった仕事かな。理由もいえるようにしましょう。

「見回りが終わるころ」に行った、「いのししのおなかに赤ちゃんがいるか見る」仕事の目的・意図が何かを考えさせる。

ワークシートに自分の意見（毎日 or この日だけ）を記入させてから意見を交流する。

「話し合いのプロカード」を参考にして、読み取って分かったことや、自分の経験をもとに、「僕は、毎日やる（この日だけやった）仕事だと思います。わけは、〇〇だからです」と理由を明らかにした発表ができるようにする。

授業で出された意見

〔毎日〕

- ・いのししは毎日動物園にいるから。

〔この日だけ〕

- ・赤ちゃんは毎日生まれるわけではないから。
- ・p.112の1・2行目に「しいくいんさんによばれました」と書いてあるから。
- ・飼育員さんに呼ばれなかったら、この仕事はやらなかったと思う。

説明2 「いのししのおなかに赤ちゃんがいるか見る」仕事は、飼育員さんに呼ばれたから行った仕事ですね。なので、この仕事は毎日やる仕事ではなくこの日だけ、たまたま行った仕事です。

本文を読み、感じたことを文章で書く（ノート）

発問3 今日の場面を読んで、みんなが獣医さんだったらいのししのおなかに赤ちゃんがいることが分かったとき、どんな気持ちになるかな。ノートに書きましよう。

「今日の感想を書きましょう」という広がった指示ではなく、感想を書く視点を絞って指示する。

発問4 では、書いたことをみんなに発表できる人。

挙手をして発表する。

授業で出された意見

- ・元気な赤ちゃんが生まれてほしい。
- ・飼育員さんに呼ばれたら、びっくりすると思うけど、赤ちゃんがいることが分かってうれしいと思う。
- ・私の家の猫が赤ちゃんを産んだときに、すごくうれしかったから、うれしいと思う。
- ・赤ちゃんがいるかを見るだけで、飼育員さんと協力して大変だったから、これからもっと大変だと思う。

指示4 振り返りカード（図3）に今日の振り返りをしましょう。

時間	日にち	名前()	
		めあて	ふりかえり
①	/	「どうぶつ園のじゃうい」を読んで感想を書こう。(ノート)	
②	/	「どうぶつ園のじゃうい」を読んで、じゃういさんのことをまよめよう。	
③	/	じゃういさんになつたつもりで、朝、じゃういさんがどんなしごとをしたか、わけてつめよう。	
④	/	じゃういさんになつたつもりで、月圓りが終わったから、じゃういさんがどんなしごとをしたか、わけてつめよう。	
⑤	/	じゃういさんになつたつもりで、お屋敷に、じゃういさんがどんなしごとをしたか、わけてつめよう。	
⑥	/	じゃういさんになつたつもりで、夕方、じゃういさんがどんなしごとをしたか、わけてつめよう。	
⑦	/	じゃういさんになつたつもりで、一日の終わりに、じゃういさんがどんなしごとをしたか、わけてつめよう。	
⑧	/	「どうぶつ園のじゃうい」の中で、一ばんこころにのこったほめんを書こう。(ノート)	
⑨	/	「どうぶつ園のじゃうい」の中で、一ばんこころにのこったほめんをつたえ合おう。	
⑩	/	自分のかみかみしごとのレポートけんこうを書こう。(ノート)	
⑪	/	レポートけんこうについて自分のかみかみしごとのつたえよう。	
⑫	/	とじょうかんで、じゃういさんについて書かれた本をさがし、ともだちしようかいしよう。	

図3 振り返りカード

6) 考察

今回の実践では、子どもたちが「次に何をすれば授業のゴールに近づくのか」を理解した上で授業に臨むことで、子ども主体の授業実践ができるのではないかと仮定した。そこで、子どもたちが主体的に活動できるような指示や発問をめざして授業を行った。

音読→ワークシートによる文章読解→ノートに自分の考えをまとめる、という毎時間の授業のパターンを作ることで、低学年でも簡単な指示で次の活動に進むことができた。また、授業の流れがパターン化されていたので、授業が進むにつれて「次の読み取りのために、大事なところに気をつけて音読をしよう」「理由も一緒に発表しなければいけないから、どこに何が書いてあるか考えながらワークシートを書こう」と一つ一つの活動に深みが出てきた。

グループや全体での話し合いに先立っては、話し合いの手順や話し方をできるだけ丁寧に指示し、話し合いの途中で教師が指示を与えなくてもいいように心がけた。ただし、子どもたちだけでの話し合いでは、視点がずれたり、深まりがなかったりすることも多いので、その場合には教師側から意見を投げかけ、軌道修正を行った。

この単元では、読み取りのほかに「書く」ことにも力を入れて実践した。音読は好きでも、感想を書くことは苦手という児童も少なくなく、はじめは文章を書くことに抵抗感をもつ児童も見られた。しかし、どんなことを書けばよいのか視点を絞った発問をしたり、書き方の例を提示してから書かせたりした結果、どの児童もノートに感想を書くことができるようになった。

低学年の児童が、45分間集中して主体的に授業に取り組める手立てとして、楽しみながら学習に取り組める工夫も行った。毎時間の振り返りカードには動物のイラストを使ったので、子どもは進んで振り返りの活動を行っていた。

低学年の子どもは素直で、楽しいと感じればどんどん自ら学ぼうとする意欲にあふれている。その反面、何をしたらよいか分からないと感じた途端に、その意欲を失ってしまう。低学年の子どもたちが主体的に学ぶためには、一つ一つ丁寧な道しるべが必要だろう。感想を書かせるにしても、「何でもいいから書きましよう」といった広がった指示ではなく、ある程度視点を絞って指示を与えたほうが書きやすいのではないだろうか。今後も子どもの主体的な学びをめざし、よりよい指示や発問を精選していく必要がある。

(2) 実践2 単元全体または1時間の授業で何を身につけ、何ができるようになったらいいかを具体的に示す授業 「アップとルーズで伝える」光村図書・小学校4年

1) 単元名 説明のしかたについて考えよう

2) 単元の目標

- 伝える相手や目的に応じて、情報の材料や選び方や表現方法が異なっていること気づき、自分が表現していくときに役立てようとする。
- 文章全体の構成と段落との関係を理解することができる。

○写真と対応した部分に注意して読み取り、アップとルーズのそれぞれの特徴をまとめることができる。

○典型的な接続表現の意味を理解することができる。

3) 主体的な学びのための手だて

①個を大切にしたい授業展開

課題解決にせまるために、個の時間、(ペアの時間)、グループの時間、全体の時間というように、一人一人が自分の考えをもちながら学習できるような段階をふんだ授業展開を行う。

②めあての明確化

単元全体と1時間のねらいを明確にし、何を身につけるのか、何ができるようになったらよいのか、目標が子どもに分かりやすい形で示す。

③発表方法の工夫

課題解決の基盤をグループとし、個々の考えをもち寄って話し合いに参加させる。全体への発表者を一人にしぼるのではなく、グループの全員が一言でも良いので発表に関わるような仕組みでグループの話し合いを進めさせる。

④ワークシートの活用

ワークシートを用いることで、本文読解への時間が短縮され、単元の目標である「上手な説明のくふう」について考える時間を多く設ける。

⑤ホワイトボードの使用

グループ内で出た意見を集約しやすいように、発表の準備も兼ねてホワイトボードも用いて考えをまとめるようにさせる。

⑥グループでの役割分担

グループでの話し合いが円滑に進むよう、日替わりで「司会」「時間」「記録」「意見」「回収」というように役割を決める。

⑦タイムスケジュールの掲示

1時間の中で何をやるか授業のはじめに提示することで、子どもは何をすればよいのか見通しをもつことができ、教師が指示を出す手間や時間を省くとともに、子どもが集中して学習に取り組めるようにする。

4) 単元計画

次	時	目標	学習活動	主体的に学ぶ手立てや工夫
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、何についての文章かを大きくつかみ、初発の感想をもつことができる。 ・単元のねらいや流れを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のねらいや流れ、学習活動の概要を知り、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これからの学習の計画を立て、説明のしかたについて考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想は、小さなメモ用紙を配付し、書き終えた後に回収したら、一枚の紙に全員分貼り付け、印刷してから再び子どもたちに読ませる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係を考えな 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読しながら段落を確か 	

2	<p>がら読み、文章の組み立てについて考える。</p>	<p>め、文章と対応する写真を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真のもつ役割について考え、その良さを知ろう。</p> </div>	
3	<p>・第三段落までを読み、写真と文章の対応や、第一・二段落と第三段落の関係をとらえる。</p> <p>・「上手な説明のしかた」を見つける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一、二、三段落を読み、説明の工夫を友達に伝えるように説明しよう。</p> </div> <p>・写真と文章を対応させながら読む。</p> <p>・「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味を考える。</p> <p>・説明の工夫を考える。</p>	<p>・ワークシートの活用。</p> <p>・本時の流れの掲示。</p> <p>・ホワイトボードを用いてのグループでの話し合い。</p>
4	<p>・第四段落から第六段落までを接続語に注目しながら読み、対比の関係をとらえる。</p> <p>・「上手な説明のしかた」を見つける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アップとルーズのちがいが分かる工夫を友達に伝えるように説明しよう。</p> </div> <p>・「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を理解する。</p> <p>・説明の工夫を考える。</p>	<p>・ワークシートの活用。</p> <p>・本時の流れの掲示。</p> <p>・ホワイトボードを用いてのグループでの話し合い。</p>
5	<p>・第七・八段落を読み、内容と段落の役割をとらえる。</p> <p>・「上手な説明のしかた」を考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「アップ」と「ルーズ」についての説明がよく分かる工夫を友達に伝えるように説明しよう。</p> </div> <p>・筆者の伝えたいことについて考える。</p> <p>・説明の工夫を考える。</p>	<p>・ワークシートの活用。</p> <p>・本時の流れの掲示。</p> <p>・ホワイトボードを用いてのグループでの話し合い。</p>
6	<p>・段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかむ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>段落の役割について考え、文章全体の段落構成図を書こう。</p> </div> <p>・段落の内容を短くまとめて文章全体を見直す。</p> <p>・段落の役割を考える。</p> <p>・段落構成図を書く。</p>	<p>・ワークシートの活用。</p> <p>・本時の流れの掲示。</p> <p>・ヒント語句の提示。</p>

7	・写真と文章の対応関係や段落相互の関係、全体構成などを改めてとらえ直し、説明の工夫について考える。	筆者の表現の工夫についてまとめ、自分の表現に生かそう。 ・上手な説明のしかたを書きまとめる。	・ワークシートの活用。 ・今までのワークシートの見直し。
3 8	・テレビや新聞、雑誌などから、「アップ」と「ルーズ」の使われ方を見つけ、使われている意図やその良さについて考える。	身の回りのもののアップとルーズの使われ方から、そのよさを考えよう。 ・自分で見つけたアップとルーズの使われ方を確かめ、そのよさを考える。	・ワークシートの活用。 ・関心をもつ資料の収集。

5) 授業記録 4 / 8時の展開

①目標

第7段落と第8段落を読み、段落の役割を考えながら、筆者の上手な説明の工夫を見つけ友達に伝えることができる。

②指導過程

主な学習活動と予想される児童の反応	形態	指導・支援【学び合う姿の評価】
1 本時の学習のめあてと学習の流れを確認する。	一斉 4分	・7、8段落において、筆者が用いている説明の工夫をまとめ、友達に分かってもらえるように説明する最終目標を伝える。
「アップとルーズ」についての説明がよく分かるくふうを友達に伝えるように説明しよう。		
2 7、8段落を音読する。	ペア 2分	・何が書かれているか確認しながら音読を行うよう伝える。
3 課題解決に向けて読み取りをする。		・一つ目の●では、6段落と7段落を比べて読むことで、その違いや共通点がないか考えるよう助言する。
(1) ワークシートの二つ目の●までをうめる。	個人 6分	・二つ目の●では、「筆者の主張を一言で言うとズバリ何であるか書いてみよう」と問いかける。
(2) ワークシートに書き込んだことをペアで確認する。	ペア 5分	・分からない点や自信のもてない点については、積極的に聞き合うよう指示する。
(3) ワークシートの二つ目の●までを全体で確認する。	全体 7分	・ペアで確認し合ったことを自信をもって全体に伝えるよう言葉をかける。

<p>(4) ワークシートの三つ目の●をうめる。</p> <p>(5) 個人で見つけた「アップとルーズ」についての説明がよく分かる工夫を、分かりやすく伝えられるよう話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は一番言いたいことは最後の段落で書いているね。 ・テレビの話だけじゃなくて、写真や新聞の話も出てきているね。 ・いろいろな例をあげた方が、伝わりやすいんじゃないかな。 <p>(6) ペアグループで見つけた工夫を発表する。</p>	<p>個人 5分 グループ 10分 全体 4分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6、7段落の類比と筆者の主張をおさえる。 <p>【筆者の主張を読み取ることができたか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような説明の方法が分かりやすかったかを見つけるよう促す。 ・発表するときは、班の全員が一言でもいいので関わるよう伝える。 ・できるだけ分かりやすく伝えるために、具体例をあげながら説明するよう言葉がけをする。 <p>【友達により分かるように伝えようという気持ちで話し合い、発表の準備に関わることができたか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くグループは、聞く姿勢をとるよう伝え、自分のグループの考えとの相違点を考えながら聞くよう伝える。
<p>4 本時の学習内容をふりかえり、次時の学習につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例をあげて説明している。 ・最後に、一番伝えたいことをまとめて書いている。 	<p>全体 2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で分かったことを振り返る。 <p>【筆者がどのような点を工夫しながら説明をしているか気づくことができたか。】</p>

③評価

筆者の主張を読み取り、第7段落と第8段落での段落の役割を考えながら、見つけた筆者の上手な説明の工夫を友達に伝えることができたか。

6) 考察

グループで話し合う場面では、お互いの意見を聞き合い、よくまとめていた。発表形式を誰か一人の発表者にしぼるのではなく、グループ全員が一言でも良いので発表に関わるという約束によって、学び合う雰囲気を作られていたように感じる。しかし、せっかくタイムスケジュールを提示してあるのに、活動中に子どもの質問に受け答え等をしてしまい、教師の発言によって、子どもたちの活動を迷わせてしまう場面があった。子どものためを思っている発言ではあっても、余計な回りくどい説明などは極力控えるべきであると感じた。また、活動に困るような子どもを出さないためにも、やはり、授業のはじめに流れをしっかり押えておくべきである。そのために、授業の流れを提示した後、質問の時間を設けるなどの工夫が必要である。

ワークシートを使用することによって、内容読解にかかる時間が短縮できた。しかし、なかなかワークシートに記入することができない子どももいた。ワークシートに一部の言

葉を入れたり、手助けとなるヒントカードを用意したりするとよかったのではないかと思います。また、「上手な説明のしかた」を見つけることを1時間ずつの目標としていたため、1時間の内容が盛りだくさんだったので、時間をかけるところとそうでないところを見極め、もっと大胆な時間短縮を実践してみてもよかったかもしれない。そのためにもワークシートの見直しが必要である。

めあてにもあるので、グループ発表の前に「伝わるように話すこと、友達の発表をしっかり聞くこと」と一言声をかけると、最後のまとめまでしっかりと活動することができたのではないかな。

今後の課題としては、学習ルールの見直しが必要である。質問してよい時間と考えなくてはならない時間、友達と相談してよい時間と自分で考える時間などというように、学習に集中して取り組めるような体制を作りたい。また、4年生までにどのような学習をしているか、どのような言葉を使って学習しているのか、こちらが理解しておく事の大切さを再確認した。それらをよく把握して授業をしていかななくてはいけない。ヒントの出し方や発問一つで授業の展開が変わっていくと思うので、臨機応変に対応していきたい。

(3) 実践3 学んだことが生きる単元を構築し、学んでよかったという実感をもたせる授業 「グラフや表を引用して書こう」光村図書・小学校5年

1) 単元名 説得力のある意見文を書こう—考えの裏付けとなる資料を引用して書く

2) 単元の目標

- 意見文において資料を引用することの効果を考える。
- グラフや表を引用して、自分の意見の根拠として意見文を書く。
- 意見文を発表し合い、資料の適切さについて助言し合う。

3) 主体的な学びのための手立て

①子どもたちが学習内容について、学びたい、学んでよかったと感ずること

まず、前の単元や、生活が次の学習内容への興味を高める場となるようにすること。そして、学んだことが、次の単元や、多領域、他教科、実生活で役立つことで、学んでよかったという実感を得ること。これらによって子どもが主体的に学むとともに、次の学びの意欲につながると考えた。

前単元「説明のしかたについて考えよう」では、筆者がグラフ、表、図、写真を用いることで、読者に分かりやすく伝えていることを学習した。本単元では、文章以外の資料の効果について考えたことを単元の導入とし、説得力のある意見文を書くために、意見の裏付けとなる資料を引用することの効果について考える。

さらに、社会科とかかわらせて、そこでの学習成果を活用する。社会科では、自動車をつくる工業について学習している。この単元の終わりに、環境や人にやさしい車づくりの工夫や努力について学習する。そこでは、これからの自動車づくりに求められることについて自分の考えを意見文に書き、学習のまとめとする。その折に、国語科で引用を取り入れた意見文の書き方について学習したことを活用し、意見の裏付けとなる資料を探し、引

用して意見文を書く。

②子どもたちが思考の過程をつぶやき、気軽に聞き合い支え合う環境があること

学習環境として、疑問やひらめきをつぶやきやすい場が必要と考え、ほとんどの授業でグループ学習を取り入れている。発表し合うためのグループではなく、ともに考えるためのグループである。教師から教えてもらうのを待つのではなく、4人グループという話しやすい場で、疑問や何気ないひらめきを伝え合うことができるようにしてきた。同時に、大切なことは自分が分かったかどうかだという意識をもたせ、分からないことを分かるためにどうするかを考えさせてきた。グループ学習という気軽に聞き合い支え合う環境では、自らが知るべき情報を得ようと主体的に活動することが自然にできると考えている。

本単元においても、グループ学習を基軸として学習を進めた。とりわけ第1次では、グループ内での交流により、テキストを多角的に読むことができたようにした。第3次では、書いた意見文をグループ内で検討し合い、学習の成果を自覚できるようにした。

4) 単元計画

次	時	目標	学習活動	主体的な学びのために
1	1	・説得力のある意見文を書く書き方について考え引用の効果を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元の学習を振り返る。 説得力のある意見文の書き方について考えよう。 ・引用しているテキストと引用していないテキストを比べ、引用の効果を考える。 ・出典を示すことの意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元の学習の成果が役立ったという意識をもたせる。 ・グループ内での交流によりテキストを多角的に読むことができるようにする。
2	2	・これからの自動車づくりに求められることについて自分の意見をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境や人にやさしい自動車づくりの工夫があることを学習したことを振り返る。 これからの自動車づくりに求められることは何か考えよう。 ・グループで考えを交流する。 ・意見文にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを発展させて考えさせる。 ・グループ内交流により、考えを深めることができるようにする。
	3	・引用を使った意見文の文章構成や、グラフや表説明の仕方を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を読み合う。 もっと説得力のある意見文にするにはどうすればよいか考えよう。 ・引用の効果を考えたことを振り返る。 ・引用を使った意見文の構成を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のある意見文にするにはどうすればよいかを、意見を交流しながら考えるなかで、引用を使った書き方を理解しようとする意欲をもたせる。 ・文章構成について、

			・グラフや表を説明するとき に書くことを理解する。	グループで確認することによって、理解できるようにする。
	4	・考えの裏付けとなる資料を見つけ、注目する言葉 ・数値やそれらが意味することを読み取ることができる。	・考えを裏付けるためにどのような資料が必要かを考える。 ・統計資料が載っている本から、必要な資料を見つける。 ・資料から必要な情報を読み取り、ノートにメモする。	・統計資料が載っている本を学校図書館、公立図書館から借り、資料を探することができるようにする。 ・グループ隊形で学習する。
	5	・考えの裏付けとなる資料を引用して、意見文を書くことができる。	・ノートのメモを見て書くことを確認する。 資料を引用して説得力のある意見文を書こう。 ・2回目の意見文を書く。	・引用について学習したことを活用する。 ・グループで相談しながら書くことができるようにする。
3	6	・引用しないで書いた意見文と、引用を使ったものを比べて、よくなった点や資料の適切さについて考えることができる。	・単元の学習内容を振り返る。 意見文を読み合い、文章の書き方や引用した資料について、意見や感想を交流しよう。 ・1回目に書いた意見文と、2回目に書いたものを見比べてよくなった点を考える。 ・引用した資料が考えを裏付けるものとして説得力があったか検討する。	・二つの文章を見比べ、友達からもよくなった点を指摘してもらうことにより、学習の成果を実感できるようにする。 ・適切な資料を選ぶことの大切さについて、交流のなかで気がつくことができるようにする。

5) 授業記録

第1次の様子

まず、「『天気を予想する』の学習ではどんなことがわかった？」と問いかけ、前単元での学習を振り返った。隣の席の友達と振り返りを交流した後、全体に発表させた。子どもからは、教材文の内容から得た知識のほか、「説明に表やグラフを用いることで、読者にわかりやくすなることがわかった」などの意見が出された。

ここで、教科書を開く前に、子どもたちに右のような文章〈例二〉を渡した。教科書の〈例〉から、資料の引用と数値を除いたものである。子どもたちに、「読んでどう思った

か聞くよ」と伝えた。

グループ内で思ったことを交流した後、全体へ発表させると、前単元で学習したことを視点にして、意見を発表することができていた。「はじめに意見が書いてあって分かりやすい」という意見もあったが、「図、表、写真があるといい」という意見を受けて、「この文章の分かりにくいところはどこか」と問いかけ、グループ内で交流させた。

グループ内で話題になったことを発表させると…

- C 1 「たくさんいます」というのが、どれくらいいるのか示すとよい。
- C 2 「排出量が減っています」というのがどれくらい減っているのか…

C 3 どういうふうに減っているのかが分かるように書く。

などの意見が出された。さらに問いかけた。

T 1 「ごみを出さないようになってきている」って書いてあるよね、「ごみを出さないように心がけている人がたくさんいます」って書いてあるよね、「日本全体の排出量もだんだん減っている」とも書いてあるよね、これ、納得できた？

(子どもたちは首を横に振る)

T 2 なんで(納得)できないの？

(いくつかのつぶやき)

T 3 K、今つぶやいたことみんなに言ってみて。

C 4 そのことが本当なのかが信じられない。

T 4 Kの意見に賛成の人。

(3から4分の1ほどの子どもたちが挙手した)

ここで、子どもたちに2枚目のプリントを配った。〈例三〉と題された文章で、これは、教科書の〈例〉とまったく同じ文章だが、出典の記述のみが削除されたものである。「〈例二〉と〈例三〉を比べながら読んでください」と伝えた。

比べて考えたことをグループ内で交流し、さらに、全体でも交流した。

〈例二〉

わたしは、日本の社会は、これからもっとくらしやすくなっていると思います。なぜなら、ゴミを出さないようになってきているからです。さまざまな産業の分野でリユースやリサイクルが進んでいるし、わたしの周りでも、リサイクル品を活用したり、ごみを出さないように心がけている人がたくさんいます。

家庭から、一人一日当たりにゴミを排出する量も、日本全体の排出量もだんだん減っていると、本にのっていました。家庭からのごみの排出量が減っているのは、一人一人の小さな努力の積み重ねが効果を上げているのだと思います。これからもっと減らせるでしょう。

このように、日本の社会では、一人一日当たりのごみの排出量が減っています。ごみの少ない社会は、くらしやすいといえるでしょう。日本は、くらしやすくなっているといえます。

- C 5 グラフがあるので分かりやすい。
- C 6 (年ごとの数値を)表に示すとさらによい。
- C 7 自分の思ったことが書かれている。
- T 5 Kが「本当かなあ」って思うって言ったことについてはどう？
- C 8 信じられる。
- C 9 なるほどって思う。

〈例二〉と〈例三〉を比較したことによって、資料を引用して説明することの効果を実感することができた。Kのつぶやきを全体で取り上げたことにより、交流に深まりが生まれた。

そこで、さらに子どもたちに問いかけた。出典を示すことについて考えさせたかったからである。

- T 6 〈例三〉の文章にもまだ足りないものがあると思うんだけど。
- C 10 写真。
- C 11 表。
- T 7 ほかの資料を付け加えること以外で。
- C 12 問いかけ。
- T 8 文章の組み立てでもなく。
- C 13 カラー。
- C 14 題名。
- C 15 筆者の名前。
- T 9 ほかには？

子どもたちは新しい知識を獲得しようと、活発に発言していた。

- T 10 教科書の〈例〉と比べてみて足りないところ見つからない？

教科書の〈例〉の文章を見るように促した。

グループの中でつぶやき合っている。C 16「あ、わかった。下のところに 環境調べて書いてある」、C 17「あ、これか」、C 18「これもじゃん」、C 19「山田図書!？」・
.....

- T 11 見つかった？
- C 20 最後に〈参考〉っていうのがある。
- T 12 (黒板に貼示した〈例三〉のグラフの下を指し)最後ってここ？ここにはどんなことが書いてある？
- C 21 グラフの下の「統計から日本を見てみよう」っていうの。

T13 (黒板に貼示した〈例三〉の〈参考〉を指し) ここにはどんなことが書いてあるの？

C22 どんな本にのっていたか。

T14 それを書いてあるとどんないいことがある？

C23 これを読んでもっと知りたいなと思った人は〈参考〉の本とか読んで、もうちょいくわしく調べられる。

T15 教科書の〈例〉のように、自分の意見の根拠を示すために、ほかの本などからの資料や文章を載せることをなんて言うか知ってる？

・・・だれも知らなかった。黒板に「引用」と書いた。

T16 引用とするとどんないいことがあることが分かりましたか？ ノートに書いておこう。

二人の児童に発表させると、

C24 さらに調べようと思うところがいいところ。

C25 引用があると信じられるし分かりやすい。

T17 説得力のある意見文を書くためヒントが一つ見つかったんじゃないかな。

ノートに振り返りを書いた。引用のよさについて触れた振り返りが多くあった。前単元で学習したことを活用することで、根拠を示す資料を使って説明することの効果を実感することができた。さらに、「引用」という語彙と結びつくことで、引用を積極的に受け止めることができた。しかし、自分が文章を書くときにも使おうという意識まで高められなかったことが授業者としての反省である。

出典を示すことについて、「だれかが書いたものを勝手に使わないようにするため」などの反応を予想していたが、子どもたちはもっと知りたいと思ったときに調べることができるという意味を見出していた。これは、出典を示すことを肯定的に受け入れていることの表れであると考え認めた。

第2次の様子

社会科では「自動車をつくる工業」について学習し、そのまとめとして、「きみたちはこれからの自動車づくりにはどのようなことを求められると思う？」と投げかけ、それぞれの考えを文章にまとめることとした。

子どもは、排出ガスを出さないこと、事故を起こさないこと、お年寄りでも安全に運転できることなどの意見をまとめた。子どもは、自分の意見を始めに述べ、そう考える理由を書いていた。B4の用紙の半分ぐらいの文章を書いた子どももいたが、多くの子どもは、どのように書くか悩んでいる様子が見られた。

次に、意見文をお互い読み合った。そして、子どもたちに問いかけた。

T1 いい意見文ってなんだろう？

- C 1 分かりやすい。
- C 2 「なるほど」と思ってもらえる。
- C 3 「賛成！」って思ってもらえる。
- T 2 そういう意見文を書くにはどうしたらいいと思う？
- C 4 問いかけを入れる。
- C 5 表を入れる。
- C 6 写真を載せる。
- C 7 グラフを入れる。
-
- C 8 「引用」だ！。
- T 3 このまえ国語で学習したことが生かせそうだね。国語の教科書をもう一度見てみよう。

国語の教科書の〈例〉をもう一度読んで、引用を使った文章の構成や、グラフや表を説明するときにはどんなことを書くとよいかを学習した。引用を使って意見文を書きたいという思いが、書き方を理解しようとする意欲になっていた。

そして、自分の考えを裏付けるためにはどのような資料が必要か考え、資料を探した。学級文庫や学校図書館の蔵書、新聞だけでなく、市立図書館にお願いして、統計資料の載っている本を50冊ほど借りた。資料から、必要な情報を読み取るとともに、注目する数値や、そこから分かることをノートにメモした。

考えの裏付けとなる資料を引用して、もう一度、これからの自動車づくりに求められることは何かについて意見文を書いた。全員が資料を引用して意見文を書くことができ、1回目では2行しかかけなかった子が、ほぼ一枚の量の意見文を書くことができていた。「引用」について学習したことが、書く力につながったことが表れていた。

第3次の様子

1 回目に書いた自分の意見文と、2 回目に引用を使って書いた意見文を見比べて、「引用によってよかったこと」を考え、さらに、となりや前後の席の友達に読んでもらって、よかった点について指摘してもらい、それらをノートに書いた。

さらに、グループ内でも読み合い、引用した資料が意見を裏付けるものとして説得力があったかについても検討し合った。

これは、友達に対してアドバイスすることとしては難しさもあったようで、「意見とグラフが合っている」のような内容が多くあった。中には、グラフの説明をもう少し詳しくするとよかったとか、注目する数値が目立つようにするとよかったなどの意見をもらった子もいた。

最後に単元の振り返りをノートに書いてまとめとした。

- ・わたしは最初、「意見文を書きましょう」と言われたとき、ちゃんと書くことができるか不安だったけど、友達と資料を集めたり、書いたりしていると終わりまでかくこと

ができた。

・1 回目に書いた文章は、どういうことを書いたらいいのかが、あまり分からなかったけれど、引用した資料を使って 2 回目を書いたら、友達からも「このグラフが分かりやすかった」といってもらえてよかった。

・引用するグラフや表は、自分の課題に合ったものを選んで読者の人に信じてもらえるようにしたいと思いました。

・引用ということばを初めて知って、それを文に使うことができた。これから自由研究などがあったら引用を使いたい。

などの振り返りがあった。

6) 考察

①手立て「子どもたちが学習内容について、学びたい、学んでよかったと感じること」について

学んだことを活用する場面として、国語で学習した内容を活用する時間を社会科とかかわらせて位置づけた。子どもは、引用について学習したことが役立ち、意見文をまとめることができた。さらに、1 回目に書いた意見文と、2 回目に資料を引用して書いた意見文を見比べることで、その成果を確かめることができた。そのような学習してよかったという実感を得る経験を繰り返すことで、主体的に学習する学習者が育つと考えている。

②手立て「子どもたちが思考の過程をつぶやき、気軽に聞き合い支え合う環境があること」について

話しやすいグループでの学習を基軸とした学び合いは、1 回の授業法ではなく、学級での学び合う仲間づくりであると考え、多くの授業で取り入れてきた。そこでは、グループ活動の目的は一人一人が分かることだと伝え、発表することよりも聞くこと、尋ねることを大切にするようにしてきた。その効果として、外国語を母語とする子も進んで考えを伝えるようになるなど、自ら学ぶ姿が増えてきたと感じている。

さらに今後は、グループの中でつぶやき合い、聞き合うことによって練り上げられた考えが、全体での交流でさらに発展するような学習をさせたい。そのためには、全体交流において発表を聞いている子どもの主体性、つまりどのような課題意識をもって聞くようにさせるかが課題になると考えている。

主体的に学習に参加した経験が、自信へとつながり、社会へ主体的に参画する人を育てると考えている。これからも、子どもが主体的に学習する授業の工夫、学習の仲間づくりをしていきたい。

(4) 実践 4 教材内容に関する学習課題だけでなく学び方に関する取組課題も示す授業 「麦わら帽子」光村図書・中学校 1 年

1) 単元名 心の歩み

2) 単元の目標

○作品をよく読み、物語にふさわしい課題をつくることができる。

【話すこと・聞くこと】【読むこと】

○場面の状況や登場人物などを読み取り、作品を読み味わう。

【読むこと】

○漢字や熟語の意味や用法を知り、適切に使用することができる。

【言語事項】

○全員が教科委員の司会進行に協力して、学習することができる。

【関心・意欲・態度】

○それぞれの意見をグループや全体で積極的に交流することができる。

【関心・意欲・態度】【話すこと・聞くこと】

3) 主体的な学びのための手だて

- ①新しい単元が始まる時には、流れをガイダンスし、生徒にこれからの学習活動のイメージをもたせる。
- ②教師は授業のコーディネーターであるということを、自分も生徒も認識し、教科委員主導による活動の補助や助言を中心にする。また、授業における各活動の時間配分は、教師の指導の下に行う。
- ③教科委員が学習活動の司会進行を務めることにより、仲間と共に学ぶ意欲をもたせる。
- ④毎時の課題を全員で決める「学習課題」と、輪番制で考える「取組課題」の2本立てにし、課題を解決する意欲を高める。
- ⑤ノート指導に際し、1時間の自分の学びの過程と、仲間の自分に対する貢献が分かるように書くことを注意させる。
- ⑥グループ学習を行う前には、必ず個人でじっくり考える場面を設け、「学び合い」が「教え合い」にならないようにする。
- ⑦いつも決まったグループでの活動ばかりではなく、時には自分の考えを深めるために「意見を聞いてみたい人」と話し合う場面も設ける。
- ⑧指名のしかたを挙手だけに限定せず、相互指名や、時にはゲーム感覚で行い、どんな場面においても誰もが発言できる雰囲気を作る。
- ⑨グループ・全体交流などで話し合い活動を行った際、必ず最後には個に戻し、自分の取り組みを振り返るようにする。
- ⑩振り返りは、集団での取り組みの過程についても行う。

4) 単元計画

次	時	目 標	学 習 活 動	主体的に学ぶ手だて
	1	・ 文章を適切に読み、感想をもつことができる。	○全文を通読し、感想をもつ。 作品を読んだ感想や疑問点をみんなで話し合いたい点をまとめよう。	・ 単元のガイダンス
	2	・ 自分の意見を持ち、課題づくりに参加することができる。	○課題づくりを行う。 意見を交流し合い作品にふさわしい課題をつくろう。	・ 教科委員司会進行

1	3	・場面の状況や登場人物の心情などを読み取ることができる。	○課題について話し合い、解決する。 (例)マキの心の変化を捉えよう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫
	4	・場面の状況や登場人物の心情などを読み取ることができる。	○課題について話し合い、解決する。 (例)麦わら帽子はマキにとってどんな物であるだろう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫
	5	・課題を解決することにより、作品を読み味わう。	○課題について話し合い、解決する。 (例) あんちやたちのマキに対する気持ちを考えよう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫 ・集団での取組に対する振り返り
2	6	・文章を適切に読み、感想をもつことができる。	○全文を通読し、感想をもつ。 作品を読んだ感想や疑問点 ・みんなで話し合いたい点をまとめよう。	・単元のガイダンス
	7	・自分の意見を持ち、課題づくりに参加することができる。	○課題づくりを行う。 意見を交流し合い作品にふさわしい課題をつくろう。	・教科委員司会進行
	8	・場面の状況や登場人物の心情などを読み取ることができる。	○課題について話し合い、解決する。 (例)母に対する「僕」の思いを話し合おう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫
	9	・場面の状況や登場人物の心情などを読み取ることができる。	○課題について話し合い、解決する。 (例)弟の死に直面した「僕」の気持ちを想像しよう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫
	10	・課題を解決することにより、作品を読み味わう。	○課題について話し合い、解決する。 (例)題名の意味について考	・教科委員司会進行 ・指名の工夫 ・集団での取組に対

			えよう。	する振り返り
3	11	・手紙の書式を理解することができる。	○手紙の書式を知る。 手紙の書き方を理解しよう。	
	12	・形式に沿った手紙を書くことができる。	○実際に手紙を書いてみる。 正式な手紙が書けるようになるう。	・書いた手紙の交流
4	13	・漢語・和語・外来語の特徴を理解することができる。	○漢語・和語・外来語の特徴を知る。 漢語・和語・外来語が説明できるようになるう。	
	14	・漢語・和語・外来語を使い分けることができる。	○問題に取り組む。 漢語・和語・外来語を使えるようになるう。	・教科委員司会進行 ・指名の工夫
5	15	・意味を理解して、四字熟語を書くことができる。	○四字熟語の意味調べを行う。 四字熟語をたくさん覚えよう。	・単元の振り返り

5) 授業記録

平成 23 年 9 月 1 日 (木) 第4時限 1 の4教室

①題材 麦わら帽子 (2/5時)

②本時の目標

- 全員が係の司会進行に協力して、答え合わせをすることができる。
- 個人で考えたことをグループ内で交流し合い、一つにまとめることができる。
- 話し合いの結果を発表し合い、全体でまとめることができる。
- 作品を深く読み味わい、適切な課題を設定することができる。

③「学び合い」の場面

- ・宿題の答え合わせを、係の司会進行で行う。
- ・グループ内で意見を交換し合いながら、共に課題に取り組む。
- ・グループとしての意見を発表し合い、全体で話し合う。

④本時の流れ

1 【全体】ワークシートの答え合わせ・本時の課題の確認をする。(9分)

- ・教科委員が司会を務める。

学び合い

- ・補足や訂正を中心に、助言し合うよう促す。

2【全体】本時の学習目標と、1時間の流れをつかむ。(2分)

自分たちで話し合って主題に迫る課題を作ろう。

3【全体】物語文において考えるべきことを確認する。(6分)

- ・今までの授業を思い出し、どんな課題があったか出し合う。

物語文では、どんなことを学んできたろう。

4【個人】課題について考える。(6分)

自分が疑問に思っていること・話し合っみたいことを、課題にしよう。

- ・いくつかの課題が例示されたワークシートを配り、参考にさせる。
- ・机間指導を行い、進んでいない生徒には、ワークシートからあてはまる課題を探すよう促す。

5【グループ】個人の意見を交換し、グループの意見としてまとめる。(10分)

学び合い

個人でつくった課題を、話し合っグループのものにしよう。

- ・できるだけ具体的に、たくさん考えるよう指示する。
- ・誰が発表者になっても同じように話せるようにしておくことを確認する。

6【全体】グループの意見を発表し合い、課題を決める。(15分)

学び合い

学級全体で話し合うのにふさわしい課題を決めよう。

- ・教科委員が司会を務める。
- ・発表者の目を見て聴くことを確認する。
- ・違うと思う点・補足したい点・共感できる点について考えながら聴くよう、指示する。
- ・必要に応じて助言・補足をする。
- ・時間があれば、決まった課題を並べ替えて振り返りカードに記入する。

7【個人】本時の振り返りをする。(2分)

- ・自分が課題づくりにどう関わったかについて振り返るよう話す。

6) 考察

本校では、どの教科においても教科委員が活躍する場面があり、その活動はさまざまであるが、生徒たちは自信をもって取り組んでいる(図4・図5)。すなわち、教科委員は、比較的その教科が得意で(あるいは苦手であるが、がんばりたくて)立候補した生徒がその役を担っている。そうでなければ、宿題や小テストの答え合わせ・話し合い活動の司会進行を行うのは不可能である。

本年度、生徒による課題づくり・学習計画・司会進行に挑戦している。実践してみて、やっている本人はもちろん、参加する生徒たちも、より積極的に授業に参加できていると感じている。

毎時間の課題を「学習課題」と「取組課題」に分けてあるのは、教師(または話し合い)で設定した課題と、生徒が輪番制で考える取り組み目標の2本立てにしてあるためである。理想は、生徒が考えた課題1本で授業を行うことであるが、やはり獲得すべきすべ



図4 教科委員による答え合わせ



図5 教科委員主導の話し合い活動

ての内容を生徒だけで設定するのは困難であるため、今年度は2本立てで行っている。これまでに出てきたものとしては「グループでの話し合いに積極的に参加しよう」とか「できるだけ長い文章を書けるようにしよう」などの、関心・意欲・態度の観点で考えられたものが多い。自分たちで考えた課題であるため、どの生徒も意欲的に取り組んでいると思う。今後、どうつなげていくかが「教師の課題」である。

生徒主導による活動の問題点としては、やはり教師が行うより時間がかかること、うまくいなくて後でやり直す場面もあるということである。タイムキーパーや司会進行を務めることにより、教科委員の学習時間は確保できているか、中学校で身につけさせるべき教科の力が、全員に確実に付いているかという疑問が残ることも事実である。

やらなければならないことがたくさんある中で、そこまでして教科委員の活動にこだわる必要があるのかという声が聞こえてくることもある。それでもなお、取り組もうとするのは、3年生の社会科で見た、生徒が本当に学び合っていると感じた姿を、自分の授業でも見てみたいと思うからである。国語科においても、実際、昨年の3年生は、教師が介入しなくても、自分たちで話し合いを進めることができるようになっていた。

1年生には1年生なりの目標がある。この取組は、あくまで3年間のスパンで考えている。1年生の間に、生徒主導で話し合いをする形づくりをすること。2年生では「発表し合い」から「つなぎ合い、深め合う」話し合い活動をめざすこと。身につけさせなければならない基礎学力の充実を怠らず、さらに発展的な授業をめざす。大変難しいことではあるが、今後も再考・改良を重ねていこうと考えている。

(5) 実践5 単元の流れが分かり、見通しがもてる授業 「情報を選ぶ」光村図書・中学校1年

1) 単元名 わかりやすく説明しよう「情報を選ぶ」

2) 単元の目標

○相手に事実をわかりやすく説明するためには、どのように相手に伝えるのか、何が目的であるのかを明確にしなければならない。相手意識や目的意識をしっかりとって情

報の収集や選択ができるようにする。

○説明する力は、書くことの文字言語と話すことの音声言語の両面から育成する必要がある。情報を整理し発表の原稿を作る活動と、それをもとに発表する活動の両方を行い、分かりやすく説明する力を育てる。

3) 主体的な学びのための手立て

①身近なところから書くための題材を見つけ、情報を収集・選択・整理できるようにするため、また時期的なことも配慮し、入学して間もない生徒同士が互いに興味をもち、話し合いが活発になることをねらいとして、課題を「クラスの友達に、身近な人物について紹介しよう」とした。

②生徒が興味や関心を高めながら楽しんで取り組めるよう、マッピングをするためのワークシートを、中央で紹介する人物の似顔絵を描いたり写真が貼れるようなものにした。

③原稿を書くときに、仲間からのアドバイスを取捨選択して生かすことができるよう、仲間と交換したアドバイスは、自分の意見と区別して、赤ペンでワークシートへ書き込むようにした。

4) 単元計画 (6 時間)

次	時	目標	学習活動	主体的に学ぶための手立て・工夫
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝える相手や目的によって、必要な情報が変化することを理解できる。 ・情報整理の方法や流れが理解できる。 	<p>○情報整理の方法についてのガイダンスをし、それぞれ題材を決める。</p> <p>わかりやすく説明するための方法を学習し、実際にクラスの友達に紹介したい身近な人物を一人決めよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって互いにアドバイスできるよう、身近な人物を題材にする。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングの方法について理解することができる。 	<p>○紹介したい人物についてできるだけ多くの情報を集め、マッピングする。</p> <p>情報整理ができるよう、より多くの情報を集めてマッピングをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報を集めることができるよう、付箋紙を利用する。(20枚程度)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・視点の設定の仕方を理解し、適切に視点を決めることができる。 	<p>○情報を整理するための視点を決め、表を作成する。</p> <p>身近な人物をクラスの友達に紹介するために、情報を整理しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する人物のどんな良さについて紹介するのかに応じて視点を自由に決める。

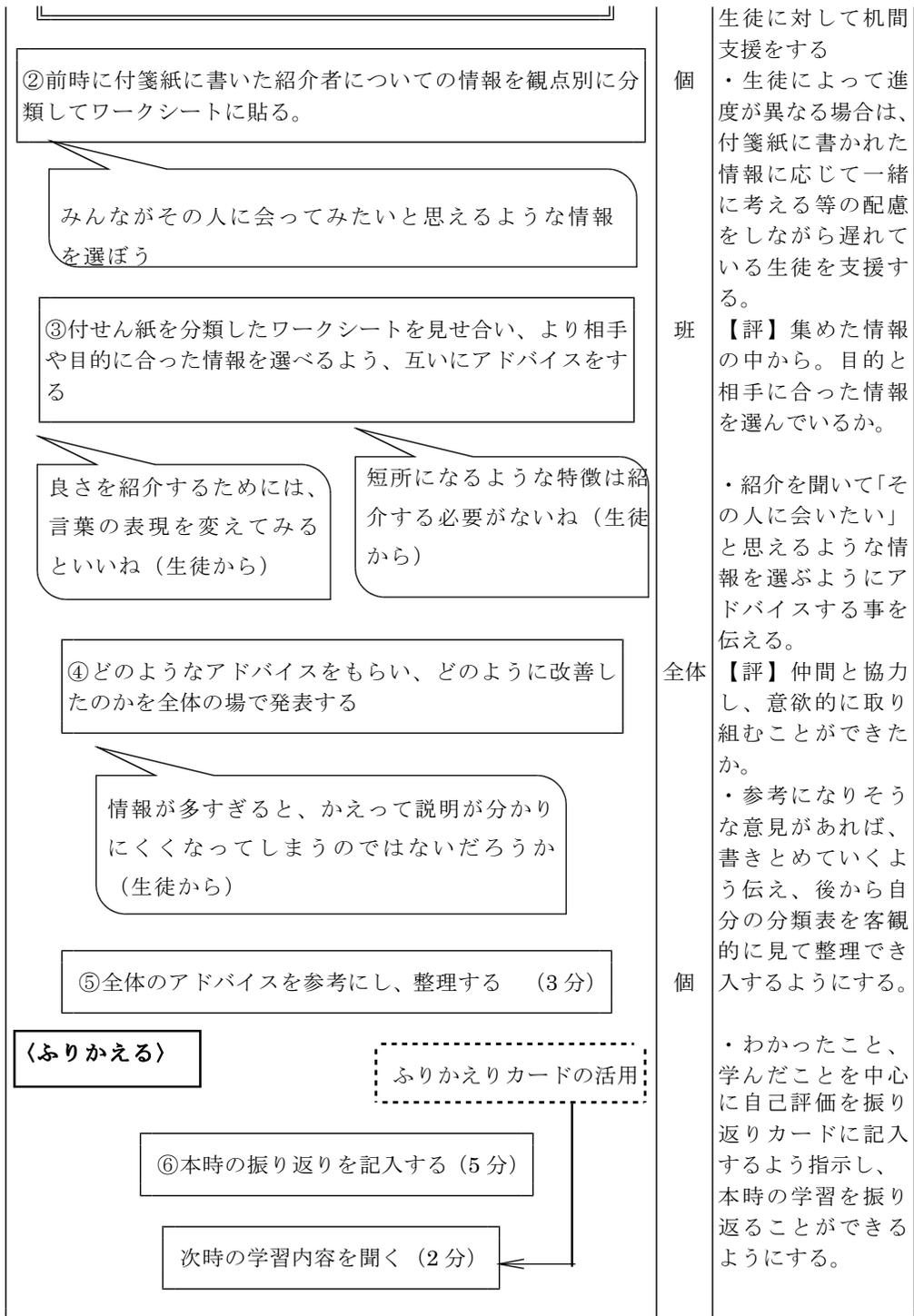
3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手と目的に応じて情報を選び、整理することができる。 ・班や全体での交流の中で、仲間と主体的にかかわりをもつことができる。 	<p>○情報を整理する。前時に作成した表に、マッピングしておいた付箋紙の中から必要な情報を選び、観点別に貼り付けて表を完成させる。</p> <p>身近な人物を紹介するために、情報を整理しよう。</p> <p>紹介を聞き、その人に会いたいと思えるような情報を選べるように、互いにアドバイスをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理した表をもとに班や全体で交流する。 ・班の仲間からのアドバイスをワークシートに書き留める。自分の考えと区別できるよう、赤で書くようにする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・目的と相手に合った文章を書くことができる。 ・説明的な文章の学習で学んだ「導入・本文・まとめ」や「起承転結」といった構成を意識して文章を書くことができる。 ・仲間からのアドバイスを情報の取捨選択や整理に生かすことができる。 	<p>○発表するための原稿を作る</p> <p>整理した情報をもとに、わかりやすく説明できるような原稿をつくろう。</p> <p>3分以内で発表できるように、原稿用紙一枚にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙を使って情報整理をしたワークシートをもとに、原稿を書く。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の発表を聞き、文章の構成や題材選びについて考えを深めることができる。 	<p>○全体で人物紹介をする</p> <p>クラスの友達に身近な人物を紹介しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの発表が聞きやすいよう机をコの字に配置する。

5) 授業記録 (4 / 6時)

本時の目標

- ・情報を伝える相手や目的によって、必要な情報が変化することを理解できる。
- ・伝える相手と目的に応じて情報を選び、整理することができる。

<p><みつける></p> <p>①情報整理のしかた、伝える目的・相手が変わることによって必要な情報も変わることを確認する (5分)</p> <p><高め合う></p> <p>身近な人物をクラスの友達に紹介するために、情報を整理しよう</p>	<p>個</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的、相手を確認することによって、必要な情報を選択できるようにする。 ・どの観点に分類するか悩んでいる
---	--



6) 考察

生徒同士のアドバイスの中には、

- ・良さを伝えるためには言葉の表現を変えたほうが良い（うるさい→元気いっぱい）。
- ・紹介する必要のない情報は省いたほうが良い（苦手なこと、嫌いなものなど）。
- ・情報は多すぎるとかえって分かりにくくなってしまう。

などがあつた。互いに情報整理した表を見せ合いアドバイスし合うことで、自分の作成した表についても客観的に振り返ることができたようだ。題材を身近な人物にしたところ、家族や親戚、小学校時代の友達や先生を紹介する生徒が多く、互いに興味をもち班の話合いも活発になった。具体的に情報編集のプロセスを体験することで、目的意識や相手意識をもたなければ情報を収集したり選択したりできないことや、目的や相手が変わることで情報の収集・選択・整理の仕方も変わってくるのが実感できたようである。

今後の「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習の中で生かしていけるとよい。

(6) 実践6 全員が活躍する場をつくり、仲間とともに学ぶ意欲をもって取り組む授業 「光と風からもらった贈り物」光村図書・中学校1年

1) 単元名 視野を広げる

2) 単元の目標

○生徒の主体的な学びに「話すこと」「聞くこと」は欠かすことができないが、積極的に発言するには勇気がいると感じる生徒も多いようだ。話し合いを通して自分の意見や考えを伝え、仲間の意見を聞いてまとめる活動を中心とした授業を実践したい。

○初めに自分自身が文章を読んで分かったこと・感じたことを書く、次にクラスの仲間の意見を聞き、分かったこと・感じたことを書く、さらにクラスの仲間の他の仲間の考えに対する意見を聞き、分かったことを書く、という活動を通して、宮沢賢治の詩についての考えをより深いものにさせたい。

○二度、全体で意見を発表する場を設定するが、自分の意見を一度文章に書いてから発表することで、自信をもって発表できるようにしたい。

3) 主体的な学びのための手立て

①ワークシートには全員分の意見を載せ、全員が全体で自分の意見を発表した。

②全体での意見交換の際には、誰もが発言しやすい雰囲気を作り出せるよう、発表するときは皆に聞こえる声で強弱や間を工夫して発表すること、発表を聞くときの姿勢や反応などの話し合いのルールも確認し、徹底できるように声をかけた。

③互いの表情を見ながら話し合いができるよう、机をコの字型に配置した。

4) 単元計画（4時間）

次	時	目標	学習活動	主体的に学ぶための手立て・工夫
		・宮沢賢治の『高原』の詩と、その鑑賞文を読み、宮沢賢治の詩に表現されてい	○文章を音読し、宮沢賢治の詩についてわかったことを付箋紙にまとめる。	・宮沢賢治の『高原』を何度もくり返し音読することで、関心

1	1	<p>る自然や故郷に対する思いや考えを読み取ることができる。</p> <p>・決められた長さの文章を書くことができる。</p>	<p>「光と風からもらった贈り物」を読んで宮沢賢治の詩についてわかったことを、クラスの仲間に発表できるようにまとめよう。</p>	<p>を深める。</p>
2	2	<p>・宮沢賢治の詩について、考えを発表し合うことを通して理解を深めることができる。</p>	<p>○付箋紙に書いた内容を全体で順に発表する。仲間の考えの中で、①考えが深いと思うもの、②自分とは意見が異なるが、良い意見だと思ふもの、③文章の表現がすばらしいと思ふもの、について、どんなところをそう感じたのか具体的にワークシートにまとめる。</p> <p>発表できるように意見をまとめよう。</p>	<p>・全員の意見が書かれた付箋紙を載せたワークシートを使用する。発表を聞きながら、①②③に該当する部分に線を引いていき、意見をまとめやすいようにする。</p>
	3	<p>・仲間の発表を聞きながら参考になりそうな意見を選び、書き留めることができる。</p> <p>・①②③のいずれかを選び全員が一度は発表することができる。</p>	<p>○①②③それぞれについて全体で発表する。</p> <p>宮沢賢治の思いについてまとめることができるように、いい意見を取り入れながら仲間の発表を聞こう。</p>	<p>・生徒による相互指名で発表することで、より意見を発表しやすい雰囲気をつくる。</p> <p>・相互指名や意見を伝えたり聞いたりしやすいように机をコの字の隊形にする。</p>
3	4	<p>・自分自身の意見、仲間の意見の両方を取り入れ、より多くの事柄についてまとめることができる。</p> <p>・説明的な文章の学習で学んだ「導入・本文・まとめ」や「起承転結」といった構成を意識して文章を書くことができる。</p>	<p>○仲間の考えや意見も参考にしながら、宮沢賢治の詩について分かったことをさらにまとめる。</p> <p>友達の意見を参考にして、宮沢賢治の思いをまとめよう。</p>	<p>・分かったことをできるだけたくさんまとめられるよう、自分の意見、仲間の意見、仲間の意見に対する別の仲間からの意見を参考にする。</p>

5) 授業記録 (3/4時)

本時の目標

- ・ 仲間の発表を聞きながら、参考になりそうな意見を選び、書き留めることができる。
- ・ ①②③のいずれかを選び、全員が一度は発表することができる。

<p>〈みつける〉</p> <p>①本時の学習内容を知る。 (10分)</p>	<p>個</p>	<p>・ 本時の学習内容と共に、話し合いのルールについても確認しておく。</p>
<p>〈高め合う〉</p> <p>友達の意見を参考にして、宮沢賢治の思いをまとめよう</p> <p>②ひとりひとりの意見をもとに交流をする (20分)</p> <p>仲間の考えの中で</p> <p>①深いと思うもの</p> <p>②自分の考えとは違うが、よいと思うもの</p> <p>③表現がすばらしいと思うもの</p> <p>三つのうちどれか一つは発表しよう。 周りをみてまだ発表していない子には発表できるように促そう</p> <p>これはいい意見が書けているから、みんなの前で発表するといいよ (生徒から)</p> <p>③仲間の発表を聞いて、参考になりそうな意見をワークシートにまとめる。</p> <p>友達の発表を聞いてなるほどと思ったものは、あとで意見をまとめるときにどんどん取り入れよう</p>	<p>全体</p>	<p>・ 発表は、発言し躊躇している生徒に対し机間支援をし、発表を促す。</p>
<p>〈ふりかえる〉</p> <p>④本時のふりかえりを記入する (5分)</p> <p>次時の学習内容を聞く (2分)</p>		<p>ふりかえりカードの活用</p>



<全体での意見交流の様子>

机をコの字に配置することで誰もが発表しやすい雰囲気を作ることができた。

周りを見て互いに良い意見の発表を促しあい、全員が意見を発表することができた(図6)。

図6 全体での意見交流の様子

<授業で使用したワークシート>

授業で使用したワークシートを次ページに示す。クラス全員分の意見を載せ、ひとりずつ順に発表するのを聞きながら、①考えが深いと思うもの、②自分の意見とは違うが、良いと思うもの、③表現がすばらしいと思うもの、に線を引き、①②③それぞれ最も良かったと思う生徒を一人選び、そう思う理由をまとめた。

6) 考察

生徒は振り返りに次のように記している。

- ・ Nさんの「賢治は人々に不思議な感情を与えられる人」という表現がすばらしいと思いました。
- ・ 僕は賢治の詩は東北の方言で書かれていて分かりにくいと思ったけれど、Mさんは「方言で書かれているから、故郷を愛していたということが分かる。」と書いていて、自分とは意見が違ったけど考えが深いと思いました。
- ・ 僕は賢治の詩は東北の方言で書かれていて分かりにくいと思ったけれど、Mさんは「方言で書かれているから、故郷を愛していたということが分かる」と書いていて、自分とは意見が違ったけど考えが深いと思いました。
- ・ Hくんの「短い言葉が詩のかぎになっている」という考えが深いと思う。長い言葉にはたくさんの思いを込められるけれど、短い言葉に思いを込めている賢治の詩がすばらしいのだということに気づいた。

このように、多くの生徒は、主体的に学習に取り組むことができたようである。一方、まだまだ積極的に自ら発言することに躊躇する生徒もいる。そのような生徒も意見を述べることでできる授業作りをめざしていきたい。また、生徒からより多くの発言を引き出すためには班で活動するのが適しているのか、全体で交流するのが適しているのかについても、それぞれの教材・授業に応じて考えていきたい。

4 「協同学習入門」より

折しも杉江先生の新刊「協同学習入門」が発刊された。

その中で、杉江先生が発問・指示・課題について言及している部分を抜き出してみた。大きく次の4つに分けることができた。以下に示す。

A ゴールが明確に示された課題

p.12 予め、教師の手助けなしにグループが活動できるような十分な指示を与えておきさえすれば、子どもたちはしっかり自力で学習活動に取り組みます。何をしたいのかわからないような指示のもとでは、子どもたちによる取り組みも話し合いも進みません。

p.21 「ではこの問題についての自分の考えを仲間に伝えてもらいましょう。仲間に伝えたい意見のある人はいますか。」そして直ちに挙手を求めるのではなく、短くとも考える時間を与えます。その後挙手した子どもを指名します。「では自分の意見をみんなに向かって言ってください。」

p.66 「なぜ・・・いったのだろうか。そのわけを考えて、仲間に自分の意見がいえるようになろう」というところまで付け加えるべきだと思います。すなわち、どう取り組んだらいいのか、どんな成果を出したら学習したことになるのかがはっきり分かる表現で課題を作りたいと思うのです。

p.67 考え出した課題の表現がよいか不適切かの基準は、授業の終了時に、子どもに学んだ成果を問かけるときの表現と比べてみれば分かります。授業の終わりには、教師は「・・・ができるようになりましたか?」「・・・が説明できますか?」と問かけはるはず。とすれば、授業の当初に示される学習課題も「・・・ができるようになる」「・・・が説明できる」というような表現になっていなくてはいけないはず。

p.68 授業のはじめに本時の学習課題を明示する。その表現は、授業が終わったときに児童生徒に再度問かけることと同じがよい。

学習課題は端的に表現しようとせず、学習者に理解されるようにていねいに記述する。

p.67 課題として示す場合は、クラスの子ども全員がわかる表現だということが最優先です。そのためには多少説明的な表現にした方がいいでしょう。

p.71 協同的な学びを促すためには、クラスの仲間全委員がどうなればいいのかという「クラスの課題」をはじめに示しておく。

例 黒板に示した問題をクラスの誰でもが正解できて、解き方を説明できること。

p.74 1時間の学習の順序と学び方を予め知らせることで、子どもたちは自分の活動のイメージを作ることができる。

p.75 こうすればわかっていけるのだという道筋を加えることで、成功への予感をもたせる。

例 10分間個人で取り組みます。自分の力でしっかり取り組みましょう。でも、

自分一人の力では解けない人もいるかもしれません。ですから、グループの話し合いでは、グループ全員が分かるように話し合いましょう。できた人はどう説明すれば分かってもらえるか工夫しておきましょう。分からなかった人はどこが分からないか、聞けるようにしましょう。

p.86 比較的長い時間取り組めるような「サイズの大きい課題」をグループに与えてみてはどうでしょう。解決に至るまでに、10分、20分とかかる課題です。

p.87 「今日は教科書の○ページの内容を勉強する日でしたね。今日の内容は教科書の練習問題の前のところまでしっかり読めば分かります。自分で読み解いて理解しましょう。理解できたらその下にある問題 1 を解きましょう。ただ、自分一人では理解できない人もいるかもしれないね。だから、皆がほしい教科書を読んだあたりでグループになります。そしてグループの仲間が全員きちんと理解でき、解き方の説明ができるように話し合いをしましょう。早くできてしまった子には別の問題も用意してありますから、そちらをやっていてよろしい。でもわからない子にはきちんと説明することの方が先だよ。」

p.88 子どもたちが 1 時間の間に取り組む課題は細切れでない方がよい。まとまりをもった、比較的時間を要する形にする。

p.88 教科書や教師作成の資料を子どもが読み取る時間を課題に含める。

p.93 1 時間の中の学習の各ステップでも、子どもにしっかりと課題意識をもたせる。

例 ○何が書いてあるか注意しながら読みなさい。

×まず声に出して読んでみましょう。(読んだ後) 何が書いてあったかな？

p.107 グループでの話し合いの折には、そのゴールが明確に示されたグループ課題を与えることが必要である。

例 この問題をグループで考えて、グループの中の誰が指名されてもみなの前で説明できるようにしなさい。

グループで話し合っグループとしての代表的な意見を 1 つ決めて発表してもらいます。発表意見を 1 つ考え出してください。

B 適度な困難度のある課題

p.84 子ども同士の学び合いでは、容易すぎる課題では話し合う必要がありませんから、話し合いは活性化しません。また、難しすぎる課題では、何を話し合っているかわからないため、やはり話し合いは停滞します。

p.84 集団に与える課題は、全員参加が可能になる、適度な困難度にする必要がある。

p.85 課題は適度な困難度とは言っても、教師がやや難しいかなと感じるものの方がいいと思います。

p.86 学習課題は挑戦を含む、高めの期待に基づく水準で設定した方がよい。

C 学び合いの仕方をのばす課題

p.69 「学び方」「学び合いの仕方」などを本時で伸ばしたいときは、それも学習課題として授業のはじめに示しておく。

例 友達にしっかり自分の意見が伝わるように、話す内容をよく考えて、きちんと

伝える努力をしよう。

D **学ぶ値打ちを示す課題**

p.72 学習課題を示すときは、同時にそれを学ぶことで何が得られるか、どう役に立つかなど、その値打ちを子どもたちが分かるように伝える。

- 例
- ・足し算、引き算がきちんとできることは、日常の生活にそのまま役立つ。
 - ・入試に必ず出る。

わたしたちが発問・指示・課題の条件としてあげたものと多くは重なっている。ただBの適度な困難度のある課題については明言できていなかった。理解度を上げるために重要なことなので、今までも話題になっていたが、これからはより研究を積んでいかなければならない課題であると考えている。

おわりに

発問・指示・課題に着目し本年度の研究を重ねてきた。今までも授業で取り組む内容やその時間の目的は意識してきたが、実際に子どもに発する発問・指示・課題の言葉までこだわってみると、内容や目的がより明確になってくることを改めて意識できた。例えば、「筆者の主張を短く書くように言葉がけをする」という内容も「筆者の主張を一言で言う」とズバリ何であるか書いてみよう」と実際に発する言葉で指導案に書き込む方が何をすることが明らかにはっきりするのである。こうしたことを積み重ねていくことで、子どもが主体的に動く言葉はどんな言葉なのかが感覚的に分かってくる。教師に発問・指示・課題の技化（メタ認知）ができてくるのである。また、子どもたちも単元や1時間の授業を見通す力がつき、よい授業になる課題を自ら作り出すこともできるようになってくる。

これからも子どもたちに「生きる力」をはぐくむことを念頭に置き、子どもたちが主体的に学ぶ授業を追い求めていきたい。

主体的に学び合い、高め合う児童生徒の育成 伝え合う喜びのもてる国語科授業の創造

鈴木 崇（犬山市立南部中学校）
千田 初子（犬山市立犬山北小学校）
宇佐見聡志（犬山市立栗栖小学校）
安藤 晶子（犬山市立羽黒小学校）
野村 実香（犬山市立東小学校）
西 沙織（犬山市立城東小学校）
太田 育宏（犬山市立犬山北小学校）
福山 裕子（犬山市立犬山中学校）
深見 倫恵（犬山市立東部中学校）

はじめに

児童生徒が目を輝かせ、生き生きと活動し、「先生、国語は楽しいね」と語り合えるような授業をしたいといつも思っている。しかし、研究会スタート時は、「児童生徒が意見を言いたがらない」「児童生徒の話し合いが途絶えてしまつてつなぐことができず深まらない」「国語の授業が盛り上がらない」等、授業に対しての悩みが出された。

では、どうしたら、それらを解決し充実した授業ができるようになるのか、今の授業をどのように変えていけば児童生徒が自分の意見や思いを語るができるようになるのかを考えていくことにした。

1 目指す児童生徒の学びの姿

- ①活発に自分の意見を発表しようとする姿。
- ②互いの意見を尊重し、相手の立場を認め合おうとする姿。
- ③生徒が授業の課題に対して積極的に関わろうとする姿。
- ④自分の考えをもち、伝えることで相手に評価を求めようとする姿
- ⑤目標やめあてに向け、皆で協力し合って、前に進んでいこうとする姿

2 研究の仮説

研究の仮説を、次のように3点設定した。

- ①話型を学ぶことで、意見をつなぎ合うことに前向きになれるのではないか。
- ② 聴き方を学ぶことで、発表者が自信を持つことができるのではないか。
- ③ 生徒が積極的に交流することで、自己有用感をもつことができるのではないか

3 具体的な手立て

研究の仮説に迫るために、次のような手立てを考え、実践ではより具体的な手立てを構築して取り組んだ。

- ①話型や聴き方の具体例を示し、一つのパターンを身に付ける。
- ②児童生徒が授業づくりに参加できるようにコーディネートする。

4 研究の実際

実践1 話し合いの場の設定を通して 小学校3年「三年とうげ」

(1) 子どもの実態

本学級は、3年生男子3名、4年生0名、合計3名の複式学級である。男子3名とも、明るく元気があり、様々な活動に対して真面目に取り組むことができている。しかし、小規模校ということで、個への対応がしやすく、教師と児童の一对一の活動が中心になり、児童同士がかかわったり、多様な考えに触れたりすることが少なくなってしまうため、学び合う活動がなかなかできない(図8)。



図8 話し合いの様子

そこで、ただ友達の考えや意見を聞くだけでなく自分の考えや意見を相手に伝えることへの抵抗感をなくすために、意見交換をする場面を授業の中に意図的に設定することとした。10月に国語科の授業についてアンケートをとったところ、3名中2名の児童が国語について苦手意識をもっていた。特に友達の意見や考えを聞くことに関しては、どの児童も好きだが、話を聞いて自分の考えと比べたり、それを相手に伝えたりすることについては苦手と感じている児童がほとんどであった。

4月以来、学校生活全体を通して話す・聞く力を育てるために、話し手は、相手を意識して話したり、相手の話を分かろうとしたりしながら聞くということを中心に指導してきた。「話すこと」に関しては、朝のスピーチや発言時などに相手の様子をうかがいながら、内容を詳しくするための理由づけすることができてきたり、話すことを3つに絞ったりするなど少しずつではあるが、その変容が表れている。また「聞く」ことに関しては、漠然と耳には入っているが、理解はできていないという場合が多い。自己主張が強いこともあるが、相手の考えや意見をしっかりと聞き受け入れることが重要になる。そこで、特に学び合い、伝え合う言語活動を通して、相手の話に耳を傾け、受け入れることのよさを体感できるようにしていきたいと考えた。

(2) 本単元で目指す子ども像

- ①物語の組み立てのパターンがあることを理解できる子ども。
- ②それぞれの出来事の中で登場人物の心情が、どのように変わったのかということワークシートや心情曲線に表すことで理解できる子ども。
- ③自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いたりする言語活動を通して、自分の読み取りと友達の考えを比べながら自分の読みの幅を広げることができる子ども。

(3) 具体的な支援と手立て

1) ワークシートの活用

「三年とうげ」のおもしろさを読み味わうには、物語を読み進めていく中で、主人公のおじいさんの様子や心情を読み取ることが大切となってくる。そのためには、叙述を裏付けとして、なぜそう思うのかをしっかりと考える必要が出てくる。そこで、自分の考えを理由を付けて発表できるよう、ワークシートに理由を書いておくことで発表もしやすくなり、また、自分の書いたものと比べることで、友達との考えの違いを明らかにすることもできる。さらに、児童の発表をもとに、おじいさんの気持ちの変化（幸せ度）を心情曲線に表して掲示することで、心情をより深く読み取ることができるようにした。

2) 話し合いの場の設定

話し合い活動を取り入れることで、自分とは違う考えに触れたり、多くの考えに触れたりして読みを深めることができるようになる。さらに、自分の考えに理由をつけて表現させることで、効果的に話し合いができるようにした。また、今回は意見交流が活発に行われるようにするため座席を変え、三人が顔を合わせて話し合い活動ができるようにした。また、話し合いが三人の児童だけで行うことができるように、教師が口を挟まないようにすることを約束事とした。

3) 話型の活用

現職教育で力を入れている話型を活用することで、話し合いがスムーズに進むと考えた。本時の学習では、「○○という言葉から□□が分かりました。」という話型を提示し、根拠のある話し合いができるようにした。

(4) 本教材の学習の流れ

- ①図書館を利用し、世界の民話の読書経験を話したりして交流し合う。
- ②全文通読し、初発の感想を書く。
- ③登場人物をあげ、場面分けをする。
- ④～⑦おじいさんの気持ちの変化を読み取る。(本時7/8)
- ⑧作者の伝えたかったことをまとめる。

(5) 本時の流れ

1) 目標

- ・三年とうげで転びながら、どんどん元気になっていくおじいさんの様子や気持ちの変化を読み

取ることができる。

2) 準備

- ・教師…ワークシート(拡大)
- ・児童…ワークシート

3) 学習過程

段階	児童の活動	教師の支援 ※評価
つかむ(7)	<p>1 前時までの学習を振り返る。 【全体】</p> <p>2 本時のめあてと学習の流れを知る。 【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気が重くなったおじいさんがトルトリの話聞いて、不安に思いながらも、希望をもった様子を「幸せ度」とともに振り返り、おじいさんの気持ちの変化を読み取りやすいようにする。 ・本時のめあてを示す。 ・本時の学習の流れを示し、児童が学習の見通しを持てるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> たくさんころぶおじいさんの気持ちの変化を読み取る </div>		
取り組む(30)	<p>3 p.49 01～p.2 02を音読し、ワークシートにキーワードを記入する。 【個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おじいさんの気持ちが分かる言葉に線を引き、おじいさんの様子や気持ちの変化を読み取り、ワークシートに記入する。 ・ はねおき …早く三年とうげで転びたい。 ・ わざとひっくりかえり …ためしてみよう。 ・ すっかりうれしくなりました …転ぶのがすごく楽しい。 ・ ころりん、ころりん、すってんころり、ぺったんころりん、ひょうころ、ころり ・ あんまりうれしくなかった …転んでいるうちにどんどん楽しくなってきた。うれしくてしょうがない。 ・ ケロケロケロっとした顔 …三年とうげで転んで、病気になっていたことがうそみたいだ。 ・ にこにこわらいました 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目は、声に出して自分のペースで読み、2回目は、黙読しながら大切な言葉に線を引くように指示する。 ・ おじいさんの気持ちの変化を読み取れない児童には、「二つのうれしい」に着目するように助言する。 ・ 机間指導をしながら、大切な言葉に線を引くことができているかを把握し、話し合いで自分の意見が言えるよう助言する。 ・ 前回転んだときの「真っ青」と比較させ、前時からの気持ちの変化を語句から気付くよう助言する。 <p>※線を引いた大切な言葉から、おじいさんの気持ちの変化を読み取ることができたか。(ワークシート)</p>

	<p>…三年とうげで転ぶのがすごく楽しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すっかり元気 <p>…病気が治ってしまった。</p> <p>4 一人読みをもとに話し合いの場所に移動し、全体交流をする。【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な言葉から読み取ったおじいさんの様子や気持ちの変化を話し合う。 ・ 「幸せ度」の心情曲線をひき、おじいさんがすっかり元気になったことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「○○という言葉から△△な気持ちが分かりました。」という話型を提示し、根拠のある話し合いができるようにする。 ・ 話し合いで上手く伝えることができない児童には、動作化したり、音読を工夫するよう助言する。 <p>※ 話し合われた内容を基に、自分の考えをまとめ、心情曲線に表すことができたか。 (ワークシート)</p>
<p>まとめ る (8)</p>	<p>5 本時のまとめをする。 【全体】</p>	<p>※おじいさんがすっかり元気になった様子を叙述から読みとることができたか。 (ワークシート・発表)</p>

(6) 成果と変容

1) ワークシートの活用

本単元では、ワークシート上段の本文に、おじいさんの気持ちの変化が分かる言葉や表現に線を引き、その根拠を書いておくことで発表もしやすくなり、意見交流が活発に行われた。また、個で考える時間では、気がつかなかったことや異なる友達の考えに触れることにより、意見交流後の振り返りでは、友達の考えを書き込んだり、心情曲線の幸せ度を変えたりするなど友達の意見から自分の考えをさらに深めていくことができ、互いの考えをつなぎ合うことができた。さらに、心情曲線に自分の考えをまとめることにより、文章で書いたり、発表したりすることが難しい児童にとっては、自分の考えを友達に伝える手段として活用することができた。視覚的にも分かりやすく意欲的に取り組むことができた(図9)。

2) 話し合いの場の設定

本単元では、意見交流が活発に行われるようにするため座席を変え、三人が顔を合わせて話し合い活動ができるようにした。大きな机に三人が集まり、相手との距離をより縮めることにより、「自分の意見を聞いてほしい」という思いが高まるとともに、相手の意見を聞こうとする態度も高まった。また大きな机に三人が集まることで、三人の中で活動が

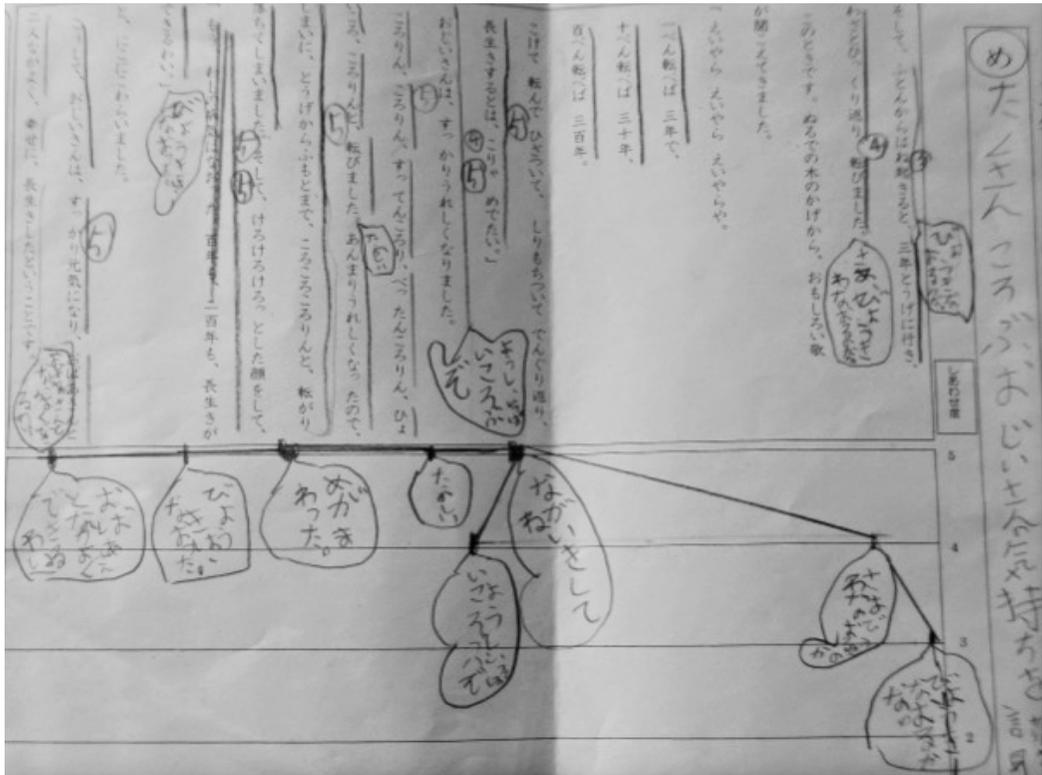


図9 児童が書き込んだワークシート

変わる切り替えの場面にもなり、話し合い活動で、しっかりと自分の考えを発表できるように、個で行う活動に意欲的に取り組む姿がみられた。

さらに、三人のみの学級で話し合いを深めることは難しいが、話題が行き詰ってしまったり、類似した意見ばかり出されたときには、教師が四人目として参加し、違った角度から意見をいうことで、話し合い活動が高まった。

3) 話型の活用

自分の考えを伝える場として、話し合い活動の時間を十分に確保した。たくさんの意見交流をさせたいこともあり、司会を立てず、相互指名を行った。三人での話し合いということで、いつでも前の意見に関連して自分の考えを発表できるように聞く姿勢から緊張感のある話し合い活動ができた。

また、本時の学習では、「〇〇という言葉から△△な気持ちが分かりました」という話型を提示したが、4月から学校全体として話型に取り組んでいることもあり、提示したものを見なくても話し合いを進めることができていた。また、自分とは違う考えには、どうしてそう思ったのか話し合う場面もみられた。

(7) 考察

今回の実践では、アンケートの結果から、発表することを苦手としていた児童Aが「どちらでもない」と回答し、その理由として、「少し自信がついたから」と書いている。話

んだ文章全体の構成をとらえていくことができる子ども。

②段落ごとの役割や要約を考え、個人でまとめることができ、次单元「仕事リーフレットを作ろう」につなげられるように、筆者の説明のしかたの工夫も考えていくことができる子ども。

③お互いに、伝え合う喜びにつながるような活動を通して、自分で考えたことを友達に分かりやすく発表することができる子ども。

(3) 具体的な支援の手立て

児童が、相手に分かりやすく発表し、伝え合う喜びを実感できる手立てとして、2つのゲームと1つの活動を考えた。

1) どの児童も進んで話し合い活動ができるように、話し合いのルールを体験を通して学ぶことができるゲーム

ア. 「スピーチゲーム」

子ども達は発表する場面で、よく思いついたことをダラダラ話すだけになってしまい、結局何が伝えたかったのか聞き手が分からない時がある。そこで、話したいことを整理して話す訓練としてこのゲームを取り入れた。ポイントは「3つ」話すことだ。例えば、「今日うれしかったこと3つ」や「友達の良いところ3つ」などで、話型に沿ってスピーチしていく。これを国語の授業の導入で使ったり、朝の会で使ったりした。

例：『今から私の今日うれしかったことを発表します。3つ話します。1つ目は・・・です。2つ目は、・・・です。3つ目は、・・・です(自分の気持ちを話す)。この3つが私の今日うれしかったことです。これでスピーチを終わります』

イ. 「反応なしよゲーム」

アンケートでもあったように友達の考えを聞く能力が低いように感じる。伝え合いには、話すだけでなく聞き手の姿勢や反応も大切だと思う。そこで、どんな聞き方をしたら相手にちゃんと聞いてくれている安心感を与えられるのか、子ども達に体験を通して考える機会を作った。

【内容】 ペアになり、1人は話し手、1人は聞き手になる。話し手は話をする。

例：「ぼくはこの前の休みに～をしました。・・・」

- ・聞き手は全く反応をしないで会話を行う。
- ・お互いに行い、どんな気持ちになったか発表する。

児童の反応例：腹がたった。話さなくてもいいやと思った。聞いてよ！と言いたくなった。

- ・どうやって聞けばいいのか話し合う。

児童の意見：相手の目を見て聞く。うなずきながら聞く。共感することには「ぼくも！」「私も！」と言う。姿勢良く聞く。疑問に思うことには質問をする。

- ・話し合いで決めたように会話を再び行う。
- ・感想を伝え合う。

児童の意見：話しやすかった。楽しくなってきた。もっと話したくなった。盛り上がってきた。うれしい。

※参考資料

多和田晴香 「伝え合う力を高める指導の工夫」

菊池省三 「授業や学級づくりのちょっとしたポイント」

2) 「言葉マップ」を使った読み取り

相手に考えを分かりやすく伝えるためには、自分の考えがある程度まとまり、自信をもって相手に伝えたいという強い気持ちが必要なのではないかと思う。さらに、それとともに根拠も言えるとより良くなると思う。そのためには、自分の考えとじっくり向き合う「個」の時間が必要不可欠だ。この「言葉マップ」というのは、物語文や説明文の詳しい読み取りにつながっていく手立てである。「個」で「言葉マップ」を作っていくことで、物語文であれば時系列や登場人物の気持ち、説明文であれば書いてあることの深い意味やつながりが分かってくる。そこから、次のグループ活動で自分が大切だと思ったキーワードを話し合いの中心においたり、根拠を文中から考えたりする伝え合いの活動につないでいけると考えた。

【言葉マップ作りのきまり】

- ・中心におく言葉は、文章の中心となるものを書く。(物語文なら主要人物・説明文ならキーワード)
- ・マップに使う言葉は文中の言葉にする。(短くまとめると良い)
- ・物語文なら、場面の変化を意識して書くと良い。
- ・物語文では、人物の行動や言動に気持ちを考えて書く。自分の言葉で分かるように書き加える。
- ・最も大切だと思うところに印をつけておく(あとで話し合いのテーマになる)。

この「言葉マップ」は、学年で年間を通して行ってきた。初めは、なかなか言葉がつけられず、2、3個で終わっていた児童も、回数を重ねるごとにうまくつなげることができるようになってきた。最初は教師主導で、似たようなマップになっていたが、今ではそれぞれ個性的なマップになり、家庭学習でも行えるようになった。

本単元では、初めて説明文での言葉マップに挑戦した。物語文と比べて気持ちを考えなくても良い分、スラスラと作れたようである。ただ時系列がない分、つながりに苦戦した児童もいた。

(4) 本学習の流れ

- ①「アップとルーズで伝える」を読んで、学習課題を設定する。・・・1時間
- ②段落どうしの関係を考えながら読み、言葉マップを使って文章の組み立てについて考える。・・・3時間(本時2/3)
- ③「アップとルーズで伝える」の説明のよさを考え、「上手な説明のしかた」をまとめる。・・・2時間
- ④テレビや新聞・雑誌などで「アップ」と「ルーズ」の使われ方を確かめ、説明す

る上でのよさを調べ、報告し合う。

・・・・・・・・・・2 時間

(5) 本時の流れ

1) 目標

・写真と文章の対応関係を読み取り、「アップ」と「ルーズ」の長所と短所や、段落相互の関係をつかむことができる。

2) 生き生きと活動させるための手だて

ア. 一人ひとりが読み取りを深めることができるように、言葉マップを使う。

イ. 伝え合いを大切にするために、ペア学習やグループ学習など、活動に見合った学習形態を工夫する。

3) 準備

○教師 写真

○児童 ワークシート

段階	学 習 活 動	形態	○支援 ・ □留意点 ・【評価(方法)】
つ か む 5 分	1 前時までの学習内容を振り返る。	全体	□前時で学んだことを振り返ることができるように、「アップ」と「ルーズ」の写真を提示する。
	2 本時の学習課題と学習の流れを知る。	全体	□本時では、「アップ」と「ルーズ」ではどんな違いがあるのかを読み取ることを伝える。
	アップとルーズではどんなちがいがあるのかまとめよう		
取 り	3 第四段落から第六段落を音読する。	ペア	□写真と文章の関係を考えながら読むよう指示する。 ○読み終わったら各自で黙読し、接続詞に印を付けるよう指導する。 □言葉マップを作るときのきまりを確認する。
	4 第四段落から第六段落までの言葉マップを作る。	個人	□次の活動に繋がるように、「アップ」と「ルーズ」の長所・短所の区別を付けるよう伝える。 ○言葉マップが進まない児童には、もう一度文章を読むことを伝える。 【「アップ」と「ルーズ」の長所・短所を区別した言葉マップを作ることができたか。(ワークシート)】
	5 言葉マップをもとに、「アップ	グループ	□自分の作った言葉マップを説明するとともに、

組 む 35 分	<p>「アップ」と「ルーズ」の長所と短所をまとめる。</p> <p>6 第四段落から第六段落までの関係を考える。</p> <p>7 第四段落から第六段落を詳しく読んで「上手な説明のしかた」を見つける。</p> <p>8 「上手な説明のしかた」を交流する。</p>	<p>全体</p> <p>個人</p> <p>グループ</p>	<p>「アップ」と「ルーズ」の長所・短所はどこのかを確認することを伝える。</p> <p>□グループで、「アップ」と「ルーズ」の長所・短所をまとめることを指示する。</p> <p>□長所・短所を見つける根拠になった接続詞も書くよう伝える。</p> <p>【自分の言葉マップや長所・短所の説明を友達に分かりやすく伝えることができたか（話し合いの様子）】</p> <p>□段落どうしの関係を考え、まとめるよう指示する。</p> <p>○段落どうしの関係がよく分かるように、図に表しながら板書する。</p> <p>□第四段落から第六段落での説明の工夫を見つけるよう伝える。</p> <p>□自分の見つけた説明の工夫を友達に伝えるとともに、友達の見つけた説明の工夫を聞くよう指示する。</p> <p>【説明の工夫を見つけることができたか（ワークシート・話し合いの様子）】</p>
まとめる 5分	<p>9 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	全体	<p>□本時の学習や学び合いの振り返りをし、振り返りプリントに記入するように指示する。</p> <p>□次時は、第七・八段落を読み、説明の工夫を考えることを伝える。</p>

4) 評価

- ア. 第四段落から第六段落を読み、説明の工夫を見つけることができたか。
- イ. 「アップ」と「ルーズ」の長所・短所を理解することができたか。

しかし、「分かりやすい発表を心がけているか」という質問に対して、前回そう思わない児童は10人だったが、今回は13人に増えていた。そして、「みんなの前で話すことが好きか」という質問では、前回そう思わないと答えた児童は12人だったが、今回18人に増えてしまった。学級の半数の児童が人前で話すことはあまり得意ではないということが回答に出た。その他の質問では、大きな変化は見られなかった。

(7) 考察

伝え合う喜びのもてる国語科授業を目指し、一年間実践してきた。そこからの児童の変化は、「聞く」態度が身についてきたことである。アンケートの結果でも分かるように、特に自分の意見と相手の意見を聞き比べながら、もう一度自分の意見を考え直し、より良い考えにしていく活動ができてきたように感じる。アンケートの中の、「相手の意見を聞く時に心がけていること」の質問に、「自分の考えと同じところと違うところに気を付けて聞いている」「疑問に思ったところは質問をする」など、特に考えを比べながら聞くことに心がけている児童が多くいた。それだけ相手の意見を尊重して自分の考えをより良いものにしようという気持ちが高くなってきた証拠であると感じた。

しかし、相手の意見を大切にすることで、自分の意見の重さも感じてきたのかもしれないが、人前での発表や分かりやすく話すことが苦手だと感じる児童が多くなった。アンケートで、「伝え合い活動で難しいと思うこと」の質問では、「自分と相手の考えの違いを説明することが難しい」「意見に質問されると上手く答えられない」「友だちの意見を聞き逃さないように聞くのが難しい」などの意見があった。良い意味で考えると、様々な伝え合い活動を学んでいく中で相手に考えを分かりやすく伝えることはとても難しいと感じ、自分の意見をしっかり考えるようになってきたのかもしれない。しかし、相手に伝わる喜びにはまだつながっていないように感じる。ここで終わりにせず、学年の発達段階に応じて伝え合い活動を行なっていくことが今後の課題だと思う。また、あまり話型にこだわらず、気楽に話せる機会も作る方がいいのかもしれないと感じた。

実践3 聴き合う指導を通して 小学校4年 「ごんぎつね」

(1) 子どもの実態

本学級の児童は男子14名女子12名で構成されており、明るく活発な児童が多い。男女とも仲が良く、休み時間に全員で遊ぶ日があり、男女と一緒に学び合う活動を行うこともスムーズにできる。ただ、全体での話し合いになると、意見を言う児童が限られていたり、確信の持てる答の時には意見を言うが、課題にそった自分の考えを言うことが苦手だという児童が多くいたりする。

(2) 本単元で目指す子ども像

- ①登場人物の気持ちが変化したことを行動や情景描写から想像し、叙述をもとに読むこ

とができる子ども。

- ②自分の考えや感じたことを話したり、友達の考えと比べながら聴いたりすることができる子ども。

(3) 具体的な支援の手立て

1) マイノートの活用

物語文の時には、教科書の文をコピーし、その周りに意見を書く余白を作ったものをマイノートとして使用する。発言することが苦手な児童にとって、書くことで自分の意見がはっきりし、発言につながると考える。

2) 話し合い・聴き合いの工夫

話し合いの時には机の配置をコの字型にし、友だちの顔を見て発言できるようにする。ハンドサインや相互指名により、友達同士で話し合っているという意識をもたせ、友だちの考えをふまえて自分の考えを発言できるようにする。その時に、話型を用いて話すようにする。話型、話し方、聴き方は学級に掲示しておく。

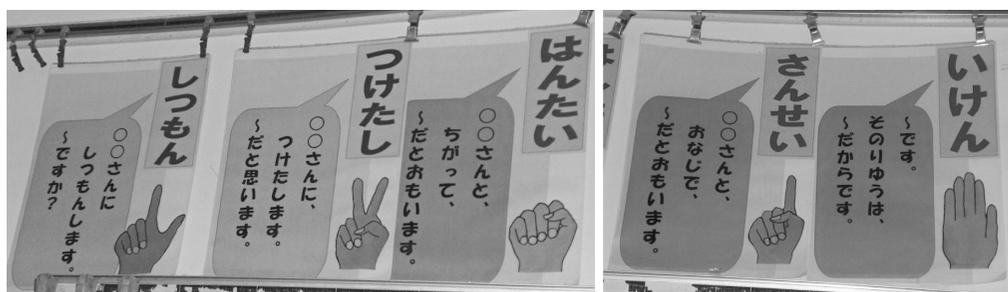


図12 教室に掲示した話型

3) グループ交流

全体ではなかなか意見が言えないが、グループだと意見が言えるという児童もいる。そのため、挙手が少なかった時は適宜グループ交流を取り入れる。グループ交流によって自信がつき、全体交流での発言につながると考える。

4) 教師の立ち位置

教師も児童と同じ目線になるように椅子に座って話し合いを見守る。また、板書をしない。板書をすることで教師が子どもの意見のつながりを妨げたり、板書を見ているだけで友達の意見を聴かない児童がいたりするのを防ぐためである。児童同士の聴き合う雰囲気作りに努める。

(4) 本教材の学習の流れ

- ①本文を読んで初発の感想を書き、交流する。
- ②語句の意味調べをする。
- ③心に残った場面とその理由を書き、交流する。
- ④一場面のごんと兵十の気持ちを話し合う。

- ⑤二場面のごんの気持ちの変化を話し合う。
- ⑥三場面のごんの気持ちの変化を話し合う。(本時)
- ⑦四場面のごんの気持ちの変化を話し合う。
- ⑧五場面のごんの気持ちの変化を話し合う。
- ⑨六場面のごんの気持ちの変化を話し合う。
- ⑩読み深めたことをもとに感想を書き、話し合う。
- ⑪登場人物になって手紙を書く。

(5) 本時の流れ

児童の活動	学習形態	留意点 ○支援、個を生かす手だて ⑩評価
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習めあてをつかむ。	一斉 (3分)	・前時の板書がわかるものを掲示して、前時のごんの気持ちを想起させる。
2 3場面を音読する。	個 (3分)	・早口にならないよう、登場人物の気持ちを想像しながら音読するように声かけをする。
3 3場面でのごんの気持ちの変化を交流する。 ・「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」 <u>共感・同情</u> ・いわしを投げ込む。 <u>償い</u> ・うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思う。 <u>満足</u> ・山でくりをどっさり拾って、かかえて行く。 ・兵十のかすりきずを見て「しまった」と思う。 <u>後悔</u> ・そっと物置の方へ回って、入り口にくりを置いて帰る。 <u>償い</u> ・次の日も、その次の日もくりを持っていく。 <u>償い</u> ・その次の日には松たけも持つ	一斉 グループ (30分)	・事前に自分の考えを書きことができるマイノートに書き込みをさせておく。 ・本文から離れていかないように、音読を取り入れたり、叙述に戻したりする。 ・必要に応じて言葉の意味を確認する。 ・友達の発言とつなげて発言できるように声かけをする。 ・友達の方を見てうなずきながら聴いている児童を賞賛する。 ○全体交流でなかなか意見が出ない場合はグループ交流を取り入れる。 ⑩ ごんの行動に表れた気持ちの変化を読み取ることができたか。(発言) ⑩ 友達の発言を聴いたり自分の考えを発言したりすることができたか。(発言・観察)

て行く。	償い		
4	交流したことをもとに、自分が感じたことや考えたことを書く。	個 (4分)	・交流したことをもとに自分の考えが書けている児童を賞賛する。

(6) 成果と変容

支援 1 について、「マイノートは必要か」という問いに対し、「必要」「まあまあ必要」と答えた児童は 90 % だった。その理由として、「自分の思ったことを書けるから」、「書いたことを話し合いのときに言えるから」「自分で考えたことを話し合いの時に忘れるかもしれないから」というような意見があった。

支援 2 について、「全体での話し合いで発言回数が増えたか」という問いに対し、「増えた」と答えた児童は 78 % だった。その理由として、「登場人物の気持ちが考えやすかったから」「マイノートにたくさん書いたから」「友達の意見を参考にできたから」「だんだん慣れたから」「自信がついたから」「楽しくなったから」というような意見があった。しかし、「友達の意見につなげて発言できたか」という問いに対しては、「できた」「まあまあできた」と答えた児童は 65 % であり、その中で「できた」と答えた児童はわずか 9 % だった。

話を聴く態度に関して、「自分の意見が友達に聴かれていると思うか」という問いに対し、「思う」「まあまあ思う」と答えた児童が 88 % だった。その理由として、「みんなが真剣に聴いてくれるから」「こっちを向いてくれるから」「うなずいてくれたり、賛成意

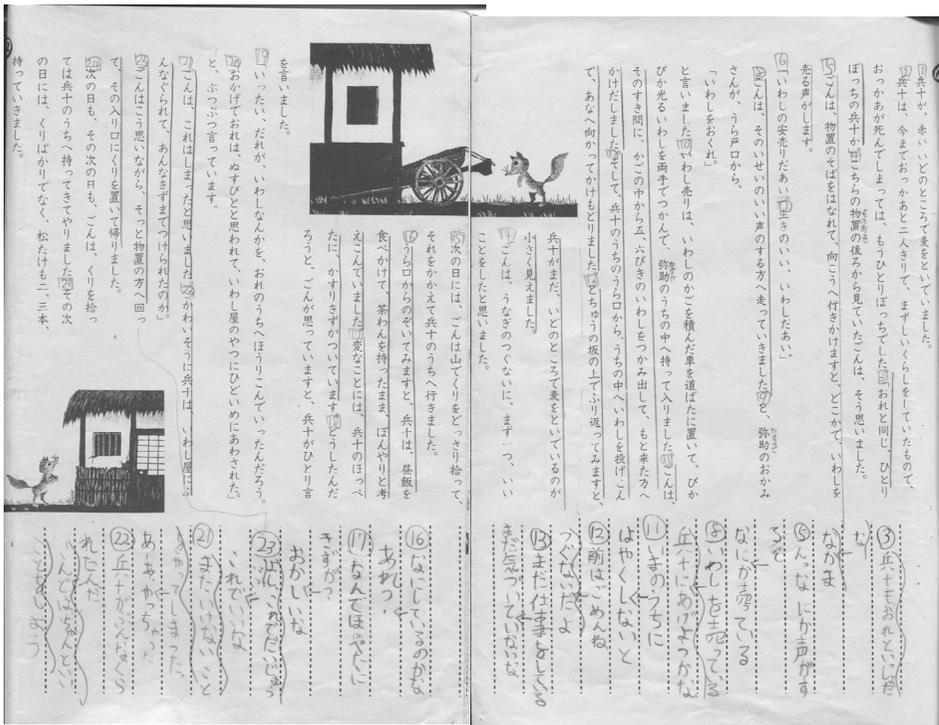


図13 児童の意見が入ったマイノート



図14 グループで話し合う児童



図15 積極的に授業参加する様子

見や反対意見を言ってくれたりするから」という意見があった（図14）。

支援3について、「全体で話す前にグループで話し合いをすると、全体での話し合いで意見が増えたか」という問いに対し、「増えた」と答えた児童は70%だった。その理由として、「グループのみんなに言ったら恥ずかしくなくなったから」「自信がもてたから」「グループの友達の意見を聞いて、間違っていたことが分かったから」などの意見があった（図15）。

支援4について、「話し合いの際、教師は黒板に意見を書いた方が良いか、黒板に書かずに話し合いに参加した方が良いか」という問いに対し、「黒板に書かない方がいい」と答えた児童は87%だった。その理由として、「時間が短縮できるから」「先生が参加していた方が話しやすいから」「集中できるから」などの意見があった。

実践の前に実施したアンケートでは、国語の授業があまり好きではないという児童が24%もいたが、実践後のアンケートでは、国語の授業があまり好きではないという児童が9%に減った。

（7）考察

今回の実践で、最初は決まった児童ばかりが発言していたが、話し合いの回数を重ねるごとに発言が増えていった。聴く側が意識をして友達の意見に耳を傾けて聴けるようになったことで、聴き合う雰囲気が出てきたのではないかと考える。ただ、全体交流の場で全く発言できない児童もまだいる。

また、板書をしないという初めての試みであったが、私自身が板書をしなければいけないという焦った気持ちがなく、落ち着いてじっくりと子どもの発言に耳を傾けることができたと思う。そして友達の方を見てその友達の意見にうなずきながら聴いている児童の姿も見ることができた。

しかし、課題がいくつかある。中でも一番の課題は、友達の意見とつなげて自分の意見を言える児童がまだまだ少ないということである。友達の意見を聴くことはだいぶできてきたように思う。今後はその聴いた友達の意見と自分の意見をつなげて話せるようにしていく必要がある。

実践4 エンカウターの活用と課題設定を通して 小学校5年生「大造じいさんとガン」

(1) 子どもの実態

本学級は、年度当初より、毎週日記を課題として取り組んでおり、文章を書くことに対しての抵抗は比較的少ない方であると感じる。しかし、これはあくまでも、出来事や感想を思うがままに書き綴っているものであって、順序立てて要旨を分かりやすくまとめるなどの内容構成についてはまだまだ不十分であることは言うまでもない。また、自分が書いたことを相手に伝えるために、進んで発言しようとする子は驚くほど少ない。これらの実態に基づいて、事前にアンケートを実施し、子どもたちの変容をより詳しく検証したいと思う。

(2) 本単元で目指す子ども像

5年「大造じいさんとガン」の学習を通して、以下の3点を旨す。

- ①自分の考えをしっかりと持ち、より意欲的に考えることができる子ども。
- ②自分の考えを表現する喜びを味わうことができる子ども。
- ④伝え合う活動を通して、よりよい考えや、表現の仕方はないかなど、考えを練り上げていく楽しさを感じられる子ども。

(3) 具体的な支援の手立て

1) エンカウターの実践

子どもたち同士がより抵抗なく、自分の考えを表現するために、「話す・聞く」をテーマに、エンカウターを実践した。色々な「聞く態度」を子どもたちに直接体験させた。

・私の話を聞いて：2人組を作り、Aは夏休みに楽しかった思い出を話し、Bは態度と言葉で拒否的にそれを聞き、2分間で交代して互いにどういう態度や言葉が嫌だったのかを話す。反対にその体験を生かして、話し手が気持ちよく話せる聞き方で交流を行う。

・「一組 聞き方七か条」の作成：進んで発表したいと思う気持ちになるには、聞き手の態度が大きく影響するとい子どもたちの意見をもとに、クラスみんなで「聞き方」のルールを作成した。

2) ワークシートの活用

学習内容が把握しやすく、子どもたちの思考が、より円滑にまとめあげられるものを用意した。噴き出しなどを用いて、登場人物の気持ちや場面の読み取りに活用した。

3) 子どもたちが学習課題を設定

場面ごとの学習課題を子どもたち自らが考え、それをみんなで解決をする手だてをとった。自分で考えた課題が直接学習のめあてとなるように取り組んだ。

(4) 本教材の学習の流れ(9時間完了)

- ①単元全体の流れを知る。全文を通読し、初発の感想を発表し合う。分からない語句を

調べる。

- ②第一・二場面の学習課題を見つけて短冊に書く。
- ③第三・四場面の学習課題を見つけて短冊に書く。
- ④自分たちで考えた第一場面の大造じいさんの心情を読み取る。
- ⑤課題をみんなで解決しながら、第二場面の大造じいさんの心情を読み取り、情景描写を味わう。
- ⑥⑦第三場面の大造じいさんと残雪の心情を読み取り、それぞれの心情を考えながら役を決め、音読を工夫して発表する。(本時7/9)
- ⑧自分たちで考えた第四場面の大造じいさんの心情を読み取る。
- ⑨一番心に残った場面を書き、他のクラスと交流する。

(5) 本時の学習

・ ・ 本時の学習 学習形態： 個 - 個別 ペ - ペア グ - グループ

段	学 習 活 動	師 の 支 援 と 留 意 点	評 価 (評 価 方 法)
つ か む 8	1 前時の学習内容を、 分が書いたワークシ ートで確認する。 <input checked="" type="checkbox"/> 斉 2 本時の学習内容をつ かむ。 <input checked="" type="checkbox"/> 斉	○第三場面の課題と、みんなで解決して きた内容を確認するように促す。 めあてを確認するとともに、本時の 学習の流れを説明する。	○本時の学習内 容をつかみ、 意欲をもつこ とができたか。 (態度・姿勢)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 第三場面を読み取って、大造じいさんと残雪の 心情を想像して音読発表しよう。 </div>		
と り く む 33	3 第三場面の後半をペ アで音読する。 <input type="checkbox"/> ペ 4 大造じいさんと残雪 が無言で向き合う場 面の写真に、噴き出し を付けたワークシ ートに二人の会話を 想像して書く。 <input checked="" type="checkbox"/> 個 5 自分で考えた意見を	○残雪と大造じいさんの心情を読み取る ための手がかりになる部分を見つけ 線を引きながら音読をするよう指示 する。 ○第三場面の大造じいさんと残雪の読み 取りを軸に、根拠を示しながらワーク シートに自分の考えをまとめるよう指 示する。 ○二人の心情を考えて、会話を想像して 書くよう促す。 ○自分の意見をグループで伝え、二人の	○大造じいさん と残雪の心情 を読み取るこ とができたか。 (ワークシート)

	グループで伝え合う。 ㊦【伝え合う力】	心情をより適切な言葉で、表現するよう促す。	
	6 グループでまとめたことを発表する。㊦	○大造じいさんと残雪の役を決め、心情が伝わりやすいように音読発表するよう指示する。	
まとめる 4	7 自分の考えをまとめる。	○発表を聞いて、再度自分の意見と比較して考えをまとめるよう促す。	

(6) 成果と変容

1) エンカウターの実践

伝え合う喜びを味わわせるためには、子どもたちが「進んで自分の意見が言えた」という体験をさせることが重要であると考えた。本単元に入る準備として「聞く側の姿勢」に着目してエンカウターの実践を行ったことで、より積極的に自分の意見を伝えたいと思う児童が増えた。

また、この実践をもとに、クラスで「聞き方のルール」を子どもたちが考えて作り、教室に掲示した(図16)。全員が聞き方に対する共通理解を持ち、互いに実践し合うことで自分の意見を表現する安心感が生まれた。このことにより、さらに自信を持って発表し合う姿が多く見受けられた。

第七條	第六條	第五條	第四條	第三條	第二條	第一條	最強一組 聞き方七か條
感想を加えるべし	よい姿勢で聞くべし	繰り返し返すべし	「なるほど」	「そうだなあ〜」	他事をせずに聞くべし	相づちを打つべし 目を見て聞くべし	

図16 児童が考えた聞き方のルール
(教室に掲示)

2) ワークシートの活用

場面ごとに読み取りをした内容が分かりやすく、今日は何の課題を解決していくのかを明確にしたものを用意した。単元全体を把握しやすくなり、前時にまとめたワークシートを読み返して、本時の学習へと繋げて考える児童も多くいた。また、大造じいさんや残雪の絵や噴出しを載せることで、より深くそれぞれの心情を考えることができた。

3) 子どもたちが学習課題を設定

いつもは、こちらが提示した学習課題に対して読み取っていくという形をとっているが、今回の読み取りでは、子どもたち自ら学習課題を考え、考えた課題をみんなで解決していくという方法を用いた。「この場面ではなにが重要なのか」「どの言葉の心情を考えるか」など、課題にしたいものを個人でいくつか考え、それらをグループで伝え合い、3つまでに絞った。必ず根拠となる文章を示し、自分の言葉で理由を説明しながら意見を練り上げた。自分の考えには根拠が明確にあるので、自信を持って発表していた。出た課題はすべて黒板に掲示した。(図17)



図17 児童が考えた課題



図18 グループ学習の様子

自信を持って全体に発表しているせいか、他のグループから出た課題を見る様子も、真剣そのものであった。ワークシートに書く量も増え、普段なかなか発表できない子も進んで挙手をするようになった。意見を練り上げていく学習の姿は、全体交流の場でもその様子が見られた。(図18)

第二時と第三時に学習課題を見つけて短冊に書く活動を行った。第四場面までの子どもたちが考えた課題は下の通りである。

<第一場面>

課題1 大造じいさんは、なぜ、「今度は、なんだかうまくいきそうな気がした」のだろう

課題2 「しめたぞ」と言ったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。

課題3 「ううむ」と言ったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。

<第二場面>

課題1 なぜ、会心のえみをもらしたのか。また、どんな気持ちなのかを考えよう。

課題2 ほおがびりびりするほど引きしまるとは、どのような状態なのかを考えよう。

課題3 「ううん」と言ったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。

<第三場面>

課題1 大造じいさんは、なぜ「うまくいくぞ」と思ったのかを考えよう。

課題2 大造じいさんは、なぜ「再びじゅうを下ろした」のかを考えよう。

課題3 大造じいさんは、なぜ「強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった」のかを考えよう。

<第四場面>

課題1 「じいさんは、おりのふたをいっぱいにかけてやりました。」このときの

大造じいさんの気持ちを考えよう。

課題2 「ガンの英雄よ」と言ったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。

課題3 「いつまでも、いつまでも、見守っていた」ときの大造じいさんの気持ちを考えよう。

4) アンケートでの変容

事前のアンケート結果では、国語に対しての苦手意識を持つ児童がクラスの約半数をていた。その理由の一つには、自分の考えを持つことができても、発表することが苦手であるというものであった。アンケートには、記述式も用意し、児童がどのように感じているのかを把握しやすいようにした。

アンケート (事前10月下旬→事後12月上旬)

- 1 国語は好きですか? (嫌いが、14人→3人)
- 2 自分の考えを伝えることは楽しいですか? (いいえが、10人→2人へ)
- 3 進んで挙手ができるようになりましたか? (いいえが、16人→1人へ)
- 4 なぜ挙手しようと思ったのですか? (事後)
 - ・自分の意見が言いたくなくなった。自分の意見に自信が持てた。
 - ・自分の意見に対して、友達がどう思っているかがわかるから。
 - ・みんなが反応してくれるから安心して発表できる。
 - ・伝えるのって楽しいなと思うから。
- 5 グループの話し合いでは、おたがいの意見をよく聞いて、よりよい答えを導き出すことができますか? (できないが8人→1人へ)
- 6 自分たちで課題を見つけて、みんなで解決をしていきました。感想を聞かせてください。(事後)
 - ・みんなで課題を解決するのが楽しかった。
 - ・グループ全員の意見がしっかり聞けた。納得いく意見がたくさんでてよかった。
 - ・解決をする時、たくさん意見が出てよかった。

アンケート4の記述では、「自分の意見を伝えるのが楽しいから」という答えが多かった。「みんなが聞いてくれる」という環境は、児童一人一人が考えようとする意欲を高め、「伝えたい」という意思が強くなることを感じた。また、グループで意見を練り上げる楽しさも体験できたように思う。全員が発表者になるという意識を持って交流し、必ず根拠を添えながら発表している様子は、みんなで解決をしていこうと意欲的に取り組んでいるように感じた。自分の考えを伝える楽しさを体験したことは、事後のアンケート結果から見ても、進んで表現しようとする子が増えたことに大きく影響していると感じる。

単元の最後に、自分が一番心に残った場面を、根拠を添えて他のクラスと伝え合う活動を行った。同じ場面を選んで、感じ方や根拠が異なるなど、多様な意見の交流ができた。

☆ 交流をした感想を書こう。

自分と同じ場面を選んでいる人もいたけど、考え方とこんぎ
がちがっていたので「なるほど」と思うことがいっぱいありました。
ちがう場面を選んでいたら、絵が想像で書いてあり、
残雪の勢かんさで伝わってくる文が、強くアツクりました。
自分の良い所をたくさん書いてもらって、「自分のこういう所が
良いんだ」とおわかりました。

図19 交流した児童の感想

自分にはない表現の仕方を知り、児童にとっては大きな刺激だったと考える。自分の考えを伝えることを苦手とする子が、他のクラスの子にまで、自信を持って伝えることができたのは、伝える喜びを実感できたという成果ではないかと考える（図19）。

7) 考察

子どもたちが伝え合う喜びを感じながら学習するために、「聞く姿勢」に着目しながら実践をしてきたため、「自分の意見を聞いてくれる」という環境は整いつつある。伝えようとする児童は増えつつあるが、「ただ意見を伝える」ととどまる子も少なくない。伝える楽しさを実感した今回の実践を生かして、互いの意見から、さらに良い考えへと練り上げていこうとする力が必要である。そのためには、場に応じた適切な交流の形。すなわち、何をめあてに交流するのかを明確にして、それに適した形を提供していかなくてはならないと実感した。今後も児童の学習意欲が増し、自分の考えを伝えたいと強く思い、さらに喜びを感じられるようなしかけを考えて積極的に実践していきたい。

実践5 文型の指導を通して 小学校5年「海の命」

(1) 子どもの実態

本学級は男子16名女子13名で構成されており、学習に生活にメリハリをつけることができる子どもが多い。今まで国語の読み取りに力を入れてきた結果、一言一句に注目できる子どもが多くなってきた。そして文型をもとに自分の意見をノートに書き、それを参考にして発言している。しかし、発言する人数がまだ少ないということ、また一言一句に注目しても根拠と解釈が乖離していることも少なくない。

(2) 本単元で目指す子ども像

6年「海の命」の指導を通して、子どもの実態と教材の特性から、目指す子ども像を次のように設定した。

- ①文学作品を読むときに、「色」「語り手の視点」に注目して読み、伝え合うことができる子ども
- ②一言一句に注目し、それをもとに妥当な解釈をして、伝え合うことができる子ども
- ③話型や文型に注目し、それらをもとに話し合うことで読解を深め合うことができる子ども

(3) 教材について

「海の命」は、物語中の色彩から主題を考えることができる。

物語中には「銀のあぶく」「青い海」など色彩が豊かである。そして無駄な色はなく、そのすべてが物語中に何らかの役割を果たしている。その色彩は、主に太一の心情を表していると考えられる。それらを丹念に読み取っていくことで、主題に迫ることができる。

まずは、登場人物の人物像をとらえさせ、それらが太一の心情にどのような影響を与えたか考えさせる。その上で、色とその役割を考えさせ、主題に迫らせたい。

(4) 具体的な支援の手立て

1) 自分の意見の持たせ方

自分の意見をノートに書くことにより、自分の意見をはっきりさせる。これにより迷っている子も自分の立場を明確にできる。また書くという作業を通して思考を整理することもできる。さらに、ノートは子どもたちの成長の記録ともなる。

2) 話し合いの場の工夫

近くの人との意見交流や全体交流の場を意図的に多く取り入れている。これにより、書いた意見を交流したり、より深めたりすることができる。また、相談しながら考えることで、アイスブレイキングの役割を果たし意見を言いやすくなる。こうすることで、全体の発言回数も増え、読みを深めることができるだろう。

3) 話型や文型の工夫

「意見を言っていない人は言ってください」「違う意見の人は反論してください」などの司会的発言の話型を取り入れている。学校全体で取り組んでいる「話し方名人」という話型集はあるが、それらは自然に使えるようになってきた。その次の段階として、話し合いをコントロールするような話型を提示した。この司会的発言の話型を活用することで、議論を焦点化したり全員を参加させたりすることができる。また、授業のまとめをするときに書く文章にも、文型を取り入れている。例えば「太が一番長く見ていた色は～である。そして、それが象徴することは必ず～である。なぜならば～。このことから～ということがわかる。」といった文型である。こうして思考の型を示すことで、意見をまとめやすくなる。また本時の学習活動の成果を文字に表しやすくなる。そして、やはり書くことで思考を整理できるだろう。

4) フィードバックの工夫

本時の学習のまとめのときに書いた文章を、できる限り子どもたちに紹介する。解釈が優れている文、着眼点が鋭い文、理路整然とした文など、子どもたちが真似したくなるような文や学習目標を達成しているものを基準としている。これによって子どもたちの励ましとなり、学習意欲の持続にもつながる。何よりも文章を読み合っって学び合うことができる。そして自分の文章作成能力の向上につながる。

(5) 実践の内容

1) 本教材の学習の流れ

- ①音読をして、わからない語句を調べる。
- ②父はどんな漁師だったか説明する。
- ③与吉じいさの考え方はどのようなものだったか説明する。
- ④太一はどんな漁師になったのか説明する。
- ⑤太一の心に一番強く残った色とその象徴することを考える。
- ⑥太一は、なぜ瀬の主を殺さなかったのか説明する。(本時)
- ⑦主題を考える。

2) 本時の流れ

本時のめあて

第五場面で太一は、なぜ瀬の主を殺さなかったのか考え、説明する。

1 自分の考えをノートに書く。

2 全体で話し合う。

○注目させる言葉

- ・「ほほえみ、」→この読点があることで、ほほえんだ後口からあぶくを出したことがわかる。
- ・「もう一度えがおを作った。」→あぶくを出した後から、ここまで何をしていたのか考えさせる。
- ・「ふっと」→「ふっと」ということは、一瞬またはほほえんだかどうかかわからないくらいのほほえみ。
- ・「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」の違いは何か
→前者は父を超えること。後者は村で一番魚を取るのが上手な漁師のこと。
- ・(前時の内容から)「銀のあぶく」にある「銀」とはどういうことか。
→銀が表す象徴。前時の段階では希望や目標というものが出されていた。

3 文型をもとに自分の考えをまとめる。

「太一が瀬の主を殺さなかったのは、～。もし、殺してしまっていたら、～ということになってしまう。これは物語がおかしくなる。なぜならば、～。したがって、この物語全体を考えると、殺さないほうがいいのである。」

4 教師の解釈を聞く。

自分の意見が不安な子どもも、教師の解釈を聞くことで安心できる。また、思いもよらなかった解釈を聞くことで、解釈の仕方の一つを知ることができる。これも読みの力の向上につながる。

(6) 成果と変容

4つの支援を意識して取り組んできた結果、ほぼ全員が意見を持ち、その根拠も明確に

して説明できるようになった。また妥当な解釈を持つ子どもが多く、そうでない子どもは全体の交流で意見を考え直していた。また「書く」の活用によって、理路整然とした文章を書くように意識してきたようである。

1) その変容がわかるA(女子)のノート

Aは国語に対して苦手意識が強く、読解能力や文章作成能力も低位である。

「カレーライス」の読解で、「中心人物は誰か」という課題に対する意見である。

中心人物はひろしである。なぜならば、教科書でひろしの気持ちが最も多く、気持ちが出ているから。

これは4月26日のノートである。このときに提示した文型は、「中心人物は～である。なぜならば、～」というものであった。Aの意見は確かに文型に沿っているものの、漠然としていて、前後のつながりもなく、意見と根拠のつながりもはっきりとわからない。

次に、「柿山伏について」のまとめで、「筆者の主張を考え、題は本当にこれでよいか」という課題に対する意見である。このとき、Aは筆者の主張は「現代と事情はちがうが、いつの時代のことであらず狂言」と要約していた。

私は「○」だと考える。理由は四つある。

一つ目は、柿山伏で、筆者が伝えたいことは、狂言はいつの時代にでも受けつがれていると私は考えて、柿山伏もそうだと思うから。

二つ目は、柿山伏は誰にでもあることを描いていたから。

三つ目は、狂言はいつの時代にも残るし、要約文では、狂言を筆者は説明しようとしていると考えたから。

四つ目は、柿山伏は、狂言で、十人に一人とかの事件じゃないけれども、事情がちがう、食べ物のないときの話を描いているからである。

したがって、題名と結論の整合性は「○」であると考えられるのである。

これは6月30日のノートである。このときに提示した文型は、「私は『～』だと考える。理由は○つある。一つ目は～・・・。したがって題名と結論の整合性は『～』である」というものである。「～」の部分は○、△、×のいずれかを入れること、「理由は～つ」ということは理由が3つ以上あるときに使うと教えてあった。

当時のAのノートは、文型により意見を長く書けることはできていた。また、説明文の内容や筆者の意図にも言及することができていた。しかし、わかりにくい箇所が散在していて、Aの意図は汲み取れるものの、主語や修飾語が不明確で全体として読みにくい。

そして本実践終了時のノートである。

太一が瀬の主を殺さなかった理由は「殺さなかった。」ではなく「殺せなかった。」からである。根拠はp 200の7行目～8行目に「こんな感情になったのははじめてだ。」

とあり、魚を殺せないと思うような感情になり、また、「太一は泣きそうになった。」とあり、一人前になるには、瀬の主をころさなければいけなかった。だから、泣きそうになった。そして、無理矢理思いこんで殺さずに済ませた。

もし殺してしまっていたら、太一は海の命ということを知れずに終わってしまう。また、殺してしまっていたら、この話の続きがなくなるかもしれないということになる。だから、殺してしまったら海の命について何も分からないまま終わってしまう。それに、ストーリーが途中で終わってしまうことになる。

これは、物語全体を考えるとおかしくなる。だから、太一は瀬の主を殺さないで良かったのである。

これは 12 月 6 日のノートである。一部、漢字などの細かいミスがあるものの、読みやすい文となっている。また、接続詞も効果的に使っている。読解の点でも、色彩イメージという点を考えていないため、浅い思考の感じは受ける。しかし、わずかな語句や文章に注目し妥当な解釈をしている。そして、作品全体に関わる批評もしている。

2) アンケートの結果

また、本実践を通して「発言回数が増えた」と回答した子が 75 %、「作文力がついた」と回答した子が 75 %だった。これは意図的に教師が仕組んだ手立てであったが、子どもたちも自覚しているようだった。また、これらのことを自覚したのか、「国語の授業が好きになった」と回答した子が、9 人増えた。前回のときは 2 人だったので、成果といえるだろう。

国語が好きになった (4 が最高)

4	3	2	1
11人	8人	9人	1人

発言回数が増えた (4 が最高)

4	3	2	1
6人	15人	6人	2人

作文力がついた (4 が最高)

4	3	2	1
13人	14人	2人	0人

(7) 考察

意見を言いつばなしで終わる子どもの数は減り、つなげる意識が生まれた。私自身意識していなかったが、発言回数を増やすことで、子どもたちは自然にそういう意識を持ったようである。また、作文の指導によって論理的に書こうとする意識を持つだけでなく、文章を書いて自分の考えを表現することが、自然のことだと思えたという子どももいた。

このことから、文型を活用して意見を考えたりまとめたりすることを継続的に指導していくことで、書く力はもちろん、話す・聞く力の向上にもつながり、活気のある授業となっていく。

この実践を通して、文型を活用することの利点を3つまとめる。

1つ目は、自分の思考を整理でき、話型も身につくということである。話し合うことは大事である。それによって、意見はどんどん深まっていく。しかし、自分の意見を整理できていなければ、その効果は低くなる。自分で自分の考えをうまく伝えられないからである。話し合う前に、そして話し合った後に、自分の考えを整理しなければならない。そのための文型である。これを活用することで、自分の意見とそう考えた本文が明確になる。本文を根拠にしているから、話し合いも深まる。また、話し合いを深めるためには、話型も必要であるが、これは文型を指導していれば身についていくものだということがわかった。事実、私は司会的発言の話型しか指導していない。そうであるにも関わらず、曖昧な根拠に対して質問したり、意見は同じだが根拠が違うといった発言が続出した。これは意見を整理できていたからこそできたことだと考えている。

2つ目は意見の交流が容易になるということである。それは話し合いの場での音声情報によることは前述の通りである。自分の意見がノートに整理されて文字情報として記録されているので、「周囲の人とノートを見せ合いっこして」などとグループ活動の指示を出すと、意見の交流が効率的かつ容易である。そして自分の意見の変遷、成長もわかりやすい。

以上2点は、主に学び合いの観点からの利点である。

3つ目は、国語科の教科の評価観点である書く力の向上である。文型をもとに書くと、分量は多くなる。量が多くなれば前後関係をより慎重に推敲しなければならないし、何より書くということへの抵抗感が低くなる。また、スピードも上がる。そしてこの活動を繰り返していくことで、文の書き方も上達していく。これは紹介したAのノートからもうかがえる。

このように、文型を活用して授業を構成することで様々な力をつけることができる。

しかし、アンケートの結果から、大半の子どもが作文力や授業意欲が向上したことを自覚しているものの、国語を好きと感じていないようである。国語そのものに対して根強い嫌悪感があるように思われる。「できることが楽しい」「考えることが楽しい」と思えるように、授業を考え、改善していきたい。

実践6 聴く指導を通して 中学校2年「古典に親しむ一扇の的」

(1) 生徒の実態

本学年の生徒には前向きな生徒が多く、その姿は国語の授業においても見られる。ただただしくても音読を精一杯取り組もうとか、ヒントになる言葉だけでも文章から探し出して自分なりの意見は持ちたいというような姿がある。

しかし、意見の発表となると様子が一変してしまう。ペアやグループでの発表の場であ

れば、どの生徒も自分の意見を発表することができているにもかかわらず、全体の場となると、男女を問わず積極的に発言しようとする者もいれば、挙手することすらためらってしまい、なかなか発表ができない者もいる。そのように、話すことに対しては形態に左右されがちであるが、聴くことに対しては形態にかかわらず、どのような意見であっても耳を傾け、受け入れようとする姿がある。ただ、意見交流のようすを見ていると、多くは自分の意見を発表するだけで満足してしまい、他者の意見と自分の意見とを比べたり、関連づけたりするなどという活動にまで至っていない。

(2) 本単元で目指す生徒像

- ①描写や表現に注目し、描かれた情景や作者の思いを捉えることができる生徒
- ②自分の思いや考えを書き、他者に伝えることができる生徒
- ③他者との交流を通して、自分の考えを深め、表現できる生徒

(3) 具体的な支援の手だて

1) 自分の思いや考えをまとめる時間の確保

他者の意見を聴き、思考を深めていくためには、自分の考えをもっていることが肝心である。そのために、考えをまとめるための時間を十分に取、ノートに書き出させることで生徒自身が考えを整理でき、意見交流にもスムーズに移ることができる。

2) 相互指名の実施

意見発表の場面において、教師の意図する方向へ授業を展開するには教師による指名で進めるほうがよりスムーズに授業が展開できるかもしれない。しかし、そうすると指名される生徒に偏りが出てしまったり、自信のない生徒の発言の機会を奪ってしまうこともある。そのため、生徒間での意見交流を取り入れることにより、生徒同士で意見を聴いてみたいと思う相手から意見を聴くことができたり、意見をつなげていくことができるのではないかと考える。

3) 話型の意識

意見交流や発表の場面を見ると、どうしても生徒は自分の意見を言っただけの状態になってしまうことが多い。そのため、意見や思考の深まりが無いように思われる。そこで、話型を意識させることで自分の考えを明確に伝えるだけでなく、他者の意見を聴くことで自分の考えをより深めることができるのではないかと考える。

4) 聴く姿勢

話し手に対して体を向けるなどという基本的なことを含め、他の生徒の意見に耳を傾けることを意識させる。そうすることでさまざまな意見や考え方に触れ、自身と他者の意見を比較したり、類似点や相違点を整理したりできる。

(4) 本教材の流れ

次	時	学習活動
---	---	------

1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」に描かれた時代背景など基礎知識を確認する ・文体の特徴を理解する ・リズムや歴史的仮名遣いなどに注意して冒頭文を音読する
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・あらすじをつかむ ・「扇的」を通して読み、描かれた状況を把握する ・文体の特徴に注意して音読する
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「年五十ばかりなる男」が射殺される前後の登場人物の心情を読み取る ・「情けなし」はだれがどのような思いで言った言葉かを考え、説明する ・平家物語にはさまざまな人間の視点があることを知る。

(5) 本時の流れ

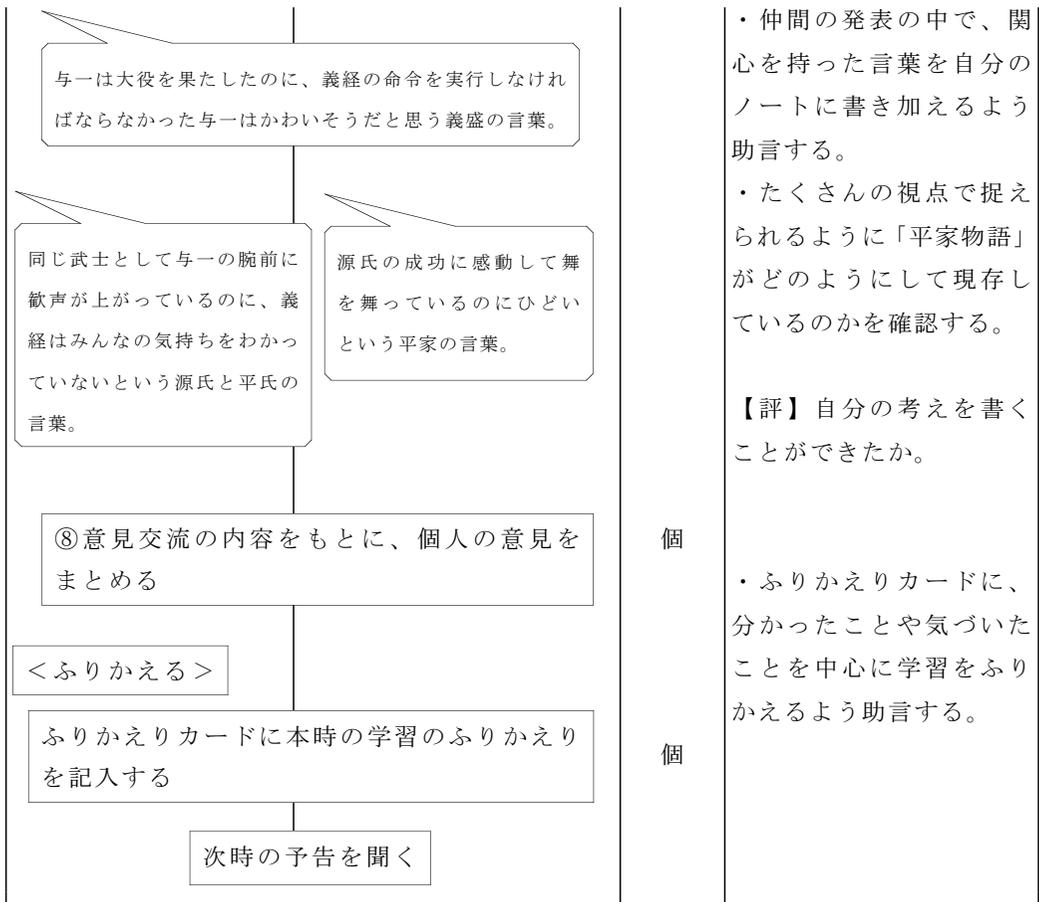
本時の学習過程

学習課題

学習活動・内容

手だて

生徒の活動・反応	形態	教師の支援・評価
<p><みつける></p> <p>①「読みまっしょ」を行う</p> <p>②本時の学習内容・流れを知る</p> <p>「情けなし」と言ったのはだれか説明しよう</p> <p>③与一が扇を射切った後の場面を音読する</p> <p>④与一が置かれた状況を確認する</p> <p>⑤「あ、射たり」とは誰がどのような心情から発した言葉なのかを考える</p> <p>⑥「情けなし」とは誰がどのような心情から発した言葉なのかを考える</p> <p>⑦個人の考えを交流する</p>	<p>個</p> <p>ペア</p> <p>個</p> <p>全体</p> <p>個</p> <p>↓</p> <p>班</p> <p>↓</p> <p>全体</p>	<p>・「平家物語」冒頭文を文体の特徴や歴史的仮名遣いに注意して読むよう助言する。</p> <p>・歴史的仮名遣いを確認しながら読むよう助言する。</p> <p>・前時までに学習した内容をふりかえりながら情景をイメージできるよう、板書で図示する。</p> <p>・次の学習活動につなげられるよう、対照的な言葉を発したのは誰かを確認する。</p> <p>【評】情景を踏まえて、心情を考えることができたか。</p> <p>【評】周りの生徒と協力し、積極的な意見交流をすることができたか。</p>



(6) 成果と変容



図20 グループの様子

本時の学習活動⑥に入る前に、場面の状況を黒板に図示しながら把握させることで活動にスムーズに移れるようにした。そのうえで学習活動⑥では個で考える時間を確保し（支援 1）、短い言葉でもよいから自分の考えを書き出すように伝えた。短い言葉では「平氏」「源氏の言葉」「ひどい」というものもあったが、9割程度の生徒が自分の考えをノートに書き出すことができた（図 20）。

意見交流の場面では、短い言葉の意見を書いた生徒から発表をはじめ、発表の際には話し手・聴き手の両方に型を意識させた（支援 3、4）。短い言葉での表現からはじめたこともあり、つけたしや別の意見などが多く出された。本時のなかでは「義経はひどい」「平氏の言葉」などという鍵となる言葉を結びつけて「義経はひどい命令をしたものだと思う平氏の言葉」という程度にまでまとめることができた。アンケートからは 6割程度の生徒が話し方を意識した、リアクションをしながら聴くこと

ができた」と答えた。

また、積極的に相互指名（支援3）を取り入れ、生徒同士で考えを深めたり、疑問点を解決したりするように心がけた（図21）。1回目のアンケートでは半数の生徒が戸惑い感じていたようだが、2回目に実施したアンケートでは8割の生徒が自分の考えを深められたと答えており、生徒の様子にも戸惑いや指名される生徒の偏りも見られなくなった。これはもちろん、相互指名だけではなく自分の意見が認められるとい



図21 意見交流の場面

う安心感を感じられる雰囲気がつくられていることもある。

（7）考察

生徒はこれまで「聴く」ということを重点的に取り組んできた。一年時からの積み重ねもあり、聴くことについてはおおむね出来ている。生徒にもその意識があるようで、話し手を見て聴くことができた、リアクションの仕方が改善することができたという意見が多かった。しかし、ただ単に意見を聴くという段階にとどまっていることがあり、仲間の意見を筋道立てて聴いたり、関連づけながら聴いたりする段階までに至っていない生徒が多いように思われる。実践を重ねるなかで、少しずつ意見をつなげようとする姿勢が見られるものの、提示する課題の工夫や聴く活動を継続的に取り組む必要がある。

「話す」活動も同様である。これまで意見を言うだけで満足という経験が多かったため、いかに聴き手を意識して分かりやすく伝えるかという意識が薄かった。そのため「～と思います。いいですか」で終わってしまっている。しかし、生徒自身は他者の意見に賛成・反対・補足することが以前よりできるようになったと認識している生徒が多い。確かに意見をつなごうとする姿勢は以前より見られるものの、未だに一部の生徒が他の生徒が提示した意見に補足して、考えを練り上げるという段階にとどまっている。一人でも多くの生徒が自分の考えを深め、練り上げていけるようにしなければならない。

また、小中連携が叫ばれる昨今、その必要性を感じるが多々ある。たとえば漢字の音訓や読み書き、文法、原稿用紙の使い方などの基礎知識が不足しているように思われる。授業のなかでは教科書を読むときに躓いてしまう生徒や一つの話題で話を膨らませて書くことのできない生徒の姿がある。小学校ではどのような学習が進められているのか、それを踏まえた上で中学校の学習をつなげられるよう指導にあたらなければならない。

実践7 課題設定、課題の与え方を通して 中学校2年「古典に親しむ」

（1）生徒の実態

教卓から見える生徒の顔を思い浮かべてみる。生徒が活動に夢中になり、目を輝かせて取り組む様子と、気が乗らずだらだらと過ごしている様子が思い出される。どちらも同じ

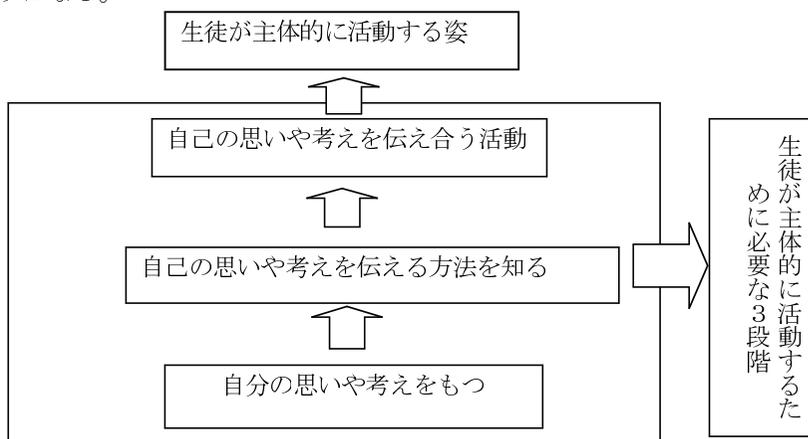
生徒であるが、一体何が違うのだろうか。その違いは、授業の主体が誰であるのかにあると感じる。生徒が主体となり、授業が展開していく場合は、生徒が生き生きと活動に取り組む姿が目に見え、教師主体となり、教師が喋り続けてしまった授業は、教師自身には満足感が残っても、生徒がどのような顔でいたのかさえ思い出せない。以上のことから、生徒が主体となる活動を取り入れることで、生き生きとした生徒の活動に繋がると言えるのではないだろうか。では、生徒が主体となる活動とはどのような活動であろうか。それは、生徒が自身の思いや考えを自分の言葉で伝え合う活動であると考えている。生徒が感じた思いや考えを他者に伝えるだけでなく、お互いに伝え合い、思いや考えを深めていく活動を授業に取り入れることが、生徒主体の授業を展開する一つの方法ではないだろうか。そこで、本レポートでは、生徒が自身の思いや考えを自分の言葉で伝え合う活動をどのように取り入れ、生徒主体の授業を創ることができるか検討していきたい。

（２）本単元で目指す生徒像

- ① 課題解決に向けて、話し合いや発表に意欲的に取り組む生徒
- ② どんな小さな点でも、疑問や発見を恥ずかしがらずに他の生徒に表現できる生徒

（３）具体的な支援の手立て

先に、生徒が主体的に活動する姿を実現するためには、生徒が自身の思いや考えを自分の言葉で伝え合う活動を取り入れることが必要であると述べた。しかし、生徒が自身の思いや考えを自分の言葉で伝え合うためには、伝え合う方法を知っていなければならない。また、伝え合う方法を知っていても、そこに伝えたいと感じる思いや考えがなければ意味がない。つまり、伝えたい思いや考えを持っていることが前提となる。以上のことをまとめると次のようになる。



本レポートでは、前ページの図にある「生徒が主体的に活動するために必要な3段階」の内、「自己の思いや考えをもつ」段階に注目し、実践例を述べながら、以下検討を行う。

(4) 実践例

「自己の思いや考えをもつ」ための工夫

自己の思いや考えをもつためには、課題解決に対しての積極性をもたなければならない。与えられた課題に対して「分きたい」「解決したい」という思いをもつことができれば、自分はその課題に対してどう思うのかという思いや考えをもちやすいのではないかと考える。では、課題に対して「分きたい」「解決したい」という思いをもつためにはどのような工夫が考えられるだろうか。本レポートでは、課題設定や課題の与え方の工夫を提案、検討したい。

1) 単元設定理由

本単元は、時代を越えて生きてきた古典に関心と親しみを持ち、読み味わうことで我が国の文化や伝統についてより一層関心を深めるようにすることにねらいがある。また、インターネットやテレビなどが普及し、携帯小説などの新しいジャンルの文学作品が生まれる中、失われずに続く古典文学の価値に気づかせ、古典文学は古い時代の作品であるということだけではなく、現代に続く普遍性をもつことを、本単元を通して感じさせたい。

本時では、「仁和寺にある法師」を題材に、内容理解を中心に学習を進める。兼好法師の思いが書かれた最後の一文を隠した状態で授業を行い、「仁和寺にある法師」の出来事を読み進める中で、兼好法師の伝えたい思いは何かについて迫りたい。導入では、興味を引き出すためにマンガを用いる。「実は石清水八幡宮に参拝していなかった」という事実を導入で知り、なぜこの勘違いが起きてしまったのかについて、本文中から理由を示しながら兼好法師の思いに迫る。また、本文の内容理解を通して、兼好法師の思いが現代にも通じるということを知り、古典と今に生きる私たちの共通点を感じさせたい。本クラスは、男子 16 名、女子 15 名のクラスである。活発な生徒が多く、グループ活動にも積極的に参加ができる。しかし、全体で挙手をする生徒は固定されており、教師と発言する生徒だけで授業が進んでしまう場合が多々ある。本時では、生徒が主体となり、本校の現職教育のテーマである「自分の思いや考えを表現できる生徒の育成」が実現できるように、グループ活動だけではなく、全体発表の場での発表の仕方を工夫していきたい。具体的には、意見発表の際に、教師と発表生徒の一对一での発表ではなく、発表した意見に対して次の意見を順に述べていくようにし、生徒同士で意見を繋ぎ合わせながら考えを深めていきたい。また、理解が遅い生徒、国語が苦手だと感じる生徒に対しても、導入の取り組みやグループでなくても隣同士、前後での話し合いを随時取り入れることで、「分かる」「おもしろい」という気持ちを感じさせ、今日の授業ではこんな取り組みをしたという実感をもたせたい。

2) 単元計画

教材	授業の流れ	目指す生徒像
「枕草子」 2時間完了	○古典の音の響きを感じよう ①一年次の復習、音読の確認 ②音読の練習	歴史的仮名遣いをすらすらと読むことができる。
「扇の的」 5時間完了	○読み方を工夫し、古典の文章の特徴を知ろう ①平家物語の基礎知識	文章の特徴に合わせて、読み方が

	②あらすじ、音読の確認 ③群読のシナリオ作り ④練習 ⑤発表	工夫できる。 班員と協力して、積極的に考えを表現することができる。
「仁和寺にある法師」 3時間完了 (本時3/3)	○内容を理解し、筆者の考えに迫ろう ①徒然草の基礎知識、冒頭文 ②仁和寺にある法師、音読、現代語訳確認 ③最後の一文を考え、本文を完成させよう本時)	冒頭文の暗唱ができる。本文の中から、根拠を示すことができる。
「漢詩の風景」 2時間完了	○漢詩の世界に触れよう ①漢詩の基礎知識、リズムを感じる ②漢詩の情景、心情を読み取る	漢詩の基礎知識を理解できる。漢詩のリズムを感じることができる。

4) 本時の指導

ア. 目標

- ①他者の意見と比較しながら、自分の考えを積極的に発言することができるようにする。
- ②本文から原因を探し、理由を述べることができるようにする。
- ③筆者の見方、考え方を理解し、身近に考えることができるようにする。

イ. 基礎・基本

○学ぶ意欲	・グループの話し合いに積極的に参加することができる。 ・自分の意見や考えを、進んで表現しようとする。
○技能・表現	・本文にある根拠を見つけることができる。
○知識・理解	・古典における先人の考えを理解することができる。

5) 準備

教師 マンガ7コマ(画用紙7枚)、吹き出しカード(1人1枚)、マンガのプリント(1人1枚)、移動黒板

生徒 本文が書かれたプリント、ノート、振り返りカード

6) 学習過程

段階	生徒の活動	形態	教師の支援・留意点	評価
つかむ 10分	1 「仁和寺にある法師」の内容を確認する。 ・1コマずつ絵に合わせて法師の言葉を考え、マンガを完成させる。 ・周りとは相談し、入れる言葉の想像力を膨らませます。	一斉 グループ交流	・前時に学習した「仁和寺にある法師」の内容を把握しているかどうかを確認するために、マンガを使って、1コマずつ提示する。 ・古文の原文から想像できる法師の言葉を考えることで前時までに学習した内容を復習できるように工夫する。	○絵に合わせた言葉を考えることができるか。(発言・挙手) ○隣どうし、前後で積極的に相談しようとしているか。
	2 原文にない7コマ目をみてその吹き出しに入る言葉を考える。	全体交流	・吹き出しを書いたカードを一人一枚配付する。 ・吹き出しを利用し、仁和寺	

- ・仁和寺の法師の話を聞いていた別の法師の言葉を考え記入する。
- ・記入ができた生徒から、移動黒板に貼り、席に戻る。
- ・吹き出しの内容から考えて仁和寺の法師は念願だった石清水八幡宮に参拝できたかどうかを考える。

の法師の勘違いを、話を聞いていた法師の気持ちで表現することで、状況を捉えやすくする。

- ・自由な発想で意見が出るように、教室内誰と考えても良いことを伝え、交流活動が進むように配慮する。

【ポイント①】

- ・考えるヒントとして、石清水八幡宮の地図を示す。(山の上に本堂があると伝えない)
- ・仁和寺の法師は念願だった石清水八幡宮に参拝できたかどうかを考えるヒントとなる吹き出しをいくつか示す。

兼好法師が伝えたいことは何か考え、発表しよう。

- 3 本時の課題を知る。
- ・隠された本文の最後の一文に兼好法師の伝えたいことが書かれていることを知る。
- 4 「仁和寺の法師事件」を調査する。【ポイント②】
- ・「仁和寺の法師事件」の調査員になることを知る。
 - ・事件の原因を本文から探し出し、その理由をグループで考える。
 - ・マンガのコマに合わせて、原因と理由を発表する。

一斉

グループ

一斉

- ・本時の課題を掲示する。
- ・授業の見通しをもって活動に取り組めるように、課題解決に向けての本時の流れを示す。
- ・「仁和寺の法師がなぜ山の上に行かなかったのか」を問い、それを解決することが、最後の一文を考えることに繋がることを知らせる。
- ・活動に興味をもたせるために、今から「仁和寺の法師事件」を調査する調査員になるという工夫をする。
- ・調査員とは、事件の原因は何かを調べ、報告する仕事であることを確認する。
- ・言葉で説明する力をつける

○探し出した原因と理由を自分の言葉で説明することができるか。
○自分言葉で説明することができるか。
(発表)

と
り
く
む
15
分

			ため、グループで考えた意見を見せるだけではなく、自分の言葉で説明するように留意する。	
ふかめる	5 調査結果から、隠された最後の一文が何か予想をし発表する。	グループ交流	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な意見が出るように、隣同士、前後で相談して考えるように配慮する。 ・自己の意見だけ述べるのではなく、他の意見と比較しながら意見を述べるようにするために、発表の際は、必ず他者の意見に対しての考えを述べてから自己の意見を述べるように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に周りに相談しようとするか。 (話し合いの様子) ○意見をつなげながら、自己の意見を述べることができるか。 (発表)
20分	6 「仁和寺にある法師」の最後の一文が「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」であることを知る。 ・「先達」の意味をグループで予想し、具体例を示しながら発表する。 ・自分たちの身近における「先達」は何かを考える。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」の一文を掲示する。 ・実際に道を案内する人だけではなく、法師より以前に石清水八幡宮に参拝した経験をもつ人を指しても良いことを確認する。 ・生徒の予想から最後の一文の意味をまとめ、提示する。 	
ま	7 振り返りカードを記入する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに、本時のまとめをするように指示する。 	○本時を通しての感想を書くことができるか。
め	・本時の感想(分かったこと、疑問に思うこと)や自己の経験等をまとめる。			(振り返りカード)
5分				

7) 手立て

① ペアやグループを超えた教室内での相談活動【ポイント①】

「教室内誰とでも相談できる」という状況を作り、一番相談しやすい仲間とともに考えを深める。相談しやすい仲間であれば、気軽に相談でき、話し合いをする中で、自己の考えや思いをもちやすくする。

② 課題の与え方の工夫【ポイント②】

場面や役割を設定し、その場面や役割に自分を置くことで、課題に対しての積極性をもたせる。上記の実践例では、「仁和寺の法師」が山の上に登らなかったことを「事件」として捉え、「仁和寺の法師事件捜査本部」を教室に立ち上げ、生徒に「捜査員」という役割を与えた。捜査員として、事件の謎を解く中で、「仁和寺の法師」が山の上に登らなかった原因を本文の中から示すことができた。国語の授業の一つの作業として、課題に取り組むのではなく、課題の与え方を工夫し、積極的に課題解決に向けて取り組める状況を作り出す。

（５）成果と変容

１）ペアやグループを超えた教室内での相談活動（ポイント①）

話やすい人と相談ができることから、隣同士での相談、グループでの相談よりも活発に話している様子がみられた（図 22）。事後アンケートからも「自由に相談することをどのように感じましたか」という項目について、「相談がいつもより活発だった」と答えた生徒が全体の約 80 %で、事前アンケートで、「周りとは相談しない」と答えていた生徒のうち、約 90 %がいつもよりも話し合いができ、自己の思いや考えをもつことができたと答えている。



図22 「相談の様子」

２）課題の与え方の工夫（ポイント②）

教室に捜査本部を立ち上げ、捜査を開始することを伝えると、お互いの名前を「〇〇捜査員」と呼ぶなど、なりきって課題に取り組むことができ、積極的に課題に取り組む様子が伝わってきた。事後アンケートにおいて、役になりきって課題に取り組むという設定について、「今後もやってみたい」という生徒が全体の約 80 %、「役になりきることで積極的に課題に取り組めた」と答えた生徒も全体の約 70 %いた。課題の与え方次第で、取り組み方が変わるのだと感じた。

（６）考察

生徒が主体となり進める授業において、授業を完全に生徒に任せることが主体性ではないことを忘れてはいけない。「話し合いをしなさい、考えなさい、意見を言いなさい」では、何も活動できない。どのように話し合いをするのか、どのように考えるのか、その情報を与えることが教師の役割であり、影から支えて、引っ張っていかなければならない。きっと、教師が主体となって授業をすることより、何倍も準備が必要なのかもしれない。また、小学校の先生方と話す機会や小学校の授業参観を通して、小学校の時できていたことが、中学校に入ってできなくなってしまっていたり、小学校ですでにできていることを、中学校で同じことを繰り返し教えていたりするなど、生徒のもつ力を、効率的に活かした授業ができていないと感じる。小学校 6 年間、中学校 3 年間という指導ではなく、小中 9

年間を通しての指導をしていきたい。そのために普段から、小学校との情報交換を常に意識をし、できることを伸ばしていく指導を心がけていかなければならない。

5 全体考察

コミュニケーションとは何かという課題を持って、本部会では話し合いを続けてきた。人が人として生活していくためには必要不可欠な能力であり、手段である。その能力をつけることこそ、国語科の学習の本来の目的であると考えた。アンケートで見る限り、徐々にではあるが児童生徒の伝え合う学習に対して効果があったと考えることができる。

6 おわりに

国語Ⅱ部会では、コミュニケーション能力の育成を図るため、1年間研究を積み上げてきた。児童生徒にとって、国語科の学習はあまり人気のある教科ではない。それは、多分に自分の考えがうまく伝えられないといった感が強いからだと考える。もちろん、日頃は友達とワイワイやっていたとしても同様である。つまり、意味もなく、他愛もない話を延々と続けることはできても、あるテーマに基づいて、自分の考えを理路整然と語るができないのである。それを可能にするためには、訓練を積むしか方法はないと考える。

そこで、本部会では、自分の思いや考えを伝える手段として、コミュニケーションゲームの導入や、話し方の話型を意識させることで、少しでも話しやすくなり、抵抗がなくなるのではないかと考えた。学校内部での共通理解を含め、それぞれに工夫を凝らし、取り組むことで児童生徒の学習態度にも変化が見られるようになったという報告がなされた。今後は、個人としての取組ではなく、組織として取り組んでいければと期待している。

共に学び、高め合うためのアドバイスを活用した授業作り

加藤 千智（犬山市立犬山北小学校）

溝口 修平（犬山市立城東小学校）

佐藤真里奈（犬山市立城東中学校）

土本 翔（犬山市立東部中学校）

吉野 愛美（犬山市立東部中学校）

はじめに

本グループは、学校種も学年も教科も違うメンバーであるが、どの実践においても子ども達が関わり合いながら、レベルアップしていける姿を目指していくために、研究を始めた。関わり合うことは、話す・聞くというコミュニケーション能力を育成することでもある。具体的な方法として、活動に対して子ども同士でアドバイスをする・される活動を多く設定していくことである。課題達成のためお互いにアドバイスをすることで、話す力だけでなく、聞く力も高まり、それによって学びが深まるのではないかと考えた。

1 研究の仮説

研究の仮説を次のように設定した。

仮説：子どもたちが互いにアドバイスをし合う活動を取り入れた授業の工夫をすることで、共に学び、高め合う学びになるだろう。

2 研究の手立て

研究の仮説に迫るために、次のような5つの手立てを各授業の中に取り入れた。

- ①アドバイスをし合いながら交流させる
- ②自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりすることをまとめやすいワークシートの工夫をする
- ③自分の考えを聞く人に分かるように話す場面を設定する
- ④話型を意識し、話したり、相手の話すことに耳を傾けて聞いたりする意識を高めるようにする
- ⑤どこで・どのようにアドバイスすると効果的かを考えて活動できるようにする

3 研究の実際

実践1 小学校1年 学級活動「せんせいのおうちはどこ？」（GWT）

（1）子どもの実態

本学級は男子11名、女子13名の計24名の学級である。活発で元気がよく、休み時間になると、外で元気に遊ぶ子どもが多い。学習に対しても意欲的に取り組む子どもが多く、新しいことを学習することをとても楽しみにしている。しかし、みんなで活動する時、自己中心的な発言をする場面も見られる。

そのため、相手の立場を考え、思いやりのある行動ができるように、グループ活動を通して、協力して1つの課題を達成する楽しさを知り、互いの存在や良さを認め合えるように学習に取り組ませたい。

（2）実践の手立て

1) グループでの交流

今回の研究を行うにあたって、グループでの交流により話し方・聞き方を体験的に学ぶために、グループワークトレーニング（以下GWT）を行った。GWTとは、人間関係を学ぶ体験学習であり、「楽しく」「ちょっとためになる」をキーワードにしたワイワイとリラックスした雰囲気で行う学習のことである。GWTの目的は、①協力する良さに気づく、②他者の良さに気づく、③自分の良さに気づく、ことである。本時の活動は、学習意欲を一層高めるようにするために、子ども達にとって身近な先生を学習課題に登場させたオリジナルのグループワークの教材を作った（図23・24）。また、情報を文字だけで書くのではなくヒントカードを用いて視覚でも捉えることができるようにした。



図23 オリジナル教材1



図24 オリジナル教材2

2) 話し方・聞き方の指導

本時の活動では、自分が得た情報を相手に正確に伝え、相手を知っている情報を正しく聞くことで課題が達成される。課題達成のために必要な情報を全員が平等に分担し、一人一人がもつ情報量を同じにすることで、全員が責任をもって課題に取り組めるようにした。また、そうすることで、聞き方・話し方を意識して活動し、自分の情報を相手に分かりやすく伝えるだけでなく、落ち着いて友達の話も聞けるようにした。

3) ワークシートの工夫

振り返りカードを工夫し、自分の活動だけでなく、課題解決に向けてグループの良さや友達の頑張りを認められるようにした。自分自身の振り返りは、「話し方」「聞き方」について振り返り、友達の良さを書く「きらきらメッセージ」の欄を設定し、それをグルー

プのみんなと読み合うことで、お互いの存在を認め合うことができるようにした。

4) アドバイスの工夫

「きらきらメッセージ」をグループで伝え合うことによって、みんなにアドバイスされたことが、次の意識となっていく。

(3) 実践の内容

1) 題材名

グループワークトレーニング「せんせいのおうちはどこ？」

2) 本時の目標

- ・自分の情報を友達に伝え、責任をもって活動に取り組むことができる。
- ・友達の情報を聞いて、正しく絵カードを操作することができる。

3) 学習の過程

段階	子どもの学習活動・予想される反応 学び合いの中心活動	形態	教師の働きかけ・留意点【評価】 コーディネートの中心場面 (A・B)
つかむ	<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>犬山北小学校の先生ばかりが住んでいる犬北マンションがあります。おはなしカードをもとに、誰がどのおうちに住んでいるかをみんなで話し合ってみつけ</p> </div>	一斉	<p>A. 学習意欲を高めるために、身近な先生をGWTの課題に登場させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の絵カードを提示し、どの先生が課題に登場するか紹介する。
	<p>せんせいたちがすんでいるおうちを みんなではなしあってみつけよう</p>		
取り組む	<p>2 GWTの約束を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①自分がもらったおはなしカードを見てもいいのは、自分だけです。友達にみせたり、友達のおはなしカードを見たりしてはいけません。 ②カードに書いてあることは、相手に分かるように、すべて言葉で伝えます。</p> </div>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・目標となる課題解決のためには、どのように活動に取り組みばよいかを考えることができるようにする。 ・話し合いのときは、みんなに伝わるように、分かりやすくはっきりとした声で話すことや相手の話をしっかり聞くことが大切であることを押さえる。
27	<p>3 課題にグループ全員で取り組む。</p> <p>(1) おはなしカードをグループのみんなに配る。</p> <p>(2) おはなしカードに書かれていることを伝え合い、先生たちがどこに住んでいるか話し合う。</p> <p>(3) 犬北マンションの部屋割りの答え合わせをする。</p>		<p>B. 全員が責任をもって活動に取り組めるようにするために、全員に同じ枚数のおはなしカードを配る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく話し合いができていないグループには、一人ずつおはなしカードに書かれていることを言い、どんな内容が書かれているかを整理できるよう支援する。

<p>広 げ る ・ 深 め る</p> <p>10</p>	<p>4 課題解決に向けて、グループ活動の様子を振り返る。 (1) 振り返りカードを書く。</p> <div data-bbox="271 272 701 475" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の情報を相手に伝わるようにゆっくりと大きな声で言うことができたか。 ・誰かが話しているときに、話をしている人を見て、静かに話を聞けたか。 ・みんなの話を聞いて、絵カードを操作することができたか。 </div> <p>(2) 自分が頑張ったこと、活動を通して思ったことをグループで話し合う。</p> <div data-bbox="271 614 559 691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなが言っていることを、しっかりと聞いた</p>  </div> <div data-bbox="307 710 687 788" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>ゆっくりと大きな声で話すことができたよ</p> </div> <p>(3) きらきらメッセージをグループのみんなで読み合う。</p> <div data-bbox="271 871 687 948" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〇〇ちゃんへ。分からない時に、教えてくれてありがとう</p>  </div> <div data-bbox="307 967 696 1045" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>〇〇くんへ。司会をするのが、上手だったね</p> </div>	<p>グ ル ー プ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気ですぐに振り返りを行い、きらきらメッセージに友達の頑張りが良さを書くことで、グループ活動の楽しさや協力の必要性に気づき、グループの友達に伝えられるようにする。 ・話し合いの中で、友達や自分自身を見つめ、それぞれがどんな参加の仕方だったかを気づくことができるようにする。 ・課題解決に向けて、子ども達がどんな点で頑張ったかを認められるようにする。 ・きらきらメッセージを読みあうことで、相手の良さを認め、伝えられるようにする。 ・子ども同士で気づかなかった点については、教師が補足する。
<p>ま と め る 3</p>	<p>5 振り返り活動をまとめ、感想を発表する。</p> <div data-bbox="271 1155 701 1232" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなで話し合っ先生たちのおうちを見つけることがで</p>  </div> <div data-bbox="307 1251 696 1329" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>約束を守って、話し合いができてよかったです</p> </div>	<p>一 斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して、楽しく活動できたかを確認し、様々な活動に活かす意欲を高められるようにする。

(4) 考察

1) 成果

ア. グループでの交流

GWT の活動をしたことにより、グループでの話し合いがスムーズに行われるようになった。また、学習課題に身近な先生を登場させたことで、活動意欲が高まり、楽しく話し合いを進めることができた。4月からGWTに取り組んでいるが、子ども達の発達に合わせてオリジナル教材を作り、課題や話し合いの視点を明確に示すことで、子ども達だけで話し合いを進めることができるようになってきた。

イ. 話し方・聞き方の指導

「自分が知っている情報を相手に伝えるように話すこと」「友達が知っている情報を静かに最後まで聞くこと」の2点に気をつけて話し合いができるようにした。話す時には、声の大きさや話すスピードに気をつけて話す姿が多く見られた。また、ひらがなを読むのが苦手な子どももいるが、ヒントカードを用いて視覚で捉えることができるようにしたため、意欲的に話し合いに参加する姿が見られた。聞く時は、相手の顔を見て聞く、友達が言い終わるまで喋らない、一人ずつ順番に言うなどのことに気をつけて話す子どもが増えてきた。

ウ. ワークシートの工夫

GWTの振り返りでは、自分の活動を振り返るだけでなく、友達の頑張りや良さもお互いに認められるようにした。始めは、何を書いていいか戸惑う子どももいたが、GWTの回数を重ねるごとにすらすらと書けるようになってきた。きらきらメッセージは、同じグループの全員に書けることを目標にし、相手の頑張りや良かったことを伝える言葉を書くことができるようになってきた。また、きらきらメッセージをみんなで読みあうことで、楽しかった気持ちやお互いの頑張ったことを共有することができた。

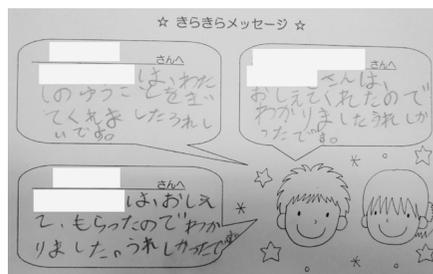


図 25 ふりかえりカード
「きらきらメッセージ」

2) 今後の課題

今回の実践では、GWTを通して、相手の頑張りや良さを認め合えることができるように「きらきらメッセージ」を書き、それを伝え合うことができる人間関係作りを目指した(図25)。これをもとに、アドバイスし合うことを通して学び合い、高め合うことができるような学級経営をし、さらに実践を重ねていきたい。

実践2 小学校6年 算数 「円の面積」

(1) 子どもの実態

本学級は、男子16名、女子13名、計29名。学習に取り組む意欲をしっかりと持っている児童は多い。第5学年のときから、説明する活動を授業の中に多く取り入れてきたこともあり、自分の考えを相手に伝えようとする意識も高い。だが、児童一言一言の説明をこだわって聞いていると、自分の考えに自信をもてず、あいまいな説明でごまかしていたり、算数的な用語が使えず途中で説明が終わってしまっていたり、相手に伝えることを意識した説明ができていないようである。これは、言葉や表現方法を分かりやすくまとめて伝えたり、既習事項と関連付けながら問題をじっくりと考えたりすることに課題があるのではないかと考える。仲間と意見を交流し関わり合う中でこのような課題を解決していきたい。

相手に考えを伝えることの大切さを、さらに伝えていきたい。そこで、今回の実践に取り組むことにした。

(2) 実践の手立て

1) 説明の力をつけるためのグループ内交流、全体交流の場面設定

本単元では、公式を覚え、それを活用して面積を求めることだけではなく、公式をつくり出す過程を大切にしたい。公式が先にあるのではなく、どのような考え方で公式を導き出したのか、その考え方を説明できることが重要であると考え。そのためにまず、自分の考えをしっかりと持たせるようにしたい。一人一人が考え方を明らかにした上でグループでの交流の時間をもつ。この場では、全体交流でうまく説明できるようにするための時間であることをしっかり確認して交流させたい。そうすることで、自分の意見に自信のある子もない子も、グループでの活動が充実していくことを期待する。また、全体交流の場面では自分の考えを伝える話し方、言葉、方法を例示し、活用できるようにしたい。

2) 要点を絞ってメモをとる

全体交流の場面で、自分の意見を説明するだけでなく、相手の意見をしっかりと聞いて理解できるようにするために、メモを取りながら聞くようにする。メモをするときは相手の説明を聞きながらすべてを写すのではなく、大事なキーワードに要点を絞ってメモするようにする。メモを取りながら聞くことで、聞く力と相手の考えを理解する力を養いたい。

3) 説明を聞いて分かりやすかったことや良かったことを伝え合い、説明力を高める

ワークシートにアドバイス欄を設けて、全体交流の場面で、児童間で互いの意見に対してアドバイスをする活動を取り入れる。相手の意見についてメモしたキーワードを元にアドバイスしていく。アドバイスすることで自分の意見と相手の意見を比較して、よりよい意見に気づくことができるようにしたい。自分の意見だけでなく、互いの意見を高め合える交流場面にしたい。

(3) 実践の内容

1) 題材名

円の面積

2) 本時の目標

- ・円を長方形に等積変形するところから、求積公式を導き出し、曲線図形の面積を求めることができる。

3) 学習の過程

・・・本時の目標 学習形態：-個別 -グループ -一斉

段階	学 習 活 動	教 師 の 活 動 と 支 援	評価(評価方法)
	1 本時の学習内容と流れをつかむ。 <input checked="" type="checkbox"/>	○学習内容と流れを提示する。	
	2 円の面積を求める式を提示する。 <input checked="" type="checkbox"/>	○学び時計を用い、本時の学習の流れを説明する。 ○自分で切ったり、教師の提示物を見た	

つ か む 8 分		りして、切ったり動かしたりして考えることを視覚的に確認する。 ○長方形をイメージできるように半径×半径ではなく直径から考えをスタートさせるようにする。	
と り く む 30 分	<p>3 式から円の面積の求め方を考える。 [個]</p> <p>4 円の面積の求め方をグループで説明し合い意見をまとめる。 [グ]</p> <p>5 他のグループと説明し合い、考え方を交流する。 [伝え合う力] [全]</p> <p>6 半径×2÷2は半径になることを説明し、円の面積の公式を確認する。 [斉]</p> <p>7 練習問題に取り組み、グループで答え合わせをする。 [グ]</p>	<p>○ワークシートは班ごとに色を変え、交流をしやすいようにする。</p> <p>○ワークシートに書き込んでから考えるよう指示する。</p> <p>○この後の活動で必ず説明できるように説明の仕方をグループで確認する。</p> <p>○グループでまとめるにあたっては、困っている児童を優先し、補いながら、理解を深めながら、まとめていくよう指示する。</p> <p>○相手の説明には、キーワードでメモをとり、聴いた後には相手の説明についてアドバイスをし合うよう指示する。</p> <p>○直径の半分は半径であることから円の面積の公式を導き出せることを確認する。</p> <p>○公式の便利さを伝える。</p> <p>○円の面の求め方を考え解くことを確認する。</p> <p>○答えだけでなく、考え方や手順も確認するよう指示する。</p>	<p>○円の面積の求め方を考えることができたか。(ワークシート)</p> <p>○仲間に自分の言葉で考えを伝えることができたか。(活動の様子)</p> <p>○メモをとりながら聴き、アドバイスができたか。(活動の様子)</p> <p>○公式を理解し、問題を解くことができたか。(ノート)</p>
まとめ 7 分	8 本時を振り返り、学習内容や自分の成果についてまとめる。 [斉]	○学習内容や態度などの点から振り返りをさせ、カードにまとめるよう指示する。	

(4) 考察

1) 成果

ア. 説明の力をつけるためのグループ内交流、全体交流の場面設定

式の意味をじっくり考え、グループ内交流と全体交流を通して説明し合うことで、自分の思考を言葉にすることができ、理解が深まった。仲間とかかわって考えることで、理解できるまで考えたり、納得したりするなど、思考が確実なものとなった。説明し合う活動を繰り返し積み重ねることで、自分の考えを整理し、筋道を立てて説明する力もついてきた。

イ. 要点を絞ってメモをとる

説明し合う活動の中で相手の意見をメモを取りながら聞くことで、相手の考えを整理しながら聞く力がついてきた。話す側と聞く側の双方に活動に対する目的意識が生まれ、活動がより充実してきた。

ウ. 相手の説明を聞いて分かりやすかったことや良かったことを伝え合うことで互いの説明力を高める。

相手の考えを聞きとったメモをもとに、アドバイスする活動を取り入れることで、聞くだけでなく、相手の意見に対して自分なりの考えをもつことができるようになった。自分の考えと比較して聞いたり、相手の説明のいいところを探しながら聞くという聞く観点をもつことができるようになってきた。

2) 今後の課題

説明にまだまだ無駄がある。だらだらと言葉を並べて説明をしてしまっているので一人との交流に時間がかかってしまっていて、なかなか次の子と交流できない。説明に必要なキーワードを見つけ出し、要点をまとめて簡潔に説明する力が不十分であると感じた。相手の意見に対するアドバイスが、なかなか内容を深めるものにならなかった。相手の考えについての感想を言うだけでなく、メモしたキーワードをもとに内容についてのアドバイス活動にしたい。アドバイスを通してよりよい説明を作り上げるという意識をさらに高めていきたい。

実践3 中学校1年生 音楽

(1) 子どもの実態

本学級の生徒は、入学当初から元気がよく、合唱に一生懸命に取り組むことができている。パートリーダーを中心とする合唱練習も定着しており、活動の流れはスムーズであるが、発言をする生徒がいつも同じになっている。

最近では、文化のつどいに向けてクラス合唱を仲間と共に創っていこうとする姿勢が見られてきた。しかし、一部の生徒のみで意見を出し合ったり、話し合いが進んでいってしまうことも少なくない。アドバイス活動を積極的に行い、仲間との係わり合いを深め、合唱を創り上げていきたい。

(2) 実践の手立て

本題材の混声三部合唱「Tomorrow」はクラス合唱として歌う曲であり、今までよりも一人ひとりがクラスの一員として合唱曲を仕上げていく意識を高めていってほしいと考え、学習計画を立てた。また、本時では生徒が、基本的な姿勢や声量、音程、強弱などを互いにアドバイスをし合いながら練習を行い、パート練習や全体合唱に生かすことができるように指導した。

本題材の目標を達成するために、2つの支援の手立てを考え、授業を行った。

- 1) アドバイスカードを使用 (図26・27)
- 2) アドバイスタイムの設定
- 3) Best Singerを見つける

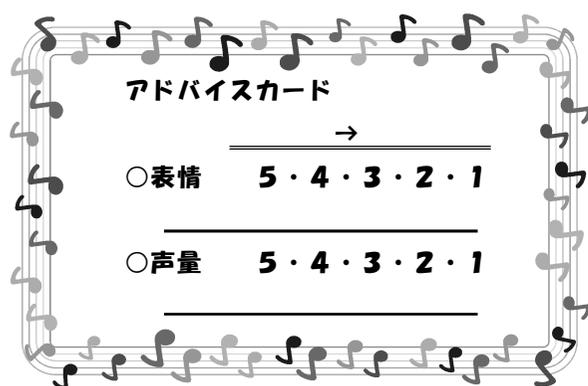


図26 アドバイスカード

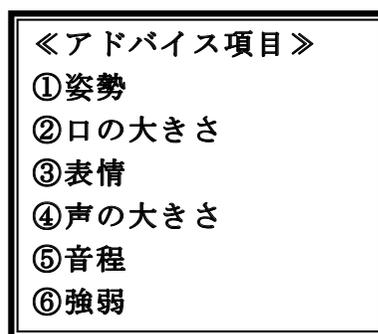


図27 アドバイス項目

(3) 実践の内容

1) 単元

混声三部合唱「Tomorrow」

2) 本時の目標

仲間にアドバイスをしあいながら合唱を創っていこう

3) 学習の過程

学習形態：個別→個 ペア→ペア グループ→グループ 一斉→一斉

段階	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
つかむ7分	1 合唱隊形で「大切なもの」を歌う。 <input type="checkbox"/> 齊 2 前回のアドバイスカードを見て感想、今後の課題を発表する。 <input type="checkbox"/> 齊	・大きな声で歌い、声出しをしているようにする。 ・自分たちの合唱で注意していく部分を見つけれるようにする。	・本時の課題を確認することができたか。観察)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">仲間にアドバイスをしあいながら合唱を創っていこ</div>		

取り組む 20分	3 パートごとに練習を行う。 <div style="text-align: right;">[齊]</div> ・パート内で向かい合って練習をして、気づいたことをすぐにアドバイスする。 ・アドバイスされたことを各自の楽譜に記入する。 <div style="text-align: right;">[個]</div> ・アドバイスを生かして部分練習する。	・人数を半分にして互いの歌声を聴き、良い部分や注意する部分をアドバイスするよう支援する【手立て】 ・各自の楽譜に印をつけたりすることで注意する部分を明確にできるよう配慮する。 ・話し合いの内容を生かして練習するよう伝える。	・パートで協力して練習し、アドバイスをを行うことができたか。 <div style="text-align: right;">(観察)</div>
深め 20分	5 パートごとに練習の成果を発表する。 <div style="text-align: right;">[齊]</div> ・パートごとに歌う。 ・他のパートへのアドバイスを発表する。 6 アドバイスを生かし、再度歌う。 <div style="text-align: right;">[齊]</div>	・ソプラノ、アルト、テノールの順に発表を行うことを伝える。 ・パートごとの演奏を聴き、表情、声量、強弱などしっかりできているか確認するよう助言する。 ・他のパートの発表を聴き、注意する部分を楽譜に書き込むよう指示する。 <div style="text-align: right;">【手立て】</div> ・気をつける項目を明確にできるようにする。	・各パートにアドバイスできているか。 <div style="text-align: right;">(観察・楽譜)</div> ・アドバイスを生かし積極的に歌うことができたか。 <div style="text-align: right;">(観察)</div>
振り返る 3分	7 振り返りカードに反省を記入する。 <div style="text-align: right;">[個]</div> ・他パートへアドバイスカードを記入する。	・本時の学習の取り組みについて各自で振り返るよう指示する。 ・他のパートの発表から感じたことを記入するよう伝える。	・本時の学習への取り組みを正しく評価することができたか。(振り返りカード)

(4) 考察

1) 成果

ア. アドバイスカードを使用

他者に必ずアドバイスができるようにアドバイスカードを使用した(図28)。文章表現が苦手な生徒も多いため、5段階の数値での評価とコメントの2つの方法を取り入れた。アドバイス項目を授業の最初に示したため、練習中もその項目に注意して取り組んでいたように感じる。しかし、5段階の基準を特に決めていなかったため、評価に困っている生徒も



図28 実際に使用したアドバイスカード

いた。目標とする基準を明確にしておかなければならないと思った。その場でのアドバイスだけでも良いが、やはり相手に伝えることが苦手な生徒もいたり、その場限りのものになってしまいがちであると思われるので、今回のようにカードにして形に残していくことも大切であると感じた。また、互いにアドバイスし合うことで共に頑張ろうという意識が高まったように感じられた。アドバイスカードを何度も続けていくことで、記入の仕方も「〇〇がよかった」「〇〇がよくなかった」のではなく、「□□したら△△になるよ」というように、どのようなことに気をつけたいのかと書くことができるようになっていった。また、各個人が記入したアドバイスカードを全体交流することでアドバイス内容を共有することができた。さらに、仲間はカードにどのように記入しているのか知ることができたり、良い記入方法を真似していくことができていたように感じる。アドバイスをこれからの授業に生かして練習を行っていききたい。

今後も仲間に対して自然にアドバイスが言い合える環境づくりに心がけて授業を行っていききたい。

イ. アドバイスタイムの設定

パートごとに練習を行い、その場でパート内のメンバーに気づいたことをすぐに伝えることで、充実した練習になっていた。しかし、仲間に向かって意見を言えない生徒もみられたので、暖かい雰囲気でも誰もが意見を言えるようにしていきたい。また、一人ひとりが恥ずかしがらず仲間に対して意見を言うことに慣れ、話す力を育てていきたい。

ウ. Best Singerを見つける

1年生の歌唱テストはクラス全員の前で歌う公開方式で行っている。クラスの仲間の歌声を聴く中で、仲間の良い部分を発見することができたり、クラスの中で1番いい歌声を教室に響かせようと頑張った生徒が多くいた。また、仲間の良い部分や今後真似をしていきたい部分を見つけていくことができ、合唱への意欲が高まったようにも感じられる。Best Singerを設けたことで選ばれるように一生懸命歌っていた生徒が多かった(図29)。

2) 今後の課題

相手に直接アドバイスすることや、大勢に対してアドバイスすることには、なかなか慣れることができていないので、誰にでもアドバイスをしやすい環境、人間関係作りを授業を通して行っていきたい。また、音楽用語を使ってアドバイスしていくことが今後の課題であると考えている。そのためにも、日頃から音楽用語を使用していきたいようにしていきたい。

Best Singerは誰??

♪前期より堂々と表情よく歌えるといいですね。また、仲間の良いところを見つけましょう。

6組 2番 氏名 ●●●●

名前	良かった所・真似したい所など
★	<p>全員の同じく声がかかってよかった。</p> <p>全員の表情が楽しげで歌っていた。</p> <p>低い声でも大きな声で歌っていた。</p> <p>歌詞を間違わずに歌っていた。</p> <p>堂々と歌っていた。</p> <p>声よくて声もかかってよかった。</p> <p>音の出し入れが上手でよかった。</p>

図29 ワークシート「Best Singerは誰?」

実践4 中学校3年生 保健体育「器械運動・マット運動」

(1) 子どもの実態

本校の3年生における器械運動は男女共習の種目内選択で行っている。今年度は鉄棒は必修とし、マット運動と跳び箱運動の2種類から種目内選択として行った。マット運動は、男子35名、女子23名の生徒が選択し、単元を行った。男女共習ということもあり、生徒の技能レベルの差は大きく、前方倒立回転跳びができる生徒もいれば、後転ができない子もいるという現状であった。意欲面でも大きな差があり、どうモチベーションをあげて授業に取り組ませるかが課題であった。

(2) 実践の手立て

①子どもが練習する技を選択し、工夫した練習、場を設定することにより話し合う場面を増やす。

今回の単元は男女共習であり、技能差が大きく、「今日は〇〇の練習をしよう」など練習する技を固定するのは効率が悪く、生徒の技能も伸びないと感じた。そこで、生徒が最終的に発表会で演技に取り入れたい技を単元を通して練習するように指示をし、生徒に挑戦したい技を選択させた。ただし、基本的な技に関しては、単元の最初で技能ポイントをしっかりと押さえ、その後はW-upとして毎時間行い、技能の習得を試みた。また、練習する技や技能レベルによって、練習方法、練習環境も変わってくるので、生徒自身が練習、練習場所を考え、話し合い工夫し、設定するように仕組みでいった(図30・31)。



図30 セフティーマットと合唱台を利用した練習



図31 セフティーマットを利用した倒立の後方倒立回転の練習

②デジタル機器を利用し、アドバイスをし合い技の完成度を高める

デジタルカメラ3台と技の見本動画を準備し、いつでも利用できるように図った(図32)。デジタルカメラはお互いに演技を撮影し合い、自分の演技を確認し、改善する助けとするとともに、その映像を見ながら、気になったところをアドバイスし合うように仕組みだ。また、見本動画は、技能



図32 デジタルカメラ利用している様子

ポイントの確認や実際に演技をイメージする助けとし、それを見ながらコツなどを話し合うのに利用した。

③アドバイスカードの活用

仲間の演技技の発表の際には、アドバイスカードに良かった点と改善すると良い点を記入させ、技能向上の手助けとした。

(3) 実践の内容

1) 単元

器械運動（マット運動）

2) 本時の目標

- ・仲間と協力して練習の場を整えたり、仲間の技を見てお互いにポイントを教えあったりして進んで練習に取り組むことができるようにする。
- ・技の技能ポイントを明確にして、仲間に適切なアドバイスを考えることができるようにする。
- ・動画や仲間のアドバイスから、自分の演技において何ができていないかを分析し、修正できるようにする。

3) 学習の過程

段階	生徒の活動	形態	教師の支援・評価
つ	1 本時に必要な道具を準備し、点呼を行う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で準備できるようにメンバー全員で協力して、道具の準備をするように呼びかける。 ・健康状態を把握し、見学者への指示を与える。
か	2 ストレッチ運動を行う。	ペア	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気、リラックスした状態でストレッチ運動ができるように音楽をかけて行う。
む	ア. マット運動に必要な部位を中心にストレッチ イ. 違和感があるところをもう一度重点的にストレッチ		<ul style="list-style-type: none"> ・怪我防止のために何か通常と自分の身体の状態に変わりはないか把握するように指示する。
15			
分	3 ウォーミングアップも兼ね、基本的な技の練習をする。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・技能ポイントを意識して、一つひとつの技を丁寧に、滑らかに行うことを意識するように指示する。 ・仲間の良い演技には、積極的に賞賛するような雰囲気を作る。 ・仲間の演技に、問題があれば、どこがおかしいかポイントを示し、アドバイスをするように伝える。
	ア. 回転系 {前転、後転、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転、倒立前転} イ. 巧技系 {倒立 (補助倒立) 片足正面水平立ち}		<ul style="list-style-type: none"> ○けが防止に心がけ、自分の体と向き合

	<p>4 本時の学習内容を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">発表会に向けて自分の演技を完成させよう</p>		<p>いストレッチ、ウォーミングアップをすることができたか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の発表会に向けて、どのような形で行うかの確認を加え、本時の学習内容の流れを確認する。
取 り 組 む 20 分	<p>5 演技技の中で完成度を高めたい技、不安な技を練習する。</p> <p>6 発表会の演技の練習をする。</p>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会に向けての演技技の中で、より完成度を高めたい技、不安な技を練習するように指示する。 ・ マットに1台デジタルカメラを用意し自分の演技を実際に確認し修正するように助言する。 ・ グループで気付いたことは積極的にアドバイスできる雰囲気を作る。 ・ アドバイスの内容に迷いが生じている生徒に対し、技能ポイントを整理して、できていないところ分析するよう支援する。 ・ マットの位置を移動し、発表会を想定して練習するように指示する。 ・ 技と技のつながりを意識し一つひとつの技を丁寧に行うように助言する。 <p>○自分の演技の良い点、修正すべき点を理解しより良いものにしようと思欲的に練習に取り組むことができたか。(観察)</p>
ふ か め る 10 分	<p>7 グループごとにプレ発表会をする。</p>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会本番を意識し、演技だけでなく、演技前後の行動にも気をつけるよう助言する。 ・ グループ内で、仲間に対してアドバイスカードに良かった点、修正すべき点を書くように指示する。 ・ それぞれ仲間からのアドバイスカードを参考にし自分の演技を修正するよう指示する。 <p>○自分の修正すべき点を理解し、演技に取り組むことができたか。(観察)</p>

ま と め 5 分	8 本時の練習を振り返り、次回の発表会に向けて反省をする。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の発表会に向けて自分の技の修正点を見つけるための時間を設ける。 ○技能ポイントや仲間のアドバイスを参考に自分のできる所できない所を理解し練習を振り返ることができたか。 <p style="text-align: right;">(学習カード)</p>
	9 使用した道具を片付け、整理運動をする。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で片付けができるように、メンバー全員で協力するように呼びかける。 ・本時で使用した部位を中心にストレッチ運動を行い、けが人がいないか確認する。
	10 次時の内容を知り、あいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・次回は発表会ということを確認し、あいさつをする。

(4) 考察

1) 成果

ア. 子どもが練習する技を選択し、工夫した練習、場を設定することにより話し合う場面を増やす

自分が練習したい技を選択させることで、同じ技を練習する生徒同士が集まり練習するようになり、話し合う場面が多く見られた。同じ技を練習しているのでお互いの改善すべき点も見つけやすく、アドバイスするポイントが明確になり、技能の向上の手助けとなった。また、自分達で技能を身につけるために練習や練習する場を工夫することで、どう工夫すれば自分の技能が向上するかを話し合い、考えることができた。

イ. デジタル機器を利用し、アドバイスをし合い、技の完成度を高める

デジタルカメラの動画機能を用いることで、自分の演技を確認することができるのと同時に、改善点を動画を見ながら話し合うことができたので、技能の向上の手助けとなった。また、見本動画を用意することで、アドバイスをするポイントが明確になり、話し合い活動の活性化の手助けとなった。

ウ. アドバイスカードの活用

演技技はいろいろな技を組み合わせて行うこともあり、自分では気づかないミスが多くなりがちであったが、アドバイスカードを用いることで、自分ができていた点、改善すべき点が明確になり、技能向上の手助けとなった。

2) 今後の課題

単元を通して、話し合い活動やアドバイスをし合う姿は増えたが、アドバイスする生徒はやはり技能が高い生徒が中心で行われており、お互いにアドバイスを活発にし合うというところまではいかなかった。アドバイスをするのが少ない生徒は、自分が言うことに自信が持てないように感じたので、もっと技能ポイントを明確にして、アドバイスするポイントを押さえておくことが必要だと感じた。

実践4 中学2年生 数学

(1) 子どもの実態

生徒一人ひとりの数学に対する意欲はあり、課題の問題や練習問題に積極的に取り組んでいる。しかし、自分が出した答に自信がなく、解き方（解答に至るまでの方向性）が正解しているか悩んだり、答があっているかを教師に確認したりする傾向がある。また、分数が出てくるとパニックになる生徒が多い。その結果、発表することが億劫になり、答えられていても発表しなかったり、指名されても自分の答に自信をもって発表できなかったりする生徒が見られる。

数学の学習を通して、目指す子どもの姿には次の3つを考えている。1つ目は、互いの意見を聞き合いながら、自分の答に自信をもち、問題に取り組める生徒である。自分の考え方を積極的に相手に伝えることで周囲に認められ、さらに自分の考えが深めようとする生徒を目指したい。

2つ目は、自分の考え方以外の方法に触れ、考え方が深まる生徒である。数学の答はひとつであるが、考え方は無限といってよい。周りの考えを聞くことで自分の考え方以外にも方法があることを知り、より効率的な方法で問題解決できるような生徒を目指したい。

3つ目は、仲間と話し合いながら、様々な方法を取捨選択して問題解決ができる生徒である。周囲の意見を聞いて自分の考え方を深めた生徒たちが集まり、更なる話し合いをしながら問題解決ができる集団ができれば、より数学の学習が楽しくなると考える。互いに認め合い、数学の内容理解を高めていけるような学習集団ができることを目指したい。

(2) 実践の手立て

1) 理由の説明をする場面での話し方の工夫

生徒が主体的に仲間や問題に関わって取り組んでいくためには、正確に自分の思いを伝えることが重要になってくる。問題に対する答を発表するときに、「〇〇の理由で△△と導くことができる」や「今まで習ったことから、△△と考えることができる」など、明確で論理的な考えをもって相手に説明することで互いに納得ができるようになる（図33）。



図33 主体的に取り組む生徒

2) ペア・グループ・グループ間の交流

説明をするためのルールが確立し、自分の思いを説明することができるようになった生徒たちには、説明する場面を設定する必要がある。「復習」→「課題」の確認→「問題」→「練習」を1時間の授業の中で、ペア・グループ・グループ間などで話し合う場面をつくる（図34）。はじめから全体に向けて話すことが難しい生徒たちも、隣の席や周りの生徒たちと話すことはできるので、少人数から話し合いの練習をして、積極的に自分の考えを伝える練習をしていきたい。また、周りから得た考え方を元に自分の考え方をアドバイスとして相手に伝える活動を行い、ペアやグループ内で得たものを相手に還元し、より深

	<p>る。自分の考え方を相手に伝え、よりよい方法を相手にアドバイスする、</p> <p>○ペア活動が終わった生徒たちは、時間内なら移動も可として、ペア間活動を行う。</p> <p>4 答合わせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をして、全体で正解を確認する。 <p>発表者：「はい、〇〇です。どうですか」 →周囲がハンドサインや拍手で答える。</p>	<p>グル ープ 全体</p>	 <p>図34 ペア活動する生徒</p>
<p>ふ か め る</p>	<p>5 練習問題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>練習：学習内容の定着→発展的内容へ 基本問題（全員）→ +α問題（希望者</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題が終了した生徒は、教師に採点してもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>→解き終わった生徒は、周囲の生徒を支援する（図35）。分からない生徒は、周囲の生徒や解き終わった生徒に質問する（図36）。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>図36 質問する生徒 図37 アドバイスする生徒</p>	<p>個 グル ープ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を配付して、解き終わった生徒の採点をする。  <p>図36 支援する生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら戸惑っている生徒の質問に答えたり、アドバイスを与えたりする。（図37）。
<p>ま と め る</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに授業日記を記入する。 	<p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容をまとめ授業日記を記入するように指示をする。

(4) 考察

1) 成果

ア. 理由の説明をする場面での話し方の工夫

一次関数のグラフを活用しながら、文章問題を正確に答えることについて、問題解決の方法を多くの生徒が周囲に説明することができた。理由を論理的にまとめることで自分の考えを整理することができ相手に上手に伝えることができたようになった。

イ. ペア・グループ・グループ間の交流

自分の考えを自信をもって発表ことができるようになったことで、グループ活動も積極的に行うことができるようになった。また、自分の考え方に周囲から得た考え方を統合させ、より良い考えを一人ひとりにアドバイスすることができ、学習内容をより深めることができた。様々なアドバイスや経験を元に、高いレベルの生徒は発展問題についても、意欲的に取り組もうとする生徒が見られるようになってきた。また、分からない生徒に教えることでさらに学習内容を深めることができた。基本理解を目標にした生徒は、周りの生徒にアドバイスをもらいながら問題を解くことができ、達成感を味わうことができた。

ウ. 話し方・聞き方の指導

話し方の方法は、多くの生徒は「どうですか」と聞くことができた。視線も黒板の方を向かず、全体に説明するように生徒の方を見て発表する姿が見られるようになってきた。聞き方については発表者が全体を見るようになったので、黒板と発表者、発表者と自分のノートを見比べたりしながら、話を聞くことができるようになった。また拍手をするかハンドサインをするかは学級によって異なるが、自分の考えと同じであることを相手に伝えることで発表者に安心と自信を与える効果もあることが分かり、次の発表にも積極的に行動おうとする気持ちが育つことが分かった。

2) 課題

課題としては、「できない」と判断するのが早く、はじめから答えを周囲に聞こうとする生徒が一部に見られ、じっくり自分の力で考えさせる時間の確保をすること必要であることである。内容の難易度にもよるが、どの生徒も自分の考えをもてるように工夫をしていきたい。また、アドバイス活動が問題解決の方法の説明にとどまることもあり、さらに発展した内容に迫るようなアドバイス活動ができるよう支援をしていかなければならない。また、話し合い活動をもっと活発に行えるような様々な考え方が導き出されるような発問や練習問題を考えなければならない。

今後も、生徒同士が互いに高め合っていく授業づくりを考え取り組んでいきたい(図38)。

4 グループ全体の考察

(1) 成果

ア. 聞く力

アドバイス活動を取り入れたことで、話の内容を整理しながら聞いたり、聞く観点を絞って相手の話を聞くことができるようになった。また、相手のアドバイスをもらったり、教えてもらうことで学ぶ意欲が高まり、話し合い活動や課題に対して積極的に取り組めるようになったと感じる。

イ. 話す力

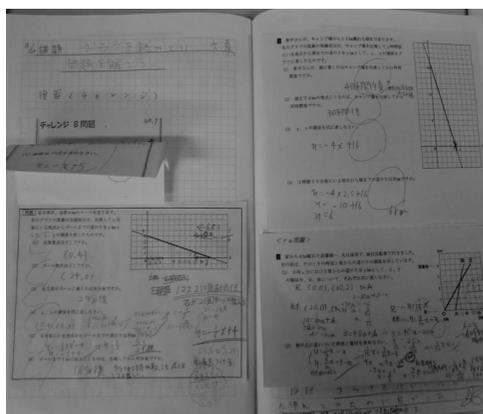


図38 生徒のノート

アドバイス活動を取り入れたことで、話す側の姿勢が良くなり、コミュニケーション能力の育成に繋がった。互いにアドバイスをすることによって一方的に聞いているだけでなく、自分の考えを持つことが必要になった。そのため、学習意欲が高まっていったように感じる。さらに、聞き手を意識した話し方ができるようになった。

アドバイスは言葉で相手に伝える活動であるため、この活動を授業の中に取り入れたことで、話す力が育ったと感じられる。今後もアドバイス活動を継続させて授業を行い、子どもたちの学び合いを深めていけるよう指導していきたいと思う。

(2) 課題

アドバイス活動を通して、互いの考え方を聞くことができるようになった反面、自ら考えずに始めからアドバイスをもらうことを前提に考えている子どもが出てきた。自分がどの段階まで考え理解しているかがわからず、自分の意見を持たないことが課題となった。どの授業でも個で考える時間を確保し、自分の考えを持ってからアドバイスを受けることに価値があるということを理解させていきたい。

また、アドバイスの内容が、「できないこと」に対する支援にとどまっていることが多いのも課題の1つである。特に高学年に上がるにつけて課題が難しくなるので、課題解決のアドバイスが多くなってしまう。アドバイス活動は課題解決の支援だけでなく、互いの学習理解を深めることが目的なので、問題についてさらに深められるような発問や教師の言葉がけが必要であるということが分かった。

今後の授業実践では、アドバイス活動をさらに効果的な活動になるように、子どもの発達段階や教科の特性に合わせて、さらなる工夫が必要である。

5 おわりに

本グループは、学校種も学年も教科も違うメンバーで実践を進めたが、様々なメンバーで取り組んだからこそ見えてきたものがあると感じた。子どもの発達段階に合わせて実践を進め、中学校で行った実践が「実はこれは小学校で行った方が効果があるのではないか」というような発見も多くあり有意義な時間となった。また、アドバイスというと一般的によく使われる言葉だが、実は大変奥が深いと感じる実践となった。今回の実践を通してアドバイスをする方、される方にそれぞれ工夫できる点が多くあると感じた。今後この実践での経験を活かし、さらなる効果的な指導ができるよう取り組んでいきたい。

すすんでかかわり合い、高め合う子どもを目指して

山下 和紀（犬山市立羽黒小学校）

原 ゆみ子（犬山市立城東小学校）

松本 哲廣（犬山市立城東小学校）

安藤 奈美（犬山市立犬山中学校）

尾関 久美（犬山市立犬山中学校）

伊藤 孝二（犬山市立城東中学校）

はじめに

本グループでは、研究実践を行うにあたり、それぞれの校種や教科等を考慮した上で、授業のどのようなところに問題意識があるのかを話し合った。グループでの話し合い活動を取り入れても意見が並列的で高まらず、グループ活動という形だけで終わってしまうことや、授業において高め合うとは何か、という問題意識が出された。

そのような問題意識をもったメンバーが集まり、そうした課題を解決しどのような子どもを育てたいのかを話し合った。話し合いでは、共に学ぶことがキーワードとなり、「すすんで～する子」「児童生徒が主体的に動ける」「全員がかかわり合う」「交流の中で高め合う」が「めざす子ども像」として挙げられた。特に、高め合うことについては、できる子どもができない子どもに教えるだけでなく、全体としての高まりをめざすことが課題として出された。

児童生徒の実態を踏まえた上で、高め合うための仕掛けや手立てを各自で持ち寄り話し合った。そこで、研究主題「すすんでかかわり合い、高めあう子どもを目指して」を設定し、それぞれの手立てのもとで研究実践を行うこととした。

1 仮説

- ①意欲的に関わりながら、自分の考えを深めるように取り組むことができれば、お互いに高め合うことができるだろう。
- ②関わり合うことを通して、多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現することができれば、お互いに高め合うことができるだろう。

2 研究の実際

（1）小学校5年 国語科 大造じいさんとガン

1）手立て

本単元は、「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」という単元であり、「工夫して朗

読する」ということが目標となってくる。また、本研究のテーマである、「かかわり合い、高め合う子どもの育成」というところから、「子どもたちが関わり合う中で、読み取りが深まったり、朗読の技術が向上する」ことを目指して、次のような手立てで、実践を行った。

手立て① 言葉マップの活用

朗読をするにあたって、「読み取り」というのは、とても重要となってくる。そこで、言葉マップを用いることで、どの登場人物が、どのように行動したかや、他の登場人物と、どう関わっていたかを、視覚的にとらえられるようにした。

手立て② アドバイスカードの活用

授業では、子どもたちの関わり合いの中で、朗読の技術が高まるように、グループ交流や、グループ間交流の時間をとり、朗読し合う場面を設定した。また、交流の際には、友達の朗読を聞きながら、読み取ったことを表現できているかや、間の取り方がうまくできているかなどを、評価し相手に伝えるために、アドバイスカードを用いた。特に、グループ間交流を2回行い、アドバイスされたことを、さらに生かす場面を設定することにも心がけた。

2) 授業の実際

段階	学 習 活 動	形態	○支援 ・ □留意点 ・【評価(方法)】
つ 5 分	1 既習の内容を確認する。	全体	○3場面の言葉マップを拡大コピーし、掲示する
	読み取ったことをもとに、自分なりに理由をもって、工夫して朗読をしよう		
取 り 組 む 35 分	3 3場面の後半部分を4つに分け、そのうちの1つを朗読する。 (生活班でそれぞれ分担する)	個	<input type="checkbox"/> 朗読の仕方は、家で考えておかせる。 <input type="checkbox"/> 意図的に、本文を4つに分けておき、各分担当所を決めておく。 <input type="checkbox"/> 特に読み方を考えてほしい文には、あらかじめ線を引いておく。 <input type="checkbox"/> 朗読の工夫をより考えられるようにするために、それぞれが読み取る範囲を限定する。 【理由を明確にし、朗読の工夫を考えることができたか(ワークシート)】
	4 グループで交流する。 (1) 実際に1人ずつ朗読する。 (2) 聞き手は、読み手がどのような工夫をしていたか答える。	グループ	<input type="checkbox"/> 工夫が聞き手に伝わるように読むことを促す。 <input type="checkbox"/> 朗読しやすい雰囲気を作るために、隊形などは自由にする。 <input type="checkbox"/> 恥ずかしがっている児童には、側について励ます。

	<p>(3) 読み手は、そのように表現した理由を話す。</p> <p>5 他のグループと交流する。</p> <p>(1) 1 つのグループが 3 場面の後半を、グループで通して朗読する。</p> <p>(2) 聞き手はアドバイスカードに記入しながら聞き、発表が終わったら渡す。</p> <p>(3) もう 1 つのグループが朗読する。</p> <p>6 アドバイスを生かして、さらに違うグループと交流する。</p> <p>7 友達の朗読を聞く。</p>	<p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>【自分の考えと比べながら、友達の読み方を聞くことができたか (様子)】</p> <p><input type="checkbox"/> 交流の仕方を掲示し、グループ活動が円滑にいくようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活班を 2 班ずつ組にして、朗読し合うようにする。</p> <p>【友達の朗読の工夫に関心をもちながら聞くことができたか (アドバイスカード)】</p> <p>(グループ間の交流が早く終わったグループは、さらに違うグループと交流してよいこととする。)</p> <p><input type="checkbox"/> どんな工夫が良かったのかを明確に書かせる。</p> <p><input type="checkbox"/> アドバイスされたことを、朗読に生かすことを促す。</p> <p><input type="checkbox"/> 意図的指名することで、よい朗読とは、どのような読み方かをつかみやすくする。</p>
振り返る 5 分	8 ワークシートに本時の振り返りをする。	個	<p><input type="checkbox"/> 考えた朗読の工夫を表現できたかや、理由をしっかりと伝えることができたかを振り返るようにする。</p>

1) 成果と課題

ア. 成果

図 39 は、児童がまとめた言葉マップで、図 40 はそれをもとに、児童が考えた朗読の工夫である。言葉マップでは、「いつ、どこで、だれが、なにを、どのような気持ちで、どうしたか」などを、地図のように記すことで、教科書の内容が、視覚的にも明確化した。

その後、朗読の工夫を考えさせたところ、図 40 にもあるように「登場人物の気持ちを表現するために、小さな声で読んだり、強く読んだりしたい」というように、「なぜ、そのように工夫して朗読するのか」について、はっきりとした理由を、どの児童も持つことができた。

また、図 43 は実際に児童が書いたアドバイスカードである。交流の際には、常にアドバイスカードを用いたことで、朗読する側は、聞き手を意識して、また聞き手は、「何が良いのか」を意識して聞くことで、一生懸命聞こうとするなど、より意欲的に活動へ取り組むことができた。

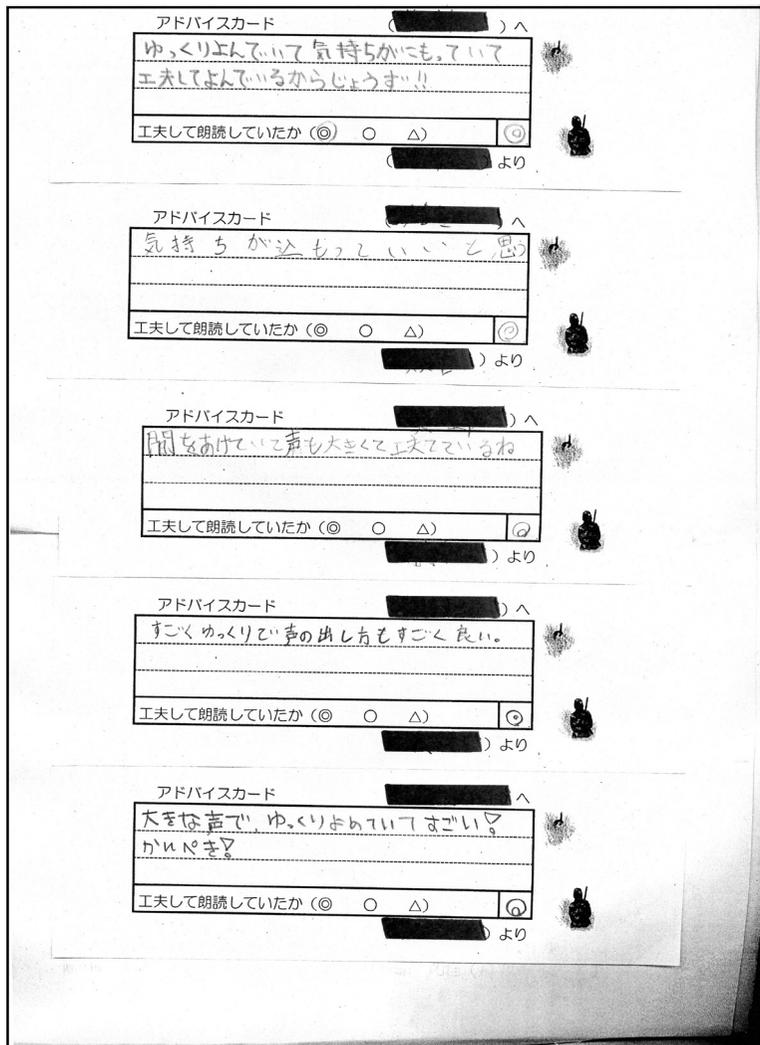


図41 アドバイスカード

イ. 課題

今回、「友達と関わり合う中で、朗読の技術が高まること」を意識し、アドバイスカードを用いたが、アドバイスの内容の中には、「良かったよ」などだけで終わっているものもあった。そういったことから、「聞き手が何をアドバイスしていけば良いのか」ということを、もっと指導していく必要があったと考える。子どもそれぞれの、「評価する力」が高まることで、より関わり合いの中で深まりが、充実していくこととなる。

(2) 小学校4年 学級活動 よりよい学級生活にしよう

1) 手立て

4年生になると、男女間の活動の違いが現れることもあって、これまでに比べて男女別で遊ぶことが増えてくる。また、したいことや好きなことによって休み時間などにインフォーマルな小集団での活動も活発になってくる。そこで、計画委員会を組織し、学級の話

し合い活動を通して、協力し合って解決や実行していく積極性や自治的能力の育成を図りたいと考え、以下のような手立てで実践を行った。

手立て① アンケートの実施

事前にアンケートを実施して学級内の身近な問題を選ぶことによって、自ら進んで解決しようと意欲的に話し合うことができるようにした。

手立て② 話し方や聞き方のルールの確認

話し方や聞き方のルールを確認することによって、互いの意見を受容的、共感的な態度で受け止めながら話し合うことができるようにした。

2) 授業の実際

…本時の目標 学習形態：個—個別 グ—グループ 全—全体交流 斉—一斉

	学 習 活 動	教師の支援と留意点	評 価 (評価方法)
つ か む 5	<p>1 学級生活についてのアンケートの結果を知る。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>2 本時のめあてを知り、学習への見通しをもつ。 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>○事前アンケートの結果を提示し、学級会への意欲を高める雰囲気づくりをする。</p> <p>○本時のめあてを確認し、学習の流れを説明する。</p>	
	<p>一人一人がよりいっそう気持ちよく過ごせて、さらに仲良くなる方法を考えよう</p>		
と り く む 32	<p>3 めあてについての自分の意見を書く。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4 議題について、話し合う。 <input checked="" type="checkbox"/> → <input checked="" type="checkbox"/> [伝え合う力]</p> <p>①グループトークキングをする。</p> <p>②話し合った意見を発表する。</p>	<p>○思いついたことをいくつでも書いてよいことを指示する。</p> <p>○子どもの自由なつぶやきを認める。</p> <p>○よい話し方や聞き方を意識して話し合いに参加するように指示する。</p> <p>○一人一人の意見の理由を聞き合い、受け止めながら、合意形成を図るように助言する。</p> <p>○司会グループの子たちが進行表に沿って話し合うなかで戸惑う</p>	<p>○理由とともに自分の意見を書くことができたか。(用紙)</p> <p>○意見の共通点や相違点に気を付けて進んで話し合おうとしたか。(話し合い活動・表情)</p>

	<p>5 グループでの話し合いを基にして再度意見を出し合う。 <input type="checkbox"/> → <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>6 学級として取り組むことを決める。 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>ことがあれば、適切な助言をする。</p> <p>○話し合いの結果を書いた画用紙を見せながら発表するように指示する。</p> <p>○異なる意見が出されて対立している場合は、折り合いをつけ、2つの意見を合わせたりまとめたりできないか助言する。</p> <p>○今後の学級での目標として取り組んでいくことであることを確認し、内容を整理して伝える。</p>	
<p>まとめ 8</p>	<p>7 話し合いを振り返る。 <input checked="" type="checkbox"/> → <input checked="" type="checkbox"/> [伝え合う力]</p> <p>①気付いたことや感じたことを書く。 ②発表する。</p>	<p>○書くのに時間のかかっている子がいた場合は、その子に応じた適切な助言をする。</p> <p>○話し合いの中でよかったことや課題について、振り返るように促す。</p> <p>○決まったことをみんなで実行していくことが大切であることを助言する。</p>	<p>○話し合い活動の中で互いの良い点や課題となる点について発表することができたか。(発表・表情)</p>

3) 成果と課題

ア. 成果

事前にアンケートを実施して学級内の身近な問題を選ぶことによって、議題に対して具体的な方法を選んで解決していこうと意欲的に話し合うことができた。本時においても、話し合いの前には個の意見とその根拠を書いた。すると、話すことが苦手な児童も、意欲的に話し合いに参加することができた。グループごとに合意形成を図る場合には、個々が書いた根拠をよく読んでメリット・デメリットを考えながら話し合った。話し合いの後によかったことや課題について振り返り、達成感を共有するとともに次の学級会への意欲づけを行うことができた。

話し合い活動の直前に、話し方や聞き方のルールを確認することによって、受容的、共感的な態度で互いの思いを受け止めながら話し合うことができた。教室内に常時「聞くこと」に関する掲示はあるものの、子どもたちは見慣れてしまい注意して見ていない。また掲示は文字が小さく、その内容にも具体性がない。そこで、話し合いの前に話し方や聞き方のルールを確認することにした。それによって、子どもたちは、スムーズにお互いを尊重しながら意見を述べ合うことができた。

イ. 課題

国語の「よりよい学級活動をしよう」で学級会の仕方を学んだ後に本時取り組んだため、意見が出なかった場合の対処の仕方や意見のまとめ方について、子どもたちはすでに学習しており、想定内のことであった。しかし、よりよい意見を選んでいく段階では、よいところばかりを褒めていて意見を絞るのに時間がかかっているグループがあった。

よいことやおべんちゃらばかりを言っていてはよりよいものにならない。よい学級集団とは、こうするともっとよくなるというアドバイスをよい雰囲気の中で言い合える集団である。自治的能力の育成を図ることを通して、互いを温かく認め合いながらよりよいものを追求したり自他のよさに気づいたりできるように今後も配慮しながら取り組んでいきたい。

(3) 小学校5年 外国語活動 Lesson.7 クイズ大会をしよう

1) 手立て

今年度から高学年で本格実施されている外国語活動であるが、4月から、子どもたちが意欲的に取り組み、目的である「コミュニケーション能力の素地を養う」ためにはどういった授業にしたらいいのか試行錯誤しながら取り組んできた。11月に実施した本単元では継続して取り組んできたことに加え、新たな手立てを組み込みながら、授業を行った。以下にその手立てを示す。

- ①授業の始めに1時間の流れや交流方法を視覚的に示すことによって、見通しをもつことができ、主体的な取り組みにつながるであろう。
- ②学習形態を一斉、ペア、グループ、全体とグループサイズを段々大きくしていくことで、自信をもって交流活動に取り組めるであろう。
- ③振り返りカードを用いて、学んだことやできるようになったことを記述したり、毎時教師から朱書きを加え、励ましたりすることで達成感や成就感を味わうことができ、意欲的な取り組みにつながるであろう。
- ④フラッシュカード、チャンツ、復習すごろくなど教具を工夫することで意欲的に取り組めるであろう。

⑤

2) 授業の実際

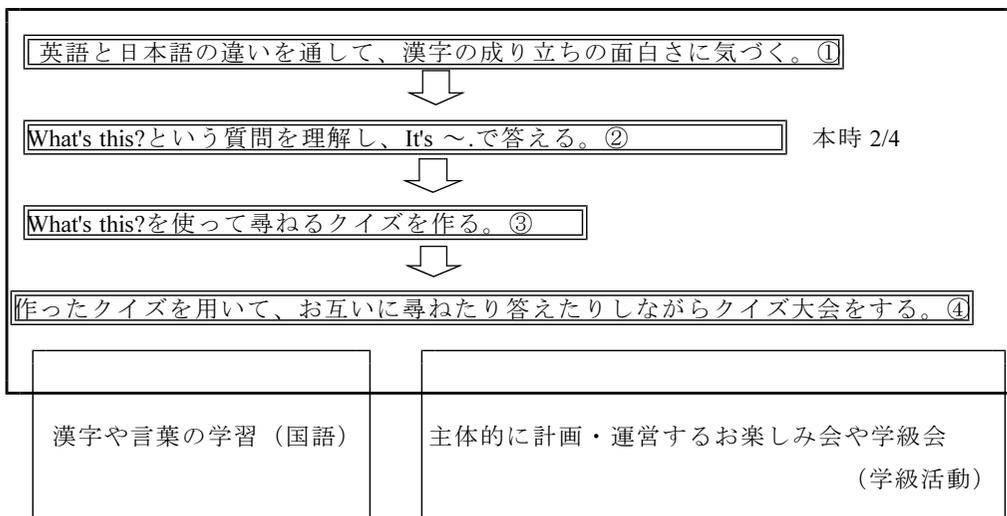
単元への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）
○習った英語表現を積極的に使って、いろいろな友達とコミュニケーションを図ろうとする態度。
○英語や漢字に共通点があることを知り、言葉を楽しもうとする態度。
○友達と共にかかわり合って、目標に向かって課題解決を図ろうとする態度。

単 元 の 目 標	<p>○「What's this?」「It's ～」の表現を積極的に使って質問したり、答えたりすることができる。</p> <p>○英語を用いたクイズ大会をする中で、コミュニケーションを図る楽しさを体験することができる。</p> <p>○英語の音声やリズムに慣れ親しむことができる。</p>
手 だ	<p>①絵カードやデジタル教材などを用いて、児童の学習意欲を喚起できるようにする。</p> <p>②歌やチャンツなどで、繰り返し英語を声に出して言うことで、抵抗感を無くし、自信をもって表現活動ができるようにする。</p> <p>③ペア、グループ、全体と交流する方法を多様化していくことで、より多くの友達とかかわれるように配慮する。</p> <p>④教師がクラスルームイングリッシュを積極的に使うことによって、児童がより多くの英語に触れることができるようにする。</p> <p>⑤振り返りカードを使い、児童が自らの学びの成果を感じ、学習意欲が持続するようにする。また、毎時間教師からの励ましを添え、次時への意欲につなげられるようにする。</p>

単元の構想（4時間完了）

…本単元 …横断的に関わる教科 …学習内容 ○ …時数



本時の学習

①目標

- ・ What's this?や It's ～.という表現を使って、質問したり、答えたりしようとする。（外国語への慣れ親しみ）

②準備

教師・・・CD、絵カード（教師用、児童用）

児童・・・振り返りカード

③学習過程

・・・本時の目標 学習形態：—個別 —ペア —一斉 —全体交流

階	学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 留 意 点	評 価（評価方法）
つ か む 5	<p>1 ウォーミングアップをする。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>A) Hello, how are you today?</p> <p>B) I'm fine/great/good/happy/sleepy/hungry. And you?</p> <p>A) I'm ~.Thank you.</p> <p>2 本時の学習課題とめあてを知る。 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>○かかわることが苦手な子の近くへ行き、積極的に取り組めるよう促す。</p> <p>○教師も自ら活動に参加することで、望ましいコミュニケーションの仕方の手本となるようにする。</p> <p>○1時間の学習内容とめあてを板書にて視覚的に示すことにより、児童が見通しをもって活動できるよう配慮する。</p>	<p>○既習の英語を用いて積極的にコミュニケーションをとることができたか。（活動の様子）</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>What's this?や It's ~.を使ってたくさんの友達と交流しよう</p> </div>		
と り く む 35	<p>3 What's this?や It's ~.の意味を知り、質問に答える。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4 チャンツをする。 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>○絵カードの一部を見せながら「What's this?」と問うことで、その言葉の意味を児童が考えられるようにする。</p> <p>○「What's this?」に対する答え方は It's の後に物や人の名前が続くことを説明する。</p> <p>○何枚かの絵カードを提示し、It's ~.で質問に答えるよう指示する。</p> <p>○大きな声で自信をもって答えている児童を賞賛し、望ましい姿の基準を共有できるよう配慮する。</p> <p>○英語を自信をもって、楽しく取り組もうとする雰囲気作りに努める。</p>	<p>○英語を使って積極的に話すことができたか。（活動の様子）</p>

	<p>5 What's this?や It's ~.を使って質問したり、答えたりする。</p> <p style="text-align: right;">☞</p> <p style="text-align: center;">【伝え合う力】</p>	<p>○ジェスチャーを付けたり、豊かな表情で取り組んだりしている児童を賞賛する。</p> <p>○絵カードを使うことにより、自信がない児童も積極的に英語が使えるよう配慮する。</p> <p>○英語の言い方が分からない物は教師に聞くよう伝える。</p> <p>○ペアを代えて取り組むことにより、多くの子とコミュニケーションがとれるようにする。</p>	<p>○英語を使って、積極的に友達とかかわることができたか。</p> <p style="text-align: center;">(活動の様子)</p>
<p>まとめ</p> <p>5</p>	<p>6 振り返りカードを書く。 ☞ → ☑</p> <p>7 次時の学習内容を聞く。 ☑</p>	<p>○本時を振り返り、分かったことやできるようになったことを記入するよう指示し、1時間の成長が実感できるようにする。</p> <p>○見本となる子を指名し、発表させることにより、よりよい基準を共有できるようにする。</p> <p>○次時の予告を聞き、意欲を上げられるようにする。</p>	<p>○分かったことやできるようになったことを書くことができたか。</p> <p style="text-align: center;">(振り返りカード)</p>

④評価

・ What's this?や It's ~.を用いて、多くの友達とかかわり合うことができたか。

⑤板書計画

Lesson.7クイズ大会をしよう

What's this や It's ~.を使ってたく

さんの友達とかかわろう

【絵カード】



【Activity 2 のやり方】

A) What's this?

B) It's ~.

A) That's right./Too bad.

ペアを代えて何度も取り組み

たくさんの友達とかかわろう！

【学習の流れ】

① Warm-up

② Activity 1

③ チャンス

④ Activity 2

⑤ 振り返り

2) 成果と課題

成果

・ 1時間の学習活動を視覚的に示すことにより、児童が見通しをもって主体的に取り組む姿が見られた(図42)。このことにより、学習活動に多くの時間を費やすことができ、

効果的な学習をすることができたように感じる。これは他の教科でも継続して取り組んでいることであるので児童も慣れているようであった。

・ What's this?と It's ～.という重要表現を学習形態を代えて繰り返し練習したことで、段々と自信をもって英語を使うことができていた。メインの学習活動 5 では男女関係なく多くのペアと英語を使って交流活動ができていた。



・ 振り返りカードを用いることで、意欲を継続して活動ができていると感じた。また、文字にすることで自分の成長を実感する場ともなっているようであった。

図42 板書で授業の流れを示す

【児童の振り返りカードより】

- ・ 英語で「What's this?」と聞くのが楽しかったです。ペアを代えてたくさんの友達とかがわれてよかったです。
- ・ What's this?を使ってみんなとたくさん交流できました。1時間がすごく短く感じて、15分くらいしかやっていないように感じました。すごく楽しかったです。

・ 今まで習った単語をフラッシュカードにした物を使った学習活動はとても意欲的に取り組んでいた（図 43）。復習にもなるし大変効果的だと感じた。また、復習すぐろくにも楽しく取り組んでいた。

課題

- ・ 生活に密着したよ必然性の高い状況設定をして交流活動ができるとよい。
- ・ 児童も簡単なクラスルームイングリッシュを積極的に使っていけるような工夫をした



図43 フラッシュカードを用いた学習活動

（４）中学校２年 社会科 享保の改革

１）手立て

本単元は「産業の発達と幕府政治の動き」である。幕藩体制の揺らぎに対して幕府の行った改革を幕府・諸藩・農民などの立場で考えさせたい。本時では、享保の改革を扱う。研究テーマである「すすんでかかわり合い、高め合う子どもを目指して」に沿って、仮説「意欲的にかかわりながら、自分の考えを深めるように取り組む」の検証をする。以下に、具体的な手立てを示す。

手立て① 導入での意欲づけ

幕府が財政難であると一目で分かるグラフ（徳川綱吉の時代の幕府財政の歳入と歳出）を用いる。なぜ財政難であるのかと疑問を持たせ、意欲づけをすることで、幕府が改革を迫られた必然性が理解でき、享保の改革への学習の意欲につながると考える。

手立て② 記録用紙を用いたグループ交流の活用

享保の改革という一連の政治改革が成功だったのか、失敗だったのかを生徒に考えさせることでさらに学びたいという意欲をかきたてることができると考える。話し合いに記録用紙を用いることで、整理をしながらグループの意見をまとめることができるだろう。「享保の改革は成功だったのだろうか」という課題で、成功か失敗のどちらかを選択し、個人で考えをまとめた後、グループの意見としてまとめる。

手立て③ ふりかえりカードの活用

課題に対して、自分の考えがグループや全体での交流を通して深まったかどうかをふりかえるために、ふりかえりカードを用いる。毎時間記入することで、学習の足跡を残していくこととなり、意欲を高めるのにつながると考える。

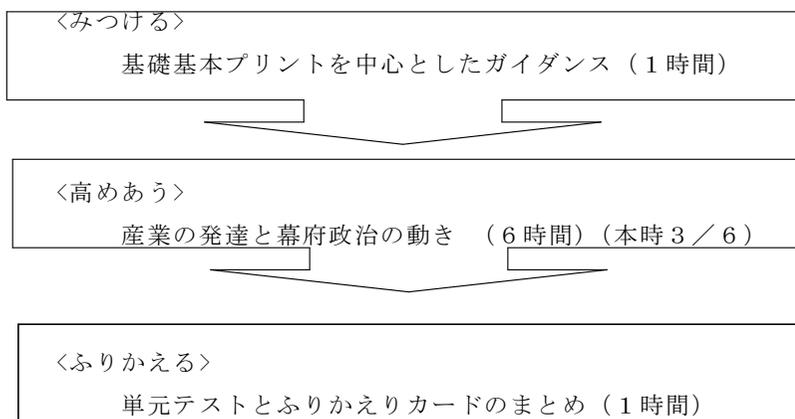
2) 授業の実際

ア. 単元構想

①単元の指導意図

農業の進歩や諸産業の発達から貨幣経済が浸透し、文化では上方の元禄文化、江戸の化政文化が開花した。その一方で、幕府は改革を迫られ、享保の改革・田沼の政治・寛政の改革・天保の改革と続く。そうした幕藩体制の揺らぎに対してそれぞれの改革を比較させ、幕府・諸藩・農民などの立場で考えさせたい。

② 単元計画（8時間）



イ. 本時の目標

- ①享保の改革の各政策が幕府の財政にどのような影響を与えたのか資料からつかむことができる。
- ②自分の意見を持ち、班で意見をまとめることができる。

ウ. 本時の学習過程

学習課題

学習活動・内容

手だて

生徒の活動・反応	形態	教師の支援・評価
<p>① チェックテストを行う (4分)</p> <p><みつける></p> <p>学習目標・方法のガイダンス</p>	全体	<p>・チェックテストを行い、前時の学習の復習をするよう伝える。</p>
<p>② 本時の学習内容を知る (1分)</p>	全体	<p>・幕府が財政難である資料から、農民が貨幣経済に巻き込まれたこと等が幕府の財政悪化の原因になったことを確認する。</p>
<p>③ 幕府が財政難である背景を確認する (5分)</p> <p>幕府のお金がなくなる。</p> <p>幕府は何をしていったんだ。</p> <p>ぜいたく三昧だね。</p> <p>享保の改革は成功したのだろうか。</p>	全体	<p>・教科書や資料集から調べるよう指示する。</p> <p>・上げ米の制、新田開発、公事方御定書等政策名と内容を簡潔にまとめるよう伝える。</p>
<p>④ どのような政策があったかを調べる (10分)</p> <p>上げ米の制 参勤交代を軽減し、その分米を献上する</p> <p>新田開発 米の量が増える</p> <p>公事方御定書 裁判の基準</p> <p>目安箱 庶民の声を聞く</p> <p>定免法 一定量の年貢を徴収</p> <p><高め合う></p>	個	<p>・享保の改革が成功したかどうか考えるために政策の内容を理解できるように、机間支援する。</p> <p>【評】どのような政策があるのかを調べ、その内容をまとめることができたか。</p>
<p>⑤ ④をもとに享保の改革が成功したかを考える (10分)</p> <p>成功</p> <p>失敗</p> <p>上げ米の制で幕府の収入増加 年貢米が増えた</p> <p>定免法で農民の負担大きい 打ちこわしが増えた</p>	個	<p>・享保の改革の各政策がその後どのような影響を与えたのかを考えるよう伝える。</p> <p>【評】享保の改革の各政策が幕府財政にどのような影響を与えたのか資料から考察することができたか。</p>
<p>⑥ 班で意見をまとめ発表する (15分)</p>	班	<p>・自分の意見を伝え合い、班の意見としてまとめるよう助言する。</p> <p>【評】自分の意見をもって参加し、自分の役割を果たすことができたか。</p>
<p>⑦ 百姓一揆や打ちこわしが多くなったことを確認する (2分)</p>	全体	<p>・教科書のグラフで確認するよう伝える。</p>
<p>⑧ 本時の学習のふりかえりを記入する (3分)</p> <p><ふりかえる></p> <p>ふりかえりカードの活用</p> <p>次時の予告を聞く</p>	全体	<p>・分かったことや感想を書かせるとともに、自己評価をするように伝える。</p>

エ. 本時の観点別評価規準と評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	享保の改革が成功したかどうか、自分の考えをもち、積極的に話し合うことができる。	観察・ノート ふりかえりカード
社会的な思考・判断	享保の改革の各政策が幕府の財政にどのような影響を与えたのか、資料から考察することができる。	観察・ノート

オ. 板書計画

享保の改革と社会の変化	<u>享保の改革は成功したのだろうか</u>	<u>班の意見</u>
幕府が財政難である背景	上げ米の制 定免法	成功 失敗
農民が貨幣経済に巻き込まれる		年貢米が 定免法負担
綱吉の時代 財政悪化	新田開発 目安箱	増えた 大きい
	公事方御定書	<u>百姓一揆・打ちこわし増加</u>

3) 成果と課題

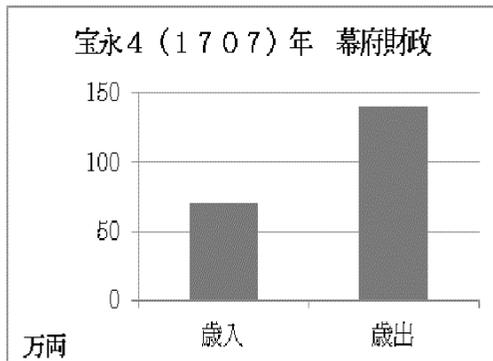


図44 幕府財政難のグラフ

手立て① 導入での意欲づけ

成果

図 44 左のグラフから、生徒は幕府が財政難であることが一目で分かり、そのために改革が必要であったことが理解できた。

課題

導入として、徳川綱吉の時代の財政難を取り上げ、幕府の歳入歳出のグラフを扱ったが、財政難とは税収の不足と歳出が多すぎることの二点であるため、財政難というには不十分であった。

手立て② 記録用紙を用いたグループ交流の活用

成果

グループでの意見を短い言葉でまとめることができたので、全体交流のときの発表がしやすかった (図 45)。

課題

課題の「享保の改革は成功したのだろうか」というのは、失敗のイメージが強いため、「享保の改革は成功か、失敗か」というように分かりやすく適切な発問をする必要があった。財政難を立て直すにはどうすればよいのか、単元の指導意図をより踏まえたうえで、幕府や武士、農民など立場を考えさせて話し合わせたほうが良かった。

生徒は、グループで話し合ったり交流したりする活動には慣れており、積極的に活動することができる。しかし、グループ間で差があることや全員の意見がグループの意見に反

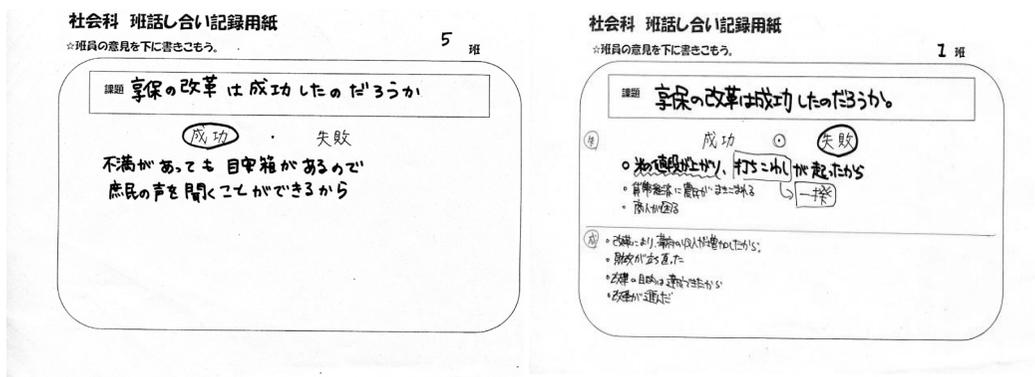


図45 グループでの話し合い記録用紙

映されないことが課題である。まずは個人で課題にしっかりと取り組み、それをグループ交流になったときに持ち寄って、それぞれの考えが合わさりグループの意見としてまとめることができる姿を目指している。グループ交流では、考えのまとまっている生徒の意見がそのままグループの意見になってしまうこともある。そうではなく、全員の意見がミックスされ、新しいグループの意見となるようにしていきたい。

手立て③ ふりかえりカードの活用

成果

生徒にとってふりかえりカードは、1時間1時間の自分の学びをふりかえるものになっているようだ。ふりかえりカードの「分かったこと・分からなかったこと」を書く欄に、具体的に書くことができるようになってきた。

課題

ふりかえりカードを活用するためには、書く内容の指示の徹底や次の授業でふりかえりカードに書かれていたことを紹介し全体で共有していきたい。

【生徒のふりかえりカードより】

- ・享保の改革についていろんな班の意見を聞いたから、いろいろ分かった。
- ・5代目の将軍の綱吉とは対照的に、吉宗はきちんと政策を行っているので人ってそれぞれだと思いました。

(5) 中学2年 英語科 Speaking Plus 3 病院で一体の不調をうったえる

1) 手立て

学び合い2部会のテーマである「すすんでかわり合い、高め合う子どもを目指して」という、生徒同士で互いに学習を深めていくためには、どのような手立てや仕かけをしていくべきかを模索してきた。英語科では、日常の会話や定型表現、自分の気持ちを英語ではどのように表現するのかを学習するが、その際にただ基本の表現を覚えるだけではなく、実際に口にするときには、その表現に気持ちが表れるような表現の仕方が大切だと考える。

特にペアでの基本表現練習の場面では、手立てや仕かけに工夫をすることで互いによりよい表現を高め合える機会ではないかと考える。

今回あげた単元では、話すことに重点を置いている為、以下のような手立てを用いて授業を行った。

手立て① 個で本時の基本表現について確認、練習する。

ペアで練習し、互いに表現を高め合う前に、しっかりと基本表現を定着させて自分なりの表現の仕方をおさえておくことで、より相手との会話の中で様々な表現の捉え方、表し方を交流できると考える。

手立て② ペアで本文の入れ替え文を作り、練習する。

重要文のところが抜けたワークシートに、いくつかある定型表現の中から、自分が表したい表現を入れ、互いに練習し合う形をとった。これにより、自分が使いたい表現、より気持ちを込めやすい表現を入れることができるのではと考える。

手立て③ 生徒同士による評価・感想

役柄も交替し、何度か会話をした後、互いにそれぞれの役柄の際の評価を付けられる欄をワークシートに付けた。また、普段使用している振り返りカードの代わりに今回はコメント欄を同じくワークシートに付けた。自分の会話がどうだったのか目に見える形にすることで、実際の表現力がどの程度養われたのかを明確にすることができる。また、コメントを書く際には、本時の会話で自分がどういった点に工夫をしたのか、ペアの表現の仕方で良かったところ、次回自分が使いたい工夫はどこだったかを書くように伝えた。

2) 授業の実際

単元構想

ア. 単元の指導意図

本単元では、病院での診察の際に用いられる表現と自分の体の不調のうったえ方を学習する。1年生ではI have ~で「～を持っている」という表現を学習済みだが、今回はその後症状を表す単語を付けることで、自分の具合についてうったえる表現を学習する。生活の中で体調を崩してしまうことや、相手の具合についてたずねることは日常的にある。そういった場面では、I have ~を使った表現があることをおさえ、対話文形式で練習を行い、定型表現として定着させたい。また、症状をたずねるドクター役と体の不調を訴える役であるため、基本文を練習し定着を図るだけでなく、それぞれの会話の表現の際には、相手を心配しながらのたずね方や、体調を崩しているよううったえ方をおさえ、より自然な会話に近づくようこれらの言葉の表し方を定着させたい。ペアでの活動から基本文や会話に必要な表現の仕方の定着を図り、高め合えることが学習のねらいである。

イ. 単元計画（1時間）

1単元1時間の構成の教材である。ここでは態度的な領域も含めて3点の目標を掲げた。

①みつける 相手の症状のたずね方、自分の症状をうったえる表現を学習する

②高め合う 相手の症状をたずねる文や自分の症状をうったえる対話文を作り、ペアで練習をする。

③ふりかえる 自分の症状のたずね方や、症状をうったえる表現工夫のふりかえり
相手の症状のたずね方や、症状をうったえる表現の評価

内容の習得面の課題は次のとおりである。

病院の診療で用いられる表現を理解し、自分の体の不調について説明できる。

ウ. ひとりひとりに「響きあい高めあう学び」を与えるポイント

響き合い高め合う学びの場面

○基本表現をもとに相手の症状をたずねたり、自分の症状をうったえる文を作り、ペアで練習をして、自分なりに表現する姿を学び合う場面。

ポイントとなる手だて

○ペアで基本表現を練習をすることで、どの生徒も参加できる状態をつくる。

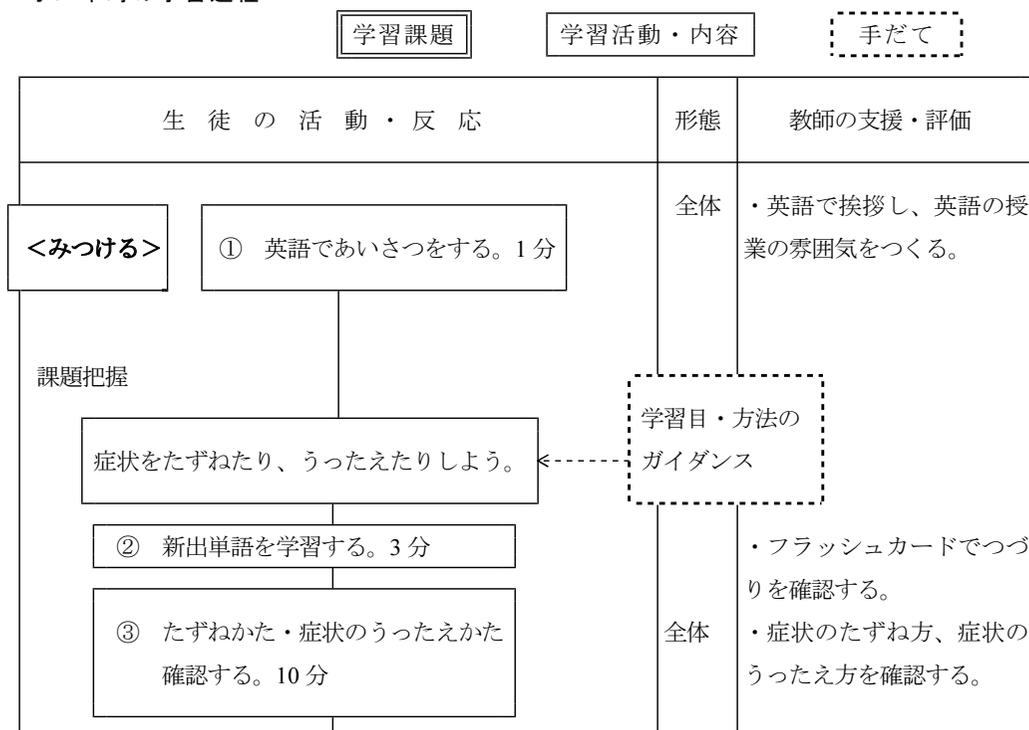
○基本表現を使ってスムーズにペアで練習できるようワークシートを準備し、基本表現の定着を図る。

エ. 授業づくりの視点

○基本表現の練習に積極的に取り組めたか。

○基本表現の練習で学びあい・高めあう場面が設定され、生徒は主体的に仲間にかかわれたか。

オ. 本時の学習過程



④ 基本表現をもとに入れ替え文を作成する	個人	・症状の程度についてのたずね方や、その答え方についても確認する。 ・役になりきり、立場を考へながら感情を込めて練習をするよう助言する。
<高め合う>		
⑤ 基本表現を入れ替えて作った対話の練習をペアで練習する。	ペア	
<ふりかえる>		
⑥ 症状のたずね方や自分の症状をうたえる基本表現を理解し自分なりの表現をできたかをふりかえり、ワークシートの記入欄に記入する。また、ペアの相手からも評価を記入してもらう	個人	

カ. 本時の授業の観点別評価規準と評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアで協力しながら、意欲的に会話練習に取り組むことができる。	観察 ふりかえりカード
表現の能力	基本表現を使って、対話をすることができる。	観察

キ. 板書計画

目標 症状についてたずねたり、うたえたりしよう。	
What's wrong? どうしましたか。	I have a ~. headache 頭痛がします。 stomachache 腹痛がします。 fever 熱があります。 runny nose 鼻水がでます。 pain here ここが痛いんです。

4) 成果と課題

これまでにペアでの練習やペア発表の際には、ただ相手の表現を聞くのではなく、会話としてよかったと思われた点や、工夫されている点があったか、それはどんな表現の仕方だったのかをポイントにおくよう伝えてきた。そうすることでより自分の表現の仕方も豊かになっていけることも伝えておき、会話として感情のある定型文の定着を図った。また、振り返りカードやワークシートへの記入の際にも、後で見返した時にまた自分の気付きを忘れないように書き留めておくよう伝えてきた。

今後の課題として、表現の上達を図るため、互いにポイントを伝え合うには、どう言葉にして伝えればいいのか生徒同士上手く伝える表現が難しかったことがあげられる。振り返りカードの記入でも、具体的にまでは中々表現にして書けなかったことなどがあり、教師側から、表現のポイントをあげておくことや、気付きにも例をいくつかあげるなど、定着を図るための手立てが必要だと考える。

(6) 中学校3年「私たちを取り巻く消費者問題に対して関心を高める取り組み」

1) 手立て

私たちの周りには、消費生活を送る上での情報があふれている。私たちは、それらの情報を十分活用し、生活に役立てながら生活を送ることができているだろうか。実際のところ、不正確な情報や、消費者に不利な情報も多く、それらを見極める目を持たなければ賢い消費者として日々の生活を送ることは難しい。

中学生にとっても、様々な情報が氾濫している中で、正しく情報を読み取り活用する力が必要であると考えられる。そこで、現在の消費者問題に目を向け、事例を学習することで、不利益な消費行動を起こすことを防いだり、さらに、消費行動がより活発になる将来のためにも、情報を精選する姿勢を身につけるきっかけとなる授業を展開したいと考えた。以下にその手立てを示す。

- グループでチラシ広告や不当表示等に関する新聞記事を見て検討し、不当表示に当たるかどうかを検証する。
- 自分の体験から事例を見つけ、出し合うことで、今後活かすべき消費者としての心構えを見出す。

2) 授業の実際

ア. めざす生徒像

- ①消費者を取り巻く問題に関心をもち、消費者としての態度を考えようとする生徒。
- ②自分や家族の消費生活を見つめ、問題点に気づき、その解決方法を探究できる生徒。
- ③よりよい消費生活を送るための問題解決に向け、主体的に働きかける生徒。

イ. 生徒の実態

生徒は消費生活について関心を持ち、情報を得るのも早い。しかしそれらの情報を有効に利用し、生活に活かすことは十分にできていない。

多くの情報に目を向ける中で、信頼するに足る情報であるかを点検する視点を身につけたり、それをもとに自分の消費生活を見直す姿勢を持つことが必要であると感ずる。

ウ. 本時の目標

現在の消費者問題の事例を学習することでそれらが自分たちに身近な問題であることを認識し、その解決にむけ、主体的に働きかけることができる。また、グループで問題点を検討することにより、解決方法の探究を深め、今後の生活に活かしていける態度がとれる。

エ. 本時の学習

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
つ か む 5 分	1 消費者が不利益を被るニュースなどの事例を思い起こし書き出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">消費生活における問題点に気づき、行動に活かせる消費者になろう。</div>	・事例が思い浮かぶように、中学生に身近な例も挙げながら支援する。	思い起こしたことを表現できたか(プリント)
取 り 組 む 25 分	2 2009年に発足した消費者庁についてその活動内容などを学習する。 3 景品表示法に違反している事例を消費者庁のガイドブックで学習する。 4 チラシ広告や不当表示等に関する新聞記事を配布し、班で不当表示にあたるかどうか検証する。 5 今まで自分で経験した不当表示と思われる事例をグループで出し合う。 6 グループで検証した結果を、全体に発表する。	・実際の事例を紹介しながら理解が深まるよう支援する。 ・話し合いで出した内容を画用紙に書き、情報を共有する。 ・事例が出にくい生徒には、例を示し発言しやすいよう支援する。	積極的に取り組むことができたか(観察)
深 め る 15 分	7 検証した結果をふまえて、自分たちの消費行動に活かすためには何をすべきか話し合う。 8 前の黒板に書いて全体に発表する。	・話し合いを深めるべく、全員が発言できるよう留意する。	実践的な意見を述べることができたか(観察)
振 り 返 る 5 分	9 本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。	・次時につながる学習を予告し、つながりを持たせるよう留意する。	本時の学習に意欲的に取り組めたか(学習カード)

〔景品表示法違反の例〕

〈不当な表示の禁止〉

- ・食肉のブランド表示の偽装
- ・害虫駆除器の効果
- ・アクセサリーの原材料の虚偽表示
- ・運送業者の割引運賃
- ・パソコンの性能表示
- ・携帯電話通信業者の料金
- ・予備校の合格実績広告
- ・不当な二重価格表示
- ・ダイエット商品の効果
- ・おとり広告に関する不当な表示

〈過大な景品類の提供の禁止〉

- ・一般懸賞による景品類の提供制限
- ・共同懸賞による景品類の提供制限
- ・総付景品の提供制限

3) 成果と課題

生徒は興味を持ってチラシ広告等に目を通し、気づいた点を班員に伝え合うことができた。普段あまり疑問を持たずに見ている広告にも不当表示が疑われるものも数多く存在することにも気づくことができた(図46)。

自分の経験による不当表示等の誤認を招く表示を出し合う活動においては、思い当たる経験が多くの生徒にあり、情報を共有することができた。自分たちのこれからの消費行動に活かすべきことに関しては、表示を良く見るということや、情報を鵜呑みにしないといったあたりではあるが基本的なことを出し合うことができた。出し合うことで実践的な対処法を見出すことができた(図47)。

今後の課題としては、消費者問題は不当表示だけでなく、悪徳商法や通信手段を使った物資の購入やサービスの利用によるトラブル等も多いので、本時の授業の前後とも連係してより深めることができるような取り組みを盛り込んでいきたい。そして、生徒同士の意見を交換することで、より正確に情報を読み取る力をつけさせていきたい。



図46 景品表示法がイトブック等



図47 グループでの検討

3 グループ全体の成果

- ・児童同士が自分の考えをもとに、アドバイスし合うことで、活発に意見が交流され、高め合うことができた。
- ・互いによりよい表現のポイントを伝え合うことで、自分に足りなかった表現の仕方を学び合うことができた。振り返りカードに具体的に気付けたポイントについて書き留めて

おくことで、次の表現発表をよりよくする手立てになった。

- ・話し方や聞き方のルールを確認することによって、感じのよい話し方や聞き方に気をつけて話すことができた。

4 グループ全体の課題

意欲的に関わることで、お互いを高め合うことを期待して、グループでの話し合いを行ったが、小学校の実践では、児童の自治的能力の不十分さのせい、認め合うことはできても、緊張感を持った話し合いの中で生まれるお互いの高め合いにまで達することは難しかった面がある。お互いを評価したり、アドバイスを言ったりすることも、ほめるだけで、今後の参考になるアドバイスを聞き手として話し手に伝えることは十分にできなかった。お互いを「評価する力」を高めることに重きを置いて、話し合いが深められる関係性や言語活動を行っていくことが課題である。多くの児童同士が交流をはかることを活動の中心とする授業においては、生活に密着したより必然性の高い状況設定をして交流活動を行っていききたい。

中学校の実践では、話し合いの意図や指示が不明確であると浅い話し合いで終わってしまうこともある。予め決められた答えを導くだけの話し合いだと、グループ全員の意見は反映されず、発言力のある生徒の意見がそのままグループの意見となってしまう傾向もある。話し合いをより有意義なものにするためには、まず個人レベルで語れるだけの意見を持つことが大切ではないか。また、話し合いが単発で終わってしまわないよう単元全体的見通しを生徒に持たせることも課題であると考え。それができたら生徒も学習の本質に近づく議論をし、よりお互いを高めることになるのではないか。

5 終わりに

今回、学び合い高め合う子どもたちの姿を具体的にイメージしながら、様々な手立てを講じて研究に取り組んできた。その取り組みを通して全員が共通して感じたことは、「教師が試行錯誤して深く考えた手立て」については子どもたちもよい反応を示してくれることが多いということだ。もちろん、考えに考え抜いたものであっても反応がよくないことはある。しかし、そういった実践であれば「次こうしたい。」という改善点が見つかったり、ヒントが見つかったりと次へ繋がっていく実践になることが多いのである。こうした点に私たちは研究的実践を積み重ねる意義を感じている。教師の活動というのは、実践とそれに基づく反省と改善の繰り返しである。今回手応えのあったものについては追試や改良を加えながら、これからも研究的実践を積み重ねていきたい。

生徒一人一人が主体的に取り組む楽しい理科の授業を目指して 一人一人が自分の役割・責任を意識して互いに関わり合い高め合う授業づくり

井戸 真澄（犬山市立城東小学校）
山下 知子（犬山市立南部中学校）
畑中 彩（犬山市立南部中学校）
竹下 希望（犬山市立南部中学校）
櫻井 由貴（犬山市立城東中学校）
吉田 朋広（犬山市立城東中学校）

はじめに

これまで理科の授業では、グループ活動が主となる生徒主体の学び合いを進めていたが、実験や話し合いの際には一部の積極的な生徒がリードして進め、苦手意識のある生徒は傍観者となっているという実情が浮かび上がった。そこで本グループでは、どのような子どもを育てたいかという「めざす子ども像」として、「主体的に取り組み、理科が楽しいと思える子ども」を設定した。

生徒が主体的に取り組むための手だてとして、本グループでは神戸大学附属住吉中学校らによる『生徒と創る協同学習 授業が変わる学びが変わる』（明治図書）で紹介されている「理科における協同学習の方法」を参考にした。そこには、小集団で1つの目標を達成するために役割分担をすることで相互協力関係を高めるための協同学習の方法が示されている。その中でも特に「作業別役割分担」「観点別役割分担」と呼ばれる役割分担に注目した。

「作業別役割分担」とは、「小集団の4人をリーダー、準備、操作、記録に分け、それぞれの役割が1つでも欠けたら実験・観察が成立しない仕事や学習内容に関わる役割を与える」というもので、「観点別役割分担」とは、「1つの課題に対して、課題にせまるための観点をいくつか用意し、その観点別に役割を分担し、自分の与えられた観点のみを考察し、その後小集団でそれぞれの観点を発表し合う」というものである。このような役割分担をすることによって、小集団内の個人は任された学習内容に対して責任をもつことができると示されている。

一人一人の責任が高まれば授業に対して積極的に取り組むことができ、その結果として主体的に取り組むことができるのではないかと考えられる。今回の研究では4通りの役割分担を実践し、その成果と課題の考察を行った。

1 仮説

生徒自身が自ら考え、自ら学ぶ姿勢を身に付けることで、理科の授業をより楽しく受けられるようになることを期待し、研究の仮説を次のように設定した。

生徒一人一人に役割を与え、責任感をもたせることで、授業に主体的に取り組むようになり、全体の参加度が高まり理解力が向上するであろう。

さらに、次に発表しなければならないような目的がある状況での話し合いなら、より積極的に話し合いに参加できるのではないかと考えた。

【楽しい理科の授業とは…】

- ・ 授業内容が理解できる
- ・ 活躍できる場がある
- ・ 仲間とともに学べる
- ・ 自分の考えがもてる、伝えられる→言語能力が高まる
(仲間の意見が聞きたくなる)

2 研究の手立て

【手だて1】一人一人に役割を与える

実践

理科では、4人1グループで実験を行っている。一人一人に責任感をもたせるために、実験の作業を教師が割り振り、生徒全員が役割をもてるようにする。

4人グループをさらに少人数のグループに分割し、別々の実験の説明を聞くなどして、一人一人に与える責任を重くする。

【手だて2】グループの中で一人一つの実験を担当させる。

実践2 実践3

生徒が一人でも行える簡単な実験において、グループの人数分簡単な実験を用意し、一人1実験を担当させることで、準備から実験、片付けまでの作業を責任をもってできるようにする。

【手だて3】話し合いの工夫

実践4 実践5

一度普段のグループで話し合い活動を行った後で、グループの中から一人ずつ抽出し、新しいグループを再編後、元のグループで話し合っただけの意見や考えを交流できるようにする。グループでの話し合いの後、そのグループの意見や考えを他のグループの仲間に伝えるグループ間交流の時間を作ることで、グループのメンバー一人一人が話し合いに積極的に参加できるようにする。

主に、単元の中に実験や観察を行うことが少ない2分野の授業で行い、教師の話の聞いているだけの授業にならないようにする。

【手だて4】単元を通して役割を分担する

実践5

【手だて1】での役割分担を単元を通して授業ごとでローテーションすることで、それぞれの役割の大変さや、どの役割も大切であること、自分が主体的に参加しないと仲間も困ることなどを実感できるようにする。

役割① 実験のやり方や注意点を教師に聞きに行く係（アドバイス係）

役割② 実験の準備や片付けを含め、仲間に指示し、実験を積極的に進める係（実験係）

役割③ 実験の結果を記録する係（記録係）

役割④ 班の考えをまとめ、発表する係（まとめ係）

3 研究の実際

実践1 動物の生活と種類「食物はだ液によってどのように変化するのか説明できるようになる」（中学校 第2学年） 【手だて1】

（1）本単元について

本単元の目標は、「身近な動物についての観察、実験を通して、動物のからだのつくりとはたらきを理解させるとともに、動物の種類やその生活についての認識を深める」である。これまでに、小学校では、第3学年で「昆虫と植物」、第4学年で「人の体のつくりと運動」、第6学年で「人の体のつくりと働き」について学習している。また、中学校第1学年で「植物の生活と種類」について学習している。ここでは、生物の観察、実験を通して、細胞レベルで見た生物の共通点と相違点に気付かせるとともに、動物の体のつくりと働き、その体のつくりなどの特徴に基づいて分類できることなどを理解させ、動物についての総合的な見方や考え方を養わせたい。

また、いろいろな動物を比較して共通点、相違点について分析して解釈し、「地層の重なりと過去の様子で」学習したことと関連させながら考えさせることを通して、生物が進化してきたことを理解させ、生物を時間的なつながりで捉える見方や考え方を身に付けさせることが主なねらいである。さらに、植物と動物の生活の種類で学習した生物の多様性は、進化によってもたらされたものであることを通して、生物についての総合的な理解を深めさせるとともに、生命を尊重する態度を育てることが大切である。

（2）生徒の姿のとらえ

生徒たちの中には、理科に対して苦手意識をもっていたり、理科が嫌いである生徒が多い。理科の授業の中で実験や観察は好きな生徒が多いが、授業中の態度を見てみると、実際に作業しているのは一部の積極的な生徒であり、授業に積極的に参加できている生徒は少なく感じる。また、事前アンケートの結果から、授業中に自分の考えをもったり、自分の意見を発表したりすることに関してできていない生徒が多くいる（図48）。

（3）具体的な支援の手だて

一人一人に教師から役割を与え、生徒が各自の役割を果たすという責任感をもつことにより、全員が積極的に授業に参加できるようにする。今回の授業は、実験により食物がだ液によってどのように変化するかを調べるものである。ここでは、ヨウ素液とベネジクト液という異なる2種類の試薬を使用する実験を行う。実験の説明の際に、4人グループを二分割し、2人はヨウ素液を使用する実験の説明を、別の2人はベネジクト液を使用する実験の説明を聞くように指示する。その際に各実験での実験リーダー係（実験中の指示

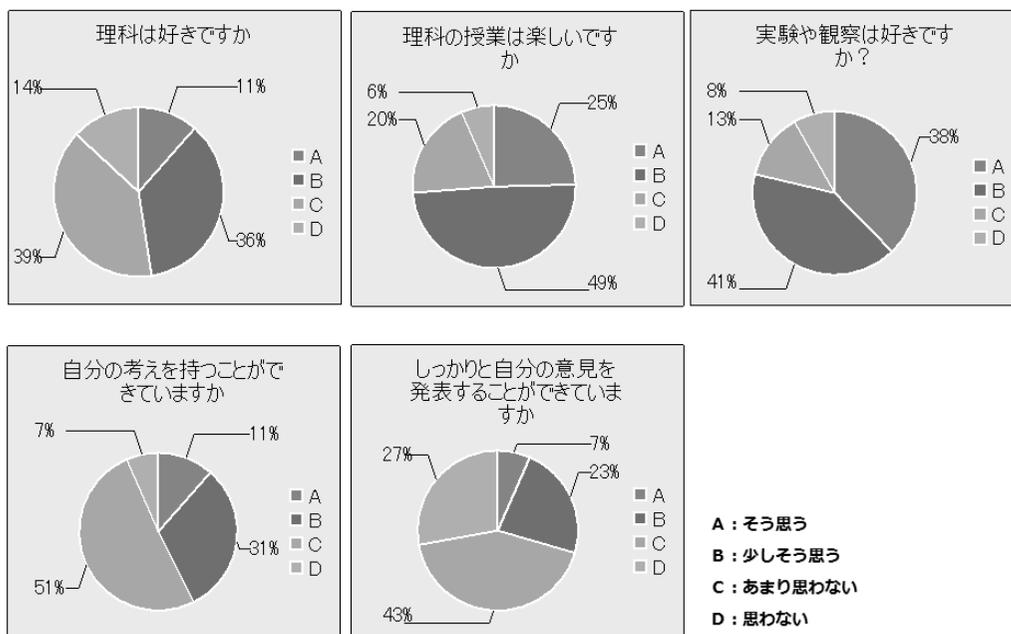


図48 事前アンケートの結果

をする係)と記録係(実験の説明の注意事項や、実験中の記録をする係)を決める。

一人一人に係が割り振られるということは、その役割を果たさなければ、グループ全体の実験結果がうまく得られないことを生徒に伝え、各自の働きの重要性を確認させた後、実験に入るようにする。

(4) 授業の実際

1) 目標と評価基準

目標	消化や吸収についての観察、実験を行い、動物のからだには必要な物質を取り入れるしくみがある。	
評価基準	関心・意欲・態度	①動物がどのように養分を吸収しているか関心をもって実験に取り組むことができる。 ②実験内容を理解し、意欲をもって実験レポートの作成ができる。
	科学的思考・表現	①だ液の働きを対象と比較して考察することができる。 ②実験を通して消化液や消化酵素の存在やはたらきを推定できる。
	観察・実験の技能	①実験手順を理解し、安全に配慮して実験を行うことができる。 ②実験操作にどんな意味があるのか理解することができる。 ③原因を明確にするため、対照実験という方法を身に付けている。
	知識・理解	①だ液の中に存在する消化酵素が、デンプンを糖にすることを理解している。 ②消化酵素が37℃前後で最も活発にはたらくことを理解している。

2) 学習計画 (10時間完了 本時4/10)

- ① 養分はどのようにとり入れられるの ----- 5時間 (本時)
- ② 養分は細胞でどのように使われるのか ----- 2時間
- ③ 血液のはたらきを調べよう ----- 2時間
- ④ 不要物はどのように体外に出されるのか ----- 1時間

3) 授業の経過

学習形態：個別→ ペア→ グループ→ 全体→ 一斉→

段階	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
つ か む 5 分	1 前時の学習を振り返る。 <input checked="" type="checkbox"/> ・消化器官や消化酵素 2 本時の課題を把握する。 <input checked="" type="checkbox"/>	・実験のポイントとなる「デンプンはだ液によってどのような影響を受けるのか」、「だ液のはたらきに適した温度は何度くらいか」について確認する。日常生活でご飯を口の中に入れて長時間かんでいると甘くなるなどの経験を思い出させ、本時の学習課題への興味関心を高める。	本時の学習課題に興味・関心をもつことができたか。(発表・行動観察)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 食物はだ液によってどのように変化するか説明できるようになる。 </div>		
取 り 組 む 30	3 グループで2名ずつに分かれてヨウ素液を入れる実験とベネジクト液を入れる実験の説明を聞く。 <input checked="" type="checkbox"/> (理科室前方) ヨウ素液の実験 (理科室後方) ベネジクト液の実験 ・2名のうちでさらに、実験リーダーと記録係を決めておく。 4 実験に取り組む。 <input checked="" type="checkbox"/> ・ヨウ素液の実験 ・ベネジクト液の実験	・各自の責任感を高めるために少人数で異なる実験の説明をする。 【手だて】 [T1・T2] ・スムーズに実験が進むようにメモを取りながら聞くように指示する。 [T1・T2] ・机間指導をして、正しく安全に実験が行われているか、確認する。 [T1・T2] ・各自決められた役割を責任をもって	実験器具を正しく扱い、安全に配慮して実験を行うことができたか。

分		果たすように指示する。[T1・T2] ・作業が遅いグループについては実験の操作や手順についてのアドバイスをする。 [T1・T2] ・だ液は水を口に含んで吐き出すように指示する。	(行動観察)
5分	5 実験器具を片付ける。 <input type="checkbox"/>		
深め	6 実験結果を表にまとめ、気付いたことを各自考えた後、グループで話し合う。 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/>	・実験結果をまとめて個人の言葉でまとめが発表できるように指示する。 [T1] ・司会、発表、記録、集配係を決め、話し合いがスムーズに進行するように指示する。	グループの話し合いに進んで参加しようとしたか。
10分	7 グループでまとめたことを全体で発表し、デンプンに対するだ液のはたらきについてまとめる。 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> ・だ液はデンプンを糖に分解する。	・教師側が結論を言うのではなく、生徒の意見からまとめるようにする。 [T1]	他のグループの発表を聞く態度をしていたか。
振り返る	8 学習カードを記入し、本時の学習内容への取り組みや理解度を評価する。 <input type="checkbox"/>	・学習への成果や取り組みについて賞賛するとともに、今後の学習について知らせる。 [T1・T2]	学習の成果や取り組みを正しく評価することができたか。
5分			(学習カード)

(5) 成果と課題

グループの中で分かれて実験の説明を聞くことで、「誰かが聞いていてくれるから自分は聞かなくてもいい」と考える生徒は少なくなったと感じた。また、それぞれに役割ができたことで、自分たちが行う実験に積極的に取り組もうとする姿も見られた。実験の結果を交流する場面でも、活発な発言があった。

しかしながら、ヨウ素液の実験とベネジクト液の実験の2つの実験結果から、「デンプンはだ液のはたらきによって糖に変化する」という1つの結論をまとめる場面では、一部の積極的な生徒だけが意見を出しているグループもあった。また、全員が関わることができるような実験方法にこだわった結果、実験の説明に通常よりも多くの時間をかけることになった。そのため、本時の目標である「だ液のはたらき」について教師が最後にしっかりとおさえることができなかった。

今回の実践で、一人一人に役割ができることにより実験への参加度が高まることは実証できた。しかし、話し合い活動への参加度は低かった。それは、個人で考える時間が少なかったため、自分の考えがまとまりきらなかったのだと考えられる。したがって、個人の

考えをもつ時間を確保することで、話し合い活動の参加度を高めていくことが必要である。また、考えることができている、文章や自分の言葉で説明することができていないので、話型などを示して説明のパターンを作ることで考えをまとめやすくし、その後のグループ内の意見交流に活かせるようにしていきたい。

実践2 電流とその利用「静電気を体感し静電気について考えよう」(中学校 第2学)

【手だて2】

(1) 本単元について

本単元の目標は、「電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活や社会と関連づけて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う」である。これまで、小学校では、第3学年で「磁石の性質」、「電気の通り道」、第4学年で「電気の働き」、第5学年で「電流の働き」、第6学年で「電気の利用」など、電流の働きや磁石の性質について初歩的な学習をしている。ここでは、電流と電圧、電流の働き、静電気に関する観察、実験を行い、電流や電圧、磁界や静電気などについての基本的な性質を理解させるとともに、日常生活や社会と関連づけながら、電流と磁界についての科学的な見方や考え方を養うことが主なねらいである。

(2) 具体的な支援の手だて

今回は静電気の1時間目の授業で、導入の実験を行った。生徒が一人でもできる簡単な実験ばかりを4つ用意した。実験時は4人1グループをつくっているため、グループ内で一人1つずつ実験を担当させることにした。1つの実験を一人で準備から片付けまで行うことで、各自に責任感をもたせ、授業に対する参加度を高めるねらいがある。この際、一人でも役割を果たさない人がいると、そのグループは実験結果が分からなくなることを伝え、各自の仕事の重要性をしっかりと伝えた。また、ワークシート上に実験方法を詳しく記載し、生徒が自ら考えながら工夫して実験を行えるような場面を設定することで、生徒の科学的な思考力を養いたいと考えた。

(3) 授業の実際

1) 目標と評価基準

目標	異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流は関係があることを見い出す。	
評価基準	関心・意欲・態度	静電気の性質や電流回路の規則性、磁界や電流による熱や光の発生などに関する観察、実験を進んで行ったり、それらの事象を日常生活と関連づけて考察できる。
	科学的思考・表現	静電気の性質や静電気と電流の関係や簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性、金属線の電気抵抗などを調べる方法を考え、観察、実験などを行い規則性を見い出すことができる。
	観察・実験の技能	静電気の性質や静電気を電流の関係を調べる観察・実験や簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性、金属線の電気抵抗の

	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、自らの考えを導き出した観察・実験報告書を作成したり発表することができる。
知識・理解	静電気の性質や静電気と電流の関係、簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性、金属線の電気抵抗などの観察、実験を行い、静電気や電流についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けることができる。

2) 学習計画 (28時間完了 本時 1 / 28)

- ① 静電気とそのはたらき 3 時間 (本時)
- ② 回路と電流 14 時間
- ③ 電流と磁界 8 時間
- ④ 電流の利用 3 時間

3) 授業の経過

学習形態：個別→ 個人 → ペア → グループ → グループ → 全体 → 全体 → 一斉 → 一斉

段階	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
つ か む 5 分	1 本時の課題を把握する。 <input type="checkbox"/> 斉 → <input type="checkbox"/> 全 ・本単元で学習すること ・身近な静電気について、静電気とはどのようなものだろうか？	・第 3 章では電気ということについて学習していくことを確認する。 ・身近な電気である静電気現象についてその経験を元に 2 種類の物体同士をこすり合わせると静電気が起こることを知らせる。 [T1]	本時の学習課題に興味・関心をもつことができたか。(発表・行動観察)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 静電気を体感し 静電気について考えよう。 </div>		
取 り 組 む 30	3 実験の説明をする。 学習プリントの実験方法を読み、実験方法について知る。 <input type="checkbox"/> 全 4 実験に取り組む。 <input type="checkbox"/> グ ① 摩擦したストローの実験	・4 人グループで一人一人が違う実験を行い、班員に紹介するように指示する。一人一人が責任感をもって実験に取り組まないと班全体の実験がうまく進行しないことを伝える。 【手だて】 [T1・T2] ・生徒の考える力を養うため、実験の方法は学習プリントに詳しく記載し、学習プリントをみて、生徒が自ら考えて実験を行えるようにする。 [T1・T2] ・実験の準備も各自担当する実験に必要なものを一人で準備するように指示する。	

分	②アルミ缶転がし ③水道水を曲げる ④電気クラゲの空中浮遊 5 実験器具を片付ける。 <input type="checkbox"/> グ	【手だて】 [T1・T2] ・実験を各自一度行ったら、班の中で実験の演示や結果の発表会を行うように指示する。 【手だて】 [T1・T2] ・自分が行った実験の器具を元の場所に片付けるように指示する。 [T1]	
深 め る	6 実験結果を表にまとめ、気付いたことを各自考えた後、グループで話し合う。 <input type="checkbox"/> 個→ <input type="checkbox"/> グ 7 グループでまとめたことを全体で発表し、静電気の性質についてまとめる。 <input type="checkbox"/> グ→ <input type="checkbox"/> 全 ・ 静電気は摩擦によって生じる。 ・ 同じ種類の電気どうしでは反発する力がはたらき、違う種類の電気どうしでは引き合う力がはたらく。	・実験結果をまとめて個人の言葉でまとめが発表できるように指示する。 [T1] ・司会、発表、記録、集配係を決め、話し合いがスムーズに進行するように指示する。 [T1] ・教師側が結論を言うのではなく、生徒の意見からまとめるようにする。 [T1]	グループの話し合いに進んで参加しようとしたか。 他のグループの発表を聞く態度をしていたか。
10 分			
振 り 返 る 5分	8 学習カードを記入し、本時の学習内容への取り組みや理解度を評価する。 <input type="checkbox"/> 個	・学習への成果や取り組みについて賞賛するとともに、今後の学習について知らせる。 [T1・T2]	学習の成果や取り組みを正しく評価することができたか。 (学習カード)

(4) 成果と課題

一人1つずつ異なる実験をすることで、自分が担当になった実験を責任をもって取り組む生徒の姿が見られた。実験結果の記録も、事前に実験をした後に結果の交流をすることを伝えたため、絵などを使って分かりやすくまとめていた。また、結果を班で交流する場面では、担当になった実験の結果を発表する際、必ず1回は発言する機会が全員にあるため、参加度があがったように感じた。また、自分の担当以外の実験についても、グループ内で実験を見せ合って交流していた(図49)。

静電気の単元の導入ということもあり、また、一人一人異なる実験が与えられたので、積極的に実験に取り組む姿が見られた。しかしながら、本時のように体感しながら調べる

実験をする場合、興味のある実験ばかりに夢中になってしまい、すべての実験をすることができないときがある。例えば本実践の場合であれば、グループの中でどの験の記録をするかそれぞれ決め、1つ1つ順番に体感しながら実験していくなど、複数の実験があっても、全員がすべての実験に関わり、その中でも一人一人に役割をもたすことができるような方法を検討していくことが今後の課題である。



図49 グループ内で実験を見せ合って交流している様子

一人一人に責任や役割をもたせることや、授業の中でしっかりと生徒が自分自身で考える時間を確保することで、生徒に変化が見られた。図51は5月に実施した事前アンケートと、2月に実施した事後アンケートの結果の比較である。このアンケート結果によると、約1年通して今回の実践のような授業を長期的に行うことで、理科が好きだと思える生徒が増加した。また、自分の考えをもったり、進んで話し合いに取り組んだり、自分の意見を発表したりすることができると思える生徒も増えた。役割や責任を与え、主体的に授業に取り組めるように工夫することで、授業に積極的に参加し、理科の楽しさに気付けるようになったのではないかと考えている。

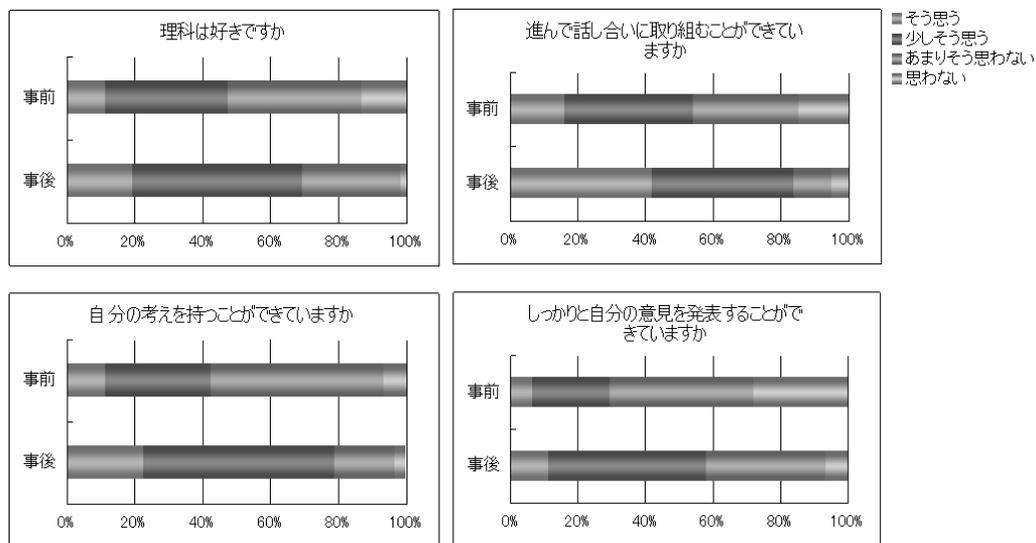


図50 事前アンケート・事後アンケート結果の比較

実践3 音の性質「音の大きさや高さを調べる」(中学校 第1学年)【手だて2】

(1) 本単元について

本単元は、音という身近ではあるが目に見えない自然の事象に注目し、実験結果や実生活に基づいてその要因やしくみを理解することを目標としている。授業では音についての

様々な実験を通して次の3つのことを学習する。①音はものが振動することによって生じること。②音は空気中などを伝わること。③音の大きさや高さは音源の振動のしかたが関係していること、である。

今回の研究で扱った実験「音の大きさや高さを調べる」は、教科書には4種類の実験が紹介されており、生徒がそれぞれの実験を全て体験できるようになっている。しかし、意欲的な生徒とそうでない生徒でその取り組み方に差が出るのが予想されるため、全ての生徒が等しく参加できるような配慮と工夫を行った。

(2) 具体的な支援の手だて

ア. グループで一人一つそれぞれ異なる実験を行う【手だて2】

今回の研究テーマにせまる手だてとして、全員が実験に取り組むことができるよう本単元の時5問目にグループ内で一人一人異なる実験を行った(図51)。

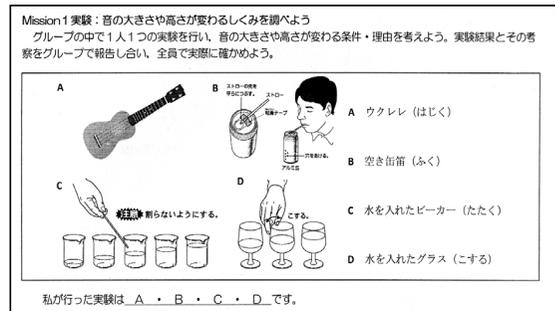


図51 ワークシート1 実験内容

また、より責任感をもたせるために、グループ全員の結果を書き込むための表をワークシートに盛り込んだ(図52)。

さらに、この手だてが授業内でより有効となるように次の2つの手だてを単元を通して行った。

イ. 互いに関わり合うことのできるグループの再編成

理科室の座席は今まで出席番号順で(机に3~4人)男女がほぼ均等になるように指定していたが、生徒の能力にばらつきがあり、グループ活動が円滑にできないグループもあった。そこで個人の能力や人間関係を基に教師によるグループの再編成を行った。

ウ. 授業の振り返りの基準作成

授業終了後に生徒は全員振り返りを行い、授業の理解度・参加度についての評価(A~D判定)を書いていたが、より主体的に授業態度が向上できるよう、授業への積極性や聞く態度、仲間とどれだけ関わったかなどの参加度と理解度の基準を以下のように設定し、それを基に振り返りを行うようにした(図53)。

*グループの結果を記録しよう

班	A ウクレレ	B 空き缶笛	C 水を入れたビーカー	D 水を入れたコップ
音源は?	弦	缶	ビーカー	コップ
大きくなる時	強くはじく	息を多くする	強くたたく	力を強くやる
小さくなる時	弱くはじく	息を少なくする	弱くたたく	力をゆるめる
高くなる時	強くはる	力を強く 水が少ない	水が少ない	水を少なく
低くなる時	弱くはる	力を弱く 水を多く	水が多い	水を多く

図52 ワークシートの実験結果の表

時間	日付	今日の課題	参加	理解	学んだことなど	検
1	9/26	音が出るしくみ・音の伝わり方	C	A	音が出るのは、しんとりによって空気が伝わり、耳に伝わって音が聞こえていた。	10/28
2	9/30	音の伝わる速さを調べよう	A	A	音は光と音が、つまり音の速さは、光より遅い。音は波のように進んでいくのを知った。	10/29
3	10/3	音の大きさや高さを調べよう	B	B	音の大きさは、振動の大きいほど大きくなる。高さは振動数が多いほど高くなる。	10/5
4	10/5	目で見える大きさ高さ	B	A	音の波形で大きさは波の大きさ、高さは波の数からわかることが分かった。	10/11
	10/18		A	B	音は主に強く振動させると大きい。	

A: 話し合いで積極的に意見を言い、実験に積極的に参加できた。
 友達に教えたり、分からないところを友達に聞くことができた。

B: 話し合いで意見を言い、実験に参加できた。

C: 先生の話や友達の話を目で聞くことができた。

D: 先生の話や友達の話を目で聞くことができなかった。

A: 今日の学習内容が友達に説明できる。

B: 今日の学習内容が確実に理解できた。

C: 今日の学習内容が半分ほど理解できた。

D: 今日の学習内容がよく分からなかった。

図53 ワークシート3 振り返り

[参加度の基準]

- A: 話し合いで積極的に意見を言い、実験に積極的に参加できた。
 友達に教えたり、分からないところを友達に聞くことができた。
- B: 話し合いで意見を言い、実験に参加できた。
- C: 先生の話や友達の話を目で聞くことができた。
- D: 先生の話や友達の話を目で聞くことができなかった。

[理解度の基準]

- A: 今日の学習内容が友達に説明できる。
- B: 今日の学習内容が確実に理解できた。
- C: 今日の学習内容が半分ほど理解できた。
- D: 今日の学習内容がよく分からなかった。

(3) 授業の実際

1) 単元指導計画 (5時間完了)

- 第1時 音はどんなときに出るのだろうか。音はどのように伝わるのだろうか。
- 第2時 音の伝わる速さを調べよう。
- 第3時 音の大きさや高さはどのようにしたら変わるのだろうか。
- 第4時 コンピュータを使って音の波形を調べよう。
- 第5時 いろいろな音の大きさや高さを調べよう。

2) 授業の経過

第1時 音はどんなときに出るのだろうか。音はどのように伝わるのだろうか。

単元の導入として、音について不思議に思っていることを聞いてみると、「雷や花火が光ってから音が遅れて聞こえるのはなぜか」「なぜ糸電話で声が聞こえるのか」「音はど

のように進むのか」「超音波は聞こえないのか」「高い音小さい音などいろいろな音があるのはなぜか」などの意見が挙がり、音への関心の高さが伺えた。そして、音が聞こえるためにはまず音を出しているもの「音源」があることを学習した。

次に、音が出る様々な楽器や機械（太鼓、ギター、音さ、スピーカーなど）を理科室前方に配置し、音源はどこか、音が出ているときの音源の様子について全員が自由に移動し観察を行った。意欲的な生徒は全ての楽器に手をつけ、音源が揺れたり震えている様子や触るとビリビリするなど音源の振動を体感でき、すべての生徒が一つ以上の楽器を体験することができた。

その後、音源が振動すれば音はいつでも聞こえるか、という疑問を提示し、図 54 の装置を用いて真空中では音は鳴るが聞こえないことを演示で示し、音が伝わるには空気または水などの液体、糸や木などの固体が必要であることを学習した。

第2時 音の伝わる速さを調べよう。

音が 100 m 進むのに何秒かかるのか、実際に号砲及びストップウォッチを用いて測定した。校庭に移動し、図 56 のように 1 列に並び号砲が聞こえたら手を下ろすグループと、手が下ろされていく様子を観察するグループとの 2 つに分け、1 回目の測定の後にグループを交代した。計測は生徒に協力してもらい約 0.3 秒という理想値にほぼ近い値を出すことができたが、あまりの速さに戸惑う生徒も多かった。手が号砲と同時に徐々に下がっていく様子は生徒も大変感動していた。全員が測定に参加できたため、理科室に戻ってからも積極的に音の速さを求めようとする姿勢が見られた。

この結果を基に、雷や花火が光ってから音が遅れて聞こえる理由について考察したが、ほとんどの生徒が他人と相談せず自分の力でワークシートに記入することができていた（図 56）。

第3時 音の大きさや高さはどう

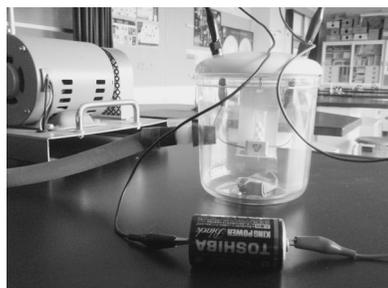


図54 真空容器内で音を鳴らす装置

Mission2 実験：音はどのくらいの速さで伝わるのだろうか

- 1 号砲に対し、後ろ向きにならぶ。
- 2 手を上げて用意。
- 3 号砲が聞こえたら、手を下げていく。
- 4 号砲から最後の人が手を下げるまでの時間を計る。

100 m

1回目

0.40 秒	0.47 秒	0.49 秒
--------	--------	--------

2回目

0.28 秒	0.29 秒	0.30 秒
--------	--------	--------

平均 0.3 秒

計算して音の速さを求めてみよう。

$$100 \div 0.3 = 333.3 \dots$$

音速 = 333.3 ... m/秒

図55 ワークシート4 音の速さ

② 雷や花火を遠くから見ると、音が遅れて聞こえるのはなぜだろう。(光の速さは約 30万 km/秒)

光の方が音より速いから、遠くから、花火や雷を見ると、音が遅れてくる。

図56 ワークシート5 音と光の速さの違い

にしたら変わるのだろう。

グループに1つずつモノコードを渡し、①音源はどこか、②音の大きさはどうすれば変わるか、③音の高さはどうすれば変わるか、についてそれぞれ調べた。弦をはじけば簡単に音が出るため、ほとんどの生徒が積極的に実験に参加していた。「どうすれば変わるか」という質問に対して難しく考えてしまい、答が出ないグループもあったが、「大きい音を出すときと、小さい音を出すときで何を変えているの？」という助言をするとすぐに、「指ではじく強さを変えている。」ということに気付くことができた。また、音の高さの変化についてもすぐに応用することができ、弦の長さや張りの強さで音が高くなったり低くなったりしていることにも気付くことができた。ただ、弦の太さが音の高さに関係していることを発見できるグループが少なかったのは残念であった。グループで概ね答えをまとめることができたため、教科委員が司会となって結果から分かることを発表し合うときでも活発に意見が出され、スムーズに進行することができた。その後のまとめ学習として、新しく学んだ「振幅」「振動数」という言葉を用いた穴埋め問題に取り組んだが、多くの生徒が教科書に頼ることなく、今回の実験の内容を基に記入していた。

第4時 コンピュータを使って音の波形を調べよう。

授業の導入としてフリーの音階解析ソフト『おんかいくん』を使用し、音さや生徒の声の音の波形をスクリーンに映し出し、音は波形で表せることを示した。生徒達は自分の声の音が大小様々な波となって表現される様子にとっても興味を示していた。次に同じ高さの音でも大きさが大きいほど振幅が大きくなるが振動数は変わらないこと、そして同じ大きさの音は高い音ほど振動数が大きくなるが振幅には変化がないことを確認した。このまとめとして図57の作図を行った。実際に作図をすることで音の大きさと振幅、音の高さと振動数の関係について定着を図ることができた。

第5時 いろいろな音の大きさや高さを調べよう。

本単元のまとめとして、楽器など様々な音の出るものはどこが音源となって、音の大きさや高さは何によって変わるのか調べる実験を行った。ここでは4つの実験を用意し、グループの中で誰がどの実験を行うのかを決めた後、実験を行った(図59)。その際、一人一人がしっかり実験を行い結果を記録しないと、前述の実験結果の表が埋められないことを説明し、各自がグループの代表として実験を行うということを強調した(前出図51・52)。各実験ごとに分かれてからはいつもと違う生徒と実験をすることにはしゃぐ生徒も見られたが、ほとんどの生徒が実験結果をしっかり記録し、その後のグループでまとめる作業でも積極的に他の生

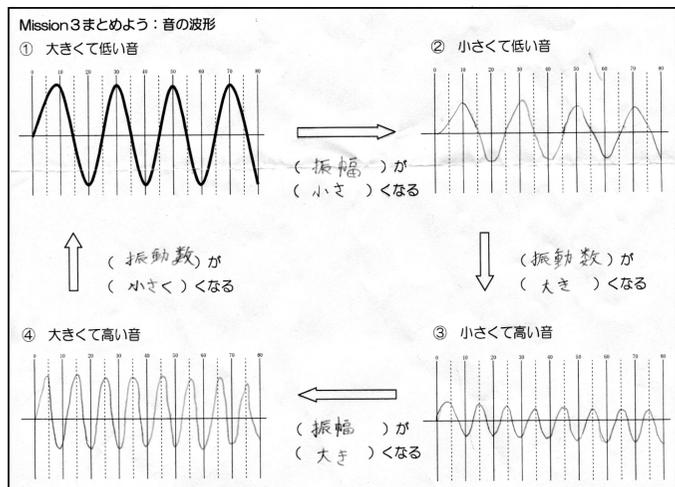


図57 ワークシート 音の波形



図58ピーカーの水の量を変えて音の高さを変える



図59 グループで結果をまとめる様子

徒の結果を書き写す姿勢が見られた（図 59）。また、第 3 時で何をどうすれば音がどう変わるかについての学習ができているため、取り組み方もスムーズであった。

（3）成果と課題

「手だてア」による実践では、一人一人が実験を行っていたため、参加度が高い授業となった。また、自分の実験結果を他人に教えなければならないという責任感から、普段よりも丁寧に調べ、記録することができていた。グループでまとめる場面でも「この結果何だった？」とお互いに聞き合う姿が見られ、主体的に取り組むことができていた。

今回の単元を含む定期テストでは、科学的思考を問う問題について、今までの定期テストに比べて得点が高くなっている生徒が多く、音の単元テストでは知識理解の問題についてほとんどの生徒で得点が上がっていた。この単元が終わって3ヵ月後に行われた実力テストにおいては、音の単元の正答率は7割近くあり（校内での理科全体平均点約6割）、他の単元に比べても比較的高いことから、知識の定着ができていると考えられる。

また、「手だてイ」によって再編されたグループでは、仲間と関わることによって授業へ集中することができるようになった生徒が多数見られた。このことは、普段集中力に欠ける生徒に顕著に現れていた。「手だてウ」では、それまでの振り返りよりも多様な回答をしていることから、基準にそってじっくりと振り返りができていると考えられる。特に、参加度の基準では、先生の話や友達の話をしっかり聞くことができていないと、結果として理解度の基準が達成しにくいことから、話を聞く態度がそれまでよりも向上した。また、比較的分かりやすい基準であったために、次時への取り組み方に対する明確な目標ができたのではないかと思う。

しかし、どの手だてについても、生徒への事前の主旨説明が不十分だと生徒は意図したように動かないということが改めて分かった。「手だてア」では、主旨を理解していない生徒がグループ内で分担せずに同じ実験をしている場面も見られ、役割分担の目的や個人の責任の重さについて、課題に取り組む前にしっかり説明する必要がある。

理科では、分野や単元によって好き嫌いが大きく分かれるが、今回の音の単元は、物理の分野の中でも比較的生徒の興味を引く単元である。また、実験も安全でかつ分かりやすいため、どの生徒も取り組みやすい。そのため、今回行った実験はどれも参加率が高かった。分野によっては難しく複雑な実験もあるが、どのような実験でも一人一人が活躍でき

る場面を作ることとは可能であると考えられる。今回は1年生での実践であったが、学年が上がるにつれ、分担をしなくても一人一人が責任をもって取り組むことができるようこれからも試行錯誤し、実践を行っていきたい。

実践4 動物の生活と種類「動物の分類」(中学校 第2学年)【手だて3】

(1) 生徒の実態

研究対象のクラスは、元気がよく実験を行うときは積極的に関わることでできる生徒が多い。しかし実験の考察を考える場面になると、ペンが止まってしまい、教師からの答えを待つ生徒が多く、自分で考えることを苦手としている。また、自分の意見を発表する場面でも、積極的に挙手し、意見を発表する生徒が少ない。そこで、自分の考えをもつことについてアンケートを行った。「自分の考えをもつことができているか」という設問に対しては、30人中22人が自分の意見をもつことができていると回答した(図60)。しかし、自分の意見をもていていると回答した生徒の中には「予習しているから」「たくさん発表しているから」などの自分の意見をもつことと教科書に書いてあることそのまま読むことを混同しているのではないのかと考えられるコメントもあった。また、「しっかりと自分の意見を発表することができていますか」という設問に対しては、30人中13人が発表できていると答えた(図61)。

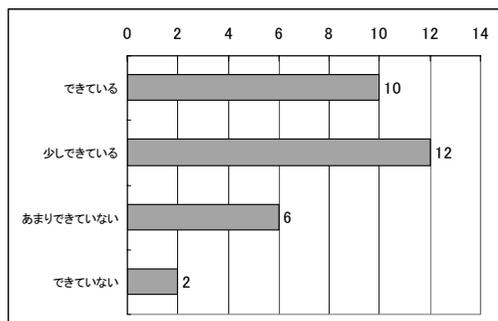


図60 自分の考えをもつことができているか

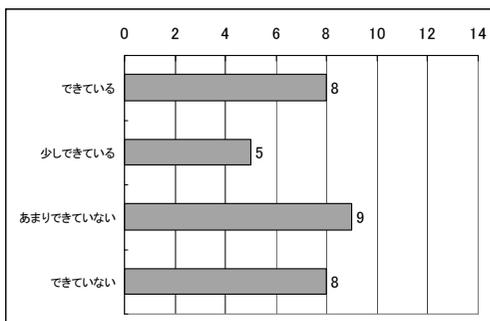


図61 自分の意見を発表することができているか

(2) 具体的な研究の方法

①班での話し合いを行い、班で話し合った内容を他の班に伝える場面を設定する。

事前に「自分の意見を言いやすい雰囲気であるか」というアンケートを行ったところ、「たまに騒がしいから意見が言いづらい」、「一部で盛り上がりすぎて言いづらい面もある」「自信がない」という意見があった。そこで、はじめは班の中で意見を発表し、自分の考えを発表することに自信をもたせるのがよいと考えた。そこで、班を再構成し、自分の班で意見を全員が伝える場面を設定した。

②理科が苦手な生徒も話し合い活動に入れるような課題を設定する。

事前のアンケートで「理科は好きですか」という設問に対して、「難しいからあまり好きではない」と回答している生徒がいた。そのため、理科の知識が少なくても意見が発表できるように、動物の写真を10枚用意し、それらの動物の特徴を書き出し、科学者になったつもりで分類させる課題を設定した。

(3) 研究の実際

①指導計画

動物の分類 (7時間完了 本時 1 / 7)

背骨のある動物の仲間分けをしよう・・・2時間 (本時)

動物の仲間分けをしよう・・・・・・・・・・1時間

背骨のない動物にはどんなものがあるか・・・4時間

②本時の目標

関心・意欲	・セキツイ動物の分類方法に関心をもち、分類方法を班で考えるときに話し合いに積極的に参加する。
技能・表現	・発表時に、正しい言葉で周りの生徒に分かりやすく伝えようと工夫する。
知識・理解	・セキツイ動物の分類方法を正しく理解し、説明することができる。 ・セキツイ動物を正しく分類することができる。

③授業の流れ

段階	形態	TAの関わり	学び合いの過程と活動	TBの関わり
導入	個	・教科委員がオープニングテストをスムーズに行えるように支援する。	1 オープニングテストを行う。	・オープニングテストに取り組めていない生徒を支援する。
	5分 一斉	・本時のめあてと授業の流れを伝える。	2 本時のめあてと授業の流れを知る。	・本時のめあてがつかめているかを確認する。
展開	個	・机間指導を行い、書き進んでいない生徒に視点を与える。	3 10種類の動物(サル、シャチ、フクロウ、カモ、ワニ、カメ、カエル、サンショウウオ、金魚、サンマ)の特徴をできる限り書き出す。	・机間支援を行い書き進んでいない生徒に視点を与える。
	班	・話し合いができていない班に例を出すなどして支援を行う。	4 班で書き出した特徴を参考に、より多くの分類分けを行う。	・話し合いができていない班に例を出すなどして支援を行う。
	班	・班の分け方を支援する。 ・分かりやすく伝え、言葉の使い方などを支援する。	5 班を変えて、各班で考えた分類分けの仕方を発表しあう。	・机間支援を行うとともに、分かりやすく伝え、言葉の使い方などを支援する。
35分	個	・発表する際に言葉	6 セキツイ動物の分類方法に	・調べることのでき

	↓ 全体	使いなどに気を付けるように支援する。	ついて調べ、ワークシートを埋め、発表する。	ていない生徒を支援する。
ま と め 5分	班	・発表がスムーズに行えるように支援する。 ・机間支援をしながら、分類分けができていない班を支援する。	7 最初に各班で分類分けした写真の動物を、魚類・両生類・ハチュウ類・鳥類・ホニユウ類で分類分けする。	・机間指導をしながら、分類分けできていない班を支援する。
	個	・振り返りをワークシートに記入するように支援する。	8 振り返りをワークシートに記入する。	・振り返りをワークシートに記入するように支援する。

④観点別評価規準と評価方法

	観 点 別 評 価 規 準	評 価
関心・意欲	・セキツイ動物の分類方法に関心を持ち、分類方法を班で考えるときに話し合いに積極的に参加することができたか。	・話し合い
技能・表現	・発表時に、正しい言葉で周りの生徒に分かりやすく伝えようと工夫することができたか。	・発表方法 ・ワークシート
知識・理解	・セキツイ動物の分類方法を正しく理解し、説明することができたか。 ・セキツイ動物を正しく分類することができたか。	・発表方法 ・ワークシート

(4) 成果

①自分の意見をもつことができる。

ほとんどの生徒がワークシートに動物の特徴をたくさん見つけ書くことができ、その中から動物の分類方法に使える特徴を考え、分類できていた(図 62)。普段ワークシートがあまり書けていない生徒も、写真に興味をもち、動物の特徴や分類方法をたくさん書いていた。

②自分の意見を発表することができる。

班での話し合いには多くの生徒が積極的に参加できていた。普段から積極的に授業に参加できている生徒は、多くのアイデアを出し、班員の意見をまとめ、リーダーシップを発揮していた。各班で出た分類方法は、「食べることができるか食べることができないか」、「生息場所」、「呼吸法」などで、動物たちがどちらに分けられるかなども楽しそうに話し合っていた。「話し合いって、思っていたよりも面白い」、「自分では考えつかなかったアイデアが聞けた」と言う生徒の言葉を聞くことができ、話し合い活動が、この先活発になりそうに感じた。

理科ちゃんノート 動物の分類

1時間目

9月27日(水)

今日の課題
背骨のある動物を分類し、説明できるようにしよう。

Mission 1 写真の動物の特徴を書きだそう。

カメこうらかまきり かまきり ワニ 魚いさごにかまきり からなる卵	カエル 手か物水かかまきりかまきり からなる卵
サル もかかはえてる しほかまきり そのま親と同じかまきり	シャチ 魚かまきり 少しのまかかたし 親と同じか
サンショウウオ しほかまきり からなる卵	カモ 羽もかかはえてる 水かかまきりかまきりからなる卵
フクロウ 羽もかかはえてる からなる卵	金魚 うごかまきり からなる卵
	サンマ うごかまきり からなる卵

図62 ワークシート

事後アンケートによると、「積極的に意見を発表できたか」という設問に対しては、積極的に意見を発表できた生徒が34名中27名で、「意見を発表することは楽しい」「たくさんの意見は発表できなかったけど、少しなら発表できた」と発表できるようになった生徒が増えた(図63)。また、「友達の意見をしっかりと聞くことができたか」という設問に対しては、34名中29名ができたと回答し、事前アンケートの「たまに騒がしいから意見を言いづらい」という場面が解消されたのではないかと考える(図64)。「しっかりと聞いて、自分と照らし合わせることができた」「自分の考えと比較しながら聞いている」などのコメントもあり、「他の人の意見を聞く」の次のステップの「自分の意見と比較する」までできるようになった生徒もいた。

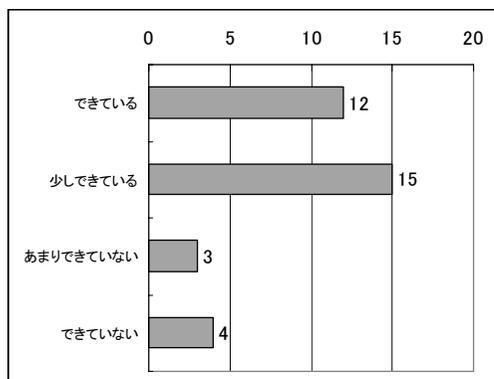


図63 積極的に意見を発表できているか

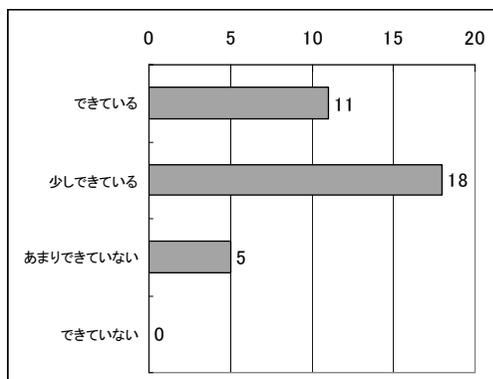


図64 友達の意見を聞くことができているか

(5) 今後の課題

話し合い活動を苦手としている生徒が多くいる班では、話し合い活動が行われず、班で話し合って分類の仕方を考える場面でも個人で活動をしていた。このような生徒には、仲のよい生徒やリーダーシップの取れる生徒と同じ班にすることで意見を発表しやすい環境を作ることが必要であると感じた。また、話し合っていた班にも男女間に壁がある班があったので、少しずつ意見を発表し合えるような手だてを考えていきたい。

班で分類方法を考えるときは活発に意見を発表し合えていたが、他の班の班員に自分たちの意見を伝える場面では、口頭で伝えるのではなくお互いワークシートを見せて写し合っていた生徒もいたので、しっかりと自分の言葉で伝えることの大切さを伝えたい。

実践5 水溶液とイオン（中学校 第3学年）【手だて3・4】

(1) 本単元について

新学習指導要領の完全実施に先立ち、移行教材の教科書には「イオン」に関する学習内容が取り入れられている。このイオンに関する内容には理解度に個人差がより大きく出ることが予想される。このように、理解度に差が付きやすい学習内容こそ、仲間と協力し合って実験したり、理解が進まない部分は気軽に仲間に質問したり、実験結果や考えを交流する中で、生徒が共に理解を深めていこうとする姿勢が必要となってくると考える。

本実践では、生徒が様々な役割や交流を経験する中で、仲間とともに協力して実験し、話し合い、「イオン」という概念を身に付けていくことを目標とした。また、目に見えないイオンという存在を身近な生活の中で想像することにより、日常現象を、電気を帯びた粒の動きとして科学的な目で見られるようになってほしいと考える。

(2) 単元計画（12時間完了）

学習事項【配当時間】	学習課題
1 これから学習する内容を知ろう 【1時間】	①「水溶液とイオン」ガイダンス 化学変化について復習しよう。
2 電池に使う水溶液の性質を調べよう 【6時間】 ○電流の流れる水溶液、流れない水溶液 ○塩酸の電気分解 ○電流は水溶液中をどうやって流れるのか	②いくつかの水溶液で電流が流れるかどうかを調べよう。（実験） ③いくつかの水溶液で電流が流れるかどうかを調べよう。（まとめ） ④電解質水溶液には、なぜ電流が流れるのか。塩酸の電気分解を詳しく見てみよう。（実験） ⑤電解質水溶液には、なぜ電流が流れるのか。水溶液の中を想像してみよう。

<p>○イオンと電解質・非電解質</p> <p>○塩化銅水溶液の電気分解</p>	<p>⑥電解質水溶液には、なぜ電流が流れるのか。イオンについて調べよう。</p> <p>⑦電解質水溶液中の電子の流れをイオンで説明しよう。</p> <p>⑧塩化銅水溶液中の塩化銅をイメージしてみよう。(実験)</p> <p>⑨塩化銅水溶液中の塩化銅をイメージしてみよう。(まとめ)</p>
<p>3 電池とイオンの関係について調べよう</p> <p style="text-align: right;">【3 時間】</p>	<p>⑩電気を取り出してみよう。水溶液で電池ができるだろうか。(実験)</p> <p>⑪電池の電極では何が起きているのだろうか。</p> <p>⑫身近な材料で電池を作ってみよう。(実験)</p>

(3) 具体的な支援の手だて

ア. 一人一人に役割を与えて行う実験

実験などをする際に傍観者をつくらず、一人一人が主体的に参加できるための手だてとして、グループ内での役割を以下のように4種類作り、授業ごとにローテーションさせることで、それぞれの役割の大変さや、自分が主体的に参加しないと仲間も困ることなどを実感させていきたい。

- 役割① 実験のやり方や注意点を教師に聞きに行く係 (アドバイス係)
- 役割② 実験の準備や片付けを含め、仲間に指示し、実験を積極的に進める係 (実験係)
- 役割③ 実験の結果を記録する係 (記録係)
- 役割④ 班の考えをまとめ、発表する係 (まとめ係)

イ. 発表・交流の場の確保

グループにおける実験や話し合いが次の活動につながるものであれば、その実験や話し合いを行う際の一人一人の自覚も高まり、より積極的に参加できるものとする。そのため、グループでの実験や話し合いの後、自分達のグループの結果や考えを周りに伝え、他のグループと交流し合う場を設定する。

①グループ内交流

実験や話し合いをする4人グループの中で「まとめ係」になった人が司会をしながら、自分達の班の結果を確認し、課題について話し合い、共通の意見をもつ。

②グループ間交流

各グループの一人一人が座席をずれることにより、他のグループとのメンバーで構成される小集団を作り、自分達のグループで出た結果や考えを交流し、その後、自分達のグループにフィードバックする。

③自由交流

自分達のグループで出た結果や考えを、自由に他のグループの誰かに伝え、相手の結果や考えも聞いて交流する。

④全体交流

基本的に各グループでのその日の「まとめ係」が全体に伝え、それに対しての意見や疑問を出し合いながら全体で話し合いを深めていく。

図 65 ローテーション表

(4) 授業の実際

ア. 実験における役割分担

単元を通して、4人編成のグループの中で「アドバイス係」「実験係」「記録係」「まとめ係」をローテーションして、全員に全ての役割を経験させた(図65)。

第ii時の「電流が流れる水溶液調べ」では、様々な水溶液に電流が流れるかを調べる実験で、実験方法の説明後、実験係に道具の準備や扱い方、実験の手順などの全てを取りまとめさせた。アドバイス係には、「調べる水溶液を替える度に電極を精製水で洗う」ことを実験中に注意させた。そのことで、アドバイス係が一貫してその注意点を気を配る姿が見られた。記録係には、「泡が出ている」、「電流が流れた」などの班員のつぶやきも実験結果として記録させた(図66)。

まとめ係にはグループの結果を確認する際の司会、そして他のグループと自分達の結果を伝え合うグループ間交流での司会を務めさせた(図67)。

役割分担があることで、普段は脇役になっていた生徒も自分の役割を果たそうとする姿が見られ、逆にいつも中心となり実験していた生徒も、係を尊重して進めようとする姿が見られた。そのことで、全体としてはバランスよく協力することができた。

イ. 交流形式の工夫

実験結果のまとめや考察では、まとめ係を中心として、まずグループ内交流で自分達やその理由をグループとしてまとめさせて共通理解を図った。その後、座席を移動して、全員が他のグループから成る小集団を作り、グループ間交流で自分達のグループで出た考えを伝え合わせた。このときの司会も、その日のまとめ係中心に行った。まとめることが苦手であっても、まとめ係以外の生徒が、「まず〇〇さんの班の意見を教えて下さいと言う



図 66 役割分担して実験する様子



図 67 グループ間交流で交流する様子

んだよ」、などのようにフォローしながら、係を尊重して話し合いを進める姿が見られた。

このグループ間交流は、他のグループの様々な結果や意見が聞けるだけでなく、一人一人が発表する場の確保にもなっている。また、全員が相手に伝えなければならないという交流形式の特性から、グループ間交流の前段階のグループ内交流の際に、全員が、自分の班の意見をお互いに慎重に確認していたり、悩んでいる生徒に丁寧に説明したりする姿も見られた。このことで、全員が学習活動に真剣に取り組むことができた。

第5時の「電解質水溶液にはなぜ電流が流れるのか。水溶液の中を想像してみよう」の話し合いでは、電流の正体が「電子の移動」であることを確認することで、イオンの存在に気付かせたいと考えた。そのため、図68のようなA～Cの3種類の回路に同時にスイッチを入れたらどんな順番で豆電球が点灯すると思うか個人の意見と理由を確認した後、クリスマスイルミネーション用の長い導線にたくさんの電飾がついたもので実験し、「導線の長さに関係なく豆電球はスイッチを入れた瞬間に同時に点く」ことに気付かせた。導線の短いCが一番早く点くと予想した生徒が多かったことから、実験結果を見て「え～同じじゃん」とか、「何で」などの声が聞こえた。

そして、ここではこれから学習するイオンの動きにつなげる目的で、スイッチを入れた瞬間に自由電子が一齐に動き出すことを確認し、なぜ同時に豆電球が点くのか、自由電子の資料を参考にしながら班ごとに考え、「例え」を用いて説明するよう投げかけた。すると、グループ内交流で「ロケット鉛筆」や「回転寿司」、「ホースの中の水」、「バーゲンセールのおばちゃん」、「ガチャガチャ」などの多様な例えで、導線にはすでに自由電子が詰まっており、スイッチを入れた瞬間に押し出すように一齐に動き出して豆電球が点くから同時に点く、という考えが出て、その後の全体交流が充実したものとなった。

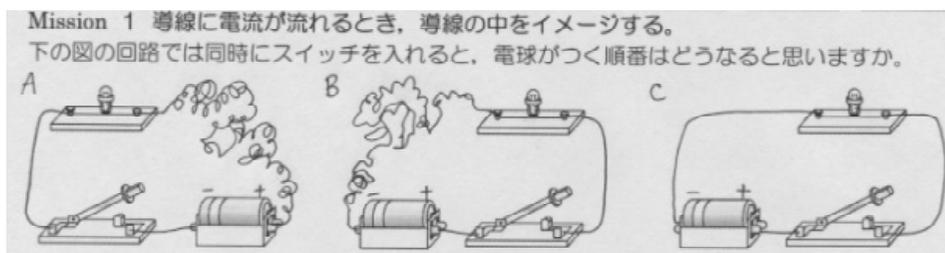


図68 3種類の回路

(5) 成果

①一人一人が役割を意識して主体的に参加しようとする姿が見られた

事後アンケートで、自分に与えられた役割を果たし、これまでよりもしっかり実験に参加できたと答えた生徒が8割強いた。感想には、「前より断然しっかり参加できる」「役割を決めた方がみんなでできた」、など、実験に対する参加度が全体的に高まったことが読み取れる。また、これまであまり積極的に参加できていなかった生徒の感想でも、役割を与えられたことによって仲間との関わりが増えたことを示していた。また、全ての係を経験することで、自分以外の係の仕事にも目を向け、協力する姿がみられ、グループ内の学びの輪がしっかりできていた。

②発表・交流の場が確保されることで、事前の話し合いが活発になった

事後アンケートで、話し合いの際に積極的に交流できたと答えた生徒は8割強であった。

このことは、「グループ間交流は新しい取り組みで、他の班の意見をじっくりと聞いたことがよかった」、「グループ間交流では全員が発表しなければいけないから、これまでよりもグループ内での交流がしっかりできた」などの感想からも読み取れる。グループ間交流によって見通しをもったグループ内交流ができたり、他の班との意見の確認ができたことに価値があった。

(6) 今後の課題

学び合いの授業では、時間を多く要する。時間の調整や時間を割く場面の精選・単元計画の工夫をして、今後も生徒を主役にする授業を展開していきたい。また、生徒が主体であっても、あくまでも指導者は教師である。意図的で計画的に、教師が授業の梶を取っていくことが大切である。

本実践では、生徒が語り合う姿がたくさん見られた。これからも工夫を重ね、新学習指導要領にもある「言語活動の充実」にも意識した研究実践を更に深めていきたい。

おわりに

生徒一人一人が主体的に授業に取り組むことで、参加度が高まる楽しい授業を目指して研究を進めてきた。その結果、すべての実践で授業の参加度が高まり、理科の楽しさに気付いた生徒や主体的に授業に参加する生徒が増えた。しかし、参加度を高める授業を目指すために一人一実験や一人一人に発言の場を確保すると、授業の進度が遅くなったり、授業でおさえたいことがおさえられなかったりするなどの課題が見つかった。このことから、効率よく全員が参加できる場面を設ける授業づくりが必要である。また、役割分担をくり返すことで教師が役割分担をしなくても、生徒が自然と自分たちで役割分担をしていけるような授業づくりも必要である。

今回の研究を通して、市内の先生方と話し合うことによって、さまざまな授業のアイデアが出て、役割分担・実験・発言の場など様々な場面で生徒を活躍させられることを学んだ。これからも、生徒が理科を楽しんでいると思い、主体的に参加することのできる授業を目指して日々の授業を改善していきたい。

自分を見つめ互いに関わりながら道徳的実践力を高め合える授業 資料の提示を工夫して

五味 公人（犬山市立城東小学校）
後藤眞之介（犬山市立城東小学校）
立田 美樹（犬山市立城東小学校）
鈴木 達也（犬山市立羽黒小学校）
梅谷 和幸（犬山市立東小学校）
渡邊 香織（犬山市立今井小学校）
北原 佳奈（犬山市立犬山西小学校）
近藤 理恵（犬山市立犬山南小学校）

はじめに

犬山市では、学び合いを通して豊かな人間関係と確かな学力作りに努めている。しかし情報化、国際化が進んだ現代では、子どもたちをめぐる環境も大きく変化している。めまぐるしい勢いで変化していく時代に翻弄された結果、教育現場では、自尊感情や生き生きとした心の活力が弱まり、いじめや登校拒否、暴力行為や自己中心的な振る舞いが、以前より目に付く状況に陥っているのも事実である。しかしどの時代にも大切なのは、時代を経ても変わらない確固たる信念をもった心と、時代とともに変化し対応していく柔軟性をもった心である。その素養作りとして道徳の時間に求められているのは、道徳的価値の自覚と自分の生き方についての考えを深めること、いわば内面的な体験活動を通して自己を振り返り、人間としての生き方について考え、それを広げていくことである。

しかし実際道徳の授業をしてみると、思ったような手ごたえを感じられないのも事実である。そこにはいくつもの原因が考えられるが、教師主導の授業で、「こうしなくてはいけない」とか「こうしてはいけない」という、教師の主観的・模範的な結論への引っ張りすぎがあるのも否めない。

そこで、子どもたちの問題意識を引き出し、その問題を主体的に追究する学習を組み立てるにはどうしたらよいのかを考え、授業研究会・道徳部会では、資料の提示法や終末の工夫、また、主題に合った授業の展開やその形態を追究することとした。それらを工夫することで、自らの内面を見つめ、自らの力で道徳的価値を高めていくことにつながる授業となり、他との共感的な感情のもと、多様な価値観を身につけた子どもたちが育っていくのではないかと考える。

1 研究仮説

本グループでは、会を進めるにあたり、互いの日々の実践を持ち寄って話し合いをした。その中で、いかにして子どもたちの本当の気持ちを引き出すかといったことや、子どもた

ちに多様な考えを出させるための工夫、また授業の終末はどのようにすればよいのかといったことが話題となった。

道徳的实践力は一時間の授業だけで身に付くものではないが、授業を通して道徳的心情を高め、それが日常の实践力につながっていくのではないかという思いから、明るい心やその他の資料、ワークシート、授業の終末に使用する資料など、どのような資料でも、子どもたちの実態に合わせて教師が意図をもって提示することで、子どもたちの本音を引き出していくことが大切なのではないかと考え、次のように仮説を設定した。

仮説 資料の提示を工夫すれば、自分を見つめ互いに関わりながら道徳的实践力を高め合えるのではないか。

この仮説をもとに、本グループのそれぞれのメンバーが研究実践を行うことにした。

2 研究主題

自分を見つめ互いに関わりながら道徳的实践力を高め合える授業—資料の提示を工夫して

3 研究主題に迫るために

本グループでは、研究仮説にもあるように、子どもたちが自分を見つめ互いに関わりながら道徳的实践力を高め合えるように、資料の提示を工夫していく。道徳の資料には、明るい心やその他、数え切れないほど多くのものがあり、その中から子どもたちの実態に合わせて資料選びをし、それをどのように活用していくかがカギとなる。そこで、ねらいに迫るための具体的な手だてとして、以下の三点について、本グループの各々が工夫をしていくこととした。

- ①導入における資料の提示・・・導入で、より子どもたちを引きつけ、思っていることや考えを引き出すための、資料の提示の工夫。
- ②授業の展開・形態・・・資料を一度にすべて提示したり、区切って順に提示したり、あるいは新たな資料の提示をしたりするなどの授業展開の工夫や、資料を効果的に見せるための話し合いの形態や机の配置などの工夫。
- ③終末・・・道徳的価値を押さえることなくオープンエンドで終わるが、より子どもたちの道徳的实践力を高めるための資料選びや、そのために資料をどのように提示するか
の工夫。

しかし、子どもたちの道徳的实践力が高まったかどうかを1時間の授業の中で、あるいは授業後の姿だけで判断することは難しい。そこで、子どもたちの道徳的心情がどのように高まったのかを把握するために、1カ月後あるいはそれ以上の期間をおいた後の子どもたちの様子を捉えることにした。その際、必要ならば、抽出児童を詳しく分析することで、どのような手だてや工夫がきっかけとなり、心情が高まったのかを明らかにすることで、

今後の道徳の授業や学校生活の中で子どもたちへのアプローチにつなげていけることを期待した。

4 研究の実際

実践1 小学1年生

(1) 主題 友達を大切にしようとする心情を深める

資料名 「たいせつなともだち」 一資料名『ふうとさんの たからもの』
(『自作資料集&指導案 No. 1』服部志信 編著 参考)

内容項目 友情・協力 2-(3)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

2011年3月11日は大震災があったとして日本人にとって忘れられない日となった。自然の驚異を改めて思い知らされるとともに、記憶に残るのは人々の助け合い、協力する姿であった。食料が不足する被災地でおにぎりを分け合う人々。自分自身も被災して苦しい状況なのにもかかわらず暖かい部屋をと、見ず知らずの人を家に招く人々。ボランティアで駆けつけて様々な活動をする人々。様々な活動を通して、被災地で人々の間に芽生える協力の気持ち。2011年を表す漢字に「絆」が選ばれたように、人と人とのつながりを強く意識した年となった。人が生きていく上で、他の人とのつながりはとても大切なものである。人は一人では生きてはいけず、何かしら他とかかわり協力しながら生きている。

本授業では、学校で当たり前のように毎日を共に過ごしている、身近なクラスの友達とのつながりから、友情や協力について考えさせたい。

2) 資料について

本資料は、あるクラスで開かれた「たからもの はっぴょうかい」についての様子が描かれている。多くの子が、「ぼくのたからものは、空手の大会で優勝した時にもらったトロフィーです」「わたしのたからものは、おばあちゃんに買ってもらったクマの人形です」などと発表する中、一人の子が、「ぼくのたからものは、しゅんすけさんです」と友達が宝物だと発表する。それを聞いたしゅんすけさんが、発表した子とがっちり肩を組むという内容である。この資料と共に、クラスではあらかじめ「たからものはなあに？」とアンケートをとった。また、事前に毎日、その日に友達に言われたり、してもらったりして嬉しかったこと(友達パワー)を書きためておく活動を行っていた。これらの資料を活用し、友達が宝物と呼べる大切なものになりうるということに気付き、その友達と日々かかわる中で、お互いに支え合っていることに考えを及ぼせたい。

3) 児童の実態

4月当初に考えた本学級の目標は「たからもの たくさん 1の3」である。目標を決

める際、どんな宝物が学級にはあるかを皆で考えた。ランドセルや筆箱、机、授業、鉛筆削りなど様々な意見が出たが、その中で、友達のことや友達と過ごす（遊ぶ）時間といった意見も出た。そして、これからその様々な宝物を大切に、そしてどんどん増やしていこうということになった。しかし、子どもたちの様子を見ると、些細なことでの争いが絶えず、まだまだ自分一人のわがままを突き通そうとする姿が目立つ。友達は宝物だという思いが薄く、その友達に支えられており、友達がいるからこそ毎日が楽しくなるということをあまり強く感じていないように思われる。本授業を通して、友達とのつながりを意識することで、友達を宝物として大切にしていこうとする気持ちをより強いものとすることや、一人一人が日々の何気ない友達の言葉や行動によって支えられているということに気付いて欲しいと考えた。

（3）ねらいにせまるための具体的な手立てとその工夫

1）導入での資料の提示

導入で、子どもたちを一箇所に集めて、紙芝居方式で資料提示をする。紙芝居といっても、ホワイトボードに登場人物やものを、貼ってははがしを繰り返して場面を変えていく方法である。また、宝物発表会をよりリアルなものにするために、実際に学級で宝物発表会を行う。導入で、子どもたちを引きつけることで、思っていることや考えを引き出していくことが大切だと考える。

2）授業の展開・形態

資料「ふうとさんの たからもの」で、ふうとさんの宝物が友達だということを伝えると共に、あらかじめ子どもたちに自分の宝物が何かを考えさせ、ワークシートに書かせたところ、一人だけ友達が宝物だと書いた子がいた。「ふうとさんのたからもの」が自分には関係のないただのお話という意識ではなく、学級の子が実際に、宝物が友達だという発表をすることにより、より身近な内容に感じられるようにしたい。また、その宝物の友達が、同じ学級の仲間である皆のことを指していることを伝えることで、友達（自分）が宝物だと言われた時の素直な思いを引き出せるようにする。

授業中は、友達との距離を近くし、子どもたちが活動しやすい和やかな雰囲気にするため、机をコの字型にし、中央の空いたスペースに子どもたちを集める。また、友達との交流スペースを広くすることで、たくさん友達と自由に交流ができるようにする。

授業の形態として、一斉の形態と、ペアでの活動も多く取り入れる。一対多数ではなく、一対一での関わりをもつことで、恥ずかしがったり、自信がなかったりなどの気持ちを減らし、自由に自分の思いを相手に伝えられるようにしたい。

3）終末の工夫

道徳の授業の終末に、教師の体験談などを子どもたちに聞かせることがあるが、今回は、教師の言葉より、同年の友達の言葉をお互いに大切にしたいと考えた。そこで、あらかじめ毎日書き溜めてきた「友達パワー」を友達と紹介し合い、その友達の、言われて嬉しかったことやされて嬉しかったことを聞いて、思ったことを発表させることとする。それを聞いて友達が感じたり思ったりした様々なことから、自分の思いを膨ら

ませ、友情や協力について考えるようにさせたい。

(4) 本時の学習

子どもに身につけてほしい力や態度（子どもの姿をとらえて）	
○人の考えを聞き、自らの考えとの違いについて考えようとする態度。 ○自分の考えや思いを言葉にして相手に伝える力。 ○仲間とのコミュニケーションを大切にし、互いに高め合おうとする態度。	
主題の目標	○自分を日々支えてくれている友達の優しさや大切さに気付く。 ○友達を大切にし、協力して生活をしようとする気持ちを高める。

1) 目標

- ・自分が支えたり、支えられたりしている友達の優しさや大切さに気付く。
- ・自分の思いをはっきりと友達に伝えようとする。

2) 準備

教師・・・ワークシート（友達パワー・たからものなあに？）、紙芝居
 児童・・・筆記用具

3) 学習過程

□□□□・・・本時の目標 学習形態：個一個別 斉一斉 ペーパー

段階	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5分	1 本時の学習課題を知る。 □	○机は、後の紙芝居の際に一カ所に集まりやすいよう、あらかじめコの字型にするよう指示する。	
	たからものについてかんがえ、じぶんのおもいをももだちにつたえよう		
	2 「たからものほっぴょうかい」をする。 □	○物語に興味をもたせる為、事前に選んでおいた4人の児童に発表させる。（後に自分たちにも通ずる話だと気付かせるため、友達が宝物と書いた子は含まない。） ○「たからものほっぴょうかい」を実際に行うことで、後の物語の内容がより身近に感じられるようにする。	

3 「ふうとさんのたからもの」の紙芝居を見る。 斉

4 「なぜふうとさんは、しゅんすけさんをたからものにえらんだのか」考え、発表する。 斉

5 学級の子の「友達がたからもの」という発表を聞く。 斉

6 「友達がたからものだときいてどうおもったか」考え、発表する。 斉

7 「友達パワー」を紹介し合う。 ペ
【伝え合う力】

・ぼくは・わたしは、
といわれたとき、
とおもいました。

○より近くに友達 existenceを感じ、また紙芝居が見やすくなるよう子どもたちを一カ所に集めて紙芝居を見せる。

○物語の主人公と自分を同化させ、自分のこととして考えるようにするため、なぜふうとさんは、しゅんすけさんを宝物にしたのか考えて、発表するよう促す。

○子どもたちそれぞれに自由な考えを述べさせるため、どんな考えでも認めていく。

○「実は、ふうとさんのように、このクラスにも、友達が宝物と書いた子がいる。」ということ伝え、その発表を聞くことで、物語がただのお話ではなく、身近な内容として、自分に置き換えて考えられるようにする。

○友達というのは、同じ学級である皆のことをさしているということ伝え、自分が宝物と言われた時の素直な気持ちを発表させる。

○ペアでの交流をする前に、教師が見本を見せることで、取り組みやすいようにする。

○あらかじめ毎日書き溜めてきた友達に言われて嬉しかった言葉や、されて嬉しかったことを紹介し合うよう伝える。

○最初に座席のペアでやることにより、後の全体でのペア交流に自信をもって臨めるようにする。

○座席のペアで交流した後、自由にペアを組み、紹介し合い、多様な考えに触れさせる。

○友達がどんなことを言われたりされたりした時に、嬉しい気持ちになっているかよく聞くことで、今後の友

○物語を自分と同化し、自分のこととして考えることができたか。

(発表)

○友達が宝物という考えに対して、素直な思いを発表できたか。

(発表)

		達に対する接し方を、考えさせるようにする。 ○紹介し合った後に、友達の発表を聞いてどう思ったか発言できるよう、真剣に聞くことを伝える。	
まとめ 6分	8 友達の「友達パワーを聞いてどう思ったか」を発表する。 <div style="text-align: right;">齊</div>	○友達の発表をきいて思ったことを発表するよう促す。 ○友達の多様な思いを聞くことで、今後の友達との接し方について考えられるようにする。 ○自由に考えを発表させるため、どんな思いも受け入れていくようにする。	○今後の友達との接し方について考えることができたか。 (発表)

4) 評価

- ・自分の考えをもとに、友達と交流することによって様々な考えにふれ、これからの友達との接し方を考えることができたか。

(5) 考察

本時では、資料「ふうとさんの たからもの」と同じ学級の身近な存在である友達の「友達がたからものだ」という発表を聞くことで、友達が宝物という考え方を知り、また、「友達パワー」を紹介し合うことで、友達がどんな言動で嬉しい気持ちになっているのか、加えて自分がどれだけ友達からパワーをもらっているのかに気付き、お互いに支え合っている友達を大切に、何事にも協力して共に過ごしていこうという気持ちを高めて欲しいと願った(図 70)。そのための手立てとして上記の「(3) ねらいにせまるための具体的な手立てとその工夫」であげた三つについて考察をしていく。

①導入での資料の提示

子どもたちを一か所に集め、紙芝居方式でホワイトボードを使用した資料提示では、子どもたちは、「これから何が始まるんだ。」といった様子で興味をもって真剣に聞いていた。また、あらかじめ自分の宝物が何かを考え、発表会を行ったことで、より身近なこととして感じられたようで、それにより、子どもたちは物語の主人公と自分自身を投影しやすかったのではないかと考える。

②授業の展開・形態

資料を提示した後に、「なぜふうとさんは、しゅんすけさんを友達に選んだのか」と問いかけたところ、子どもたちは、「だいじょうぶっていつてくれるから」や、「いっしょだとうれいから」「やさしいから」「はげましてくれるから」などと答えた。そこから、子どもたちが、自分にとっての友達が、どのような存在なのかを考え、しゅんすけさんの気持ちになって宝物に友達を選んだ理由を考えることができていたと読み取れる。

また、学級であらかじめ、宝物は何かを考えさせたところ、29人中1人しか、友達が宝物と書いた子はいなかったが、友達が宝物と書いたたった一人の子の理由は、「友達はげん

きだし、やさしい。それにいまは、友達が大ききだから」というものだった。その発表を聞いた周りの子どもたちは、驚きを隠せない様子だった。その発表に対してどう思ったかという問いに対して、「みんなが、ものとかがたからものといっていたのに、友達のことをたからものにするなんてすごい」という答が出た。実際に学級で「たからものはっぴょうかい」を行うことで、資料に現実味をもたせ、友達が宝物だという子の発表を聞くことで、子どもたちにとってとても心に残る発表になったのではないかと感じる。

机をコの字型にし、中央の開いたスペースで行った交流では、子どもたちがいきいきと活動する姿が見られた。さらに自分で自由にペアを作っての交流の時間を設けたため、よりたくさん友達と自分の思いを伝え合うことができていた。

しかし、「たからものはっぴょうかい」から「友達パワー」の紹介への展開が唐突すぎたため、宝物の話と「友達パワー」にどのようなつながりがあるのかが分からず、困惑する子どもの姿も見られた。そのため、友達が宝物になりうる存在であるということに気づきはするものの、自分たちが互いに支えあっている存在であることに気付いたり、なぜ友達が宝物なのかという理由をしっかりと考えることができなかつたりしたのではないかと感じる。

③終末の工夫

「友達パワー」を紹介し合う中で、普段なかなか友達とうまく関わることのできない子からもらったパワーを紹介している子がいた。それを聞いた本人は、とても恥ずかしそうな感じではにかんでいた。その子にとってこれからの友達と積極的に関わろうという意欲付けにつながったのではないかと思う。

終末で子どもたちに「友達の『友達パワー』をきいてどう思ったか。」と聞いたところ、「こえの大きさがよかった。」や、「たくさんいえた。」といった、内容に迫るものではない答えがとても多かった。これは、上記②の授業の展開・形態で述べたように、「たからものはっぴょうかい」から「友達パワー」の紹介への展開が唐突すぎたためだと考える。価値の押し付けにならないよう気を付けながらも、道徳的価値に気づき、それを自分に投影して考え、自発的に道徳的実践に移していけるような工夫が必要である。「友達パワー」を紹介し合う際、誰に言われたのか、してもらったのかをはっきりとさせることで、名前が出た子は、よりこれからも続けていこうと考えたり、名前が特に出なかった子も、友達の考えを聞くことで、これからの友達との関わり方を考えることができたのではないだろうか考える。

今回の授業を行った約2ヵ月後に、子どもたちに宝物は何かのアンケートを再度とった。前回は29人中1人だけが、友達が宝物だと答えていたが、②回目のアンケートでは、29人中5人が友達、9人が家族、15人が前回と変わらないシールといったものを宝物として挙げていた。数を見ても分かるように、明らかに友達を宝物として挙げた子の数が増えている。5人の子が友達を宝物とした理由は、「げん気いっぱい、あそんでくれるから」「友達がいなかったらさみしいから」「なんでもたすけてくれたり、いっしょにあそんだり、いろいろしてくれるから」というものだった。授業を通して、友達が宝物になりうるということと、友達に支えてもらっている、友達がいるから楽しいということを強く感じたこと

が表れていると考えられる。また、家族が宝物と挙げた子の理由は、「いないとさみしいから。」や、「こまったときに、すぐたすけてくれるから。」、「まもってくれるから。」というものだった。家族は友達とは違う存在だが、周りの人とのつながりを意識し、支えられていると感じている証拠と考える。

しかし、まだ 15 人の子どもたちが、人ではなくものを宝物として挙げている。確かに、ものを大切に思うことは決して悪いことではなく、むしろ良いことである。それに、友達や家族といった周りの人を大切にしていけないとは思わない。これから、つながりある人をさらに大切にしようという思いを強くもたせるためには、1 回限りの授業ではなく、日常生活の中で、友達と関わり、協力できるような場面を増やしていくことが大切なのではないかと考える。

資料とワークシート

①資料

ふうとさんの たからもの

1ねん②くみは、べんきょうで、「たからもの はっぴょうかい」をすることになりました。みんなは、じぶんの「たからもの」はなんだろうといっしょうけんめいかんがえました。そして、どの人もじぶんのたからものについてさくぶんをかきました。

ひとりひとりが、じゅんぱんにはっぴょうしていきました。じぶんのたからものをみせながら、おはなしをしました。えらんだりゆうがわかるように、はっきりとしたことばで、はなしました。みんな、ともだちのはっぴょうをたのしくきくことができました。しつもんやかんそうもたくさんでました。だから、みんなのたからものことがとてもよくわかりました。なおやさんのたからものはトロフィーです。からてのたいかいでゆうしょうしたときにもりました。ゆめかさんはかわいいぬいぐるみがたからものでした。おばあちゃんからのプレゼントなのです。

さいごは、ふうとさんのはっぴょうです。

ぼくのたからものは、しゅんすけさんです。どうしてかというと、ぼくがこまったときに、しゅんすけさんがいつもたすけてくれるからです。しゅんすけさんといっしょだと、ぼくはうれしいきもちになります。

ふうと

ふうとさんの「たからもの」に、どの人もびっくりしました。ふうとさんは、にこにこがおではっぴょうしました。はっぴょうがおわると、しゅんすけさんがまえにでてきました。そして、ふたりは、がっちりとかたをくみました。

きがつくと、がっきゅうのみんなも、にこにこがおになっていました。

ないという理由で友達の不正を許してしまったりすることも少なくない。本授業では、好き嫌い、損得などの自己に執着する感情から抜け出し、客観的に物事を見て、自分が正しいと思う判断や自分の良心に従って、公正・公平に人と接する態度の大切さに気づかせたい。

2) 資料について

本資料は、主人公がアンパイア（野球の主審）になった際に、ホームランかファウルのどちらかで迷う。小学校生活最後の大会であった。自分のチームが打った打球がホームランかファウルのぎりぎりのラインを通過していく。周りからみたら「ホームラン」。しかし、アンパイアである自分が見たときには「ファウル」。この時、主人公は自分のチーム（友情）をとって「ホームラン」と言うのか、あるいは勇気を出して、真実を伝え「ファウル」と言うのか迷うという内容である。

本資料で、自分の良心に従って公正にふるまい、だれに対しても公平な態度で接する気持ちを高めていきたい。

3) 児童の実態

本学級は、5年生で男子18名、女子14名の32名のクラスである。とても元気なクラスであるのだが、友達関係に悩む児童も少なくない。特に女子においては、なかなか友達とうまく付き合うことができずトラブルも多い。自分の決めたことに反対されれば、友達だったのに…とけんかになったり、また嫌われてしまうから、自分の意思ではなく友達の行動に従ってしまったりと、表面的な付き合いをしている児童もいる。男子においても、間違っただけをしている友達を目の当たりにしても、なかなか注意できず、見て見ぬふりをしていたり、自分も一緒に加わってしまったりする場面もある。こういったことから、自分で正しいと思ったことには、友達であっても勇気を出して断ること、または自分で正しい判断をして公正・公平な態度を身につけてほしいと考える。

逆に、周りの場面、状況、友達も関係なく、全て正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると言い切る児童もいる。こういったことが決して悪いことだとは思わないが、いろいろな価値に触れ、考えを多様化し、友達、周囲の人の気持ちを考えられるようになってほしいと考える。

4) 関連教材

道徳	「時計係」(モラルジレンマ)(5年)
	「モントゴメリーのバス」(6年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手立て

1) 資料提示

資料は表面(資料1)と裏面(資料2)に分けて提示する。表面には主発問である「ホームランというかファウルというか」について、各々の意見を考えられるようにする。また、その際自分に「ホームランかファウル」を決めるために、資料を穴あきとして提示する。その後、裏面を提示し、公正・公平な態度をとった主人公について全員で考え、公正・

公平な態度で接しようとする気持ちを高めるものとする。

2) 授業展開・形態

「ホームラン」か「ファウル」の2つの立場に分かれて、根拠を立てて、意見交流を行う。それぞれの立場を明確にするためにネームプレートを使用し、意見が変更した際には、ネームプレートを裏面に返して使用する。また、帽子を使用し、意見交流の際に常に皆の意見が見られるようにする。

また、自分の意見をもつために個人の時間を十分に確保し、そして、自分と同じ立場の人と交流することで、より自信をもって意見が言えるようにする。その後、全体で、互いの立場の意見を理由を付けて交流できるようにする。その際、互いの顔を見やすくするために、コの字型の机配置にし、意見交流をしやすくする。

3) 終末の工夫

資料1で自分たちの意見を考え、伝え合いをした後に、資料2を提示する。今回、主人公のたった公正・公平な態度について全員で再び考え、なぜこの行動をとったのかを考える。その後、教師の公正・公平な行動をして良かったと思う体験談を話し、主題に迫るものとする。

(4) 本時の学習

1) ねらい

- ・自分の良心に従って公正にふるまい、だれに対しても公正な態度で接しようとする気持ちを高める。

2) 学習過程

学習形態：…一斉 …全体交流 …ペア …個別

過程	学 習 活 動 (主な発問と予想される児童の発言)	教師の活動と支援	評価 (評価方法)
つかむ	1 学習の見通しをもつ。	○学習の見通しがもてるように活動の流れを示す。	
	あなたが光一なら、ホームランと言う？ファウルと言う？		
	2 資料1を読み、キーワードを抑えるえる。 <input checked="" type="checkbox"/>	○全体でキーワードとなる言葉をまとめることで、考えを整理しやすくする。	
	3 自分の考えをまとめる。 <input type="checkbox"/> ・ワークシートに記入する。 <input type="checkbox"/> ホームランと言う ・自分しか知らないから、だまっていれば分からない。 ・友達が頑張ってきているのを見てきているから、友達に良い思いをしてほしい。	○友達と意見交流ができるように自分の考えを、根拠をもって書くように促す。 ○ネームプレート、帽子を使用し、立場を明確にし、交流をしやすくする。	○根拠をもとに自分の立場をはっきりさせた意見を持つことができたか。(ワークシート)

と り く む	<p>フェアウルと言う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審判だから、しっかり役割を守る。 ・ ルールを守らないと相手もかわいそう。 <p>4 友達と意見交流する。 <input type="checkbox"/>ペ <input checked="" type="checkbox"/>斉 [伝え合う力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の同じ立場の友達と伝え合う。 ・ 全体で意見を交し合う。 <p>5 資料2を提示をして、話の結末を伝え、再び全員で考える。 <input type="checkbox"/>個</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ立場の友達と交流することで、より意見を深め、また自信をもてるようにする。 ○ 多様な考えがあることに気付くことをねらいとし、違う立場の意見に耳を傾けるように促す。 ○ 意見があまりにも偏る場合は、揺さぶりをかける発問をし、考えを深められるようにする。 ○ 続きの話(資料2)を提示し、一方の考えについて話し合うことで自分の役割に責任をもつということについて考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な考えに触れることで公正な態度についての自分の価値観を見つめ、それを高めようとする意欲をもてたか。 (話し合い) ○ 公正・公平に接していこうとする気持ちを高められたか。 (ワークシート)
ま と め る	<p>6 本授業の感想を書く。 <input type="checkbox"/>個</p> <p>7 教師の話聞く。 <input type="checkbox"/>斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の活動に生かされるように、自分が本授業で考えたことを書くように指示する。 ○ 方向性をもったオープンエンドのための教師の意図が見えるものにする。 	

4) 評価

・ 良心に従って公正にふるまう気持ちを高めることができたか。

(5) 考察

本授業では、ネームプレート、帽子を使用し立場を明確にしたため、話し合いがスムーズに行えたと考える(図70)。5年生になると、良し悪しの判断はできてきている。何も揺さぶりがなければ、自分は審判なのだから、正しいこと言うのが正し



図70 授業に取り組む児童の様子

いということはわかっている。しかし、周りの状況、場面による揺さぶりがあったときに、正しい行動を取れない児童も多数いた。最初は自信をもって決めていた意見でも、友達の意見を聞き、考えを深め、迷う児童が多くいた。互いの意見を根拠をもとに交流することで、新たに考えをもった児童がいたり、自分の考えを深められたりしたのではないかと思う。違う立場の意見を聞き「ああそうか」「なるほど」と言った自然な反応も多くあり、子どもたち同士で意見交流が活発にできていたと考える。また、資料の工夫として、自分の意見を交流したあとに、公正・公平な態度をとった主人公について考えた。授業の感想に「自分は友達やその時の状況で、なかなか正直に言えないことがある。だけど、正しいことをきちんと言うことは大切なことだと改めて思った。言いにくくても勇気を出して、正しいと思うことは言うようにしたい。」という意見があった。まず自分の意見について考え交流をし、多様な意見に触れた後に、皆で公正・公平な態度をとった主人公の行動について考えたことで、周りの状況によって正しい行動を取れなかった児童も、公正・公平な態度をとることの必要性を考えることができたのではないかと考える。

・1ヶ月後の児童の様子

大きな変容はないが、自分で考えて行動することができるようになった児童もいる。児童Aは、全て友達と一緒に、友達が優先という児童だった。今回もやはり「ホームラン」と言う書き、理由は「友達が頑張っているのを知っているので、友達がいやな思いをするのは嫌だ。自分が黙っていればばれない。」ということだったが、この児童も授業の中で迷う場面が見られた。その後も何をするのも友達と一緒にだったが、友達が悪いこと（掃除中遊んでいる）をしている際に、注意をするまではいかないが、一緒になって遊んでいることがなくなった。小さな変化だが、この児童にとっては正しいことを意識した行動であると考え。しかしそれが、今回の道徳の授業だけの変化だとは思わない。ただ今回の授業を通して、自分で葛藤しながらも意見を出したこと、友達の意見を聞いて多様な価値に触れたことは、子どもたちの心に残っていると考える。友達の意見を聞いて多様な価値に触れることができたのではないかと考える。

道徳的心情は、道徳の授業1回だけで変化するものではないので、今後も授業を継続して行い、変容を見ていくことが大切であると考え。また、道徳的実践力をつけるために、普段の生活の中から、自分の役割に責任をもって行動したり、正しいと思う行動をとれた児童を賞賛していったりする必要があると考え。

実践3 小学6年生

(1) 主題 責任感と友情の葛藤

資料名 時計係 (出典「モラルジレンマ資料と授業展開」明治図書)

内容項目 責任4- (1) 信頼・友情2- (3)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

学校生活を送っていく上で、自分の与えられた役割に責任を持って取り組むことはとても大切なことである。しかし、責任感をもっていても友達の気持ちを考える、自分がまずい立場になってしまう、などの要因が入ってくると、心が揺れ動かされ、正しく判断することが困難になり、役割を果たせないこともある。しかし、学校生活の中で、しっかりとした責任感を醸成することは必要なことである。

本授業では、主人公の外的な要因による心の動きを考えていく。そして、外的な要因が入ってこようとも、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする気持ちを高めさせていきたい。

2) 資料について

本資料は、バスケットボール大会で時計係をしていた主人公が、努力をして試合に出られた友達の時間が過ぎて決めたゴールを先生に伝えるか否か、という資料である。友達の喜んでる姿を見て事実を伝えるににくい面はあるが、それでも自分の役割を果たすことが大切であることに気づかせたい。そして、友達との関係を大切にしながらも自分の役割を果たすことが、学校生活を円滑に送る要因になることまで考えをもっていきたい。

3) 児童の実態

卒業まで半年を切り、学級としてのまとまりは見られるようになり、友達との良好な関係は持てるようになってきた。しかし、委員会、係、学級のグループなどで責任を果たしている場面が見られないことがあった。また、友達に嫌われたくないがために、正しいことを言わずに、雰囲気流されてしまい、声掛けなどができずにいた。中学校進学を控え、自分の仕事をしっかり行い、責任感を持つことが中学校でも必要な資質であると考え、互いに自覚し合い、よい学級集団に育ててほしいと願っている。

4) 関連教材

道徳の授業での実践	サマーボランティア (4年)	4- (4) 勤労・社会奉仕
	ぜったい秘密 (6年)	2- (3) 信頼・友情
学活の授業での実践	清掃振り返りシートの活用 (6年)	責任感の醸成 (6年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手だてとその工夫

1) 資料の提示

先生に時間を過ぎていたことを伝えるか伝えないか、それぞれの立場に立つことで考え

られる影響を載せたヒントカードを配付する。それにより、児童の考えでは思考が及ばない点や凝り固まってしまっている考えを柔軟にさせ、より一層意見を出やすくする。また、ネームプレートを使用し、誰がどういった考えなのか即座に分かるようにし、意見交流をしやすくする。

2) 授業の展開・形態

ア. 個人での活動

スポーツにおいて何が大切なのかを質問して、考えさせた事前アンケートを見せて、ルールを守ることがスポーツでは一番大切なことを認識させる。落ち着いた雰囲気の中で事前アンケートを見せて、これから何を考えるのかを予測させることを意図とする。

イ. グループでの活動

少人数での活動では、伝える派、伝えない派のどちらなのかを確認するのではなく、それぞれの立場でどういった考えがあるのかを伝え合う活動とする。モラルジレンマの授業では、一方の立場を表明すると、違う考えに思考が及ばなくなり、狭い視点でしか話せないことがあるので、それを防ぐねらいとしてグループ活動を行う。

ウ. 全体での活動

机をコの字型にして全員の顔が見えるようにし、ネームプレートを活用することで、立場も一目で分かるようにする。立場を明確にした上で話し合いをさせることで、意見を硬直させず、様々な友達の意見を取り入れることをねらいとする。

3) 終末の工夫

本授業では、教師による体験談を話す。単純に責任を持つことがいかに大切なのかを話すのではなく、自分が審判をして苦労した時の話をする。それは、子どもたちが自分の中で授業を消化しているときに、上から押さえつけるような話より、自分で振り返ることができる話のほうが良いと考えるため、そういった意図をもって話す。

(4) 本時の学習

段階	学 習 活 動	形態	○支援 ・ □留意点 ・【評価(方法)】
つかむ8分	1 スポーツでは何が大切であるか、という事前アンケートの結果を見てルールを守ることの意義について考える。 2 本文を読み、学習課題を確認する。	全体	○ルールを守ることが大切であることを事前アンケートで認識させる。 □義男に感情移入ができるように、担任が感情を込めて読む。
	義男にとって大切なのは責任？友情？		
	3 本文の内容を読み取り、それぞれの置かれている立場を確認する。	全体	○物語のイメージを膨らませるために、絵カードを貼る。 □それぞれの置かれている立場を黒板に書き、立場をはっきりとさせる。

と り く む 34 分	4 ワークシートに義男の立場 になって考えを書く。 伝えない派 ・友達の活躍が見られたから ・黙っていれば分からない ・審判のミスを責められる	個	【義男の立場を、自分だったらどうする のかという視点で考えられているか(ワ ークシート)】 ○考えが書けない子には、場面をイメー ジさせたり、簡単な説明など、補足を していくことで、どちらかの考えに立 たせるようにする。 ○両方の立場で考えられる義男やクラス メイトの行動や気持ちが書いてあるヒ ントカードを配付して、多面的に考え られるようにする。
	5 グループで意見交換して、多 くの考え方を知る。	グル ープ	○机をコの字型にして顔が見えるように する。 ○ネームプレートを活用して誰がどうい った意見なのかを見えるようにする。 □意見がかなり偏る場合には、ヒントカ ードの逆の考えのみを提示して、意見 が少ない方の考えの子たちが自分の考 えに自信を持てるようにする。
	6 ヒントカードやグループで の意見を参考にして、全体で意 見交換をする。	全体	□意見がかなり偏る場合には、ヒントカ ードの逆の考えのみを提示して、意見 が少ない方の考えの子たちが自分の考 えに自信を持てるようにする。
	7 最終的な自分の考えを書 く。	個	【今までの話し合いを参考にして、最終 的な自分の意見をまとめることができた か(ワーク シート)】
	8 全体発表して意見を言う。	全体	○ 授業を通じて考えの変化のあった子 を中心に発表させる。
まと める 3分	9 教師によるまとめを聞く。	全体	□まとめを聞き、自分だったらどうする のかを再度考え、実生活とリンクした思 考にするために、余韻を持った終末にす る。

(5) 考察

1) 本時の授業について

授業開始時には、友達の努力を知っているからこそ、先生に伝えずに自分の心の中にしまっておくといった考えがあった。これは、友達を大切にしてきた学級の特徴であったと思う。また、正直に言うことで、時計係をしている自分に非難が来ると考えている児童も多くいた。しかし、友達との交流やヒントカードで多様な価値感に触れたことで、道徳的価値が高まっていった。それが、振り返りカードなどに表れている(図 71)。自己の保身や友達のことだけでなく、役割を全うすることが大切なことだと気づくことができた児童が出てきた。さらに、その後の友達への声かけなどにまで言及している児童もいた。自分

の責任を果たした上で、今後の友達との関わりまで考えている。そういった道徳的価値が高い段階にまで考えられた児童が出てきたことは、この授業を行った成果といえる。

2) 1ヵ月後の児童の様子

児童の中には清掃を今までさぼりがちだったものがいたが、授業後にとったアンケートの様子から意識が変化してきていることが見て取れる(図72)。さらに、学校生活全般で自分たちで声を掛けながら活動している姿が見られるようになってきた。これは大きな変化だといえる。しかし、まだまだ周囲の雰囲気にならされてしまい、自分の職務を全うできていない子たちもいる。

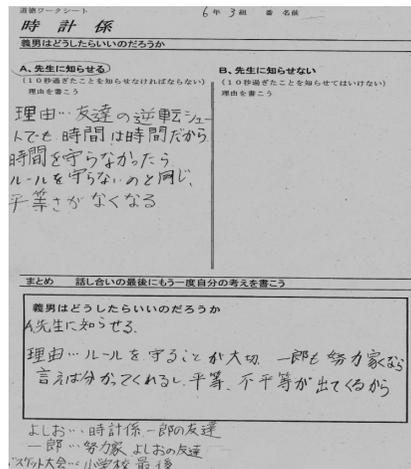


図71 振り返りカード

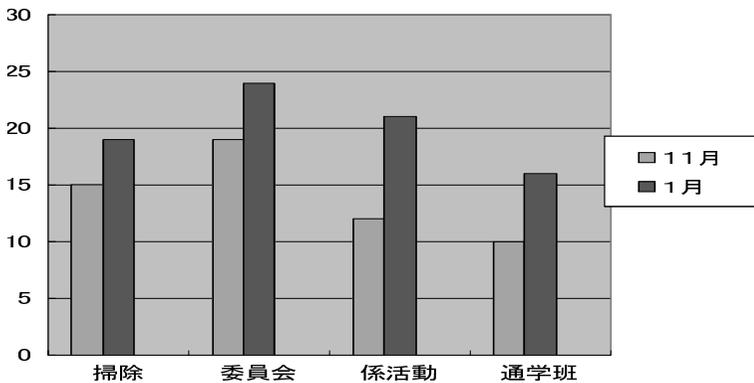


図72 授業の前後にとったアンケートの比較—それぞれの活動に対して「真剣に取り組んでいる」と答えた児童数の推移

3) まとめ

今回の実践では、アンケートの結果や子供たちの1ヶ月後の様子から、ある程度の成果が得られたと感じた。できる限り、子供たちの生活実態に即した資料を用意し、身近な問題として考えさせた点が良かったと思う。今後は、道徳的価値を高めていくために、資料の精選、資料提示の工夫、価値を高めあう方法の工夫などを通して、子どもの本音を引き出せるようにしていきたい。

参考資料：教材文

義勇君たち6年生は毎学期、学級対抗のバスケットボール大会をしています。今日は6年生最後、三学期の大会の日です。どのクラスも思い残すことのないすばらしい試合をしたいと張り切っています。どうやらこれまで出たこともない一郎君も、最後の試合という

ことで、3組の代表として試合に出られる様子です。

一郎君は動きが鈍いうえ、ボール扱いがへたなので1学期、2学期とも試合に出してはもらっていません。でも、心の中では出たいと強く思っていました。それで、家ではドリブルやボールキャッチの練習をよくしていました。また、義男君にバスケットのルールを聞いたりしています。

そんな一郎君ですから、最後の大会に出られると決まった時の喜びようはすごいものでした。一郎君は、1組の教室まで飛んできて、親友の義男君の手を握り、

「代表選手に決まった、決まった。」

といて、大喜びしていました。

さて、2組と3組の試合もいよいよ後半です。これまでの得点は22対20でわずかに2組がリードしています。時計係の義男君が後半始まり1分前の笛をたかだかに吹きました。両方のチームの選手がコートに集まってきました。一郎君が見えます。前半出ていなかった一郎君がいます。義男君は一郎君に向かって、

「頑張れよ一郎君。」

とさげびました。一郎君もそれに応えるように手を振りましたが、顔はすごく緊張しています。先生がボールを持って、コート中央に上がって行きます。義男君は時計の準備をしました。先生が高くボールを投げ、後半の試合が始まりました。どちらもチャンスがありながら、なかなか得点には結びつかず、思うように得点は増えません。試合時間は刻々と迫り、あとわずか30秒となりました。得点も35対34とわずかの差で2組がリードしています。このまま、2組が勝利を手にするようにみえました。

あと、10秒、5秒、・・・義男君は笛を口に加え、終了を告げる合図をしようとコートを見ました。そんな時、義男君の目にあの一郎君へパスがわたった光景が飛び込んできました。義男君は思わず一郎君の方へ顔を移しました。一郎君はキャッチしたボールをドリブルし、遠い位置からですがシュートしました。ボールはリングの中に吸い込まれるように入りました。その様子を義男君ははっきりと見ました。

ところが大変、われにかえって時計をみると10秒も時間が過ぎていました。大あわてで義男君は笛を吹き、先生に試合終了をつげました。先生は高だかに手を大きく振り上げ、試合終了の笛を吹かれました。

3組のみんなはその瞬間、跳び上がって喜びました。逆転です。みんなは一郎君のところへ駆け寄り肩を抱き合ったり、握手をしたりで大変でした。緊張気味の一郎君の顔もだんだん喜びをいっぱいにあらわしたものとなり、そして、その顔は涙で光っているように思えました。

そんな一郎君の姿を目にした義男君は10秒過ぎていたことを先生に知らせようかためらっていました。

実践4 小学4年生

(1) 主題 相手のことを思いやり、親切にする

資料名 はしの うえの おおかみ (出典「明るい心」小学1年)

内容項目 思いやり・親切 2- (2)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

いろいろな人との関わりの中で、心のぶつかり合いはよくあることである。相手の気持ちや立場を考えることができれば、防げることも少なくない。自分のことだけでなく、相手のことも理解しようとする心を持って周りの人と接すれば、相手の気持ちがわかるようになってくるだろう。相手の気持ちがわかってくれば、「相手のために何かをしてあげたい」という心が芽生えてくる。この「相手のために何かをしてあげたい」という心を持つことが、さらに親切な行為につながると言える。

本授業では、登場人物(おおかみ)の行動や心の動きを通して、相手を思いやった心の持ち方や行動について考え、実践につなげていきたい。

2) 資料について

本資料「はしの うえの おおかみ」は、一本橋の上で、渡ってくる弱い動物たちに意地悪をしていたおおかみが、力強い熊に、思いがけなく親切にされて感激し、自分の行動を反省して、うさぎやたぬきに親切にしようとする話である。おおかみの気持ちに共感しながら熊に親切にされたときの気持ちをとらえさせることを通して、親切にすることの大切さに気付かせたい。そして、それを自分に置き換えて考えさせることにより、相手のことを思いやる心を持つことの大切さに考えを及ばせたい。そして、さらに行動に移すことができるようにさせたい。

3) 児童の実態

本学級の児童は、学級目標を「努力 全力 友達力」と掲げ、非常に明るく活気にあふれて過ごしている。学習や行事などでは常に、学級目標に振り返り意識付けを図っている。しかし、その取り組みの過程を見ても、ほとんどの児童が自己解決で済ませたり、先生に頼ったりしていて、友達同士で協力したり、助け合ったりする姿があまり見られなかった。また、係活動で困っている子がいても、進んで手伝おうとすることもあまり見られなかった。

中学年の時期は、外面的な見方・考え方から内面的な見方・考え方、自己中心的な考え方から他者のことも考えられるようになってくるころである。したがって、この時期に相手の気持ちを考える機会を設けることにより、相手を思いやることについて考えさせ、それが日常生活で実践できるようにさせたい。

4) 関連教材

道徳 「こわされたタワー」「おばあさん」 (3年)

道徳 「席があいているのに」「落ちていたきつぷ」 (4年)

体育 「長縄」「ポートボール」

帰りの会 「友達の良い所見つけ」

道徳 「クラスの宝物」「おばあさん、待っててね」 (5年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手だてとその工夫

1) 資料の提示

資料は、結末に左右されることなく、その場面に応じた気持ちを考えさせるため、場面絵を一枚ずつ提示して、その場面絵の登場人物の気持ちを考えさせる。また、この資料は何人かの登場人物が出てくるが、おおかみの気持ちだけを考えさせ、児童が「今は誰の気持ちを考えているのだろう」と、混乱しないようにする。それにより、おおかみの気持ちの変化を深くまで考えさせたい。

2) 授業の展開・形態

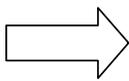
本授業では、自己の振り返りに重点を置く。そのため、前半の資料の読み取り段階には、時間をかけずにおおかみの気持ちだけを考えさせる。また、資料の読み取りから自己の振り返りに移行する際、おおかみは誰に相当するのか、うさぎは誰に相当するのかなど、一般化を丁寧に行う。それにより、本授業のねらいに沿った振り返りができるようにする。また、授業形態の工夫としては、以下のことを行う。

①ワークシートの活用。

- おおかみの心情だけを書き込める構成。
- 個の時間は、常に記入させて考えさせる。

②自己の振り返りをフリーペアで紹介。

○自己の振り返りを男子3人、女子3人に紹介する。



ねらい

- 友達の話を聞く中で、間接的経験を自分の心に取り入れる。
- 多くの友達に話すことで、自らの経験を深く思い返せる。

3) 終末の工夫

終末は、教師が児童の振り返りと同じ「相手に親切にできなかった経験」の話をするこ
とで、児童の振り返りの拡充を図る。また最後には、「行為の意味」の詩を紹介し、作者の
気持ちを考えながら全員で読み、余韻を残して終われるようにする。

(4) 本時の学習

	児童の活動	学習形態	・留意点 ○支援、個を生かす手立て
1	学級目標の「友達力」について考える。	全体 (3分)	・簡単なテーマで話し合いながら、授業への意欲づけを図る。

<p>・「友達力」とはどのような力でしたか。</p>		
<p>相手の気持ちを考えよう。</p>		
<p>2 資料を見て、話し合う。</p> <p>(1) うさぎに意地悪をしたときのおおかみの気持ちについて考える。</p> <p>(2) 熊と出会ったときのおおかみの気持ちを考える。</p> <p>(3) 再びうさぎと出会ったときのおおかみの気持ちについて考える。</p> <p>3 おおかみの心に目覚めた思いやりについて考える。</p> <p>4 今までの自分を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに自分が意地悪なことをしてしまった経験を思い返す。 	<p>(19分)</p> <p>個 全体</p> <p>個 全体</p> <p>個 全体</p> <p>(5分)</p> <p>個 全体</p> <p>(13分)</p> <p>個 ペア 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一本橋の上で、うさぎ、熊と出会ったときのおおかみの気持ちについて話し合わせる。 ○ 考えをはっきりさせるために、場面絵を提示しながら、順を追っておおかみの気持ちを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・ 熊は大きくておおかみにとっても驚異の存在であることを押さえた上で、その心情を考えることで、おおかみの存在を押さえる。 ○ 「おおかみが熊から受け取ったものは何か」という形式の発問により、児童がおおかみの心に目覚めた思いやりの心について考え、本時の目標に迫る。 ○ 資料の登場人物が実生活の誰に当たるのか押さえる。 ・ 作業が進まない児童に支援の声掛けをしたり、視点を示したりし、自己の経験を振り返りやすくする。 ・ フリーペアで経験を紹介し合い、多様な経験に触れられるようにする。
<p>5 教師の話を聞く。</p>	<p>全体 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の「今までに自分が意地悪をしてしまった経験」を紹介し、児童の振り返りの拡充を図る。 ・ 最後に「行為の意味」の詩を、作者の気持ちを考えながら読み、余韻を残して終わる。

(5) 考察

1) 本時の授業について

今回の授業実践では、まず、児童が登場人物に自分を重ね合わせやすくするために、場面絵を1枚ずつ提示し、その場面の気持ちを考えさせた。また、おおかみのみの気持ちに限定したワークシートを活用した。その結果、児童は今誰の気持ちを考えればよいのかと迷うことなく考えることができ、学級全体で思いやりについて多様な意見を引き出すことができた。また、自己の振り返りの前に、このお話のそれぞれの登場人物が実生活の中の誰に当てはまるのかを、全員で押さえた。そのため、ほぼすべての児童が自己の振り返りにおいて、自分の実体験にそった感想をワークシートに記入することができていた。その後、記入したワークシートを持って、ペアで振り返りを紹介する活動では、交流人数を指定したことにより、児童が進んで話を聞いてみたい友達の所に行って活動することができていた。この振り返りを通じて、児童は人を思いやることや親切にすることについての道徳的価値を高めることができたのではないかと考えられる。

このことから、児童の道徳的価値を高めるためには、自己の振り返りをしっかりと行うこと必要である。その振り返りを行うために、資料の提示の仕方や展開・形態の工夫が大切だと言える。

2) 1ヶ月後の児童の様子について

授業後の様子について見てみると、係活動や行事、その他多くの場面で、友達を思いやり、親切にする姿が表れてきた。例えば、係で人数が足りていないときに、進んで手伝いをしたり、学習発表会の劇の練習が遅れている友達がいるときには、その友達に声をかけて一緒に練習をしたりしていた。今までは児童の自己中心的な姿がよく見られていたのに、このような姿が見れるようになったのは、やはり道徳の授業で思いやりと親切な行動について取り上げたからだと言える。授業の中でしっかりと自己の振り返りの時間をとり、今までの行動を振り返ったからこそ、「どう行動すると相手がいい気持ちになるのか。」を、考えられるようになったのだと言える。そこで、これからも週1時間の道徳の授業を大切にしていき、児童の道徳的価値さらには実践力を高めていきたい。

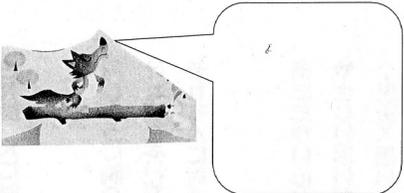
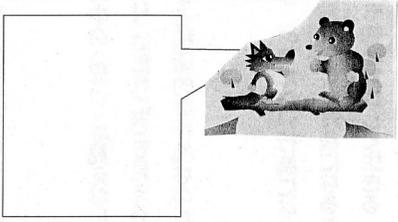
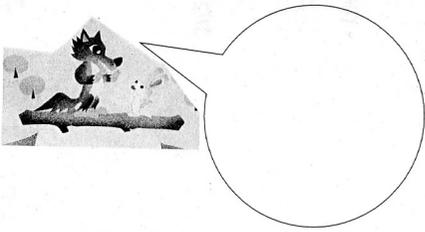
本時で使用した資料





はしの うえの おおかみ 年 組 名前 ()

○ それぞれの場面でおおかみはどのような気持ちだったのでしょうか。

○ おおかみは、くまから何を受け取ったのでしょうか。



○ 今までに、自分が相手にいじわるなことをしてしまった経験はどんなことでしたか。また、それを思い返してみて、どうしていたらよかったのか考えてみましょう。

「こころ」は
だれにも見えないけれど
「こころづかい」は
見える

「思い」は
見えないけれど
「思いやり」は
だれにでも見える

みやざわ しょうじ

実践5 小学5年生

(1) 主題 思いやりの気持ちを持つ

資料名 「のび太」という生きかた (出典「のび太という生きかた」)

内容項目 思いやり・親切 2- (2)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

毎日一緒に生活していると、相手の嫌なところがみえると、ついつい「あなたは、○だね」と相手に伝えることが多い。しかし、そういった悪口よりも、他人のすばらしい面を素直に「いいな」と肯定する姿勢や他人を思いやったり、親切にしたりすることで心を成長させる肥やしとなる。また、自分のことばかり考えていて、自分の幸せを考えてしまう人が多いかもしれないが、自分の幸せを願うなら、周りの優しさを待つより、自分から思いやりをもって人に接することが大切である。よりよい学校生活を送るためには、自分のために何かをするのではなく、誰かのために動くことも大切であることを伝えたい。

2) 資料について

本資料は、「のび太の生きかた」について書かれているいくつかの短文のヒントカードからできている。前半は、いくつかのヒントカードからのび太の見方を変えていく。後半は、その資料をもとに「なぜ、のび太は、しずかちゃんと結婚できたのか」を考え、のび太の良さに迫っていく。「のび太の結婚前夜」のDVDに入っていた、しずかちゃんのお父さんのセリフ「のび太くんは、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむ人だ」から、人の悪口や人の嫌なことを願うのではなく、周りの人に優しさを振りまき、自分以外の人が幸せになることを願える人、人の心の痛みを感じられる人になってほしい。

3) 児童の実態

児童数男子2人、女子3人の計5人のクラスで、とても仲がよく、お互いに協力して何事も取り組むことができる。

学級編成が、1年生からずっと変わらないため、どんなことでも言い合える良さはあるが、そんな中で、平気で人を傷つけることを言いがちである。「親しき仲にも礼儀あり」というように、仲がよいからこそ、言うてはいけないことの区別を考えさせたい。そして、他人のことを思いやれるような言葉がけが互いにできるようにさせたい。

また、児童の1人に、普段やることが遅く、いつもみんなの力を借りることの多いAがいる。Aは、自分のことを「僕はだめだ」など、マイナス思考の発言をすることが多い。そんなAにも良い所がたくさんある。その中の1つに、「友達の嫌なことを絶対言わない」所である。この授業を通して、Aにも自分の良さに気づいてほしい。

4) 関連教材

道徳 落ちきたきつぷ カンボジアの子どもたちへ (4年)

クラスの宝物 おばあさん待っててね (5年)

二つの投書 おばあちゃんの指定席 (6年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手だてとその工夫

1) 資料の提示

資料を提示する前に、主人公「のび太」のイメージを児童に発表させ、教師が黒板に書き、資料をしっかりと考える前に、一度自分の理解度を知り、本題に入る前の下準備をする。また、1つの資料にこだわらず、「のび太」の資料をたくさん提示することで多面的な考え方を引き出す。また、いくつかの「のび太」に関するヒントカードを用意する。児童一人一人違うヒントカードを見ることで、多様な考えに触れられるようにする。そして、ヒントカードから読み取ったことを初めに配ったプリントに、付け足して書いていく。

2) 授業の展開・形態

たくさんの資料から、「のび太」の情報を得ていく。その中から、「のび太」はどんな人なのか、「のび太」の良さを友達の考えを聞きながら深めていく。深める際、プリントに「のび太」の良さをどんどん書いて、考えが変化していくことに気づかせる。

学習形態は、グループになった時に、話し合いが進みやすいと考え、コの字型で進める。また、互いの意見を交流する場面を増やすことで、自分の内面を見つめ、道徳的価値に目が向くようにさせたい。

3) 終末の工夫

しずかちゃんのパパがしずかちゃんにのび太のよい所を言う場面のDVDを見せる。そこで、しずかちゃんのお父さんの言ったのび太の良さを聞き、改めて感じたことをプリントに書かせることで、のび太のように、思いやりの心をもって生活することを心がけるようにさせたい。

(4) 本時の学習

主な学習活動と予想される児童の反応	学習形態	指導・支援
1 今持っている「のび太」のイメージを発表する。	一斉 3分	・資料に入りやすいように、「のび太」のそれぞれのイメージを確認する。
のび太の生き方について考えよう。		
2 「のび太」ヒントカードを読む。 ・「月の光と虫の声」・・・ のび太は悪口を言わない。 ・「このかぜうつします」・・・ 誰にでも優しくできる。	個人 15分	・ヒントカードを読んで、のび太のよさに気づいたら、プリントにメモさせる。 ・プリントには、分かった「のび太」の性格は、赤色で書き、友達の意見は青で書き、だんだん変わる自分の意見と区別して分かるようにさせる。
3 「のび太」ヒントカードに書かれたことで、「のび太」の性格について分かったことを書く。	個人 5分	・考えをプリントにまとめることで、子

4 「のび太」の性格について分かったことをグループで交流する。	グループ 5分	どもたちの考えを明確にさせる。
5 DVDを途中まで見る。 ・しずかちゃんはなぜのび太と結婚することを決意したのか考える。	一斉 5分	・分かった「のび太」の性格について、振り返り、人には、どんな性格が、一番必要か考えさせる。
6 考えたことを発表する	一斉 7分	・自分の考えと、友達の発表を照らし合わせながら聞くように指示する。
7 DVDの最後の部分を見て、感想を書く。	一斉 5分	・しずかちゃんのお父さんのセリフを聞き、感じたことをプリントに書かせる。その後、本時の授業で学んだこと、感じたことを自分に投影しながら書かせる。

(5) 考察

授業をする前は、「のび太は駄目な人」というイメージが強かったようだ(図 73)。しかし、授業後は、ヒントカードでのび太のよいところを知り、だんだん「のび太」の見方が変わっていくことが感じられた(図 74)。つまり、「のび太は駄目だけど、こんなよいところもある」という考え方に変わってきたのである。ただ、DVDでのび太の一番優れている性格が分かったが、言葉では分かっている、実感はわからず、深く理解していないようだった。

授業を終え、1か月後には、以下2点について大きく変化した。

① マイナス発言が減少した。

この授業をする前は、「ぼくはだめだ」とマイナスな言葉をよくつぶやいていたAが、1か月後、それを言わなくなった。そして、相変わらず、人のことを悪く言うことはなく、みんなを優しく包んでくれている。他の児童もその優しさに気づいているようである。Aは、自分が優しくしてもらう前に、自分が優しくすることで、他の人からも愛されているのに違いないと感じた。

② 優しく、言葉に気をつけ、注意できるようになった

何でも思ったことは注意できる5年生。しかし、言い方は、きつい言葉であったり、相手のことを思って言っていないときも良くあった。しかし、最近では、相手のことを思いやって注意をしたり、「あまり、〇〇しなくなって、いいね！」など、優しく言葉かけできるようになってきた。いつも人に注意できるが、言葉がきつい児童の今年頑張ったことにも「友達に優しくすることができた」という言葉が書いてあった。少しずつであるが、「思いやり」「優しさ」が芽生えてきているように思う。

道徳の授業を通して、学級として少しずつ思いやりをもって仲間と接することができるようになったことを感じる。

しかし、自分に余裕がなかったり、無意識に人を傷つけることもある。児童では気づか

ないときもあるので、教師が正してあげる場面も必要である。また、思いやりの気持ちをもって人と接している場面では、褒めることもしていきたい。そういう積み重ねで、自然な形で、人に親切にできたり、互いに思いやる心を育てていきたい。

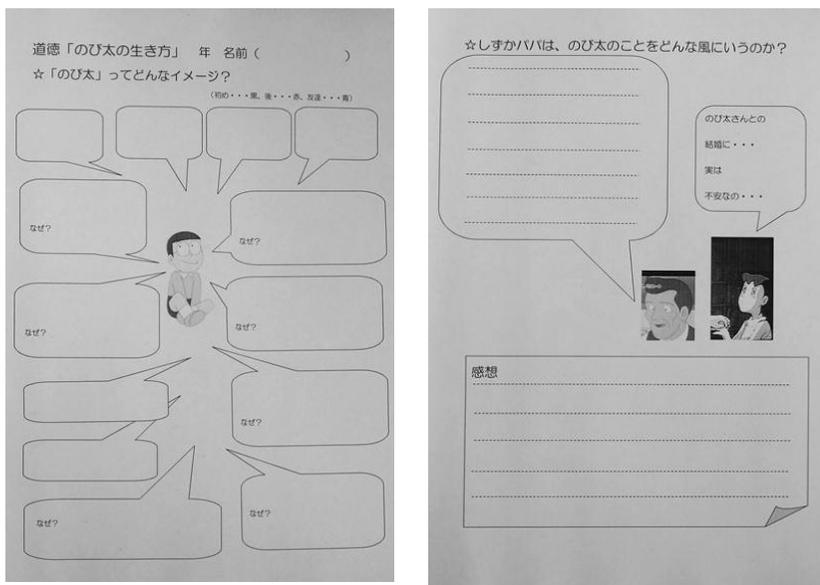


図 73 授業に使ったプリント

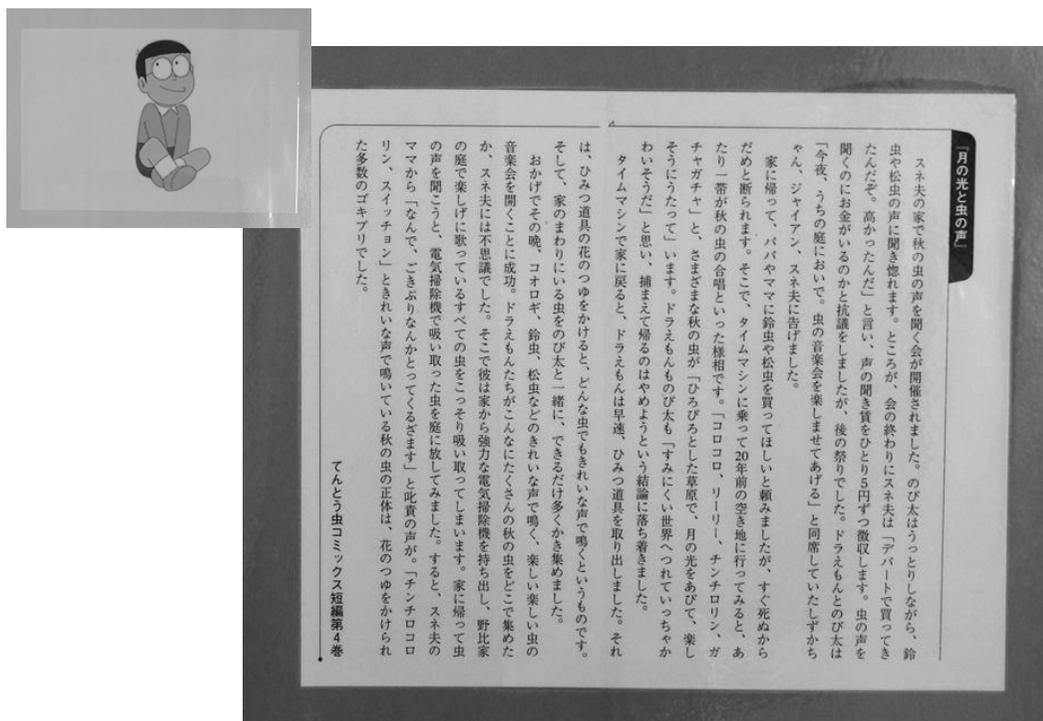


図 74 ヒントカード

実践6 小学3年生

(1) 主題：誠実な心をもつ

資料名 : どうする、健？(出典「モラルジレンマ資料と授業展開」明治図書)

内容項目 : 誠実、明朗 1- (4)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

明朗誠実とは、どんなときでも、また利害損得にかかわらず真心をもって明るく行動することである。しかし、トラブルが起これば冷静さを失ったときには、自己中心的になってしまったり、勝負事では、ごまかしたり、うそをついたり、損得を考えて行動してしまったりすることがある。

人は誰でも「よりよく生きたい」という気持ちをもっているものである。様々な価値観の葛藤の中で、よりよく生きるためにどのような選択肢があるのかを考え、どのような状況においても正々堂々と行動する大切さに気づかせたい。

本授業では、登場人物の心の葛藤を通して、勝負に対する思いや人間としての向上心について考え、これからの一人ひとりの生き方につなげたい。

2) 資料について

本資料は、1984年のロサンゼルスオリンピックで金メダルを獲得した山下泰裕選手(柔道)をヒントに、小学生用にアレンジされたものである。

優勝を目指して、一生懸命に練習してきた健が、足をけがしている相手選手のたつやに対して、その足を攻めるべきか、攻めるべきではないかで迷う場面が書かれている。

児童は、資料を通して、「試合に勝つために足をせめるか」「負けるかも知れないが、足をせめずに戦うべきか」の葛藤にぶつかる。そして、その葛藤をどう解決したら良いのかを意見を交流し合い探っていく。この過程のなかで、自分に正直に生きることの難しさや、人間としての向上心の大切さについて考えさせたい。

3) 児童の実態

本学級の児童は3年生で、男子11名、女氏13名が在籍している。男女の仲もよく、当番活動や係活動などもお互いに協力して活動している。日頃から、良いところは褒めあい、友達が失敗しても「だいじょうぶだよ」「もう一回やってみよう」と声をかけ、思いやりをもって生活している。また、正義感も強く、決まりを守っていない友達を見つけたり、相手を傷つけるような言葉を聞いたりすると、注意してみんなが気持ちよく生活できるように規律を守ろうと努力している。

しかし、まだ自己中心的で周りのことを考えて行動することが苦手な児童もいる。道徳的価値に結びつく発言は多々あるが、それがなかなか実践に結びつかない。特に、勝負事になると「勝ちたい」「どのチームよりもいい結果を残したい」という気持ちが強くなり、点数をごまかしたり、うそをつくこともある。3年生という発達段階から考えると、自己中心的に行動してしまう場面も理解できるが、明朗誠実に行動しようとする気持ちや態度

は、これからも大切なものである。そこで、どのような状況においても正々堂々と行動する気持ちよさに気づかせたい。来年には高学年になるので、素直に真心をもって行動しようとする心情を育てたい。

4) 関連教材

道徳 「どんぐり」(2年)

道徳 「わすれ物」(4年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手だてとその工夫

①資料の提示 資料は前日に読ませる。また、物語の場面の様子や主人公の気持ちをしっかりと読み取った上で、前日に最初の判断・理由を書かせる。本時では、主人公の主な葛藤内容を短い言葉でまとめ、短冊に書き貼り、主人公の気持ちや状況を分かりやすく揭示し、資料の内容を簡単に振り返る。

②授業の展開・形態 前日に最初の判断を書かせることで、意見交流の時間を十分にとり、様々な価値観に触れることができるようにする。また、机の形はコの字型にし、相手の顔を見て話をするとともに、友達の意見を聞きやすくすることで、話し合いに主体的に参加できるようにする。さらに、赤白帽子で、意思表示をさせ意見交流が活発に行われるようにしたり、ネームプレートを黒板に貼り、意見の変化が分かるようにすることで、心の揺れ動きが互いに分かるようにする。

③終末の工夫 授業の時間内では児童の気持ちが高ぶっているため、時間をおいてから主人公の判断を話す。その時には、正々堂々と戦った主人公を称える新聞の見出しとなった言葉を提示することで、どのような状況でも正々堂々と行動することのよさに気づかせる。授業の最後には、意見交流を通して感じたことや考えたことを書き、自分を振り返る。

(4) 本時の学習

学習活動(主な発問と予想される児童の発言)	指導・支援の留意点
(1) 主人公の葛藤内容を確認する。 ○健は、どんなことで迷っているのか。 ・けがをしている足をせめるべきか、せめるべきではないか。 ○健は、どんな気持ちで大会に出ているのか。 ・県大会に出るのが夢。 ・この大会に向けて休まず練習してきたから、絶対に勝ちたい。	・健の迷いを焦点化してとらえさせ、話し合いのテーマを確認する。
(2) 資料を読んで、話し合う。 ①自分の最初の判断・理由を発表する。	・ネームプレートを黒板に貼り、お互いの意見の変化(揺れ動く心の様子)

<p>A. 足をせめるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優勝したい。 ・一生懸命練習してきたし、みんな応援してくれているから。 ・弱点をせめるのも、戦い方の一つ。 <p>B. 足をせめるべきではない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の弱点をせめるのはずるい ・足をせめると、けががもっと悪くなるかもしれない。 ・足をせめて優勝しても、うれしくない。 <p>②それぞれの判断・理由について意見や質問を發表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足をせめるのはずるいことではない。 ・せめないで勝った方が正々堂々とした戦いである <p>③周りの意見を聞いた後の自分の考えをワークシートに書き、判断が変わった人の意見を聞く。</p>	<p>が分かるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う際に、お互いの意見や立場が分かるように、赤白帽子をかぶる。 ・もし、足をせめずに負けてしまったら健はどう思うか、健が足をせめたらたつやはどんな気持ちになるかを問うことで、それぞれの判断にゆさぶりをかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとは違う考えを聞き、様々な価値観に触れさせ、自分の判断が正しいかどうか、考えさせる。 ・それぞれの考え方に対する自分の立場（賛成・反対）を明確にしなが、質問や意見を述べさせる。 ・様々な考え方があることに気づき、心の葛藤を通して、正々堂々と行動することの難しさと向上心の大切さに考えを及ばせる。
<p>(3) 授業を通して、感じたことや考えたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝負に対する思いや人間としての向上心について、多面的に深く考え、これまでの自分の姿を振り返り、これからの生き方につなげることをねらいとして書かせる。

(4) 考察

①最初の判断と理由

判断	人数	理由
A (足をせめるべき)	15人	<ul style="list-style-type: none"> ・休まず練習してきたから。 ・念願の県大会に出るためにはしかたがない。 ・足をせめるのも、一つの戦い方だと思う。 など
B (足をせめるべきではない)	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとけがが悪くなってしまうかもしれない。 ・足をせめて勝っても、すっきりしない。 ・たつやがかわいそう。 など

どちらとも言えない	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・優勝したい。けれど、たつやの足が悪くなくても一緒に柔道ができなくなったら悲しい。 ・優勝できる、けれど、気持ちよくない。 など
-----------	----	---

②抽出児童Aの実態と判断

判断：男はけがとか何とかじゃなくて、正々堂々と戦うべき。

抽出児童Aは、身体能力が優れており、クラスの中でも人気がある。Aが言ったことには、みんな従うような雰囲気がある。また、自我が強く自己中心的な面もある。そのため、体育の時間や勝ち負けのある事では、ごまかしたりうそをついたりしてまで勝とうとすることがあり、勝たなければ機嫌が悪くなる。周りの児童は、Aの態度に疑問をもつことがあり「それは、おかしいよ」と注意しても、正々堂々と戦うことよりも、「勝ち」という結果の方を大切に思っている。

__判断の通り、「足をせめない」ことが正々堂々と戦うことではなく、「足をせめること」も正々堂々と戦うことだという、児童Aらしい判断の理由だった。

③様々な価値観にふれて

児童は、「足をせめるべき」か「足をせめるべきではないか」でたくさん意見を出し合い、お互いの価値観にふれた。授業後の感想を見てみると、「今回の道徳はむずかしかった」「どちらの気持ちも分かる。どちらかを選ぶのはむずかしかった」と多くの児童が葛藤していた。児童の意見は、授業後次頁の表のように変化した。

授業後、以上のように意見が変わった。「足をせめるべきではない」の理由も、最初の判断では、「たつやの立場に立って考えたときにかわいそうだから」という理由が多かったが、授業後は「健の気持ちがすっきりしない」「正々堂々と戦ったほうがいい」など、健の立場に立った考えが多かった。

本学級の児童は、先に述べたように、正義感が強く規律を守ろうとする意識が強い。そのため、相手の立場に立った考え方が多かったが、本時の授業を通して、健（自分）にとってどちらの判断が正しいかを考えられたと感じる。

授業後に、実際にあった話で、健は足をせめずに戦ったことを話すと、児童は驚いていた。結果としては、負けてしまったが正々堂々と戦ったことを気持ちよく感じていることを話すと、納得していた。児童の反応をみて、勝つことよりも正々堂々と戦うことを選ぶという判断は、子どもたちの価値観の中には身近でないことを感じた。

判断	人数	理由
A (足をせめるべき)	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・相手もがんばっているけど勝ちたい。 ・やっぱり、念願の県大会に出たい。 ・金メダルがほしい。 など
B (足をせめるべきではない)	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命練習してきたからこそ、正々堂々と戦うべき。 ・大切なのは、金メダルではなくたつやの足。 ・やっぱり、足をせめて勝っても、その後気持ちよくな

		い。 など
どちらとも言えない	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・優勝したい。足をせめるとかせめないとか考えないことも正々堂々と戦うこと。でも、弱いところを攻めないことも正々堂々と戦うこと。 ・優勝できるけれど、気持ちよくない。けれど、足を攻めないのも相手に悪い気がする（ハンディをつけているみたいで）。

人間としての向上心が実践力として身につくように、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通して支援していきたい。

③抽出児童Aの変化

抽出児童Aは、授業後「どちらとも言えない」という意見が変わった。理由は、

○「足をせめる」・・・・・・・・・・県大会に出たい。勝ちたい。

どうする？ 健

健は、今回こそ金メダルとの意気込みで、今回のじゅう道の地区大会にのみままた。これまで二回連続となり町のたつやという選手がゆう勝っていて、健は涙を飲んでいました。この大会のみ力はゆう勝すると県大会に出場できるけん利が与えられることでした。健はずっとの夢をかゝるため、この大会に向け、今までのくやしさをバネに年間休まず一生けんめい練習してきました。

「がんばれ、がんばれ、健！」

会場には健をばげまし続け、ゆう勝を心待ちにしている両親やかんとくをはじめ、大勢のなか間たちがおおえんかけつけていました。熱気あふれる中、いよいよ大会が始まりました。健は迷うことなく対戦相手をつめていきました。一方、たつやも別ブロックその強さをぞん分はつきしてました。そして健とたつやは、苦戦をする場面もありましたが、おたがいに順調に勝ち上がり、決勝進出を決めました。

「やつぱり今回もたつやがきたか！」

健はあらためてたつやの強さにおどろいていました。

ところが健は試合を終えたたつやを見て、いどことなく様子がおかしいことに気がつきました。仲間の方に向かって歩いていくたつやは、右足を引きずっていたのです。たつやはそれをさくられないようにするためか、平然とした態度で、落ち着いたふりをしていました。

しかし集まってきたたつやの仲間心配そうな表情じょうから、健はたつやが右足にけがをしているのを感じ取っていました。



休けいの間、健は今までの練習のことを思い出しながら、決勝戦に向ききんちよう感を高めていました。放送のアナウンスが入り、健とたつやはたたみの上に向き合って立ちました。

しんぱんの合図で、いよいよ決勝戦が始まりました。たつやのけがをしている右足をせめれば、健のねんがんであったゆう勝は間ちがいありません。けれどもひついで向かってくるたつやを見て、健はその右足をせめるべきか、せめるべきでないかだなやみしました。

フクシート

名前（ ）

初めのはんだん 健は： A 足をせめるべき。
B 足をせめるべきではない。

理由

みんなの意見を聞いて 健は： A 足をせめるべき。
B 足をせめるべきではない。

理由

感想

図 75 授業で使った資料とワークシート

- 「足をせめるべきではない」・・・たつやのけがが悪くなっても嫌だし、足をせめて勝っても、それは本当の優勝ではない気がする。

児童Aは、授業後も健はどちらの判断をするのか、自分だったらどうするのかを迷っていた。その後、体育の授業でキックベースを行った。自分の思い通りに勝てなかった時には一度泣いたが、みんなが活躍できるように打順を決めたり、ボールを投げるときに、女子に優しく投げたりする姿から、ごまかすことなく試合をしたり、自己中心的な行動をせずに、正々堂々と行動しようとする気持ちが生まれたりしたと感じた。

④ 1ヵ月後のクラスの様子

資料「どうする、健？」を通して、自分に正直に行動することの大切さを知り、体育の授業では、ごまかさずに正々堂々と戦ったり、勝負に負けても励まし合ったりする場面が増えた。さらに、生活面では望ましい行動をしようとする意識が高まってきた。しかし、「～した方がいい」と分かっているのに、欲求やためらいが先に立って望ましい行動ができないこともある。そういった時に、どうすることが「よりよく生きる」ことにつながるのかを自分自身で考えられるようにしたい。また、相手のことばかりでなく自分自身にも正直に生きていこうとする態度が育つように、今後も指導を続けていきたい。

実践7 小学校2年生

(1) 主題 : 友達に思いやりをもってなかよく

資料名 : しっぽのないさる (出典「大阪書籍 生きる力」一部改作)

内容項目 : 思いやり・親切 2- (2)

(2) 主題・資料への思い

1) ねらいと価値

様々な個性をもつ人と人が円滑な人間関係を築くためには、相手の気持ちを考え思いやりの心をもつことが大切である。そして、相手にとって何が必要であるかを考え行動することが本当の親切であると考え。児童の友達関係は成長と共に定着してくる。そんな中で自分の周りには色々な考えをもつ友達がいることや、一人一人に良さがあることに気づき、互いに認め合おうとする心をもってほしいと考える。

本授業では、しっぽをなくして傷付いているさるのモンちゃんに対して、友達はどのように関わろうとするかを考える。擬人化された登場人物に自分を投影させることで、相手の立場に立ち、誰とでも仲良く助け合おうとする心について考えさせたい。

2) 資料について

本資料は、ライオンに襲われてしっぽをなくしたさるのモンちゃんが登場するお話である。モンちゃんは、しっぽを掴んで電車ごっこをする友達の様子を見て、本当は一緒に遊びたいと思いながら、しっぽがないことに深く傷付き、引け目を感じているために木に隠れてしまう。そんなモンちゃんを見つけた友達が一緒に遊ぼうと声をかけてくれる。モンちゃんはその優しい誘いを1度は断るが、モンちゃんが1番後ろに行けばよいという提案

により、最後は楽しく電車ごっこができるようになる。友達がモンちゃんを誘う場面で、単に遊ぼうという気持ちだけでなく、しっぽをなくしたモンちゃんを気遣う気持ちを大切に、十分に考える時間を設けることで、相手の立場に立って声をかけることが思いやりにつながるというところまで心情を高めていきたい。

3) 児童の実態

児童は2年生になり、保育園が一緒であるとか家が近所であるといった理由だけでなく、それぞれが仲の良い友達を見つけて過ごすようになってきている。仲の良い友達同士では、温かい声をかけたり助け合ったりする場面をよく見る。しかし、仲の良い友達以外に対しては、困っていても無関心なことや理解しようとせずに非難することがある。本学級には、自分本位な言動をとったり些細なことで腹を立てて人や物に八つ当たりしたりする児童Aがいる。周りの児童は、気が立っている児童Aに対して、必要以上に声をかけたり騒いだりして気持ちを逆なですることがある。児童Aは、静かな場所であれば気持ちを落ち着かせることができ、何より友達と遊ぶことが大好きで優しい面も多くある。周りの児童には児童Aの性格や良さを理解し、学級の仲間として思いやりの心をもって接してほしいと願う。仲の良い友達だけでなく、一人一人の個性を理解し認め合おうとする心を養いたいと考え本主題を設定した。

4) 関連教材

道徳「はしのうえのおおかみ」・「くりのき」(1年)

学活「ふわふわ言葉とちくちく言葉」(2年)

道徳「ぼくは2年生」・「おばあさんができたよ」(2年)

道徳「こわされたタワー」・「おばあさん」(3年)

(3) ねらいにせまるための具体的な手だてとその工夫

①資料の提示

児童が集中して資料の内容に入り込み自分の考えをもてるように、一人一人に資料は配付せず、教師が読み聞かせを行う。またその際、登場人物をペープサートにして、黒板に提示しながら読み聞かせをすることで、児童の視覚にもうったえ、資料の内容を十分に理解できるようにする。さらに、資料を途中で止めながら読み聞かせをすることで、児童が場面ごとにじっくりと考え、多様な考えを引き出せるようにする。

②授業の展開・形態

道徳の時間は自分の心と向き合う時間であることを繰り返し確認し、それぞれが自分なりの考えをもてるようにする。考え方はみんな違って当たり前であり、間違いはないという共通理解のもとで本時のめあてを確認し、誰もが考えを言うことができる雰囲気大切に授業を行う。

友達がどんな考えをもっているかを知り、様々な考え方があることを感じられるように、机の配置をコの字型にして、互いの顔が見える状態で考えを交流するようにする。

一人一人が自分の心を見つめることができるように、どの発問でも個人で考える時間を設ける。中心発問は、考えをワークシートに記入し、自分の考えを整理できるようにして

いく。また、全体で考えを交流する前にペアで交流をする。全員が友達と関わりながら考えを伝える機会をつくとともに、自信をもって全体での交流へ参加できるようにし、全体での話し合いが深まるようにする。

③終末の工夫

一時間の中で様々な考えに触れた児童が余韻をもって授業を終われるように、落ち着いた雰囲気です教師の話をする。本時は教師の体験談として、小学生の頃、合唱コンクールの伴奏で失敗したときに、クラスの友達が何事もなかったように歌い、その後もそっとしておいてくれたことで、気持ちが楽になったという経験を伝える。そっとしておいてくれたおかげで、失敗から早く立ち直り、次こそがんばろうという気持ちになったことを話すことで、声をかけることだけが思いやりや親切ではないということ伝えたい。児童が教師の体験談を聞き、先生も自分と同じ一人の人間であると身近に感じ、こんな考え方もあるのだと心に留めることを期待し、ねらいとしたい。

(4) 本時の学習

1) 目標

困っている友達の気持ちを考え、相手のことを思いやる気持ちを高める。

2) 学習過程

主な学習活動と予想される児童の反応	形態	指導・支援【学び合う姿の評価】
1 放課にどんな遊びをしているか発表する。 ・みんなでドッチビーをすることが多い。 ・外でおにごっこをしている。	一斉 3分	・友達と楽しく遊んだことを思い起こし、資料への方向づけを行う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「しっぽのないさる」を読んで、自分の気持ちを考えよう </div>		
2 資料を聞いて話し合う。 ①仲間に入れなかったモンちゃんの気持ちを考える。 ・本当は言いたいけれど、しっぽがないからはずかしくて言えないな。 ・どうせぼくはしっぽがないから、仲間に入れてもらえないよ。さみしいな。	全体 14分	・遊べなくてさみしいという気持ちだけでなく、しっぽがなくて引け目を感じていることや恥ずかしく思っている気持ちにも気付けるように児童を意見をつないでいく。
②「しっぽがないもの」とモンちゃんが言ったときの友達の気持ちを考える。 ・気にしなくてもいいから一緒に遊ぼうよ。 ・モンちゃんも一緒に遊べる方法を考えよう。 ・違う遊びに変えるのはどうかな。 ・モンちゃんが1番後ろへ行くのはどうかな。 ③遊んでいる時のモンちゃんの気持ちを考える。	個人 5分 ペア 3分 全体 10分	・考えを明確にするために、ワークシートに気持ちを記入するようにする。 ・相互指名で意見をつなぎ、ペア交流での意見をより深められるようにする。 ・モンちゃんの気持ちを考えること

<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことを心配してくれてありがとう。 ・しっぼがないぼくでも一緒に遊べる方法を考えてくれてありがとう。うれしいよ。 <p>3 モンちゃんに手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にやさしい言葉をかけてもらえてよかったね。 <p>ぼくも、困っている友達がいたら相手の気持ちを考えて一緒に遊べる方法を考えようと思います。</p>	個別 7分	<p>で、友達に優しくしてもらった時のうれしい気持ちや感謝の気持ちを共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、感じたことを表現するように助言する。 <p>【自分と友達の考えを比べながら、考えを交流することができたか。】</p>
<p>4 教師の話聞く。</p>	一斉 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のときに、友達にしてもらってうれしかった経験を話す。

3) 評価

相手の気持ちをよく考えて、互いに助け合おうとする心情を高めることができたか。

(5) 考察

本資料は擬人化された動物のお話で、感情移入しやすく低学年に適していたと考える。また、登場人物をペープサートを使って提示することで、児童は集中して話を聞き、内容をよく理解することができていた。中心発問では、全体の発表の前にペアで発表したため、全員が自信をもって生き生きと意見を言うことができ、全体の交流も活発なものになった。しかし、じっくりと自分の心と向き合うという流れが中断されてしまったという課題も残ったため、教師がしっかりと意図をもって、学習形態を変えていく必要がある。本時の学習4では、資料を通して考えたことを振り返り、自分の生活に置き換えるという目的でモンちゃんに手紙を書いたが、手紙という形にしたため、児童はどこか他人事のように受け止め、自分の心をじっくり見つめるといった目的が達成できなかった。児童の生活経験が浅いことも考え、実生活の中での出来事を思い起こせるような例を挙げて話をするなどの手立てが必要であった。

本時の授業を行うことによって、本当に思いやりのある行動とはどんなことだろうと学級で考える機会が増えた。児童Aが腹を立てている様子を見つけると、一言だけ優しく声をかけてそっと見守る様子や、苦手なことに我慢して取り組めた時に一緒に喜んだりする姿が見られるようになり、それも授業を行った成果であると感じている。その他の場面でも、縄跳びが苦手な児童を応援し1回跳べたことを一緒に喜んだり、親しい友達以外の様々な友達とかかわる姿が見られるようになった。それぞれの個性や性格を理解しようとする姿であると感じる。このように相手の立場に立って考えるという思いやりのある雰囲気は今後も学級全体に広がっていくことを期待している。そのためには、毎回の道徳の時間を大切にして繰り返し実践することで、少しずつ道徳的実践力を育んでいくことが大切であると感ずる。

しつぽのないさる

シユツ、シユツ、ポツポ！シユツ、シユツ、ポツポ！お山の子どもたちは、汽車（こ）が大好きです。毎日、広場を楽しく遊んでいます。

ある日、子さるのモンちゃん、いつものように、友達と遊んで、うちに帰ると途中、ガサガサ、ガサガサと、草むらから、音が聞こえてきました。

「何が、だんだん、こつちに来て来たんだ？」

「カオーン！」

「ワァー！たすけてー！」

それは、おなかのすいたライオンだったので。

「いたた。いたいよう。」

モンちゃんは、あわてて木にかけのぼったのですが、大事なしつぽを、かみきられてしまいました。しつぽのないさるになってしまったモンちゃんは、それからずいぶんぼつちで、

「しつぽのないさるなんて、ぼくがいないもの。広場に行つたて、きつと、みんなに笑われて、仲間はずれにされるにまっています。」

あのお天気の良い日のことです。モンちゃんがひとりぼつちでさびしそうに遊んでいると、楽しそうな友達の声が聞こえてきました。行つてみると、たさんの友達が広場で楽しそうに遊んでいました。前のさるのしつぽをにぎって、じゅんじゅんにかがって、シユツ、シユツ、ポツポと遊んでいます。

「案外、たな。ぼくも仲間に入りたいなあ。」

けれども、モンちゃんははつと気がつかしました。しつぽがなくは、汽車（こ）はできません。モンちゃんは、さびしそうになつてしまいました。

そのときです。一匹の友達が、

「あ、もんちゃんがいる。」

と、言いました。そして、汽車（こ）がモンちゃんのとらにシユツポ、シユツポとやってきました。

「モンちゃん、遊ぼう。」

「一緒に遊ぼう。」

みんなはささしく誘いました。けれども、モンちゃんは木にのぼつて、降りようとはしません。だつてぼく、しつぽがないもの！」

「だから、一番あつたついたらいいよ。」

「そんなら、一番しろになれば、大丈夫だよ。」

モンちゃんはいれなくなつて、にっこりしました。そして、一番しろの友達のしつぽを、そつとにぎりました。

「さあ、発車だ。いいかい。モンちゃん。」

「いいよ。ピツ、ピー！」

そこでみんなは、シユツポ、シユツポとまた汽車（こ）を始めた。モンちゃんは、しつぽのない（こ）をすっかり忘れて、みんなと楽しく遊んでいました。

出典 大友龍雄 一羽の羊

図 76 授業で使用した資料

5 成果と課題

資料提示では、紙芝居、資料を通し読みする、区切って読む、ペープサート、ホワイトボードを活用して紙芝居風に資料を提示する、多数の資料を活用する、前日に提示するなど、数々の方法について検討し実践した。視覚に訴えるもの（紙芝居やペープサート等）は、特に低学年にとって興味をもたせることができる。また、紙芝居、ペープサートでも、自分のこととして考えてほしい人物・出来事などに焦点をあて、提示することで、有効な手立てであることが分かった。

学習の形態では、全体で読む、教室の前へ集めて読む、机をコの字の隊形にするなど、机の配置を含めた授業形態の工夫により、道徳的価値に近づくことが分かった。また、一人一人が自分のこととして真剣に向き合うためには、個人思考の時間を十分に確保することが必要である。その上で、互いの意見を聞き合い、多面的な考えを知り、深めるために、全体で交流を行う。その際に、机をコの字型にすることで、全員と話し合うという意識ももて、互いに学び合うことに効果的であることが分かった。

終末の工夫では、詩を引用したり、DVDを用いたり、また教師の話を授業によって選んで行くことが有効であることが分かった。DVDや詩では、視覚から訴え、心に響くようなものを引用すること、また教師の話では、教師の思いを練り込むことが、とても有効な手立てだと言える。

今回の実践を通して、資料やクラスの実態、また教師の思いを考えて、資料提示することが道徳的価値を高め合える授業とするために、いかに大切かということが分かった。

しかし、主題に迫るための資料をどのような方法で提示していくか、その判断基準が明確ではないことが課題として挙げられる。その時々、主題に迫るために資料を選び、また提示方法を模索し、常の授業で考えていくことが大切である。また、主題に迫るために何を資料として選択するかについても課題である。主題に沿った資料を選ぶことは容易なことではない。教師がクラスの実態、課題をより明確にし、ねらいに沿った資料を見極め、提示していくことが必要であると考ええる。

本研究を通して、資料を提示することや終末の工夫などについて、様々な実践を行ってきた。しかし、どのような資料の提示の仕方をするかや、終末をどのようにするかなどは、主題に沿って、実施時期やクラスの実態を把握し、教師が見極めていく必要がある。そのために、教師の思い、クラスの実態を把握し、育てたい力を見極めていくことと授業のねらいを明確にしていくことが必要である。そこで、週1回しかない道徳を毎時間大切にし、小さな積み重ねをしていくことが道徳的価値を高めるために大切である。しかし、それが向上したかは道徳の授業だけでは計り知れない部分がある。道徳的心情を高めた上でそれを道徳的实践に移していくために、常の活動、授業から、よりよい自分を育てるために意識させて、取り組ませていきたい。

おわりに

今年度の研究は、小学校全学年を対象にしたので、人間的にも精神的にも大きな幅の中での実践例が集められた。研究を進めるにあたって、どのように道徳的価値が高まったかをはかる手立てとして、授業実践前の学級（児童）の様子と、実践後約1カ月を経た学級（児童）の様子を対比して、その実践効果を測った。その結果、子どもたちに身近な問題を取り上げた資料であったり、教師の実体験などで余韻を残し自分で価値判断できる終末にしたりすることで、児童が主体的に価値の葛藤に取り組み、他との意見の交換により、自ら道徳的価値を高めることにつながる傾向にあることが分かった。しかし道徳的な心情は高まりを見せたが、それが道徳的实践につながるかどうかについては、今回の研究だけでは言い切れない。継続的に良質な道徳の授業を行うことや様々な主題について考えさせるとともに、内面での高まりを具体的に実践するための直接体験の場を多く設定することも必要である。そのためには、道徳を学校教育活動の中心にすえ、全活動の中で捉える必要もあると考える。

ルールを守ることからマナーを大切にすること、そしてモラルを確立できる子どもたちの育成をめざし、今後もよりよい道徳の授業を目指していきたい。

関わり合って活動し表現力を高める - 俳句の学習をととして -

犬山市立城東小学校長

水谷 茂

はじめに

現6年生は5年生の時に、詩を創作する授業（3時間完了）を実施している。その際、特に重視したことは一人で詩を創作するのではなく、関わり合って自分が納得できる詩に仕上げていく活動である。友達の詩にアドバイスをすることは言葉に対する感性を磨く機会になり、詩を苦手としている児童にとっては友達の助けを借りながら自己実現を図る機会にできると考えたからである。このような指導過程を取り入れたことで、児童の詩に対する意識に変化が見られ、詩を書くことに対する抵抗も少なくなった（授業前は詩を好む児童は数名であったが、授業終了時は95.2%の児童が詩の創作に前向きになっていた）。



図77 言葉を並び替え俳句を6句完成させる

本年度より本地区は、使用する国語の教科書が東京書籍から光村図書に変わった。光村図書の教科書を読むと学習指導要領の改訂もあり、低学年のうちから伝統的な言語文化の学習を取り入れている。また、〈季節の言葉〉と題して、継承されてきた言語文化の中から季節に関わるものを発達段階に応じて取り上げ、子どもの感性や情操を言葉の面から育む活動を2年生から継続的に取り上げている。指導時数は少なく、創作を目的とするのではなく詩や短歌・俳句などに親しみを感じたり、繰り返し目にすることでそれぞれがもつリズムを理解したりすることに主眼を置いているものとする。

昨年度、詩の創作活動を経験した現6年生は、言葉に対する関心も高まっているので、伝統的な言語文化の学習では、読み味わうだけに止めず一歩踏み込んで創作活動を取り入れても十分応えられると考えた。俳句は短い表現形式で最大限の感動を盛り込むものであり、形式や季語などのきまりもあって一見すると難しく思える。そこで、単元見通し学習の手法を取り入れるとともに、昨年度の学習の流れと同様にすることで取組やすくすることで、児童が関わり合って活動しながら表現力を高める研究に取り組んだ。

1 研究の仮説

研究の仮説を次のように設定した。

- 学習する最終的な目標を明確に伝えるとともに、単元の導入及び授業の導入に活動内容や時間配分などを示すことで、見通しをもって活動することができ学習意欲が高まるだろう。
- 俳句が表している情景を個人の考えをもってからグループで話し合う活動を設定することで、お互いに感じ方の違いが分かるとともに言葉に対する感覚も磨かれ、俳句を創作する意欲が育まれるだろう。
- 個人が創作した俳句をグループの中で推敲し合う活動を設定することで、安心して

創作活動に取り組むとともに、お互いの良いところを取り入れ楽しみながら表現力を伸ばすことができるだろう。

2 研究の手だて

研究の仮説に迫るために次のような手だてを取り入れた。

①単元の初めに創作した俳句を犬山市民文芸祭に出品することを知らせ動機づけにする。振り返りカードで4時間分の活動内容を提示して見通しをもたせる。授業の導入では、学び時計をつかい1時間の流れを示して学習の見通しをもたせる(図78)。

②俳句のリズムに慣れるとともに身近に感じられるように、毎回、春・夏・秋・冬それぞれ親しみやすい俳句4句を提示し音読や視写の活動を取り入れる。

③俳句の情景を考える活動では、グループで4句の中から1句を選択して季節や情景を読み取る。発表する。

④五音と七音を組み合わせて俳句を4句創る。

学級の10人以上の友達に、創作した俳句の中から一番良いと思うものを選んでもらい、票の多い順に2句を自分の俳句とする。2句の俳句をさらに良くすることを願い、グループ内で順番に回して推こう活動を行う。

⑤推敲された2句の俳句から、友達の意見を参考にしながら、最終的に自分の俳句1句を仕上げる。

⑥毎時間振り返りカードを用いて活動を振り返るとともに、教師が朱書きを入れることで学習意欲が継続するように図る。

学 び 時 計 (第2時)

1. 俳句を4句音読する(3分)
2. 今日のめあてと今日の授業の流れを確認する(5分)
3. 俳句が表している季節(季語)と情景を考える。
○個人で考える。(6分)
○友達3人と交流する。(10分)
○友達の意見を参考に情景をまとめる。(6分)
4. まとめた情景をグループの友達

図78 学び時計

3 単元名 俳句を創ろう(4時間完了)

4 単元の目標

○俳句が表している季節や情景を読み取ったり、俳句の創作活動に対して意欲的に取り組んだりする。(興味・関心・態度)

○親しみやすい伝統的な言語文化にふれて、俳句の形式や季語・切れ字などについて理解するとともに語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。

(言語事項)

5 指導の構想

※事前と事後に本単元に関わるアンケート調査を行う。

6句の俳句を上五・中七・下五の18枚のカードに分け、グループで正しく

組み合わせて俳句を完成する(図 77)。俳句には季節を表す季語や感動を表す切れ字があることを知る。(1) 【※俳句の形式や決まりを理解する。】

俳句が表している情景を想像して季語とともに友達と伝え合う。(1)
【※俳句の読み取りを通して、俳句の決まりや形式に慣れる】

うまそうな 雪がふうわり
ふわりかな (小林一茶・冬)

柿くえば 鐘が鳴るなり
法隆寺 (松尾芭蕉・秋)

さみだれや 大河の前に
家二軒 (与謝蕪村・夏)

梅一輪 いちりんほどの
暖かさ (服部嵐雪・春)

6枚の写真を見て、上五・中七・下五の言葉集めを行いグループ内や学級全体で交流した後、試しの俳句づくりをする。(1)

【※俳句に使える言葉集めをしてから自分の俳句を創る】

【家庭学習：休み時間や通学路、身の回りから上五・中七・下五の言葉を集める】

創作された俳句をグループ内で順番に推敲したのち、友達の指摘を参考にしながら自分の俳句をさらに推敲し完成する。(1)

【※グループ全員の作品をさらに良くするために推敲活動をする。自分の俳句をさらに推敲し完成する】

6 単元全体の指導過程

(1) 1 / 4 時

1) 目標

・俳句に興味をもつとともに俳句の決まりや形式を理解する。

2) 準備

教師：俳句を上五・中七・下五に分けたカード(6句分18枚)、振り返りカード。

3) 指導過程

【個】 個別活動

【グ】 グループ活動

【斉】 一斉指導

【全】 全体交流

	児童の活動	教師の支援・留意点	評価
導入 8	<p>1 学習の目標と全体の流れを知る。 【斉】</p> <p>2 本時のねらいと流れを知る。 【斉】</p>	<p>○ 4 時間分の学習の流れを知らせ活動に見通しをもたせる。</p> <p>・ 本時のねらいとともに1時間の活動の流れを知らせ見通しをもたせる。</p>	
	<p>五音・七音・五音のことばカードを並び替えて俳句を6句完成させよう</p>		
展開 32	<p>3 俳句組合せゲームをする。 【グ】</p> <p>・のみしらみ 馬がばりする枕もと(芭蕉・夏)</p> <p>・青蛙 おのれもペンキぬりたてか(芥川龍之介・春)</p> <p>・夏河を越すうれしさよ手にぞうり(与謝蕪村・夏)</p> <p>・毎年よ 彼岸の入り寒いのは(正岡子規・春)</p> <p>・あかあかと日はつれなくも 秋の風(芭蕉・秋)</p> <p>・大ぼたる ゆらりゆらりと通りけり(小林一茶・夏)</p>	<p>○五音・七音・五音に切り分けた俳句6句分のカード18枚を配付する。</p> <p>○見たことを素直に表現している俳句を6句準備し、俳句は難しいものではないことを理解できるようにする。</p> <p>○あらかじめ理解しにくい言葉の説明をしておく。</p> <p>・ばり→尿</p> <p>・彼岸の入り→春分の日</p> <p>・つれなくも→関係ないこと</p> <p>○グループで話し合っカードの言葉を組み合わせ俳句を完成させる。</p> <p>○繰り返し言葉を吟味しながら俳句に親しむようにする。</p>	<p>・俳句が5音と7音と5音の17音でできていることが分かったか。(活動の様子)</p>
	<p>4 完成させた俳句をお互いに見比べる。 【全】</p>	<p>○グループの机に完成した俳句を並べて置いておく。</p> <p>○他のグループが完成させた俳句を自由に見て回り、自分たちが作った俳句と比べるようにする。</p> <p>○グループごとに正しい組合せの俳句数を黒板に板書し、正解を見つけやすいようにする。</p>	<p>・俳句の響きを感じたか。(活動の様子)</p>
	<p>5 他のグループの作品を参考にしてグループの俳句を見直し、最終的に完成する。 【グ】</p>	<p>○俳句は、見たまま感じたままを素直に表せばよいことを知らせる。</p>	<p>・協力し正しく並べて俳句を完成できたか。</p>

	6 季語や切れ字について知る。 【斉】	○俳句を創る際に、情景や感動を伝える大きな武器になることを知らせる。	(活動の様子) ・季語や切れ字が分かったか。(活動の様子)
整理 5	9 本時の振り返りをする。 【個】	○振り返りカードを使い本時の活動を振り返る。 ○本日のお気に入りの一句を完成した6句の俳句の中から選んで書くように伝える。	

4) 評価

- ・俳句に興味をもつとともに、俳句は難しいものではないと思えるようになったか。

(2) 2 / 4 時【本時】

1) 目標

- ・俳句の表す情景を考え、考えた情景を友達と交流し理解を深める。

2) 準備

教師：ワークシート、振り返りカード。

3) 指導過程

【個】個別活動 【グ】グループ活動 【一斉】一斉指導 【全】全体交流

	児童の活動	教師の支援・留意点	評価
導入 8	1 黒板に掲示した4句の俳句を3回音読する。【一斉】 2 本時のねらいと流れを知る。【一斉】	○本日学習する俳句を掲示する。 ○自分なりの速さで音読し、俳句の語感を味わうように伝える。 ○本時のねらいとともに1時間の流れを知らせる。	
	俳句が表している情景を想像して季語とともに友達に伝えよう		
展開 32	3 俳句が表している季節(季語)と情景を考える。【個】 A. 梅一輪 一輪ほどの暖かさ (服部嵐雪・春) B. さみだれや 大河を前に 家二軒(与謝蕪村・夏) C 柿くえば 鐘が鳴るなり 法隆寺 (正岡子規・秋)	・春夏秋冬それぞれ一句ずつ俳句を提示する。 ・グループでA B C Dの俳句を一人一つずつ担当して情景を考えることを伝える。 ・情景の読み取りに資するために「なの花や月は東に日は西に」の俳句を例に示し情景を	・季語見つけと季節分けができたか。(ワークシート) ・俳句が表している情景を想像す

	D うまそうな 雪がふうわり り ふわりかな (小林一茶・冬)	話す。 ・自分なりに考えた季節(季語)と情景をプリントに記す。 ・俳句から感じたことは、細かなことでも自由に記すように伝える。 ○季語はどの言葉かを確認してから説明するように伝える。 ○友達の見解で取り入れたいことはメモしながら聞くように伝える。 ○友達の見解を参考にして、再度、俳句が表している情景を吟味し直す。 ○発表を聞く時は、内容を要約してプリントに記入するように伝える。 ○全体で俳句が表している情景を確認する。	ることができ きたか。(ワ ークシート) ・友達と交 流できたか。 (交流の様 子) ・俳句の情 景を伝えら れたか。 (発表の様 子)
4	自分と同じ俳句を担当し た児童 3 人と交流する。 【全】		
5	友達の見解を参考にして、 自分が考えた情景を修正す る。 【個】		
6	自分が担当した俳句につ いて、グループ内で季節(季 語)と情景を伝え合う。 【グ】		
7	グループの代表が全体の 場で読み取った情景を発表 する。 【全】		
整理 5	8 本時の振り返りをする。 【個】	○振り返りカードを使い本時の 活動を振り返る。 ○本日のお気に入りの一句を提 示した 4 句の中から選んで書 くように伝える。	

4) 評価

- ・友達と交流する活動を通して俳句の表す情景を想像できたか。

(3) 3 / 4 時

1) 目標

- ・俳句に使う言葉を集めて交流し自分の俳句を創る。

2) 準備

教師：プリント ワークシート 振り返りカード

3) 指導過程

【個】 個別活動 **【グ】** グループ活動 **【一斉】** 一斉指導 **【全】** 全体交流

	児童の活動	教師の支援・留意点	評価
導 入 8	1 黒板に掲示した俳句を 3 回音読する。 【一斉】	・本日の俳句 4 句を提示する。 ・自分なりの速さで音読するよ うに伝える。	

	2 本時のねらいと流れを知る。 【一斉】	・本時のねらいとともに1時間の流れを知らせる。	
	俳句を創るために五音・七音の言葉を集めよう。集めた言葉を使って試しに俳句を創ろう		
展開 32	3 写真を見て五音・七音の言葉を見つけプリントに記入する。 【個】	○校庭を撮した写真 6 枚を各グループに配付する。 ○五音・七音の言葉が一覧できるワークシートを準備する。 ○字余り・字足らずになってもよいことを伝える。	・言葉を見つけたか。 (ワークシート)
	4 見つけた言葉をグループで共有する 【グ】	○グループ内で発表し合い、よいと思った言葉は、自分のワークシートに記入するように伝える。	・言葉を増やすことができたか。 (ワークシート)
	5 教室を自由に見て回り、それぞれがどのような言葉を見つけたか交流する。 【全】	○各自のプリントを机の上に置き、自由に見て回る時間をとる。 ○自分にはない言葉があれば、ワークシートに付け足していくように伝える。	・言葉を広げることができたか。 (プリント)
	6 五音と七音の言葉を組み合わせ、試しに俳句を創る。 【個】	○言葉を組み合わせ、できる限り多くの俳句を創るように伝える。 ○内容よりも五・七・五のリズムに慣れることが大切であることを伝える。	・俳句を創れたか。 (プリント)
整理 5	7 本時の振り返りをする。 【個】	○振り返りカードを使い本時の活動を振り返る。 ○提示した4句の中から本日のお気に入りの一句を選んで書くように伝える。 ○家庭学習で身の回りの五音・七音の言葉集めをするように伝える。	

4) 評価

- ・ 試しに俳句を創る活動を通して俳句に興味をもつことができたか。

(4) 4 / 4 時

1) 目標

- ・ グループで俳句の推敲活動を行い自分の俳句を完成させる。

2) 準備

教師：プリント、ワークシート、振り返りカード

3) 指導過程

【個】 個別活動 【グ】 グループ活動 一斉】 一斉指導 【全】 全体交流

	児童の活動	教師の支援・留意点	評価
導入 8	<p>1 黒板に掲示した俳句を 3 回音読する。 【一斉】</p> <p>2 本時のねらいと流れを知る。 【一斉】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>友達の意見を参考にしながら自分の俳句を創ろう</p> </div>	<p>・ 本日の俳句 4 句を提示する。・ 自分なりの速さで音読するように伝える。</p> <p>・ 本時のねらいとともに 1 時間の流れを知らせる。</p>	
展開 32	<p>3 前時の集めた言葉や家庭学習で集めてきた言葉を使って俳句を 4 句創る。 【個】</p> <p>4 学級全体で交流活動を行い、4 句の中で一番よいものを投票する。 【全】</p> <p>5 交流で得票の多かった俳句から 2 句選びワークシートに書く 【個】</p> <p>6 グループで順番に回して、お互いの俳句を推敲する。 【グ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 回目の推敲 ・ 2 回目の推敲 ・ 3 回目の推敲 <p>7 グループで推敲された自分の俳句をもう一度推敲し、俳句を完成する。 【個】</p> <p>8 グループ内で完成した俳句を発表する。 【グ】</p>	<p>○ 五・七・五の基本形で創ることを知らせる。字余りや字足らずになってもよいことも伝える。</p> <p>○ 10 人以上と交流するように伝える。</p> <p>○ 交流で言葉を見つけたら、自分の俳句に取り入れてもよいことを伝える。</p> <p>○ 交流で得られた言葉を使って自分の俳句を手直ししてもよいことを伝える。</p> <p>○ 言葉の順番を入れ替えたり、言葉を少し変えたりして、作者の思いが的確に表せるような推敲をするように伝える。</p> <p>○ 一人につき 2 分ずつの推敲時間を取り、グループで順に回していくようにする。</p> <p>○ アドバイスをもとに、自分の俳句を完成させるが、自分の言葉を使いたい時はアドバイスを入れなくてもよいことも伝える。</p> <p>○ 季語と季節を言ってから俳句を発表するように伝える。</p>	<p>・ 俳句を作ることができたか。 (ワークシート)</p> <p>・ 俳句を推敲することができたか。 (ワークシート)</p> <p>・ 俳句を完成させたか。 (ワークシート)</p>
整理 5	<p>8 本時の振り返りをする。 【個】</p>	<p>○ 振り返りカードを使い本時の活動を振り返る。</p> <p>○ 提示した 4 句の中から本日のお気に入りの一句を選んで書くように伝える。</p>	

4) 評価

- ・自分の俳句を創る活動を通して、俳句に興味をもち継続して創る意欲がもてたか。

7 考察

(1) アンケートから考える

1) 事前アンケート

★国語の学習は好きですか。

好 き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌 い	合 計
20	59	24	6	109

★5年生で学習した詩の授業は楽しかったですか。

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	全く楽しくなかった	合 計
49	51	7	2	109

★学び合いの学習は好きですか。

好 き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌 い	合 計
40	54	9	6	109

★俳句に興味がありますか。

あ る	少しはある	あまりない	全くない	合 計
18	54	26	11	109

72.5%の児童が国語の学習に肯定的な回答をしていて学習に対する前向きな気持ちはできていると感じた。5年生の時に実施した詩の授業に対しては91.7%の児童が楽しかった思いをもっているのは、学び合いの活動をしっかり取り入れ孤立した学びにしないように心がけたからではないかと評価した。それは、86.2%の児童が学び合いの学習を好きと答えていることから判断した。今回の俳句の学習に対しても、児童がとても楽しみにしていることが導入時に伝わってきた。しかし、俳句に関心があると答えたのは66.1%の児童であり30%以上の児童が俳句に興味をもっていない実態からすると、俳句を身近に感じさせるとともに自分が思っているよりも簡単に創れることを実感させる必要を感じた。

アンケートの最後に自由記述欄を設け、「知っていることは何でもいから書きましょう」としたが、109人中23人の児童が白紙であった。また、『俳句は5・7・5』『季語を入れる』と一言だけ書いてあった児童が33人いた。この両方を合わせると、5割以上の児童が、俳句に親しんでいない実態が浮かんできた。そこで、友達同士の交流を軸に俳句に対する興味をいかに繋いでいくかをポイントを置いて学習を進めた。

2) 事後アンケート

★俳句の学習は楽しかったですか。

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	全く楽しくなかった	合 計
80	24	3	2	109

★俳句に興味をもてるようになりましたか。

なった	少しなった	あまりもてない	全くもてない	合 計
65	39	3	2	109

★学び合いの学習は楽しかったですか。

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	全く楽しくなかった	合 計
71	34	2	2	109

★友達の俳句にいくつアドバイスができましたか。

10個以上	5～9個	1～④個	0個	合 計
7	24	73	5	109

★友達から自分の俳句にいくつアドバイスをもらいましたか。

10個以上	5～9個	1～④個	0個	合 計
9	32	6①	7	109

95.4%の児童が、俳句を楽しく学習することができ興味をもてるようになったと回答している。また、96.3%の児童が学び合いの学習が楽しかったと答えている。特に、俳句に対する関心が66.1%から95.4%に上がっているのは、単元見通し学習をもとにした学び合いの学習が児童の興味を引き出すことに奏功したといえる。このことは、俳句の学習を孤立した学びにするのではなく、友達との交流タイムを毎時間設定しながら学習



図79 俳句が表す情景を交流する

を深めたことや、俳句の創作に戸惑いを感じても友達からのアドバイスを受けることで不安が軽減されるとともに成就感も味わえたことが大きな要因ではないかと考えている(図79)。このことは、友達の俳句に95.4%の児童がアドバイスしており、93.6%の児童が友達からアドバイスももらっていることからもうかがえる。また、事前アンケートでは、21.1%の児童が白紙だった自由記述欄にも、全ての児童が感想を書き込み、自分の思いをしっかりと文章で表していたことから、児童にとって充実した学習だったことが分かる。

【自由記述欄に記してあった児童の言葉】

- ・俳句をやったことがなくて最初はぜんぜん分からなかったけど、みんなからアドバイスをもらったり学び合いをしたりして、だんだん分かるようになってきて最後はいい俳句ができたのでよかったです。楽しかったです。
- ・初めは俳句のことがあまり分からなかったけど、4時間という少ない時間でも俳句のことがたくさん学べて楽しかったです。俳句は、上五中七下五というとても短い17音だけど筆者の感情や驚きがあるから、そこがすごいと思いました。実際に俳句をつくってみると意外に楽しくてどうしようか迷いました。たくさんの俳句も知ることができて良かったです。みんなにもアドバイスをしたりアドバイスをしてもらったりして最後はとてもいい俳句ができたなと思いました。

(2) 振り返りカードから考える

本時のめあて		A 児	B 児
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句に興味をもとう ・五音・七音の言葉を並べて俳句をつくらう 	<p>班で組み立てるのが難しかったけど、最後には全部組み立てることができました。俳句はぜんぜん知らないの、最初は何が何だか？でした。けれどいろいろ分かった気がします。</p>	<p>俳句に興味をもつことができました。上五中七下五ということも初めて分かりました。難しく考えないで作者は何を考えていたかを考えれば答は出てきました。六句つくるのは大変でした。今日の学習で、俳句のすばらしさがよく分かって、とても良かったと思います。また、家でもやってみたいと思います。</p>
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句には季節が分かる季語や感動を表す切れ字が入っていることを理解しよう ・俳句が表している情景を想像し季語とともに友達に伝えよう 	<p>自分で書いたものをもっと分かりやすく書きたかったです。みんなの情景の発表を聞いて、すごく分かりやすいと思いました。法隆寺の俳句の情景を発表して、お気に入りになりました。</p>	<p>季語、切れ字、十七音という言葉が分かりました。作者が十七音の中で感動と興奮が与えるということです。十七音ですごく心が温まりました。また、俳句というのは、奥が深いというのが改めて分かりました。十七音でいろいろな世界に入っていけます。みんなと意見をつなぐことで、よりよく情景が分かりました。とても充実した学習になってすごく良かったです。</p>
第 3 時	<ul style="list-style-type: none"> ・6枚の写真から五音と七音の言葉を書き出そう ・友達と交流して、言葉の数を増やそう ・試しに俳句を創ってみよう 	<p>自分で創る俳句がちゃんと創れてよかった。なんだか俳句を創るのが好きになったように思えてきた。</p> <p>※【五音の言葉を12個、七音の言葉を6個集めていた】</p>	<p>写真の中からのいろいろな世界が広がっていきました。友達とアイデアをつなぐことでより良い言葉が生まれ、どんどん世界を広げていくことができました。また、違う視点からみることで違う俳句ができました。俳句は奥が深いと改めて感じました。</p> <p>※【五音の言葉を44個、七音の言葉を7個集めていた】</p>
第 4 時	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた言葉を使って俳句を四句創ろう ・友達と交流して、仕上げの俳句を一句創ろう ・創った俳句を友達に発表しよう 	<p>やっぱり俳句を創るのが楽しく感じた。友達が創った俳句を見たり聞いたりするのも楽しかった。俳句をやって良かったと思っている。</p> <p>※【自分の俳句に4カ所のアドバイスを受け、1カ所取り入れて提出した。】</p>	<p>いろいろな俳句を創ってみました。10人に投票してもらうことで自信が出てきました。そして、付け足しや付け加えをすることで、とても良いアイデアが浮かびました。堂々とした作品で、誰が見ても恥ずかしくないです。この4時間でとても俳句に興味をもてました。楽しかったです。</p> <p>※【自分の俳句に2カ所のアドバイスを受けたが、それを取り入れることなく自分が考えた俳句を提出した。】</p>

毎時間、最後の5分ほどを使って授業の振り返りを行った。主に授業で分かったことや感じたことを自由記述することで、学習のまとめと次時の動機付けを図るねらいがあった。

動機付けを促進するた 80、児童の記述には、丁寧に朱書きを入れて返却した（図80）。

※自分と班の欄・・・よくがんばった！ 4
もう少しがんばりたい！ 2
まあまあがんばった！ 3
もっとがんばれるはず！ 1

日付	① 1限	② 2限	③ 3限	④ 4限	自分	班	
本時のめあて	★五音・七音の言葉 を並べて、俳句を 六句つくろう。 ★俳句には、季節が 分かる季語や感動 を表す切れ字が入 っていることを理 解しよう。	★俳句が表している 情景を想像して季 語とともに友達に 伝えよう。	【お気に入りの一句】 あおかえろ おまえもべんき わびたてり なぐさ俳句が、俳句の 人々	【お気に入りの一句】 今日の俳句並べは、とても楽しかったです。 いろいろな言葉や並べかえていろいろに どつどつ意味なのかわかなくてやめてしまった。 意味がわからない言葉も分かってよかったです。 俳句は、短い言葉の中で、いろん な思いがこめられていて、それを考え るのも面白かったです。昔の俳句で も意味を考えても楽しいことがわかり ました。	【お気に入りの一句】 あおかえろ おまえもべんき わびたてり なぐさ俳句が、俳句の 人々	【お気に入りの一句】 あおかえろ おまえもべんき わびたてり なぐさ俳句が、俳句の 人々	【お気に入りの一句】 あおかえろ おまえもべんき わびたてり なぐさ俳句が、俳句の 人々
今日の授業で分かったことや感じたことを書く	今日の俳句並べは、とても楽しかったです。 いろいろな言葉や並べかえていろいろに どつどつ意味なのかわかなくてやめてしまった。 意味がわからない言葉も分かってよかったです。 俳句は、短い言葉の中で、いろん な思いがこめられていて、それを考え るのも面白かったです。昔の俳句で も意味を考えても楽しいことがわかり ました。	今日の授業で分かったことや感じたことを書く	今日の授業で分かったことや感じたことを書く	今日の授業で分かったことや感じたことを書く	今日の授業で分かったことや感じたことを書く	今日の授業で分かったことや感じたことを書く	

【俳句の授業】
振り
返
り
カ
ー
ド
1
六年 三組 名前 松本 航歌

図80 振り返りカード

学習は児童の能力に応じその子なりに伸ばすことで満足感や成就感を得られるものにならなければならない。そうすることで自らの成長を実感し学びが我が事になる。この研究の有効性を検証するために、抽出児童として到達度に大きな違いが見られる対照的な二人を選んだ。

A児は、事前アンケートで「国語の学習は嫌い」「俳句に全く興味がない」「5年生の詩の授業はあまり楽しくなかった」と答え、自由記述欄も白紙で提出している。それが、事後アンケートでは「俳句の学習は楽しかった」「俳句に少し興味をもてるようになった」「俳句の学習は楽しかった」「学び合いの学習は楽しかった」と変容している。振り返りカードの自由記述を読むと、第2時に有名な俳句（柿くえば鐘が鳴るなり法隆寺）の情景を読み取り、友達と意見交流をして深める活動がきっかけとなって俳句に対して前向きになったことが分かる。第3時には、言葉集めの交流を行ってから試しの俳句を創ることができて自信が付いてきたことが読み取れる。第4時には、友達と交流しながら自分の俳句を完成させたことで、俳句の学習が楽しいものであったという思いを強くしていることが分かる。ちなみに、A児の仕上げの俳句は「空見ると 雲がいっぱい やな予感」である。

B児は、授業中の発言は控えめではあるが、どの教科でもきちんと内容を理解している。事前アンケートには「国語の学習は好き」「俳句にあまり興味がない」「5年生の詩の授業は楽しかった」と答え、自由記述欄に「国語の教科書で少し見ただけ」と答えている。学習に対するレディネスは十分であるが、俳句に対しては前向きな感じを受けなかった。B児は、第1時から意欲的な姿勢が見られグループの中心的な役割を果たしていた。導入で使った仕かけ（俳句6句を五音・七音に切り分けた18枚のカードを並び替えて、正しい

組合せをつくる)が、俳句のおもしろさを感じることに繋がったことを記述している。この姿勢は第2時、第3時と進むにつれてさらに高まっていったことが記述の内容から読み取れる。B児の仕上げの一句は「雨上がり つばめが高く 飛び始め」であった。事後アンケートの自由記述欄には前述のように記述していて、学習を通して俳句が好きになったことがしっかりと伝わってきた。

振り返りカードや他のワークシートに記された内容を読むと、A児とB児の到達度に違いはあっても、語感や言葉の使い方について関心をもち意欲的に取り組んでいたことは明らかである。また、俳句の創作にも意欲的に取り組んだこともよく分かり、二人が単元の目標を十分に達成したといえる。

【自由記述欄に記してあったA児とB児の言葉】

- ・最初は俳句なんか創りたくなかったけど、だんだん楽しくなってきました。だから、修学旅行の俳句づくりが楽しみでたまらないぐらいです。一回はいい俳句が創れるといいなあと思っています。また、校長先生の俳句を創ろうなどあったら、がんばっていい俳句がつかれるといいです。(A児)
- ・この学習を通して俳句が好きになりました。また、家でも少し俳句を創ることも増えました。十七音で広い世界がつかれ人々に感動を与えるので好きです。違う視点から見ることでまた違う俳句が創れました。友達と交流することで、より良いアイデアが生まれました。積極的に自分の俳句を読み友達とたくさん交流し、とても充実した授業だと思います。(B児)

単元の目標を達成できたのはA児とB児だけではなく、他の児童の振り返りカードにもA児やB児と同じように前向きな記述が多く見られ、事後アンケートの結果からも、6年生児童のほとんどが単元目標を達成したと言える。これは、毎時間、友達と交流する時間を設け、自分だけでは分からないことがあっても友達と交流することで分かるようになるという安心感や、友達からアドバイスをもらうことでより良いものにできるという成就感などを味わえたからではないかと考える(図81)。また、五音や七音の言葉集めや俳句の添削を交流活動に取り入れたことで、一人一人感じ方が違うことを理解したり、友達の良いところを取り入れたりしながら表現力を伸ばしていったことも分かった。



図81 友達と交流することで学びを深める

おわりに

修学旅行は俳句を創る動機付けとしては絶好の機会であり、旅行前に授業を終えたいと考え授業を5月から6月にかけて1学級4時間ずつ実施した。基本的に指導過程を昨年度実施した詩の授業と同じ流れにし、1学級終わってから次の学級の指導に取り組むようにした。このことにより、児童の反応を見ながら授業改善を進めることができた。修学旅行先では、行く先々で俳句を詠む児童の姿が見られ嬉しいかぎりであった。

授業は、俳句の創作を楽しむことに重点を置いたので、事後アンケートからほとんどの児童が満足感をもって学習を終えることができたことが分かる。6年生全員の作品を本年度の犬山市民文芸祭に応募したところ、6人が優秀賞として認められ18人が佳作に入る

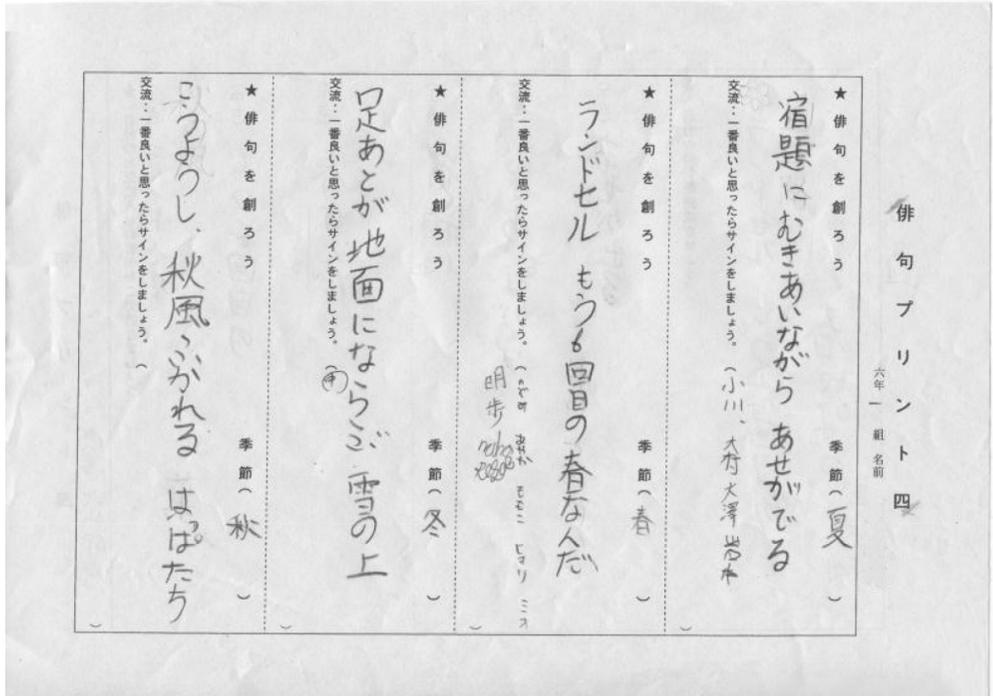


図83 創った4句に投票してもらう(俳句プリント4)

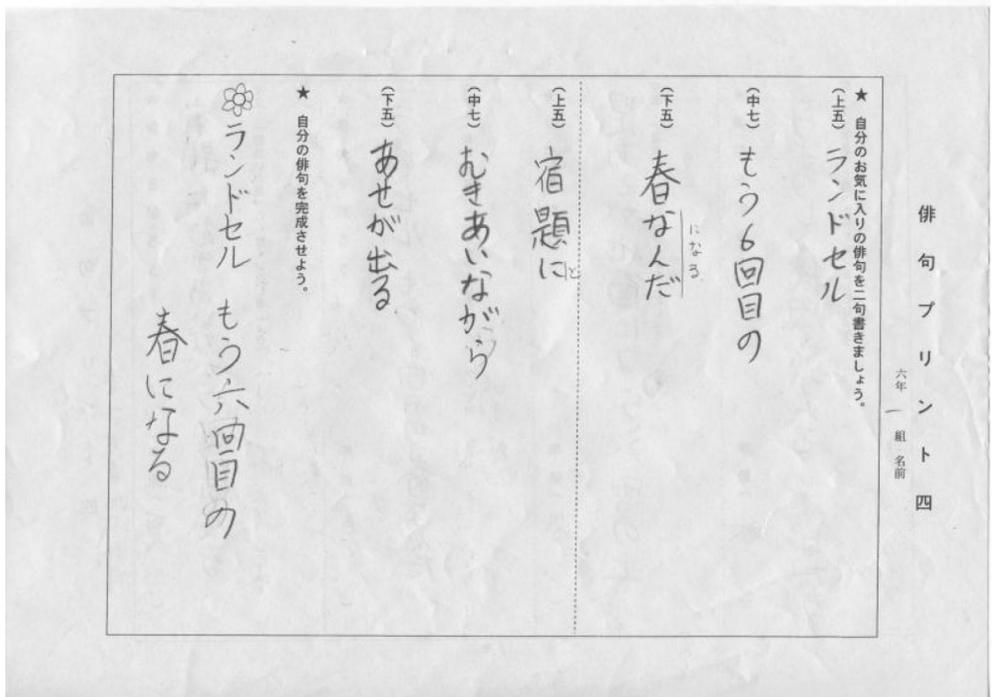


図84 選んだ2句を推敲し合い仕上げの一句を創る(俳句プリント4)

② 2限		① 1限		日付
★俳句が表している情景を想像して季語とともに友達に伝えよう。	★俳句が表している情景を想像して季語とともに友達に伝えよう。	★五音・七音の言葉を立て、俳句を六句つくろう。	★俳句には、季節が分かる季語や感動を表す切れ字が入っていることを理解しよう。	本時のめあて
【お気に入りの一句】 雨路の玉 ありたじたじと なりにけり	【お気に入りの一句】 あおがえろ	今日の授業で分かったことや感じたことを書こう	今日の授業で分かったことや感じたことを書こう	
※自分と班の欄・・・よくがんばった！ 4 もう少しがんばりたい！ 2	※自分と班の欄・・・よくがんばった！ 3 もう少しがんばりたい！ 1	自分 班	自分 班	

図85 振り返りカード

【資料 本単元で児童に提示した俳句】

○次の俳句を紹介し、音読したり視写したりして俳句に親しみをもてるようにした。

- ・のみしらみ馬が尿する枕もと
- ・夏河を越すうれしさよ手に草履
- ・あかあかと日はつれなくも秋の風
- ・梅一輪一輪ほどの暖かさ
- ・柿くえば鐘が鳴るなり法隆寺
- ・古池やかわずとびこむ水の音
- ・露の玉ありたじたじとなりけり
- ・菜の花や月は東に日は西に
- ・朝顔につるべとられてもらい水
- ・青蛙おのれもペンキぬりたてか
- ・毎年よ彼岸の入りに寒いのは
- ・大蛍ゆらりゆらりと通りけり
- ・さみだれや大河を前に家二軒
- ・うまそうな雪がふうわりふわりかな
- ・夏嵐机上の白紙飛び尽くす
- ・こがらしや海に夕日を吹き落とす
- ・やれ打つな蠅が手をすり足をする
- ・スケートひも結ぶ間もはやりつつ

資 料

第1回公開授業研究会まとめ

第2回公開授業研究会まとめ

23年度授業研究会成果発表会のまとめ



平成23年度

授業 研究会だより



平成23年9月1日

犬山市授業研究会

犬山市小中学校長会

平成23年度 第1回犬山市公開授業研究会

1 開催日時 平成23年7月28日(木) 13時から17時まで

2 開催場所 犬山市福祉会館中ホール

3 概要

(1) ビデオ授業参観

ビデオ授業提供者

○ 小学校5年算数の授業

犬山市立城東小学校 溝口 修平 教諭

○ 中学校2年数学の授業

犬山市立犬山中学校 東猴 弘晃 教諭

(2) 研究協議Ⅰ及びⅡ

★ 研究協議の視点

- ・ 児童・生徒の学習意欲を高める仕掛けはどのようになされていたか。
- ・ 協同の場面はどのように設定されていたか。
- ・ 授業の中で教師はどのような役割を果たしていたか。
- ・ ビデオ授業から学んだことは何か。
- ・ 日頃の授業改善を交流するとともに悩みを共有しよう。

※ グループで共通理解した内容を確認し、それを各自が研究協議Ⅱで報告する。

(3) 本日の振り返り

※ アンケート

【提出数50】

	多くのことを学んだ	ある程度学んだ	あまり学ぶことができなかった	学ぶことができなかった
ビデオ授業参観から学ぶことができましたか	32	17	1	0
研究協議Ⅰの話し合いから学ぶことができましたか	40	9	1	0
研究協議Ⅱの話し合いから学ぶことができましたか	43	6	1	0

公開授業研究会に寄せられた感想【一部紹介】

- まだ、1年目ということで授業のポイントの読み取りなどができなかつたり、疑問が多く出たりしたが、周りの経験のある先生方の考え方を聞くことで多くのことを学びました。指導の仕方も多くあるが、一つ一つのメリット・デメリットを考えることができました。自分が日頃もっていた疑問もいろいろな考え方でご指導していただいたので、それを生かして今後の授業をつくっていきたいと思います。(中学校教員)
- 二人とも今後の課題を提示するよい授業提案だったと思います。もう一度私たちのめざす授業はどんな授業なのかを再考するよい機会がもられたと思います。学校に帰って話題にしたいと思います。小学校で鍛えてもらっているおかげで、中学校の授業が成り立っていることを改めて感じました。小中の連続性をどこかで話し合える機会があるといいなと思いました。小中合同の現職教育の必要性を感じました。(中学校教員)
- やはり教師の仕掛け・協同の場面・学び合いとはということに話題が集中しました。仕掛けに関しては、たくさん授業を見て、話を聞いて自分に合った授業に即したものを実践していきたいと思います。「学び合い」とは何かという課題に対する答えに個人差があるように感じました。学校全体で、犬山市全体で共通理解を図り取り組む必要があると思います。今行われている小中の連携を確固たるものとし、共通の目標をつくってみんなで行き届いていけるよう努力したいと思います。(中学校教員)
- 若い二人の先生の意欲的な取組がビデオからよく伝わってきました。年齢的に学ぶことは多くありませんが、若い先生方との交流はとても刺激になりました。目的は授業研究であっても、多くの先生方と有意義な時間をもつこの会はとてもよいと思います。(中学校教員)
- 毎回のことでありますが率直に意見をぶつけ合い、校種を越えて語り合う先生方の姿に刺激を受けました。授業のねらいと1年を通して身に付けさせたい学習態度の両方を明確にもつことが大切だと改めて感じました。外部の人間を快く受け入れていただきありがとうございます。今日のビデオに出てきた子どもたちは、その時取り組んでいることの意味をよく分かって学んでいたように思いました。子どもたちが主体となる学びの姿について更に考えていきたいと思います。(大学教員)
- 授業研究会で多くの先生方と研究してきたことが本日の算数の授業に生かされていたことをうれしく思いました。振り返りカードも他の学校のを参考にしながら学校独自のものを作りあげていることが伝わってきます。算数の少人数授業のあり方、中学校のやり方について基本を考えてほしいと思います。(小学校教員)
- 様々な授業・支援の方法を学ぶことができただけでなく「学び合い」という理念を共有し話し合いができたことが有意義でした。人間関係・信頼関係の上にこそ学力は保証されることを再確認しました。お互いが高まっていくことを願う学習集団という人間関

係づくりを大切にしつつ、授業づくり・学級づくりをしていこうと思いました。とりわけ、聞くことの大切さについて話題になり、お互いの手立てを紹介し合ったり課題を得ることができたりしたので、今後に生かしていこうと思いました。また、日頃の教育活動のなかでの悩みや課題について感じていることなどを話し、明日への活力になりました。(小学校教員)

○ 今年から犬山市で働くことになり、初めて参加させていただきました。ビデオの授業を協議するのは初めてでしたが、それぞれの場面で授業者が成果や課題を説明していただき理解を深めることができました。また、十分な協議の時間を確保し、グループを変えて協議することができたので学ぶことが多くありました。(小学校教員)

○ 今回の算数・数学の授業は、子どもたちに「考えさせる」授業となっていました。考えさせることで暗記するのではなく、なぜそうなるのかという意味を言葉にすることができていました。自分の考えを言葉に落として伝え合い考えを少しでも深めていく姿が学び合いに必要なのだと改めて感じました。忙しいなかですが、このように直接考えを出し合えるこの場は、気づいたりヒントになったりするなど本当に貴重なものと改めて感じます。ありがとうございました。(小学校教員)

○ 小学校・中学校とお二人の授業を通して他学校・他教科の先生方と意見・話し合いの交流ができとても貴重で有意義な時間をいただきました。特にグループで意見・考えをまとめる - まず、自分の考えをもち、個々で伝え合いながら互いの考えを比較することで更に自分の考えを深める - 活動の工夫に自身の授業でも取り入れることができるのではないかと参考になりました。また、生徒それぞれのレベルの違いをいかにカバーしながら個々に合った到達度をもたせていくべきかについても、今回の話し合いで多くのアドバイスをいただきました。学ぶこと、また、共に学び合うことは楽しく充実していると生徒たちが思える授業づくりをしていきたいと思えます。(中学校教員)

○ まずは、ビデオ授業参観にとっても驚きました。小学生があれだけ自主的に動いて考えを伝え合い、さらに自分の力に変えている姿を見て大変驚くとともに学年スタッフの協力・努力がすごく見えました。また、話し合いでも同じように多くのことを学ぶことができました。今日から夏休み後の授業・学級経営に向けてしっかりと準備していこうと思えます。本日はこのような会を開いていただきありがとうございました。(中学校教員)

○ 小学校5年生の授業実践のビデオを見て、学び合い→発表(交流)の形がしっかりとできていて驚きました。私は中学校に勤めていますが、中学校でも実践してみたいと思うことばかりでした。小学校でトレーニングされてきた学び合いを中学校で引き続き伸ばしていかなければならないと感じました。学び合いで人間形成、学力の定着どちらも付けられるのだと思えます。授業をコーディネートして定着させていきたいと思えます。(中学校教員)

指導・助言（中京大学教授 杉江修治先生）【概略】

- 公開授業研究会で若い先生が発表するのはとてもよい研修の機会であり、その発表をベテランの先生がしっかりと支えている仕組みが、犬山のどの学校にもあることがすばらしいことだと思います。
- 授業づくりの視点として協同の考え方を取り入れているが、一部にグループ学習と勘違いしている向きもうかがえます。協同学習は本物の学力を付けるための重要な考え方であり方法ではありません。子どもの思考過程をどのように組み立てるのか十分に研究し授業をシステム化してほしいと思います。子どもの頭の中を推測し、どのような活動が学習内容の定着につながるのかを議論してほしいと思います。
- 夏休みに入りNHKの朝のラジオで「科学の時間」という番組を聴く機会がよくありますが、子どもの質問に科学者が答えています。その答は子どもに伝わっていないのですが教える素人だから仕方がありません。しかし、回答者は最後に「分かりましたか」と必ず聞きます。子どもは素直だから分かっているなくても「分かりました」と応えます。実はこれが日本の学校文化なのかもしれません。いい先生とは、このように子どもを言いくるめる先生になってはいないでしょうか。
- 本日の溝口先生の授業は、昨年の夏休みに私も一緒に指導案づくりのお手伝いをさせてもらいました。単元見通し学習という取組で、ねらいは子どもの頭の中に単元全体の大まかな見取り図をつくり、自分が何をやればよいのかははっきりさせることで主体的な学びを引き出そうとする試みです。これから何を学習するのか、学習する値打ちは何か、学習の手順はどうなっているのか等、事前にしっかりと子どもに示すことで子どもは動けます。これをしなければ学力の高い子どもだけが自ら動き、学力の低い子どもは先生の話聞き流していくのが授業だという理解になってしまいます。学級の子ども全員が何をやるのか分かっていないと学力の高い子どもと共に学ぶことはできません。毎時間のゴールを明確にすることは、2001年から言い続けていますが、これがあってこそ子どもに学ぶ姿勢ができるのです。
- 子どもが主体的に動けないのは仕掛けが不足しているからです。ピゴツキーという学者が「発達の最近接領域」ということを唱えています。それは、自分の成長に一番近い情報を与えるとそれを取り入れ伸びていくというものです。背伸びすることは発達につながらないのです。そして、子どもにとって一番近い情報は友達が適切に与えてくれるのです。仲間同士の深め合いが効果的でありまた効率的でもあるのです。単元見通し学習は集団の原理である「みんなで伸びる」ことに加え認知心理学の考えも取り入れた最先端の授業の考え方といえると思います。
- 溝口先生の授業は、導入で単元全体の見通しを丁寧に説明しています。毎時間、本時の活動内容をしっかりと伝えています。そして、子どもが動きやすい工夫が随所にみられます。なぜ個人で考えるのか何のためにグループで話し合うのかも明確に示していま

す。ですから、ペア交流でも熱心に話し合い子どもはネタを仕込んでいます。友達の説明も分かるから熱心に聞きます。個人思考による仕込みがしてあるからおもしろいと感じられるのです。これは先ほどの最近接領域の話に通じます。また、第1時にそれぞれの子どもが「がんばり宣言」をしました。これも自分の態度を固定させるためのよい手法だったと思います。

- 東猴先生の授業は「つるかめ算」の問題を解く学習で、連立方程式の学習にからめ教材に即した授業を組み立てているところがよいと思います。授業をデザインする時は、自分で判断し工夫する構えが最も大切です。振り返りカードで学習の見通しをもたせています。付箋を使って生徒一人一人が参加する仕掛けもありました。
- 先生が少人数指導を徹底するために、こまめに回りステップごとに丸付けをしていましたが、これをやると生徒は受け身になってしまいます。丸付けをして回っていると先生に認められたい生徒を育てることになります。徹底した生徒同士の学びを追究し主体的に学習に取り組む子どもを育てることが大切であり、先生も本を読んで勉強することが必要です。どの学校にも置いてあると思いますが、2003年に出版した「犬山の教育」の中に少人数授業のことが書いてあるのでぜひ読み直してほしいと思います。
- 子どもが共に育つための課題を明確に示してほしいと思います。教師がまとめることを重視する傾向がありますが、それをすると授業が教師のセレモニーで終わってしまいます。どの学校で取り組んでも子どもにとって成果が期待できる犬山ならではの授業づくりを今後も追究してほしい願っています。

平成23年度

**授業
研究会だより**

平成24年1月12日
犬山市授業研究会
犬山市小中学校長会

平成23年度 第2回

公開授業研究会

- 教師もともに高め合う -

12月26日(月)に犬山市福祉会館で本年度第2回公開授業研究会を開催しました。年末の慌ただしい時期でしたが、全部で83名の先生方に参加いただきました(小学校教員45名、中学校教員22名、大学生4名、大学教員3名、その他9名)。今回特筆できることは、高知県教育センターから3名の指導主事の参加があったことです。



杉江先生の挨拶から始まりました

- | | |
|---|---|
| <p>1 開 会</p> <p>○ あいさつ
中京大学教授 杉江 修治 先生</p> <p>2 ビデオ授業参観</p> <p>○ 小学校5年国語の授業
犬山市立楽田小学校教諭
新井 孝昇 教諭</p> <p>○ 中学校1年国語の授業
犬山市立南部中学校教諭
野田 亜希 教諭</p> <p>3 研究協議</p> <p>(1) 授業を見て感じた《自分の授業に取り
入れたいこと》と《他に工夫できる点》
を付箋紙に書いて模造紙に貼る。</p> <p>(2) 他のグループが書いた内容を見て回る。</p> <p>(3) 授業を観る観点にしたがい研究協議。グ
ループで共通理解されたことを画用紙に見や
すく記述する。</p> <p>(4) 他のグループが記述した内容を見て回る。</p> <p>4 本日の振り返りをする。</p> <p>5 指導・助言
中京大学教授 杉江 修治 先生</p> | <p>本日は左記のような日程で行いまし
た。この公開授業研究会も、今回で通
算9回目になります。これまでにビデ
オ公開授業として、小学校の部で「国語」
「道徳」「体育」「外国語活動」「算数」、
中学校の部で「理科」「英語」「社会」「数
学」「音楽」「国語」の優れた実践を紹介
してきました。</p> <p>ビデオ授業公開もさることながら、毎
回、参加者から好評をいただくのが研
究協議です。今回はその研究協議のやり方
を変えてみました。これまでは、研究協
議ⅠとⅡで協議するメンバーを入れ替えて違
う先生方と交流するという手法をとって
いましたが、時間的制約を受け深まりに
欠けるくらいがありました。そこで今回
は、同じメンバーとじっくり時間をかけ話し
合う形にしました。ただし、より多くの
先生方の意見を聞くことも大切なポイント
になるので、左記にあるように、研究協議
の前と後で、他のグループの意見を見て回
ることができる時間を設定し交流できる
ようにしました。</p> |
|---|---|

【開 会】

開会のあいさつで杉江先生は次のように述べられました。

- 毎回授業を観る視点が示されている。セミナーの視点ではなく、授業改善に生きる視点を設定することが大切です。子どもは常に成長しているものであり、教師は子どもを伸ばすモチベーションを高めることに意を用いなければならないのです。子どもによって教師は育てられるといえます。
- 授業改善の視点の中に、教科の力を伸ばす視点を忘れてはいけません。また、教師の立場として忘れてはならないことは、指導者ということであり友達先生ではないということです。
- 良い授業の中にこそ子どもの本質が見えます。子どもはいつでも学びたいと思っています。今日は、そのあたりのところを観て学ぶ機会になるのではないかと期待しています。

【ビデオ授業参観】

ビデオを観る視点を次のように設定し、あらかじめ参加者に提示しました。

- ① 児童・生徒の学習意欲を高める仕掛けは、どのようになされていたか。自分なら、この授業でどのように仕掛けていくか。

- ②教科の力を高める仕かけはどのようになされていたか。さらに、教科の力を高めるためのアドバイスはないか。
- ③授業の中で教師は、どのような役割を果たしていたか。あなたは、日頃、どのような指導・支援に心がけているか。
- ④学び合い、高め合う授業とは、児童生徒にどのような姿がみられる授業か。また、どのような学習活動に入れると有効か。



視点をもとにビデオ授業参観

小学校5年 国語の授業 犬山市立楽田小学校教諭 新井 孝昇 教諭

新井先生が12月に行った授業のビデオ公開でした。

「学び合いの授業が話し合いの授業に止まっているのではないかと、子どもが学びたい、学んで良かったと感じられるような授業ができないかと考えています。他教科・領域あるいは実生活で生きる力を養うことを目指しています。授業の中で子どものつぶやきを拾うことを大切にしています。

手だてとして、単元の学習成果を次の単元の導入に用いること、思考を深めるテキストを使用すること、グループで意見交流することを通して、テキストを多角的に読めるようになることを目指しました。」

1 単元名 説得力のある意見文を書こう - 考えの裏付けとなる資料を引用して -

自分の考えを裏付ける資料を引用しながら説得力のある文章を書くことが本単元のねらいです。資料から情報を読み取り自分の考えを論理的に構成していくことは、他教科での学習でも必要な力です。また、相手に分かりやすく自分の意見を伝える表現力にもつながってきます。本単元で学習したことを活かして、社会科の学習「自動車をつくる工業」のまとめで“これからの自動車づくりに求められることは何か”を資料を効果的に使って意見文に表すことを考えています。

2 本時の目標

- ・説得力のある意見文を書く工夫について考え、引用について理解する。
- ・例文を交流の中で多角的に読み、意見文の書き方について考える。

3 本時の流れ

- ・前時の学習を振り返る。説明の仕方の工夫について分かったことを確認する。振り返りの交流で参加度を上げる。【ペア→全体】
- ・本時のめあてを確認する。→ [説得力のある意見文の書き方について考えよう]
- ・意見を裏付ける資料がない意見文を読み、グループで考えを交流する。【個→グループ】
- ・同じことを述べているが、裏付けとなる資料を引用して書かれた意見文とそうでない意見文とを比較しながら読み、グループで考えを交流する。【個→グループ】
- ・資料を引用して意見文を書くことによさについて考え、意見の交流をする。

【個→グループ→全体】

- ・学習の振り返りをする。【個】

中学校 1 年 国語の授業 犬山市立南部中学校教諭 野田 亜希 教諭

野田先生が12月に行った授業のビデオ公開でした。

1 生徒の意欲を高める仕かけ

- ・教科委員が学習活動の司会進行を務めることで仲間と共に学ぶ意欲をもたせる。
- ・毎時の課題を教師が決める「学習課題」と、生徒が輪番制で考える「取組課題」の2本立てにし、課題解決の意欲を高める。
- ・指名を挙手だけに限定しないで、相互指名や時にはゲーム感覚を取り入れ、誰もが発表しやすい雰囲気をつくる。

2 協同の場面における仕かけ

- ・詩歌や古典学習では、教科委員主導で繰り返し音読活動を行う。
- ・協同学習を行う前には、必ず個人でじっくり考える場面を設け「学び合い」が「教え合い」にならないようにする。
- ・いつも同じメンバーによる活動ではなく、時には「意見を聞いてみたい人」と話し合う場面も設ける。

3 教師の役割

- ・特に言語事項に関する学習においては、宿題の答え合わせなどは実際に黒板に文字を書かせ、間違っていたら訂正し合い視覚で学べるようにする。
- ・グループ・全体交流など話し合い活動を行った際には、必ず、最後に個に戻し、自分の取組を振り返るようにする。
- ・教師は授業のコディネーターであることを生徒と共通理解する。教師は、教科委員主導による活動を補助したり助言したりする。授業の時間配分は教師が行う。
- ・新しい単元に入る時は、学習の流れのガイダンスを行い、生徒がこれから学習する内容のイメージをもてるようにする。

4 題材 故事成語「矛盾」

5 本時の目標

- ・教科委員の司会進行に全員が協力して、学習することができる。
- ・それぞれの意見をグループ内や全体で交流することができる。
- ・「矛盾」の意味を相手に分かりやすく説明することができる。

6 本時の流れ

- ・ワークシートの答え合わせをする。【全体】
- ・本文を音読する。【一斉】
- ・本時の課題をつかむ。→ [「矛盾」の意味を理解し、説明できるようになる。]

- ・前時の答え合わせをし、本時の課題に迫るための予備問題に取り組む。【全体】
- ・意見交流をしてグループとしての考えをまとめる。【全体】
- ・グループの意見を発表し合う。【全体】
- ・本時の振り返りをする。【個】

【研究協議】

(1) ビデオ授業を参観して感じた《自分の授業に取り入れたいこと》(赤い付箋紙)と《他に工夫できる点》(黄色の付箋紙)を書いて小中別の模造紙に指導過程に沿って貼りました。

【例: Jグループが模造紙に貼り付けた付箋紙の内容】

(小学校)

〔赤い付箋紙〕

- ・児童の学びに対する意欲付けが上手い。
- ・つぶやきの場の設定や雰囲気作り、学級づくりが上手い。
- ・発問や投げかけ・問いかけが精選されているので、児童は何を考えればよいのか、とても分かりやすい。
- ・発表の場面で、前回の学習がもとになり意見が出ている。
- ・前時の振り返りをする段階からペアや全体交流を行い、学び合いを行っているのがよく分かる。
- ・導入に前単元を用いることで既習事項を確認することができた。
- ・児童自身が改善点を見つけ引用のよさを感じている。
- ・例文を比較することで、よさが分かりやすくなった。
- ・〈例 3〉の足りないところを考えさせた場面で、時間を十分にとったことで意欲を保つことができた。
- ・資料提示が大変上手い。
- ・文章の比較読みがしっかりとできる。
- ・教科書の活用の仕方が上手い。
- ・「納得できたか」という問いかけはシンプルでありつつ、児童に資料についてもう一度考えようという気にさせる。
- ・つぶやきを拾って、そのことを全体に拡げて話すことで、学級全体で授業に取り組んでいた。
- ・本時のめあてに立ち返って引用について考えていた。
- ・社会科との関連性をもたせてつながる学習を行っている。
- ・他教科の学習とうまく連動されている。
- ・学習する意味を児童が感じられる。
- ・児童の学びの変化が分かりやすい。

〔黄色の付箋紙〕

- ・発表者に偏りが出ている。



付箋紙に意見を書いて貼る

- ・〈例 3〉の足りない点を問う時に、「長い」など目的からそれた意見が児童から出てしまった。
- ・「読んで思ったことは何か」について感想を述べている児童がいた。既習内容とからめて「分かりやすいかどうか」を最初から投げかけてもよいかもしれない。
- ・グループ内の話し合いが少ないため、限定されたメンバーとの交流となっている。



付箋紙に書かれた内容を熱心に読む

(中学校)

[赤い付箋紙]

- ・黒板の左に本時の流れが示されている。
- ・答え合わせというやりやすい方法で、教科委員の司会の緊張をほぐして移れるようにしている。
- ・自分たちで考えた課題なら与えられた課題でなく、より自分たちで解決しようという気持ちが生まれたのではないか。
- ・課題を2本立てにすることにより、教師と生徒の思いを大切にできる。
- ・相互指名でいろいろな人の意見を聞くことができる。

[黄色の付箋紙]

- ・教科委員が主導であるため効率が下がる。
- ・生徒全員が学べたか判断が難しい。

(2) 他のグループが付箋紙にどのような意見を書いているかを自由に見て回る時間を10分取りました。

(3) 授業を観る視点にしたがい研究協議を70分間おこないました。模造紙に貼られた付箋紙の内容や、見て回った他グループの意見も参考にしながら活発に話し合いました。グループで共通理解した内容は、記録係が画用紙にまとめました。司会と記録は犬山市授業研究会のメンバーが担当しました。



活発に話し合いを行いました

(4) 各グループがまとめた内容を自由に見て回る時間を20分取りました。

【例：Jグループが書いた内容】

(小学校)

- ①児童の学習意欲を高める仕かけ
 - ・資料の提示の仕方
 - ・教師側が説得力のある文の書き方のポイントを押さえていた。
- ②教科の力を高める仕かけ
 - ・児童が気付くまで、何度も繰り返し発問をすることで、児童から意見を出させようとしていた。

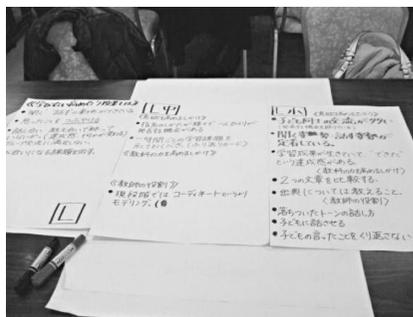
③教師の役割

・つぶやきなどを拾って全体交流へつなげるコーディネーター的な役割。

- ・教材研究
- ・児童の意見を予想する。
- ・小さな声で授業することを心がけている。

④学び合い高めあう授業では、児童生徒にどのような姿がみられるか。

- ・児童が聞き手として育っている。
- ・認め合える雰囲気づくりができています。
- ・児童だけではなく教師の関わり方も大切。
- ・児童自身が変容に気付けるような成果があるとよい。
- ・横断的な学習ができています。



グループで共通理解された考え

(中学校)

①生徒の学習意欲を高める仕かけ

- ・教師が考える「学習課題」と生徒が輪番で考える「取組課題」をつくることで学習意欲を高める。
- ・教科委員の活用を内容によって変えている。



様々な角度から授業分析がされました

②教科の力を高める仕かけ

- ・語彙力を増やすために、導入にあえて時間をとっている。
- ・基礎基本の定着

③教師の役割

- ・コーディネーター的役割
- ・良いところをほめて認めていた。
- ・的確な助言をすることで、生徒の意見を軌道修正する。
- ・生徒の役割を分担する。

④学び合い高めあう授業では、児童生徒にどのような姿がみられるか。

ような姿がみられるか。

- ・学びに参加できない生徒へのフォローが生徒同士でできている。
- ・意見交流した際に「分かった」という気付きやつぶやきを大切にしている。

【 振 り 返 り 】

下記の項目で本日の振り返りをするとともに、自由記述で感想を書きました。

1 ビデオ授業参観から学ぶことができましたか。

- ① () 多くのことを学べた
- ② () ある程度学べた

【杉江先生の指導・助言】

○ 文化を、大きく集団主義と個人主義とに分けて考えることがあります。集団主義では協調性が尊重されていますが、一方で創造性、独自性は封じこまれてしまいます。それに対して、個人主義は、個の自立が尊重され、創造的であることが評価されますが、閉鎖的で独りよがりな行動をも促します。この頃、日本では、個人主義的な文化が強くなっていると感じています。日本の社会がますます格差が拡大する中で成果主義、競争こそすべてと平然と言うような空気が広がってきている。人間にはみなプライドがあり、それが保証されない社会は不安を引き起こします。個人主義の悪い側面が目立ちます。こういった風潮の中で、教育はより良い文化づくりを目指さなくてはなりません。協同学習は、共に育つという集団主義的視点を基礎に置きながら、ひとりひとりの個の伸びを認め合い尊重する教育をめざしています。集団主義をベースに置きながら、個人主義の望ましい側面をそこに統合することが不可能ではないことを理論化したものと言えるでしょう。協同は、個を大事にしながらか他の認め合い、しかも学力を伸ばしています。今日も楽田小学校と南部中学校のビデオ授業の中で、子どもが伸び伸びと学ぶ姿を観ることができました。



杉江修治先生による指導・助言

○ 楽田小学校の実践では、主体的な経験そのものが子どもに自信を付けることが分かります。全員参加で認め合う姿はとても有意義であり、子どもが一生懸命参加して考えることが自信になります。

学習を単元としてのまとまりで把握していることが大切であり、しかも教師だけでなく子どもも共有することで、子どもが自ら動くことにつながるといえます。グループでの話し合いは並列的に知識を出し合うだけでは高まりません。子どもが理解できる情報が目の前にあり、グループの話し合いの中で練り上げられていくことを目指すことが大切であり、たくさん意見が出ればよいということではありません。

今日の授業で資料の出典について子どもに考えさせる場面がありました。実は大学生でもこれを書けません。出典を明示することは、科学的な思考を育てることであります。今日の子供たちは、仲間のお話をよく聞いていたと思いますが、聞く側の課題は何だったのでしょうか。話す側の課題を問題にしますが、相対的に聞く側の課題が手薄になっている実践をよく見ます。ここに配慮をしてほしいと思います。課題を明らかにすると子どもが動きやすく学習意欲も明らかに高まります。

授業の流れとして、刻みの大きい授業設計がよいと思います。これが細かくなりすぎると教師主導になりやすい傾向にあります。導入のところで子どもに学習の流れをしっかりと明示することで、子どもは学習に見通しがもて、主体的に活動できるのです。

子どものつぶやきをどのように扱うかについてですが、グループの中で解決できるつぶやきもあり、つぶやきを全体に広げるのかグループに止めておくのか、どちらが効果的なのかはこれからの課題になると思います。

学習の振り返りも大切にしたいと思います。今日の授業でも子どもが資料を活用することで、自分がたくさんの意見文を書けたことを実感できる振り返りでした。授業の終わり方のイメージは大切であり学習した値打ちがあることを伝えたいと思います。

- 南部中学校の実践は教科委員が中心となって授業を進める手法で、レモネーのような生徒主導の授業をよく見かけるので大変挑戦的な提案でした。このような取組では、単元の導入は教師主導でもよいのではないのでしょうか。単元のはじめにきちんと教師が単元全体の流れやねらいを押さえておいてから、教科委員を使うのは興味深い挑戦だと思います。教科委員が「グループで考えてください」と投げかけ最初は広げます。そして、グループから発表されたことをまとめて次の話し合う事柄を絞り込むといたように、教科委員がコーディネートできるとよいと思います。また、教科委員をうまく使うことにより予習につながれることができると思います。「ここまでやってくる。」というように全員の気持ちを高めることも可能でしょう。そのためには課題をもっと明確に伝える必要があると思います。この授業では、生徒は教師ではなく仲間に伝えようとしていることがよく分かりました。それは、発表者がきちんと生徒の方を見て発表していることで分かりました。ただし、小学校の実践と同様、聞く側の課題は何であったか明確に示されていたのでしょうか。
- 二つの実践は、学習参加度の高い授業だったと思います。授業では、1時間の密度が濃さが大切です。学び合いの授業は密度が濃い授業です。レモネーではなく、本当の学び合いがある授業とはどのような授業なのか、これからも犬山から発信されることを期待しています。

【参加者の感想（一部紹介）】

《小学校教員》

- 発表の機会をいただきありがとうございました。グループの先生方にアドバイスをいただき有意義でした。本学級の児童は、グループ内での交流により効果的な学習できていると感じていましたが、全体への交流に広がるようにするという課題もいただきました。聞くという行為の主体性について、今後考えていきたいと思いました。
- 小・中両方の授業を観ることで、小から中へ成長する段階を考え授業を観ることができました。子どもたちが学び合い高め合う授業についてグループで協議し、まず学習で身に付けさせたい力を明確にし、そのためにどう子どもから意見を引き出し深めるかを教師が支援していくことの大切さを改めて感じました。グループ活動（話し合い）が学び合いになるのではなく、学び合うためにどんな手立てをとるかの一つとして考え、目的を明確に様々な活動を授業に取り入れたいと思います。
- 授業を観る視点に基づく話し合いでは、学び合いの形態や学び合いの意義について（相

手を信じて言える、お互いほめる)話が出て、改めて学び合いの大切さを実感しました。小学校では資料を取り入れた文章表現、中学校では教科委員主導による学び合いの授業ビデオを見せていただきました。授業内容はもちろんですが、授業のルールなども同時に学ばせていただきました。毎回思うのですが、話し合いによって別の視点が見えたり、自分の考えに偏りがあるのだということに気付いたりします。今後もより良い授業をコーディネートできるように努力していきたいと感じました。

- 参加者が同じ授業ビデオを参観して、良かった点や工夫したい点について整理してまとめていくので、授業を観る視点がとても明確だったと感じました。授業を観る視点についても、何を意識して観ればよいのか具体的に示されているので良いと思いました。自分で考えていてもうまく表現できないことが、他のグループで話し合いのテーマになっていたりで、他のグループの様子を見て回る時間はとても有効でした。授業者への質問の時間が少しだけでもあるといいのではないかと思います。今日は学ぶことが多い機会となりました。
- 今までと違った方法だったので、目新しく良かったと思います。付箋を使う方法だと自分の考えを出しやすく、また全てのグループの内容を見にいけたのも良かったと思います。授業ビデオでは、国語では〇〇先生、数学では〇〇先生といった定評のある方(ベテランの先生?)の授業を観て「教科の力がどう高まっているのか」を観たいと思います。今回の中学校の実践なら3年生のものも録画して比べてみたいと思いました。
- 他の学校の先生の授業を見せていただき、その取組を知ることができ参考になりました。今日の二つの授業が今の犬山が目指すゴールではないことは承知していますが、“子ども主体”ということにとらわれすぎているように感じました。教師が教えるべきところをしっかりと教え、確かな知識として定着させることも大切なことだと思います。「学び合い」とは何かを今後も深く検討していきたいと思います。
- 1月から授業で使わせていただきたいと思うことばかりで大変勉強になりました。今回、改めて思ったことは「やはり教師は授業ができてなんぼ」ということです。私も授業研究に励みたいと思いました。そして、子どもに還元していきたいです。
- 研究協議の形が一新されました。見て回るのも一つの「学び合い」で良いと思いました。ただ、グループが14もあると、短い時間の中でじっくりと見ることができませんでした(特に前半の付箋)。そこで、見るグループを役割分担して、責任もって見てきて報告するという形もよいかと思います。

《中学校教員》

- 授業を発表する立場になり、改めて自分の授業を見つめ直す大変良い機会となりました。多くの方に時間を割いていただきご意見をいただけたことを、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。自分の授業を見直してみて、生徒が生き生きと活動して

いる場面が少ないように感じました。改めて「主体性」とは何かということを考えさせられました。一点、授業者へ質問する場面が少しあると良いと思いました。

- 今回、授業のビデオを観ることで、小学生が発表者の意見をしっかりと聞いていることに驚きました。中学生で乱れてしまっているのでビシッとやっていかなければならないという刺激になりました。普段、中学生の授業しか見ることができないため、小学生の授業を見ることは、とても新鮮で良かったです。研究協議では話し合う視点が多く、時間も短いため深まらなかったのも、今回は1グループ1テーマにして絞り込んだ協議を行えばよいと思いました。他のグループの意見を見ることができる時間は、多くのことを知ることができて勉強になりました。
- 小学校のビデオ授業で、この先、中学校に上がる児童が、どんな様子で授業を受けているかを一部見ることができ参考になりました。教科委員が授業をつくりあげていく点について、初めは、生徒の主体性が高まり易いのではないかと、とても関心がありました。その後の研究協議で、いくつかの課題点を伺い教科委員だけでは難しいところも多くあることに気付きました。しかし、生徒がしっかりと活躍し、他の生徒も学び合いやより強い主体性をもたせられる場面で活用していけたらと思います。
- 小学校の先生方から小学校段階での学習の取組方法と、心配していることも含めて中学校に期待していることなど様々な話が聞くことができました。小中両方のビデオ授業を観ることは、それぞれの立場から話し合いができて良い方法だと思いました。また、付箋を使うことで自分の考えを書くのが容易になり、周りの意見もすぐに見ることができるので良い方法だと思いました。各自が付箋やまとめられた内容を見て回る方が、各グループの意見を聞くよりも効率的で良いと思うので、今後もそうしていただけると良いと思います。
- 前回に比べて発言の内容が広がりました。自分はどう思う、私はどう思うという話にプラスして「じゃあ、こうやればいいよね。」ということができました。教師のこのやりとりを生徒にしてもらえば、自然と形になっていくのではないのでしょうか。教師がこういう学び合いだといえるものがなければ、生徒にできるわけがないと改めて感じました。
- 新しいことに、自分の思いをもって取り組んでいる先生方の授業を参観することができて、授業の技法だけでなく心の面でも力をもらった気がします。教師が『こうしたい』『ああしたい』という思いをもって取り組むことが大切であると思いました。
- 前回のようにお出かけバズ形式の方が良いと思いました。書かれたものを読む時間は、あまり頭が働いていませんでした。読んでもあまり心に引っかかるところがなく、この時間に、もっと多くの先生と話をした方が有意義だと感じました。ただ、付箋に書くのは記録に残り、授業提案者にお土産ができて良いと思います。研究協議をまとめ画用紙に記述された内容は、話し合いの内容が的確にまとめられているとはいえ、中途半端であり意味がよく分からないものが多かったように思いました。
年に2回、こうして学び合う機会があるということは、とても素晴らしいことだと思

います。取り回される先生方は大変かと思いますが、ぜひ、続けてほしいと思います。

- 自分自身、教科委員方式の授業に悩んでいましたが、今回、様々な分野の方々からたくさん意見を聞くことができとても参考になりました。賛否両論でしたが、効果的な場面で、これからも工夫していきたいと思いました。また、犬山市内の教員に限らず、学生、県外職員など外部の意見を聞くことにより、犬山の教育の方向性を再認識できる場にもなりました。

最後に杉江先生による指導・助言では、協同学習が社会にもたらす役割について触れられ、これからもそれを理解しつつ実践していきたいと思いました。

《その他》

- 教職を目指す身として、とても参考になるビデオ授業や意見ばかりでした。一人の先生と会うだけでも大変ですが、今回のように、たくさん先生方にお会いすることができたことはとても貴重で、様々な校種、教科の先生方ともお話ができる機会はすごく有意義であると思います。小学校、中学校という段階を考えて話すことは、経験の少ない私には難しかったですが、中学校の生徒主体の授業の成果が出ることを期待しています。周りの先生方が学生を温かく受け入れていただけました。ありがとうございました。

(学生)

- 初めて参加させていただきました。ビデオ授業参観では、グループ学習など多くの工夫や、授業の進め方で意図していることなどを聞くことができとても参考になりました。学び合いが教え合いにならないようにすること、生徒の学習のモチベーションをあげることでできる授業の進め方は、とても大切で難しいと思いました。生徒の自由な意見を本題に上手く導くためにも、日頃の教材研究がとても大切だと思いました。多くの試行錯誤をされている先生方の話をたくさん聞くことができ、とても参考になりました。(学生)

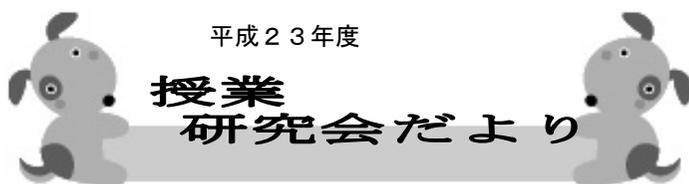
- 本日は、貴重な体験となり誠にありがとうございました。本センターでは、年次研修受講者増にともない、様々な研修方法を模索しております。本日のビデオ授業参観より多くの学びを得ました。また、若い先生方が熱心に参加しており、すばらしいな、さすが犬山市だと感動しています。本当によい刺激をいただきありがとうございました。(高知県教育センター指導主事)

- 第1回も参加させていただきましたが、小中の学び合いの実践は大変参考になります。小中の先生方が、本当によく自らの授業を研究し実践されていることは、是非見習わなくてはならないと感じました。今回の実践でも、楽田小の新井先生の取組の中で、資料配付の時間を変えることにより、少しずつ気付きが出てくるプロセスであったり、子どものつぶやきを取り上げ全体に戻すという方法も大変参考になりました。また、南部中の野田先生の実践からは、教科委員を使った主体的な学びは大変考えさせられました。ありがとうございました。(専門学校教員)

- 授業改善に向けて現場の先生方が日々前向きに取り組んでおられることが、非常によ

く分かる研究会だと思います。ビデオを拝見して思ったことですが、学びを深める仕かけの重要性は確かに大切であるものの、それにつなげていくことを考えるうえで、子どもが何気なく発言したことがらを、いかに拾っていけるかという点も大切かと思いました。(大学教員)

- 学習集団と教師の関係(かかわり方)について考えさせられました。学習集団の中に教師が入るのか外にいるのかです(その中間もあるかもしれません)。また、両パターンにおいても距離感が違うと思います。今後のテーマとして考えていきます。私自身は学生たちと学び合っていきたいと思っています。また、現場の先生方のお考えをうかがえたことも、とても貴重な勉強になりました。このことを今後の教員養成教育に活かしていきたいと思っています。(大学教員)



平成24年3月2日

犬山市授業研究会

犬山市小中学校長会

平成23年度

授業研究会成果発表会

- 今年の成果を共有しよう -

3月2日(金)に犬山市福祉会館で23年度の授業研究会成果発表会を開催しました。年度末の慌ただしい時期と重なりましたが、41名の会員がこれまで研究的実践で積み上げてきた内容をまとめ発表しました。発表会には、会員の他に市教委から教育監の間宮先生、学校からは池野小校長富士道先生、東小校長澤木先生、楽田小校長河村先生、栗栖小教務主任中野先生、今井小教務主任伊藤先生、至学館大学丸山先生の7名の先生方にも参加いただきました。

本日は右記のような日程で行いました。昨年までは、グループ交流の形式で成果発表会を行っていたので、全体としての成果の共有はできませんでした。グループ交流の良さは、少人数で発表し合い質疑応答するので、一人一人に発表する機会があ

って参加度高くなるという点です。また、疑問点も気軽に聴くことができるというもあり

成果発表会プログラム

- 1 開 会
○ あいさつ
中京大学教授 杉江 修治 先生
犬山市教育委員会教育監
間宮 明彦 先生
- 2 グループごとの発表
・国語2部会
・学び合い1部会
・学び合い2部会
・道徳部会
・理科部会
・国語1部会
- 3 指導助言
中京大学教授 杉江 修治 先生
- 4 今年度の振り返り
- 5 閉 会
城東小学校長 水谷 茂 先生

ます。但し、グループとして伝えたいことが、きちんと全体に伝わっていたかという点、若干、弱い部分も感じられました。そこで、今年度は、全体に伝えることを意識して、グループの成果をまとめることに重点を置いた発表会にしました。

1 開 会

☆ 杉江 修治 先生（概要）

- ・犬山市の授業改善がスタートして10年目である。この授業研究会も10年目を迎えているが、試行錯誤の研究会であった。
- ・私は、文科省の若手教員育成プログラムに参加している。若手が勉強できる地域として、犬山は全国でも先進的な地域である。現場でのトレーニングが、ますます重要性を増している。
- ・現在、若手が増えているが若手のトレーニングだけではなく、犬山全体の底上げが欠かせない。
- ・今日は、1年間の成果をまとめて発表してくれるので楽しみにしている。この成果をもとに、来年度の発展を来している。

☆ 間宮 明彦 先生（概要）

- ・研究会に来ると現場の空気を感じられて懐かしい思いがする。
- ・市教委からみると、犬山の「学びの学校づくり」も定着期に入っているように感じる。良いことが定着していくためにも市教委の施策が重要になる。このような研修を広げていくためにも市教委として様々な仕掛けも必要である。
- ・少人数学級と少人数授業、TTによる授業、特別支援教育支援員など犬山としての仕掛けを、どのように活用してもらえるか楽しみである。
- ・今日の発表会で学んだ成果を一人一人が学校に持ち帰って広げてほしい。

2 グループごとの発表

(1) 発表の方法は次のように決めた。

- 各グループごとに発表し、他のグループは聴く形式で行う。その際、聴く側は発表内容について感じたことを下記のような評価シートに記入し、それを発表終了後に発表グループに渡した。
- 1グループの持ち時間は15分とした。概ね発表10分質疑応答5分とした。
- 口頭発表を基本としたが、教育器機を使うグループも見られた。

(2) 発表内容は以下のとおりとした。

- 研究の仮説、研究の方法、実践、考察を分かりやすく伝える。
- 仮説の検証について十分に吟味し説得力あるものにする。統計的な資料提示があれば、さらに説得力が増す。
- 持ち時間を考慮し内容を精選する。研究の全容は実践資料としてまとめる「平成23

年度実践資料」を参照することにする。

成果発表会評価シート

	()	グループの発表を聴いて		
氏名 ()	学校名 ()			
1 研究の方法は仮説を立証するのに適切であったか。	A	B	C	D
2 実践は効果的に行われ研究主題に迫るものであったか。	A	B	C	D
3 考察は実践を生かしたものであり、授業改善につながるものになっていたか。	A	B	C	D
【感想】				
A：達成していた B：ほぼ達成していた C：やや不足していた D：不足していた				

3 指導・助言（概要）

中京大学教授 杉江 修治 先生

- 授業研究会の取組は、自分の実践を見直し創り上げる契機になっている。子どものいい姿を毎回見られるように創り上げてほしい。今回の発表を聴いていると、学び合おうから高め合おうという視点が出てきているように感じる。全国的に学び合いが流行しているが、グループで話し合っていればよいというような風潮が広がっていることを懸念している。
- グループで話し合うという学級文化をつくっていることが重要である。これができていれば、子どもは進んで関わり高め合うことができる。成果を共有すれば次への高まりも期待できる。
- 今日の発表には一人一人の先生の工夫が盛り込まれている。これを次につないでいくことが重要である。その際に2つの視点がある。
 - ・教師の仕掛け：子どもが主体的に取り組む仕掛けや成功させるための仕掛け作りが大切である。このことにより自信をもって学びに取り組む子どもを育てる。
 - ・成功体験が必要：子どもには当然個人差があるので、できた・できないだけで測らないことが大切である。自分の発言を認められる、あるいは、人の発言をしっかり聞く自分を意識することも自己肯定感を育てるものになる。このあたりのところも研究を積み重ねてほしい。
- 話し合いの工夫も出てきた。遊びで使う言葉と授業で使う言葉は違うのであり、聞き

流してもよい日常と聞かなくては自分が困る授業を意識させたい。要するに、いい加減な態度はダメであることを、しっかりと分からせたい。

- 今日の発表を聞いていて共通して使える工夫が見られた。理科の発表では、役割を与えてグループ活動を活性化させる原理的なものがあった。国語では見通しをもたせて学習に取り組む工夫があった。道徳では、授業だけでなく学級生活との一貫性を大事にしていた。協同的な学びの場は、道徳的な価値観を養う上でも重要な位置を占めている。
- 今日の発表がまとめられて23年度実践資料になるが、丹念に読み返して24年度の実践に生かしてほしい。各学校現場でも、今日発表された実践が広まってくれることを期待したい。犬山に授業研究会の仕掛けがあるのは、とてもステキなことである。

4 今年度の振り返り（抜粋）

(1) 今年度参加してプラスになったこと

- 日常の授業について、各自が自信をもって実践していることを語り合い、そこから学ぶことが多かった。次の日からの実践に生かすことができた。若い先生方のエネルギーから学ぶことがたくさんあった。私のこれまでの実践が若い先生方の役に立つことができたこともうれしく思っている。
- ベテランの先生が同じグループにいてくださって、自分の知らない手法やアイデアを教えていただいたことが良かった。また、自分が迷っている教材でアドバイスをいただけたことが良かった。
- 授業実践をお互いに交流することができ、道徳の授業の進め方についてたくさん学ぶことができた。一人では思い浮かばないようなこともあり、いろいろな人の進め方を取り入れて次の授業に生かすことができた。
- たくさんの実践資料を知ることができ、私もどんどん実践していきたいと思った。年間を通して悩み、考えることで、よりその教科に向き合うことができた。失敗もあったけど、自分が研究した分だけ、あるいはそれ以上に、驚くほどに子どもが1時間で成長する姿を見ることができたこともある。それが私にとって、とても楽しいことだった。
- 他の学校の先生方と悩みを共感し合い、その悩みを解決するための方法を話し合うことができた。他校での取組を知ることができ、新しい方法を教えていただけたのもプラスになった。また、中学校の先生方と話し合えたことで、小学校での学習の大切さを改めて感じることができた。

(2) 改善したいこと

- 生徒に提示する課題の工夫や様々な実践に挑戦しようとする姿勢が、自分には不足しているように思う。研究会に参加することによって、生徒の実態を改めて見つめる中で、

様々な課題や定着させたい力、定着させるために何があるか模索していかなければならないと感じた。

- 自分の実践の中で「授業効率が下がる」という問題点が浮かび上がってきたため、主体的な学びを行いながらも、中学生として身に付けさせるべきことを徹底したいと思う。校内研修はもちろんであるが、校外の授業を見る時間も増やしていきたい。
- 毎時間「学び合い」「高め合い」の授業をするのは難しいと感じている。単元の中で1・2時間そうした時間を取ってやっている。また、「学び合い」と「学力」の関係には感心をもっている。中学校は、テストや受験があるので、学び合いをしながら学力を伸ばしていくにはどうしたらいいのか考えている。
- この研究会自体がとても自主的・自発的なもので、積極的な先生方が集まり、その中で一緒に研究できたことはとても貴重な経験となった。この実りある研究が、この場限りのものとならないよう、もっと開かれた研究となるよう各学校で、この研究会の内容を持ち帰り共有できる場があればと思う。
- 研究会のために実践する、レポートにまとめるために実践するというのではなく、子どもがすばらしい姿を見せてくれるために実践をし、すばらしい姿を見せた実践を記録として残し、それを財産としていく。参加者にこのような自覚が大切である。はじめは仕方なく参加してきた人たちが、この研究会を意義あるもの、楽しいものと感じられるような研究会にしていきたい。

(3) 感想

- 杉江先生のご指導やベテランの先生方にアドバイスをいただきながら取り組めたことが、貴重な経験になったと思う。手法ではなく「風土」といわれた学び合いを意識して日々の生活の中で、共に育つ姿勢を大切にしていきたい。
- 杉江先生のご指導は「ああ、なるほど」と腹にストンと落ちる言葉がたくさんあって毎日の授業づくりの参考になった。この授業研究会で学んだことを、子どもたちに返していけるよう日々の授業や学級経営に努力したい。
- 最初は、テーマに対する実践がゲーム化していき、ゴールが見えない状態だったが会を重ねるごとに「目指す子ども像」がより具体的なものになっていった。「こうしたらこうなる」と自分なりに真剣になって考え、思い切って実践したことで、よりたくさんのことを吸収できた。たいへん良い経験になった。杉江先生のご指導の中に、自分の実践を肯定する部分もあったので、子どもと一緒に「やって良かった、少しは意味があったなあ」と実感できた。
- 今年は三浦先生に取りまとめをしていただき本当にありがたかった。明確なテーマが固まるまでは、先行きが不安だったが、三浦先生に指導いただく中で、課題も明らかになり、私自身が主体的に研究に臨むことができた。他のメンバーの先生方の実践も興味

深く、どんな授業だったのか思い浮かべることが楽しく、自分の実践に生かしたものが少なくなかった。

- 学び方を学ばせるということを常に考えながら授業づくりをしてきている現状があると思う。これは、子どもたちを真の学びに出会わせる方法論だと思います。とても大切なことである。さらに学びを深化させていくためには、教科そのものの力を教師自身が意識していくことが大切であろうと思う。
- 若い先生方の熱心な取組に感動した。本年度から犬山市にお世話になることになり、私自身学ばなくてはならないことがたくさんある。今までの自分の実践や考え方を整理して、次年度の本校の研究の方向性を定めていくのに、今日の機会は大変刺激になった。杉江先生の「授業の言葉と遊びの言葉は違う」が印象に残った。子どもたちの言葉の力を磨きたいと思う。そのための授業改善を次年度はどんどんと進めていくつもりである。

5 閉 会

☆ 城東小学校長 水谷 茂 先生

- この研究会で取り組んだ1年が有意義であったことを、今日の発表から改めて感じることができた。時間的には大変つらいものがあったことと思うが、ここで学んだ教師とそうでない教師とでは、教師としての意識に大きな違いが出てくるであろう。ぜひ、学校の授業づくりの中核として活躍してほしい。
- 授業研究会は、授業に特化して話し合いもつ喜びを感じることができる教師の集まりである。常に自分が前向きでありたい、自分を磨くことが子どもを高めることにつながるという高い意識をもった教師集団である。犬山の誇りでもある授業研究会に、ぜひ、来年度も参加して、継続的に研究してほしい。

平成23年度 犬山市授業研究会同人

指導者 杉江 修治（中京大学教授）
 担当者 水谷 茂（犬山市立城東小学校長）
 庶務 井戸 真澄（犬山市立城東小学校教務主任）

所属学校名	会 員 氏 名
犬山北小学校	千田 初子 太田 育宏 加藤 千智
犬山南小学校	前田 実希 近藤 理恵
城東小学校	五味 公人 原 ゆみ子 松本 哲廣 西 沙織 溝口 修平 立田 美樹 河田 改 後藤眞之介 片山 富廣
今井小学校	渡邊 香織
栗栖小学校	宇佐見 聡志
羽黒小学校	山下 和紀 鈴木 達也 安藤 晶子
楽田小学校	新井 孝昇
東小学校	梅村 淳 野村 実香 梅谷 和幸
犬山西小学校	北原 佳奈
犬山中学校	三浦 光俊 福山 裕子 澤木 百合香 安藤 奈美 尾関 久美
城東中学校	伊藤 孝二 櫻井 由貴 佐藤 真里奈 吉田 朋広
南部中学校	鈴木 崇 山下 知子 野田 亜希 畑中 彩 竹下 望
東部中学校	深見 倫恵 土本 翔 吉野 愛美

犬山市授業研究会事務局：犬山市立城東小学校
 〒 474-0094 犬山市大字塔野地字東屋敷1番地
 TEL (0568) 61 - 2501 Fax (0568) 63 - 0287
 E-mail joutou@inuyama-aic.ed.jp URL <http://www.inuyama-aic.ed.jp/jyoutous.h.p>

監修者

杉江 修治 中京大学国際教養学部教授
博士（教育心理学）

水谷 茂 犬山市立城東小学校校長

子どもの確かな学びづくりと教師の協同 犬山市授業研究会2011年度の成果 (協同教育実践資料17)

2012年 8月 18日 第1刷発行

著 者 犬山市授業研究会

監修者 杉江修治・水谷 茂

発 行 一粒書房

〒475-0837 愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

編集・印刷・製本（有）一粒社出版部(代表 都築延男)

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-111-3 C1337